

令和4年度 北陸信越運輸局管内における 地域公共交通確保維持改善事業の二次評価

■ 地域間幹線系統(5件)

【新潟県】

- 1) 新潟県生活交通確保対策協議会 1

【長野県】

- 2) 長野県公共交通活性化協議会 11

【富山県】

- 3) 富山県生活路線バス協議会 17

【石川県】

- 4) 石川県生活交通の確保に関する地域協議会 21

- 5) 中能登町地域公共交通協議会 23

■ 地域内フィーダー系統(68件)

【新潟県】

- 6) 村上市地域公共交通活性化協議会(村上市) 24
- 7) 阿賀野市地域公共交通協議会(阿賀野市) 27
- 8) 上越市地域公共交通活性化協議会(上越市) 34
- 9) 見附市地域公共交通活性化協議会(見附市) 37
- 10) 三条市地域公共交通協議会(三条市) 38
- 11) 胎内市地域公共交通協議会(胎内市) 42
- 12) 柏崎市地域公共交通活性化協議会(柏崎市) 44
- 13) 新発田市地域公共交通活性化協議会(新発田市) 46
- 14) 佐渡市地域公共交通活性化協議会(佐渡市) 48
- 15) 粟島浦村地域公共交通協議会(粟島浦村) 49
- 16) 五泉市地域公共交通活性化協議会(五泉市) 50
- 17) 魚沼市地域公共交通協議会(魚沼市) 52
- 18) 燕・弥彦地域公共交通会議(燕市・弥彦村) 58
- 19) 妙高市地域公共交通協議会(妙高市) 61
- 20) 南魚沼市地域公共交通協議会(南魚沼市) 63
- 21) 小千谷市地域公共交通協議会(小千谷市) 66
- 22) 長岡市地域公共交通協議会(長岡市) 67

次ページに続く

令和4年度 北陸信越運輸局管内における 地域公共交通確保維持改善事業の二次評価

■ 地域内フィーダー系統(68件)

前ページより

【長野県】

23) 飯田市地域公共交通改善市民会議(飯田市)	68
24) 上田市公共交通活性化協議会(上田市)	74
25) 松川町地域公共交通対策協議会(松川町)	83
26) 伊那市地域公共交通協議会(伊那市)	85
27) 長野市公共交通活性化・再生協議会(長野市)	88
28) 安曇野市地域公共交通協議会(安曇野市)	91
29) 信濃町地域公共交通協議会(信濃町)	92
30) 岡谷市地域公共交通活性化協議会(岡谷市)	101
31) 須坂市地域公共交通会議(須坂市)	102
32) 中野市地域公共交通対策協議会(中野市)	104
33) 生坂村地域公共交通協議会(生坂村)	109
34) 青木村地域公共交通会議(青木村)	112
35) 阿智村地域公共交通協議会(阿智村)	114
36) 下伊那南部地域公共交通対策協議会 (阿南町・売木村・天龍村・泰阜村・下條村)	120
37) 松本市地域公共交通協議会(松本市、朝日村)	122
38) 立科町地域公共交通活性化協議会(立科町)	128

39) 豊丘村地域公共交通会議(豊丘村)	139
40) 茅野市・原村地域公共交通活性化協議会(茅野市・原村)	140
41) 川上村地域公共交通活性化協議会(川上村)	152
42) 辰野町地域公共交通会議(辰野町)	153
43) 佐久市地域公共交通確保維持改善協議会(佐久市)	156
44) 飯山市地域公共交通会議(飯山市)	162
45) 塩尻市地域公共交通会議(塩尻市)	164
46) 諏訪市地域公共交通協議会(諏訪市)	165
47) 西部コミュニティバスを守り育てる会(根羽村・平谷村)	167
48) 駒ヶ根市地域公共交通協議会(駒ヶ根市)	168
49) 中川村地域公共交通会議(中川村)	170
50) 千曲市地域公共交通活性化協議会(千曲市)	172
51) 大鹿村地域公共交通会議(大鹿村)	173
52) 喬木村地域公共交通会議(喬木村)	174
53) 高山村地域公共交通協議会(高山村)	175
54) 中野市・山ノ内町地域公共交通会議(中野市・山ノ内町)	176
55) 高森町地域公共交通協議会(高森町)	179

次ページに続く

令和4年度 北陸信越運輸局管内における 地域公共交通確保維持改善事業の二次評価

■ 地域内フィーダー系統(68件)

前ページより

【富山県】

- 56) 魚津市公共交通活性化会議(魚津市)184
- 57) 小矢部市地域公共交通活性化協議会(小矢部市)189
- 58) 滑川市地域公共交通会議(滑川市)191
- 59) 黒部市公共交通戦略推進協議会(黒部市)206
- 60) 氷見市地域公共交通活性化協議会(氷見市)212
- 61) 砺波市地域公共交通会議(砺波市)216
- 62) 上市町地域公共交通活性化協議会(上市町)218

【石川県】

- 63) 加賀市地域公共交通活性化・再生協議会(加賀市)219
- 64) 内灘町地域公共交通協議会(内灘町)225
- 65) 津幡町地域公共交通活性化協議会(津幡町)230
- 66) 輪島市地域公共交通会議(輪島市)236
- 67) 宝達志水町地域公共交通協議会(宝達志水町)238
- 68) 珠洲市地域公共交通活性化協議会(珠洲市)239
- 69) 穴水町地域公共交通協議会(穴水町)242
- 70) 小松市地域公共交通活性化協議会(小松市)243
- 71) 七尾市地域公共交通協議会(七尾市)244
- 72) 中能登町地域公共交通協議会(中能登町)246
- 73) 志賀町地域公共交通活性化協議会(志賀町)248

■ 離島航路(3件)

【新潟県】

- 74) 佐渡航路確保維持改善協議会249
- 75) 粟島浦村地域公共交通協議会250

【石川県】

- 76) 輪島市離島航路改善協議会251

令和4年度 北陸信越運輸局管内における 地域公共交通確保維持改善事業の二次評価

■ 調査事業〔計画策定事業〕(23件)

【新潟県】

- 77) にいがた都市交通戦略推進会議(新潟市) ……252
- 78) 長岡市地域公共交通協議会(長岡市) ……253
- 79) 新発田市地域公共交通活性化協議会(新発田市) ……254
- 80) 小千谷市地域公共交通協議会(小千谷市) ……255
- 81) 十日町市地域公共交通活性化協議会(十日町市) ……256
- 82) 湯沢町地域公共交通活性化協議会(湯沢町) ……257
- 83) 刈羽村地域公共交通協議会(刈羽村) ……258

【長野県】

- 84) 岡谷市地域公共交通活性化協議会(岡谷市) ……259
- 85) 諏訪市地域公共交通活性化協議会(諏訪市) ……260
- 86) 須坂市地域公共交通会議(須坂市) ……261
- 87) 茅野市・原村地域公共交通活性化協議会(茅野市・原村) ……262
- 88) 東御市公共交通活性化協議会(東御市) ……263
- 89) 安曇野市地域公共交通協議会(安曇野市) ……264
- 90) 飯綱町地域公共交通活性化協議会(飯綱町) ……265
- 91) 長野県公共交通活性化協議会(長野県) ……266

【富山県】

- 92) 富山市都市交通協議会(富山市) ……267
- 93) 高岡市地域公共交通活性化推進協議会(高岡市) ……268
- 94) 氷見市地域公共交通活性化協議会(氷見市) ……269
- 95) 滑川市地域公共交通会議(滑川市) ……270
- 96) 富山県地域交通戦略会議(富山県) ……271

【石川県】

- 97) 能美市地域公共交通協議会(能美市) ……272
- 98) 能登町地域公共交通協議会(能登町) ……273
- 99) 石川中央都市圏地域公共交通協議会 ……274
(金沢市・白山市・かほく市・野々市市・津幡町・内灘町)

■ 地域公共交通バリアフリー化調査事業(1件)

【新潟県】

- 100) 新潟市移動等円滑化促進方針策定検討協議会(新潟市) ……275

令和4年度 北陸信越運輸局管内における 地域公共交通確保維持改善事業の二次評価

■ 新型輸送サービス導入支援事業(2件)

【長野県】

- 101) 安曇野市地域公共交通協議会(安曇野市).....276
- 102) 中川村.....277

■ 新モビリティサービス事業計画策定支援事業(1件)

【長野県】

- 106) 原村.....281

■ 地域交通キャッシュレス決済導入支援事業(2件)

【長野県】

- 103) しなの鉄道株式会社(上田市).....278

【石川県】

- 104) 北陸鉄道株式会社(金沢市).....279

■ 地域交通データ化推進事業(1件)

【石川県】

- 105) 北陸鉄道株式会社(金沢市).....280

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
新潟県生活交通確保対策協議会	新潟交通(株)	新潟～豊栄	<p>・令和3年11月及び令和4年3月にダイヤ改正を実施した。・令和4年7月、夏休みこどもりゅーと50円バスの実施と合わせ、「夏休みバスdeおでかけエコモビキャンペーン」を展開。特設サイト上で、期間中のバス利用状況に応じたプレゼントキャンペーンの展開、環境負荷の低い移動手段としての啓発等によりバス利用促進を図った。・コロナ禍において近距離圏の外出・行楽(マイクロツーリズム)が推奨されていることを受け、1日乗り放題券(ぶらばすチケット)を販売。人気スマートフォンアプリの登場キャラクターを採用した券面デザインやラッピング車両の運行等でPRを行った。また、紙チケットだけでなく、自社アプリを通じて電子チケットの販売も行うことで販売促進を図った。</p>	A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された</p>	B	<p>【達成状況】輸送人員前年度比較: 99 % (R3: 173 千人 → R4: 172 千人) 【未達成の主な理由】新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、外出・移動控え、在宅勤務の定着等による移動機会自体の減少等により利用状況が低調に推移したため。</p>	<p>・デジタル技術の導入・活用による利用者動態の詳細分析を実施し、ダイヤ改正及び競合路線の時刻調整について検討。 ・バス利用促進に繋がる広報・啓発活動を関係機関と連携し継続的に実施する。</p>	<p>事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。</p>
新潟県生活交通確保対策協議会	新潟交通観光バス(株)	新潟～新発田	<p>・新発田市内のコミバス等の地域内交通路線・ダイヤの見直しによる相互連携により利便性アップを図った。</p>	A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された</p>	A	<p>【達成状況】輸送人員前年度比較: 110 % (R3: 285 千人 → R4: 314 千人)</p>	<p>・バス利用者の動態を精査し、市町村などと連携して、より効率的な運行となるよう運行計画の見直しなどを検討する。</p>	<p>事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。</p>
新潟県生活交通確保対策協議会	新潟交通観光バス(株)	新潟～水原	<p>・所要時分の見直しによる定時性・利便性アップや競合路線との時間調整を図った。</p>	A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された</p>	A	<p>【達成状況】輸送人員前年度比較: 104 % (R3: 169 千人 → R4: 175 千人)</p>	<p>・バス利用者の動態を精査し、市町村などと連携して、より効率的な運行となるよう運行計画の見直しなどを検討する。</p>	<p>事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
新潟県生活交通確保対策協議会	新潟交通観光バス㈱	新潟～新津①	・所要時分の見直しによる定時性・利便性アップとともに、利用状況に合わせた減便を行い1便当たりの輸送量の増加を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B	【達成状況】輸送人員前年度比較：90 % (R3: 109千人 → R4: 98千人) 【未達成の主な理由】コロナ禍で利用者減が続き、1便当たりの輸送量を増加するため、減便したため。	・バス利用者の動態を精査し、市町村などと連携して、より効率的な運行となるよう運行計画の見直しなどを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	新潟交通観光バス㈱	新潟～新津②	・所要時分の見直しによる定時性・利便性アップとともに、利用状況に合わせた減便を行い1便当たりの輸送量の増加を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B	【達成状況】輸送人員前年度比較：85 % (R3: 61千人 → R4: 52千人) 【未達成の主な理由】コロナ禍で利用者減が続き、1便当たりの輸送量を増加するため、減便したため。	・バス利用者の動態を精査し、市町村などと連携して、より効率的な運行となるよう運行計画の見直しなどを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	新潟交通観光バス㈱	新潟～小須戸	・所要時分の見直しによる定時性・利便性アップを図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	【達成状況】輸送人員前年度比較：122 % (R3: 87千人 → R4: 106千人)	・バス利用者の動態を精査し、市町村などと連携して、より効率的な運行となるよう運行計画の見直しなどを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	新潟交通観光バス㈱	新潟～月潟	・所要時分の見直しによる定時性・利便性アップとともに利用状況に合わせた減便を行い1便当たりの輸送量の増加を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B	【達成状況】輸送人員前年度比較：84 % (R3: 152千人 → R4: 127千人) 【未達成の主な理由】コロナ禍で利用者減が続き、1便当たりの輸送量を増加するため、減便したため。	・バス利用者の動態を精査し、市町村などと連携して、より効率的な運行となるよう運行計画の見直しなどを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	新潟交通観光バス㈱	新津～白根①	・所要時分の見直しによる定時性・利便性アップとともに利用状況に合わせた減便を行い1便当たりの輸送量の増加を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B	【達成状況】輸送人員前年度比較：90 % (R3: 30千人 → R4: 27千人) 【未達成の主な理由】コロナ禍で利用者減が続き、1便当たりの輸送量を増加するため、減便したため。	・バス利用者の動態を精査し、市町村などと連携して、より効率的な運行となるよう運行計画の見直しなどを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	新潟交通観光バス㈱	新津～白根②	・所要時分の見直しによる定時性・利便性アップとともに、利用状況に合わせた減便を行い1便当たりの輸送量の増加を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B	【達成状況】輸送人員前年度比較：93 % (R3: 40千人 → R4: 37千人) 【未達成の主な理由】コロナ禍で利用者減が続き、1便当たりの輸送量を増加するため、減便したため。	・バス利用者の動態を精査し、市町村などと連携して、より効率的な運行となるよう運行計画の見直しなどを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	新潟交通観光バス㈱	新発田～次第浜	・受託元である聖籠町と連携し地域の意見を取り入れ、利便性の向上を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	【達成状況】輸送人員前年度比較：100 % (R3: 2千人 → R4: 2千人)	・受託元である聖籠町と連携し地域の意見を取り入れ、利便性を向上する。協議会と協議の上、ダイヤ改正を実施予定。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
新潟県生活交通確保対策協議会	共同運行 (①蒲原鉄道(株)、②泉観光バス(株))	五泉高校前～さくらアリーナ前・村松支所～五泉高校前	・市内に開業した複合施設への一部乗入れを実施し、利用者増加を図った。・当該路線をGTFSS化し、グーグルマップ検索が可能なシステムを構築し、広く周知した。・JRへの接続が可能なダイヤを維持した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 【達成状況】輸送人員前年度比較: 95 % (R3: 59 千人 → R4: 56 千人) 【未達成の主な理由】・新型コロナウイルス感染拡大の影響による通学生(高校生)利用の減少	・複合施設への乗入れ便を一部変更し、施設で開催されるイベント時等での利用促進を図る。・高齢者向けのバス利用説明会を適宜実施し、利用しやすい環境を整備する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越佐観光バス(株)	長辰～燕三条駅	・燕市、弥彦村と連携し、より効率的な運行となるよう運行計画の見直しを検討した。・新型コロナウイルスに対する対策を車内で掲示した	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 【達成状況】輸送人員前年度比較: 104 % (R3: 23 千人 → R4: 24 千人)	・燕市、弥彦村と連携し、より効率的な運行となるよう運行計画の見直しを検討する。 ・利用者からの要望を取り入れサービスの向上を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～三条	運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 【達成状況】輸送人員前年度比較: 113 % (R3: 45 千人 → R4: 51 千人)	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～分水	競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 【達成状況】輸送人員前年度比較: 121 % (R3: 42 千人 → R4: 51 千人)	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～今町	運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 【達成状況】輸送人員前年度比較: 65 % (R3: 26 千人 → R4: 17 千人) 【未達成の主な理由】・令和4年4月のダイヤ改正に減便し、経費削減と運行の効率化を図ったため	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	(急行)長岡～栃尾①	競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 【達成状況】輸送人員前年度比較: 112 % (R3: 51 千人 → R4: 57 千人)	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	(急行)長岡～栃尾②	競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 【達成状況】輸送人員前年度比較: 82 % (R3: 71 千人 → R4: 58 千人) 【未達成の主な理由】・コロナ禍による沿線の通勤・通学及び病院への利用に関する利用者減のため	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	(快速)長岡～栃尾①	競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 【達成状況】輸送人員前年度比較: 125 % (R3: 24 千人 → R4: 30 千人)	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	(快速)長岡～栃尾②	競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 【達成状況】輸送人員前年度比較: 123 % (R3: 35 千人 → R4: 43 千人)	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～見附①	運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 【達成状況】輸送人員前年度比較: 100 % (R3: 25 千人 → R4: 25 千人)	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～見附②	運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 【達成状況】輸送人員前年度比較：81% (R3: 67千人 → R4: 54千人) 【未達成の主な理由】・コロナ禍による沿線の通勤・通学及び病院への利用に関する利用者減のため	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～見附③	運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 【達成状況】輸送人員前年度比較：123% (R3: 26千人 → R4: 32千人)	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	(急行)長岡～寺泊①	運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 【達成状況】輸送人員前年度比較：97% (R3: 58千人 → R4: 56千人) 【未達成の主な理由】人口減少や少子化により通勤・通学利用に関する利用者減のため	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	(急行)長岡～寺泊②	運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 【達成状況】輸送人員前年度比較：128% (R3: 25千人 → R4: 32千人)	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～小島谷	運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 【達成状況】輸送人員前年度比較：105% (R3: 19千人 → R4: 20千人)	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～十日町	運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 【達成状況】輸送人員前年度比較：80% (R3: 94千人 → R4: 75千人) 【未達成の主な理由】・令和4年4月のダイヤ改正に減便し、経費削減と運行の効率化を図ったため	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～小千谷①	運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 【達成状況】輸送人員前年度比較：129% (R3: 28千人 → R4: 36千人)	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～小千谷②	運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 【達成状況】輸送人員前年度比較：103% (R3: 116千人 → R4: 119千人)	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～小千谷③	運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 【達成状況】輸送人員前年度比較：100% (R3: 44千人 → R4: 44千人)	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～出雲崎	運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 【達成状況】輸送人員前年度比較：82% (R3: 56千人 → R4: 46千人) 【未達成の主な理由】・令和4年4月のダイヤ改正に減便し、経費削減と運行の効率化を図ったため	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～蓮花寺	運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 【達成状況】輸送人員前年度比較：109% (R3: 22千人 → R4: 24千人)	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～与板①	運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 【達成状況】輸送人員前年度比較：95% (R3: 21千人 → R4: 20千人) 【未達成の主な理由】人口減少や少子化により通勤・通学利用に関する利用者減のため	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～柏崎①	運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 【達成状況】輸送人員前年度比較：120% (R3: 44千人 → R4: 53千人)	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～柏崎②	運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 【達成状況】輸送人員前年度比較：95% (R3: 42千人 → R4: 40千人) 【未達成の主な理由】人口減少や少子化により通勤・通学利用に関する利用者減のため	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～与板②	運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 【達成状況】輸送人員前年度比較：126% (R3: 35千人 → R4: 44千人)	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	長岡～小国	運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 【達成状況】輸送人員前年度比較: 72 % (R3: 67 千人 → R4: 48 千人) 【未達成の主な理由】・コロナ禍による沿線の通勤・通学及び病院への利用に関する利用者減のため	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	三条～八木ヶ鼻	運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 【達成状況】輸送人員前年度比較: 100 % (R3: 38 千人 → R4: 38 千人)	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	八木ヶ鼻～地場産	運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 【達成状況】輸送人員前年度比較: 129 % (R3: 21 千人 → R4: 27 千人)	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	小千谷～十日町	競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 【達成状況】輸送人員前年度比較: 76 % (R3: 45 千人 → R4: 34 千人) 【未達成の主な理由】・令和4年4月のダイヤ改正に減便し、経費削減と運行の効率化を図ったため	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	小千谷～小国	運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 【達成状況】輸送人員前年度比較: 73 % (R3: 15 千人 → R4: 11 千人) 【未達成の主な理由】・コロナ禍による沿線の通勤・通学及び病院への利用に関する利用者減のため	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
新潟県生活交通確保対策協議会	越後交通(株)	柏崎～岡野町	運行回数の維持・競合路線との時刻調整を行い利便性の確保に努めた。 1日乗り放題券・小学生向け夏季休業期間割引の活用による利用促進を実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	【達成状況】輸送人員前年度比較: 100 % (R3: 50 千人 → R4: 50 千人)	・バス事業者、市町村等と連携し、運行計画の見直しを検討する。 ・減便による効率化だけでなくダイヤ数減による経常費用削減・収支改善を検討する。 ・各種割引の拡充や見直しを検討する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	南越後観光バス(株)	小千谷～小出	・運行時刻の見直しを検討したが、実施しなかった。 ・Google乗換案内にバス情報を掲載し、新規顧客の開拓に努めた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B	【達成状況】輸送人員前年度比較: 88 % (R3: 41 千人 → R4: 36 千人) 【未達成の主な理由】・少子化の影響で通学利用が減少。	・バス利用者の動態を精査し、運行時刻の見直しや必要に応じて減便等を検討することで利用者数の維持及び収支の改善を目指す。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	南越後観光バス(株)	小出～栃尾又	・運行時刻の見直しを行い、利便性の向上を図った。 ・Google乗換案内にバス情報を掲載し、新規顧客の開拓に努めた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	【達成状況】輸送人員前年度比較: 100 % (R3: 27 千人 → R4: 27 千人)	・バス利用者の動態を精査し、運行時刻の見直しや必要に応じて減便等を検討することで利用者数の維持及び収支の改善を目指す。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	南越後観光バス(株)	六日町～小出	・令和3年10月より平日運行回数8.0回の内3.0回を実験的に魚沼基幹病院経由とし、輸送人員増加を図った。 ・Google乗換案内にバス情報を掲載し、新規顧客の開拓に努めた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B	【達成状況】輸送人員前年度比較: 79 % (R3: 43 千人 → R4: 34 千人) 【未達成の主な理由】 ・平日運行回数8.0回の内3.0回を他系 統に振り替えたため減少したが、運行回数1.0回あたりの輸送人員は前年度の17.2人から18.7人に増加している。	・バス利用者の動態を精査し、運行時刻の見直しや必要に応じて減便等を検討することで利用者数の維持及び収支の改善を目指す。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	南越後観光バス(株)	六日町～湯沢	・運行時刻の見直しを検討したが、実施しなかった。 ・Google乗換案内にバス情報を掲載し、新規顧客の開拓に努めた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B	【達成状況】輸送人員前年度比較: 81 % (R3: 27 千人 → R4: 22 千人) 【未達成の主な理由】 ・少子化の影響で通学利用が減少。	・バス利用者の動態を精査し、運行時刻の見直しや必要に応じて減便等を検討することで利用者数の維持及び収支の改善を目指す。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	南越後観光バス(株)	十日町～中里～津南	・運行時刻の見直しを行い、利便性の向上を図った。 ・Google乗換案内にバス情報を掲載し、新規顧客の開拓に努めた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	【達成状況】輸送人員前年度比較: 109 % (R3: 66 千人 → R4: 72 千人)	・バス利用者の動態を精査し、運行時刻の見直しや必要に応じて減便等を検討することで利用者数の維持及び収支の改善を目指す。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
新潟県生活交通確保対策協議会	南越後観光バス株式会社	十日町～宮中～津南	・運行時刻の見直しを行い、利便性の向上を図った。 ・Google乗換案内にバス情報を掲載し、新規顧客の開拓に努めた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 【達成状況】輸送人員前年度比較: 147 % (R3: 17千人 → R4: 25千人)	・バス利用者の動態を精査し、運行時刻の見直しや必要に応じて減便等を検討することで利用者数の維持及び収支の改善を目指す。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	頸城自動車株式会社	上越妙高駅前～市役所・労災病院前～鶴の浜	・H28.10～R2.3.31まで、再編実施計画に基づき運行。 ・R2.4.1～R10.3.31の間、第2次総合公共交通計画に基づき運行。 ・バス乗車体験キャンペーンやお得な乗車券のPR・販売等、バス利用促進を実施。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 【達成状況】輸送人員前年度比較: 108 % (R3: 164千人 → R4: 177千人)	・利用状況の把握に努め、より効率的な運行ができるよう検討する。 ・コロナ感染防止対策を継続し、安心して利用いただけるよう努める。 ・バス事業者、市町村等と連携し、バス利用促進に取り組む。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	頸城自動車株式会社	上越モール前～上越妙高駅前～新井バスターミナル	・H28.10～R2.3.31まで、再編実施計画に基づき運行。 ・R2.4.1～R10.3.31の間、第2次総合公共交通計画に基づき運行。 ・バス乗車体験キャンペーンやお得な乗車券のPR・販売等、バス利用促進を実施。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 【達成状況】輸送人員前年度比較: 97 % (R3: 73千人 → R4: 71千人) 【未達成の主な理由】新型コロナウイルスの影響や人口減少等による減少。	・利用状況の把握に努め、より効率的な運行ができるよう検討する。 ・コロナ感染防止対策を継続し、安心して利用いただけるよう努める。 ・バス事業者、市町村等と連携し、バス利用促進に取り組む。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
新潟県生活交通確保対策協議会	新潟交通佐渡株式会社	両津～相川	・佐渡市活性協事業として、免許返納者支援の他、路線バスマップを入れた観光客向けパンフレット、乗り放題バスも販売し、観光客利用増に努めた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 【達成状況】輸送人員前年度比較: 110 % (R3: 143千人 → R4: 158千人)	・新型コロナウイルスが収まり、佐渡金銀山世界遺産登録効果が増えるので、引き続きホームページ等でのPRに努め、佐渡市と連携して利用客増を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
長野県公共交通活性化協議会	長電バス(株)	山田温泉線	バス車内の消毒や換気を実施し、お客様が安心して利用できるよう努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:31.4に対して実績輸送量22.2であった。	高齢者へのIC割引案内を周知し、利用促進を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	長電バス(株)	上林線 ※車両減価償却費国庫補助金を受けている	地域住民に時刻表を配布し、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:25.3に対して実績輸送量9.7であった。	コロナ禍で需要が低迷しているため、高齢者乗車券を配布し、利用者の需要を喚起する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	長電バス(株)	永田線 ※車両減価償却費国庫補助金を受けている	バス車内の消毒や換気を実施し、お客様が安心して利用できるよう努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:16.3に対して実績輸送量5.6であった。	利用者の少ない時期を減便し、経費節減に努める。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	長電バス(株)	屋島線 ※車両減価償却費国庫補助金を受けている	バス車内の消毒や換気を実施し、お客様が安心して利用できるよう努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:21.8に対して実績輸送量20.1であった。	運賃表示やバス停表示が見やすいよう車内液晶表示器を設置し、利用者の利便向上を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	長電バス(株)	牟礼線 ※公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けている	高齢の方でも見やすい液晶ディスプレイを導入し、利便向上に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:31.6に対して実績輸送量24.6であった。	高齢者へのIC割引案内を周知し、利用促進を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	長電バス(株)	野沢線	地域住民に時刻表を配布し、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:25.9に対して実績輸送量17.7であった。	電車との接続を改善し、利用者の利便向上を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	長電バス(株)	中野木島線	バス車内の消毒や換気を実施し、お客様が安心して利用できるよう努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:16.6に対して実績輸送量18.5であった。	利用者の少ない時期を減便し、経費節減に努める。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
長野県公共交通活性化協議会	長電バス(株)	屋代須坂線(須坂駅～屋代駅)※車両減価償却費国庫補助金を受けている	小学校でバスの乗り方教室を実施しバスを多く利用して頂くよう努めた。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	目標輸送量:16.8に対して実績輸送量25.6であった。	コロナ禍で需要が低迷しているため、学生や高齢者に対しても、バス乗り方を実施し利用の底上げを図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	アルピコ交通(株)	高府線(善光寺大門～高府)※車両減価償却費国庫補助金を受けている	長野市及び小川村地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古等での低床車両の購入や沿線の学校等に時刻表等の配布を行いより一層の利用促進を図っているほか、令和3年度はバリア解消を目的としてノンステップバスを1台導入した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量34.3に対して、利用者が伸びなかったことから、実績輸送量20.0であった。	長野市及び小川村地域公共交通会議と連携し、コロナ禍における感染防止対策の実施や周知を図るなどし、利用促進を図っていく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	アルピコ交通(株)	高府線(善光寺大門～初引)	長野市及び小川村地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古等での低床車両の購入や沿線の学校等に時刻表等の配布を行いより一層の利用促進を図っている。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量20.0に対して、利用者が伸びなかったことから、実績輸送量12.8であった。	長野市及び小川村地域公共交通会議と連携し、コロナ禍における感染防止対策の実施や周知を図るなどし、利用促進を図っていく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	アルピコ交通(株)	鬼無里線※車両減価償却費国庫補助金を受けている	長野市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古等での低床車両の購入などを行い、より一層の利用促進を図っている。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量35.7に対して、利用者が伸びなかったことから、実績輸送量18.0であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、コロナ禍における感染防止対策の実施や周知を図るなどし、利用促進を図っていく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	アルピコ交通(株)	県道戸隠線	長野市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古等での車両の購入や沿線の学校等に時刻表等の配布を行いより一層の利用促進を図っている。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量37.2に対して、利用者が伸びなかったことから、実績輸送量19.0であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、コロナ禍における感染防止対策の実施や周知を図るなどし、利用促進を図っていく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点	評価結果	
長野県公共交通活性化協議会	アルピコ交通(株)	新町大原橋線(善光寺大門～新町)	長野市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古等での低床車両の購入や沿線の学校等に時刻表等の配布を行いより一層の利用促進を図っている。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量27.8に対して、利用者が伸びなかったことから、実績輸送量18.5であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、コロナ禍における感染防止対策の実施や周知を図るなどし、利用促進を図っていく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	アルピコ交通(株)	新町大原橋線(善光寺大門～大原橋犀峡高校)	長野市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古等での低床車両の購入や沿線の学校等に時刻表等の配布を行いより一層の利用促進を図っている。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量25.7に対して、利用者が伸びなかったことから、実績輸送量18.8であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、コロナ禍における感染防止対策の実施や周知を図るなどし、利用促進を図っていく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	アルピコ交通(株)	山形線 ※車両減価償却費国庫補助金を受けている	協議会と連携して全線時刻表を作成・配布を行ない公共交通利用促進を図っているほか、令和3年度はバリア解消を目的としてノンステップバスを1台導入した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	目標輸送量38.1に対して、実績輸送量38.6であった。	山形村及び松本市地域公共交通会議と連携し、コロナ禍における感染防止対策の実施や周知を図っていく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	アルピコ交通(株)	四賀線 ※車両減価償却費国庫補助金を受けている	協議会と連携して全線時刻表を作成・配布を行ない公共交通利用促進を図っている。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量27.9に対して、利用者が伸びなかったことから、実績輸送量16.1であった。	松本市地域公共交通会議と連携し、コロナ禍における感染防止対策の実施や周知を図るなどし、利用促進を図っていく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	アルピコ交通(株)	本線 岡谷～茅野線	市町村と連携し、時刻表冊子を作成・配布を行い、公共交通利用促進を図っている。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量35.8に対して、利用者が伸びなかったことから、実績輸送量27.9であった。	慢性的に渋滞する国道20号線を走行する為、一部バス停での時刻見直しを進めるとともに、コロナ禍における感染防止対策の実施や周知を図るなどし、利用促進を図っていく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	千曲バス(株)	佐久上田線	土日祝日の運休を引き続き実施して経費削減を図った。また、上田市運賃低減バス実証運行の利用促進活動を実施した。新しい生活様式に即した車内設備(感染予防対策)を施した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	目標輸送量: 15.0 に対して実績輸送量6.0であった。コロナ禍の為に大幅に利用者が減少した為と考えられる	沿線自治体からの支援で路線存続を維持して来たが、令和3年9月末日をもって路線廃止に至った。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
長野県公共交通活性化協議会	千曲バス(株)	中仙道線	佐久市内循環バスとの接続を引き続き実施した。新しい生活様式に即した車内設備(感染予防対策)を施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 目標輸送量40.0に対して実績輸送量11.9であったコロナ禍の為に大幅に利用者が減少したと考えられる	佐久市内循環バスが令和3年9月末日をもって廃止となった。令和3年10月より運賃低減バスが始まったことに伴い、利用促進活動を実施して行く。また、新しい生活様式に即した車内設備等を充実させてゆく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	千曲バス(株)	鹿教湯線(鹿教湯車庫～下秋和)	高校への定期券出張販売や上田市運賃低減バス実証運行の利用促進活動を実施した。コロナ禍のため規模は縮小したがプレゼントキャンペーンなど実施した。新しい生活様式に即した車内設備(感染予防対策)を施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:50.0に対して実績輸送量42.1であったコロナ禍の為に大幅に利用客が減少したと考えられる	運賃低減バスが継続されているため、季節に合わせた車内デコレーションやプレゼントキャンペーンなど、引き続き利用促進活動を実施する。また、新しい生活様式に即した車内設備等を充実させてゆく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	千曲バス(株)	鹿教湯線(丸子～下秋和) ※公有民営方式車両購入費用庫補助金を受けている	高校への定期券出張販売や上田市運賃低減バス実証運行の利用促進活動を実施した。コロナ禍のため規模は縮小したがプレゼントキャンペーンなど実施した。新しい生活様式に即した車内設備(感染予防対策)を施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:60.0に対して実績輸送量50.8であったコロナ禍の為に大幅に利用客が減少したと考えられる	運賃低減バスが継続されているため、季節に合わせた車内デコレーションやプレゼントキャンペーンなど、引き続き利用促進活動を実施する。また、新しい生活様式に即した車内設備等を充実させてゆく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	千曲バス(株)	青木線 ※公有民営方式車両購入費用庫補助金を受けている	青木村・上田市と連携した運賃低減バス実証運行の利用促進活動を実施した。貨客混載バスも引き続き実施した。コロナ禍のため規模は縮小したがプレゼントキャンペーンなど実施した。新しい生活様式に即した車内設備(感染予防対策)を施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:70.0に対して実績輸送量56.0であったコロナ禍の為に大幅に利用客が減少したと考えられる	運賃低減バスが継続されているため、季節に合わせた車内デコレーションやプレゼントキャンペーンなど、引き続き利用促進活動を実施する。貨客混載バスを有効活用し、生産性を向上させる。また、新しい生活様式に即した車内設備等を充実させてゆく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	上田バス(株)	真田線	夏休みキッズバスの配布。モビリティマネジメントの実施。回数券、定期券購入者向けの粗品プレゼントキャンペーンの実施。車内装飾を期間限定で実施。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量は20.6人に対して輸送量は12.9人であった	新型コロナウイルス感染症の拡大により乗車率が下がり、収支率も前年に比べ悪化した。感染症拡大防止対策を講じた上で、現状の運行を維持し、バスの乗り方教室等利用啓発を行う。QR決済の導入により利用率の向上を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
長野県公共交通活性化協議会	上田バス(株)	菅平高原線※車両減価償却費国庫補助金を受けている	夏休みキッズバスの配布。沿線近隣の小中学生を対象としたバスの乗り方教室の実施、将来の利用者掘り起し。複数回乗車のお客様に高原野菜プレゼント企画実施。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量は41.4人に対して輸送量は27.3人であった	新型コロナウイルス感染症の拡大により乗車率が下がったが、収支は前年とほぼ同額。感染症拡大防止対策を講じた上で、菅平観光協会と協力し、今後も高原野菜のプレゼント等の企画を実施していく。新たに開始したQR決済を周知し利便性向上を促し乗車率増加を目指す。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	上田バス(株)	真田自治センター入口線※公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けている	夏休みキッズバスの配布。モビリティマネジメントの実施。回数券、定期券購入者向けの粗品プレゼントキャンペーンの実施。車内装飾を期間限定で実施。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量は33.2人に対して輸送量は11.6人であった	新型コロナウイルス感染症の拡大により乗車率が下がり、収支率も前年に比べ悪化した。感染症拡大防止対策を講じた上で、上田市と協力し、観光客取り込みを目指す。又QR決済の導入により利用率の向上を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	信南交通(株)	駒場線(中村経由)※公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けている	利用者の利便性向上として「阿智村巡回バス乗車券」の共通利用を検討するが、精算方に課題があり継続検討する。	A	計画通りに事業は適切に実施された。	B	沿線高校2校において令和3年度より生徒数減少によりクラス数が減少となり輸送量42.4人の目標に対し実績30.1人と大きく下回ってしまう。	飯田市地域公共交通改善市民会議および南信州地域交通問題協議会と連携しコロナ禍における感染防止対策の実施および周知を行い利用促進を図っていく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	信南交通(株)	駒場線(市立病院経由)	利用者の利便性向上として「阿智村巡回バス乗車券」の共通利用を検討するが、精算方に課題があり継続検討する。	A	計画通りに事業は適切に実施された。	B	目標輸送量24.8人に対しコロナ禍による市立病院への通院利用が大きく減少し実績輸送量15.6人であった。	飯田市地域公共交通改善市民会議および南信州地域交通問題協議会と連携しコロナ禍における感染防止対策の実施および周知を行い利用促進を図っていく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
長野県公共交通活性化協議会	諏訪交通(株)	諏訪湖周スワンバス外回り線	今回初めての事業評価であるため反映状況無し。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	目標輸送量:15.0に対して実績輸送量29.5であった。	若年層(高校生)を対象とした乗車体験イベントを実施し利用促進を図る。観光客の取り込みをするため、観光マップ・時刻表を配布し利用拡大を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
長野県公共交通活性化協議会	ジェイアールバス関東(株)	諏訪訪湖周スワンバス内回り線	今回初めての事業評価であるため反映状況無し。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量: 15.0に対して実績輸送量30.8であった。	二市一町(諏訪市、岡谷市、下諏訪町)と連携し利用促進を図る。お客様個々の利用状況に合わせた時刻表を提供するサービスの実施(乗り継ぎ等)	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
富山県生活路線バス協議会	富山地方鉄道株式会社	滑川 ※車両減価償却費等国庫補助金	富山市と富山大学と連携し、高齢者向け定期券や通勤利用者向けの安価な定期券を販売し、利用促進と効果把握に取り組んだ。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 安価な定期券を販売し、利用促進に努めた結果、今年度の利用者は102,891人となり、前年比102%増加した。 新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	引き続き、安心して利用できるよう、感染症防止対策に取り組むことに加え、沿線自治体と連携し、利用促進に取り組む。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	富山地方鉄道株式会社	猪谷 ※車両減価償却費等国庫補助金	富山市と富山大学と連携し、高齢者向け定期券や通勤利用者向けの安価な定期券を販売し、利用促進と効果把握に取り組んだ。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 安価な定期券を販売し、利用促進に努めた結果、今年度の利用者は142,531人となり、前年比102%増加した。 新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	引き続き、安心して利用できるよう、感染症防止対策に取り組むことに加え、沿線自治体と連携し、利便性の高いダイヤを検討し、利用促進に取り組む。加えて、沿線の病院や地元の商業施設と連携し、利用促進に取り組む。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	富山地方鉄道株式会社	富山～高岡 ※車両減価償却費等国庫補助金	富山市と富山大学と連携し、高齢者向け定期券や通勤利用者向けの安価な定期券を販売し、利用促進と効果把握に取り組んだ。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 高齢者向け等の施策を実施したものの減便したことにより、今年度の利用者は211,158人となり、前年比96%と減少した。 新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	引き続き、安心して利用できるよう、感染症防止対策に取り組むことに加え、沿線自治体や学校と連携し、利便性の高いダイヤを検討し、利用促進に取り組む。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	富山地方鉄道株式会社	富山～小杉 ※車両減価償却費等国庫補助金	富山市と富山大学と連携し、高齢者向け定期券や通勤利用者向けの安価な定期券を販売し、利用促進と効果把握に取り組んだ。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 安価な定期券を販売し、利用促進に努めた結果、今年度の利用者は117,527人で前年比109%と増加した。 新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	引き続き、安心して利用できるよう、感染症防止対策に取り組むことに加え、沿線自治体や学校と連携し、利用促進に取り組む。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
富山県生活路線バス協議会	富山地方鉄道株式会社	山田 ※車両減価償却費等国庫補助金	富山市と富山大学と連携し、高齢者向け定期券や通勤利用者向けの安価な定期券を販売し、利用促進と効果把握に取り組んだ。加えて、沿線の商業施設ファボーレの施設内やHPにバスの時刻表を掲出してもらう等、利用促進に努めた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 安価な定期券を販売し、利用促進に努めるとともに、令和4年4月より休日のダイヤを増便した結果、今年度の利用者は108,950人となり、前年比103%増加した。新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	引き続き、安心して利用できるような、感染症防止対策に取り組むことに加え、沿線自治体と連携し、利用促進に取り組む。加えて、沿線の病院や地元の商業施設と連携して、利用促進に取り組む。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	富山地方鉄道株式会社	ファボーレ經由萩の島 ※車両減価償却費等国庫補助金	富山市と富山大学と連携し、高齢者向け定期券や、通勤利用者向けの安価な定期券の販売をし利用促進と効果把握に取り組んだ。加えて、沿線の商業施設ファボーレの施設内やHPにバスの時刻表を掲出してもらう等、利用促進に努めた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 安価な定期券を販売し、利用促進に努めたものの、休日の一部の減便を実施したため、今年度の利用者は68,484人となり、前年比99%と減少した。新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	引き続き、安心して利用できるような、感染症防止対策に取り組むことに加え、沿線自治体と連携し、利用促進に取り組む。加えて、沿線の病院や地元の商業施設と連携して、利用促進に取り組む。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	富山地方鉄道株式会社	熊野經由八尾 ※車両減価償却費等国庫補助金	富山市と富山大学と連携し、高齢者向け定期券や通勤利用者向けの安価な定期券の販売をし利用促進と効果把握に取り組んだ。加えて、沿線の商業施設ファボーレの施設内やHPにバスの時刻表を掲出してもらう等、利用促進に努めた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 安価な定期券を販売し、利用促進に努めた結果、今年度の利用者は182,072人となり、前年比102%と増加した。新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	引き続き、安心して利用できるような、感染症防止対策に取り組むことに加え、沿線自治体と連携し、利用促進に取り組む。加えて、学校や地元の商業施設と連携して、利用促進に取り組む。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	富山地方鉄道株式会社	城端	感染防止対策実施中である旨をHP等に掲出するとともに、バスの乗降口に消毒液を設置するなど、安心して利用できることをPRした。また、沿線の南砺市民に配布する市営バスの時刻表に城端線の時刻表を掲出し、利用促進に努めた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 感染防止を広くPRするとともに、沿線市と連携し、利用促進に努めた結果、今年度の利用者は105,220人となり、前年比111%と増加した。	引き続き、安心して利用できるような、感染症防止対策に取り組むことに加え、沿線自治体と連携し、利用促進に取り組むとともに、グレードの高い車両の投入により利用者の利便性を向上させる等、利用促進に取り組む。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
富山県生活路線バス協議会	富山地方鉄道株式会社	富山-国立富山病院 ※車両減価償却費等 国庫補助金	富山市と富山大学と連携し、高齢者向け定期券や通勤利用者向けの安価な定期券の販売をし利用促進と効果把握に取り組んだ。加えて、沿線の商業施設ファボーレの施設内やHPにバスの時刻表を掲出してもらう等、利用促進に努めた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	安価な定期券を販売し、利用促進に努めた結果、今年度の利用者は87,837人となり、前年比113%と増加した。 新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	引き続き、安心して利用できるよう、感染症防止対策に取り組むことに加え、沿線自治体と連携し、利用促進に取り組む。加えて、沿線の病院地元の商業施設と連携し、利用促進に取り組む。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	富山地方鉄道株式会社	布目經由新港東口 ※車両減価償却費等 国庫補助金	感染防止対策実施中である旨をHP等に掲出し、安心して利用できることをPRした。加えて、他の系統も含めて、沿線の学校と協議し、学生の利用しやすいダイヤとして、利用促進に努めた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	沿線の学校の利便性向上のため、学校始発の系統を新設したことによる運行本数の減少のため、今年の利用者は94,945人で前年比97%と減少した。 新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	引き続き、安心して利用できるよう、感染症防止対策に取り組むことに加え、沿線自治体や学校と連携し、利便性の高いダイヤを検討し、利用促進に取り組む。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	加越能バス株式会社	脇 ※車両減価償却費等 国庫補助金	各種割引定期券の販売、バス位置情報の提供等、沿線市町村と連携しPRIに努め利用促進に取り組む、新型コロナの影響が若干回復した事もあり、輸送人員・運送収入とも微増した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	今年度の利用者数は114,443人で前年度比106%となり新型コロナの影響が若干回復した事もあり改善した。 新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	新型コロナ感染防止対策等、安心安全な公共交通を沿線市と連携しPRIに努め利用促進に取り組む回復を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	加越能バス株式会社	守山經由氷見 ※車両減価償却費等 国庫補助金	各種割引定期券の販売、バス位置情報の提供等、沿線市町村と連携しPRIに努め利用促進に取り組む、新型コロナの影響が若干回復した事もあり、輸送人員・運送収入とも増加した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	今年度の利用者数は59,918人で前年度比112%となり新型コロナの影響が若干回復した事もあり改善した。 新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	新型コロナ感染防止対策等、安心安全な公共交通を沿線市と連携しPRIに努め利用促進に取り組む回復を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	加越能バス株式会社	新高岡守山經由氷見 ※車両減価償却費等 国庫補助金	各種割引定期券の販売、バス位置情報の提供等、沿線市町村と連携しPRIに努め利用促進に取り組む、新型コロナの影響が若干回復した事もあり、輸送人員・運送収入とも微増した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	今年度の利用者数は134,368人で前年度比105%となり、新型コロナの影響が若干回復した事もあり改善した。 新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	新型コロナ感染防止対策等、安心安全な公共交通を沿線市と連携しPRIに努め利用促進に取り組む回復を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
富山県生活路線バス協議会	加越能バス株式会社	伏木經由氷見 ※車両減価償却費等 国庫補助金	各種割引定期券の販売、バス位置情報の提供等、沿線市町村と連携しPRに努め利用促進に取り組んだが、前年度に続き新型コロナウイルスの影響を受け輸送人員・運送収入とも減少した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	今年度の利用者数は70,663人で前年度比91%となり、前年度に続き新型コロナウイルスの影響を受け輸送人員は減少した。 新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	新型コロナウイルス感染防止対策等、安心安全な公共交通を沿線市と連携しPRに努め利用促進に取り組む回復を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	加越能バス株式会社	仏生寺 ※車両減価償却費等 国庫補助金	各種割引定期券の販売、バス位置情報の提供等や沿線市町村と連携し沿線の学校等への利便性をPRし潜在的な利用者の掘り起こしに取り組んだが、前年度に続き新型コロナウイルスの影響を受け輸送人員・運送収入とも減少した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	今年度の利用者数は64,972人で前年度比95%となり、前年度に続き新型コロナウイルスの影響を受け輸送人員は減少した。 新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	新型コロナウイルス感染防止対策等、安心安全な公共交通を沿線市と連携しPRに努め利用促進に取り組む回復を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	加越能バス株式会社	石動 ※車両減価償却費等 国庫補助金	各種割引定期券の販売、バス位置情報の提供等や沿線市町村と連携し沿線の学校等への利便性をPRし潜在的な利用者の掘り起こしを行い、新型コロナウイルスの影響が若干回復した事もあり輸送人員・運送収入とも微増した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	今年度の利用者数は53,939人で前年度比106%となり、新型コロナウイルスの影響が若干回復した事もあり改善した。 新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	新型コロナウイルス感染防止対策等、安心安全な公共交通を沿線市と連携し又、地元住民へのPRに努め利用促進に取り組む回復を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	加越能バス株式会社	済生会・中田団地 ※車両減価償却費等 国庫補助金	各種割引定期券の販売、バス位置情報の提供等や沿線市町村と連携し沿線の学校等への利便性をPRし潜在的な利用者の掘り起こしを行い、新型コロナウイルスの影響が若干回復した事もあり、輸送人員・運送収入とも増加した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	今年度の利用者数は32,028人で前年度比110%となり、新型コロナウイルスの影響が若干回復した事もあり改善した。 新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	新型コロナウイルス感染防止対策等、安心安全な公共交通を沿線市と連携しPRに努め利用促進に取り組む回復を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	加越能バス株式会社	城端白川郷 ※車両減価償却費等 国庫補助金	国内外からの観光客にも分かり易いようバス位置情報やフリーWi-Fiの提供、また企画切符・商品の販売を継続し利用促進に取り組む、新型コロナウイルスの影響が若干回復した事もあり、輸送人員・運送収入とも増加した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	今年度の利用者数は令和3年度に引き続き新型コロナウイルスの影響により観光需要の落ち込みが大きいですが、若干回復した事もあり20,127人で前年度比107%となり改善した。 新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	新型コロナウイルス感染防止対策等、安心安全な公共交通を沿線市と連携しPRに努めるとともに、企画乗車券等を企画し国内観光需要の取り込み等利用促進に取り組む回復を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
富山県生活路線バス協議会	加越能バス株式会社	庄川町 ※車両減価償却費等 国庫補助金	各種割引定期券の販売、バス位置情報の提供等や沿線市町村と連携し沿線の学校等への利便性をPRし潜在的な利用者の掘り起こしを行い、新型コロナウイルスの影響が若干回復した事もあり輸送人員・運送収入とも微増した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	今年度の利用者数は95,190人で前年度比105%となり新型コロナウイルスの影響が若干回復した事もあり、輸送人員は微増した。 新型コロナウイルスの影響を受け、ノンステップバスの導入は実施していない。	新型コロナウイルス感染防止対策等、安心安全な公共交通を沿線市と連携しPRに努めるとともに、沿線観光地の情報発信により国内観光需要の取り込み等利用促進に取り組む回復を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
石川県生活交通の確保に関する地域協議会	北鉄金沢バス株式会社	系統名:津幡(新道) 運行区間:本津幡～八幡～兼六園下	社会情勢に注視しながら必要なダイヤ、便数の確保に努め、利用者のニーズに沿ったものにより、旅客の利便性の確保を維持した。	A 計画どおり実行された。	A 県内路線バス利用者数の維持 (R2.10～R3.9)83,481人→ (R3.10～R4.9)104,501人	引き続き社会情勢に注視し必要なダイヤ、便数の確保を行っていく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
石川県生活交通の確保に関する地域協議会	北鉄金沢バス株式会社	系統名:内灘 運行区間:兼六園下～内灘駅～宇野気駅	社会情勢に注視しながら必要なダイヤ、便数の確保に努め、利用者のニーズに沿ったものにより、旅客の利便性の確保を維持した。 また、新たな潜在的な需要を掘り起こすため大友、県庁方面を経由する系統へ変更した。	A 計画どおり実行された。	B 県内路線バス利用者数の維持 (R2.10～R3.9)68,241人→ (R3.10～R4.9)61,688人 ※減少理由:需要に即した県庁や金沢西高校に経路を変更したが、コロナの影響を筆頭に利用者が伸び悩んだため	引き続き社会情勢に注視し必要なダイヤ、便数の確保を行っていく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
石川県生活交通の確保に関する地域協議会	北鉄金沢バス株式会社	系統名:寺井 運行区間:金沢駅～松任～寺井中央	社会情勢に注視しながら必要なダイヤ、便数の確保に努め、利用者のニーズに沿ったものにより、旅客の利便性の確保を維持した。	A 計画どおり実行された。	B 県内路線バス利用者数の維持 (R2.10～R3.3)167,324人→ (R3.10～R4.3)161,635人 ※減少理由:コロナの影響を筆頭に利用者が伸び悩んだため	令和4年4月より北鉄白山バスへ路線移管を行った。 引き続き社会情勢に注視し必要なダイヤ、便数の確保を行っていく。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
石川県生活交通の確保に関する地域協議会	北鉄加賀バス株式会社	系統名:温泉山中A 運行区間:加賀温泉駅～河南～山中温泉	地元利用者向けにはJR接続等を重視したダイヤ編成及び時刻表全戸配布の継続の他、加賀市が推進するMaaSの本格実施へ向けて積極的に参画することにより、利便性の向上(キャッシュレス決済、他の交通モード(乗合タクシー・CANBUS)との連携)を図った。	B 計画どおりに実行されていない点があった。 理由:小学校での路線バスふれあい教室については、コロナ感染拡大の影響から中止した。加賀MaaSアプリへの参画については、アプリ開発の遅れ等からR4.11月に延期された。	B 県内路線バス利用者数の維持 (R2.10～R3.9)76,588人→ (R3.10～R4.9)70,530人 ※減少理由:昨年度はGoToトラベルの展開により、観光旅行者数の押し上げがあったが、今年度はまん延防止等重点措置などの行動制限が掛かることが多く、旅行キャンペーンもない中で定期外旅客の落ち込みが大きかった。	地元利用者向けにはJR接続等を重視したダイヤ編成及び時刻表全戸配布の継続の他、加賀市が推進するMaaSの本格実施へ向けて積極的に参画することにより、利便性の向上(キャッシュレス決済、他の交通モード(乗合タクシー・CANBUS)との連携)を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
石川県生活交通の確保に関する地域協議会	北鉄加賀バス株式会社	系統名:温泉山中H 運行区間:加賀温泉駅～河南～栢野	地元利用者向けにはJR接続等を重視したダイヤ編成及び時刻表全戸配布の継続の他、加賀市が推進するMaaSの本格実施へ向けて積極的に参画することにより、利便性の向上(キャッシュレス決済、他の交通モード(乗合タクシー・CANBUS)との連携)を図った。	B 計画どおりに実行されていない点があった。 理由:小学校での路線バスふれあい教室については、コロナ感染拡大の影響から中止した。加賀MaaSアプリへの参画については、アプリ開発の遅れ等からR4.11月に延期された。	B 県内路線バス利用者数の維持(R2.10～R3.9)75,697人→(R3.10～R4.9)75,330人 ※減少理由:昨年度はGoToトラベルの展開により、観光旅行者数の押し上げがあったが、今年度はまん延防止等重点措置などの行動制限が掛かることが多く、旅行キャンペーンもない中で定期外旅客の落ち込みが大きかった。	地元利用者向けにはJR接続等を重視したダイヤ編成及び時刻表全戸配布の継続の他、加賀市が推進するMaaSの本格実施へ向けて積極的に参画することにより、利便性の向上(キャッシュレス決済、他の交通モード(乗合タクシー・CANBUS)との連携)を図る。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。
石川県生活交通の確保に関する地域協議会	北鉄能登バス株式会社	系統名:富来 運行区間:富来～高浜～羽咋駅	復刻カラーバスの期間限定運行等、話題性を上げることで地元以外からの利用客増を目指した。また、コロナにより開催が延期となっていた「バスの乗り方教室」も実施した。	A 計画どおり実施された	A 県内路線バス利用者数の維持(R2.10～R3.9)130,033人→(R3.10～R4.9)134,314人	富来線の一部の便を能登中核工業団地へ乗り入れを予定しており、新たな利用客の確保を目指す。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。
石川県生活交通の確保に関する地域協議会	能登島交通株式会社	系統名:曲 運行区間:公立能登総合病院～七尾駅前～のどま臨海公園	和倉温泉観光協会と連携したお得な1日券の販売、七尾市による健康センター等を利用した場合の運賃割引制度、65歳以上を対象とした割引回数券の販売を継続するとともに、沿線上の観光資源(能登島周辺を周遊するイルカなど)の情報をSNS等の媒体で発信する他、高齢者への弁当の配送を目的とした貨客混載を検討した。	B 計画どおり実行されていない点があった 理由:新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から弁当の配送を取りやめたため。	A 県内路線バス利用者数の維持(R2.10～R3.9)46,909人→(R3.10～R4.9)49,837人	和倉温泉観光協会と連携したお得な1日券の販売継続、七尾市による健康センター等を利用した場合の運賃割引制度・65歳以上を対象とした割引回数券の販売継続、HPやSNSによる情報発信の継続。路線バスでアクセスできる観光スポットや観光施設への入場割引券を路線バスに設置し利用促進を図る。 また、貨客混載については、新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、実施するか否かを改めて判断する。	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点については自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について、地域一体となって進めるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
中能登町地域公共交通協議会	北鉄能登バス株式会社	中能登町コミュニティバス 通称:おりひめバス こじじ・みおやコース	<p>・コロナ禍が続く中、移動制限の緩和もあり、徐々に利用者の回復がみられる中、免許返納者に進呈した回数券の利用把握は継続できている。接触制限が続く中、返納者へのアンケートを継続実施している。</p> <p>・観光施策との連携、交通系情報サイトへの情報提供の実施について、時刻表データのオープンデータ化し、ダイヤ改正の反映に処理も実施している。</p> <p>・総合時刻表マップを更新し、令和4年3月末に発行した。乗り方についての動画を編集し、令和3年3月末以降、継続して町のCATVで放映。併せてYou Tubeに配信済。</p> <p>バス無料の日などの利用啓発事業については、長引くコロナ禍の影響により、イベント開催がなく、実施に至らなかった。代替として、新型コロナワクチン接種用の無料回数券を高齢者に配付し、延べ人数113名(フィーダーのみ、幹線37名)の利用があり、高齢者の方々の移動手段として貢献し、接種率向上のにつながった。</p>	A 事業は計画どおり適切に実施された。	C <p>・年間利用者数 目標31,200人 実績26,013人 (前年実績23,985人)</p> <p>・免許返納者利用者数 目標679人 実績651人 (前年実績747人)</p> <p>・収支率の達成状況 目標15.0% 実績12.9% (前年実績12.3%)</p> <p>年間利用者数は、長引く新型コロナ感染症の影響が響き、前年度より約8.5%増の回復はあったものの目標を下回った。 免許返納者の利用者数も、目標には届かなかった。 収支率は前年度比0.6%増となったものの、目標を大きく下回った。未達成の理由として、新型コロナ感染症の行動制限の影響を大きく受け、利用者数が伸び悩んだため。</p>	<p>・コロナ禍において、大幅に利用者数が落ち込んでいるが、引き続きこれまでの取り組みを実施する。</p> <p>・引き続き免許返納者に対する取り組みを実施する。返納者からの意見を聞くため、利用後のアンケートをお願いする仕組みを構築する。</p> <p>・観光施策との連携、交通系情報サイトへの情報提供の実施についてはオープンデータ化に向けて取り組みを続ける。</p> <p>・総合時刻表マップの更新、乗り方教室(CATVの番組作成)やバス無料の日などの利用啓発事業は引き続き実施して行く。</p>	事業実施の適切性及び目標・効果達成状況並びに事業の今後の改善点について自己評価のとおりであるが、示された改善策のみならず、あらゆる観点で改善策をご検討頂くとともに、具体的な改善策の実施について地域一体となって進めるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
村上市地域公共交通活性化協議会	事業者名：新潟交通観光バス㈱	村上市まちなか循環バス(小回り循環)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用促進PR活動として、時刻表・路線図の配布を継続実施。 ・運行ダイヤの見直しについて、改めて検討した結果、実施しなかった。 ・バス停留所を1棟を建設し、待合環境の確保を実施した。 ・キャッシュレス決裁の導入。 ・スマホアプリで経路検索が可能となった。 ・停留所看板を更新する際、英語標記を追加。 	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A <ul style="list-style-type: none"> ・1日当たりの平均利用者数を目標値として設定。計画に位置付けられた目標33人/日に対し、実績42人/日。 ・コロナ禍による生活が浸透したことにより、外出する機会が増え、利用者数はコロナ禍前と比べて回復傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用促進のためのPR活動並びに低床バス車両の導入や待合環境の整備等の利便性の向上を図ることで利用者増加を目指した見直しを進め、引き続き検証と検討を行うと共に、その実施について、地域一体となって適切に進めて行く。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
村上市地域公共交通活性化協議会	事業者名：新潟交通観光バス㈱	村上市まちなか循環バス(大回り～小回り循環)					協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
村上市地域公共交通活性化協議会	事業者名: 新潟交通観光バス(株)	村上～馬下～寒川線	<ul style="list-style-type: none"> 沿線住民の利用促進を啓発するため、市報への掲載及びチラシ等の配布を実施した。 学割半額制度の継続実施による利用促進を図った。 	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A <ul style="list-style-type: none"> 1日当たりの平均利用者数を目標値として設定。計画に位置付けられた目標9人/日に対し、実績11人/日。 コロナ禍による生活が浸透したことにより、外出する機会が増え、利用者数はコロナ禍前と比べて回復傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用促進のための市報・HP等による利用の呼びかけと、学割半額制度の周知を行い、引き続き検証と検討を行うとともに、その実施について、地域一体となって適切に進めていく。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
村上市地域公共交通活性化協議会	事業者名: 新潟交通観光バス(株)	村上市せなみ巡回バス	<ul style="list-style-type: none"> 利用促進PR活動として、時刻表・路線図の配布を継続実施。 運行ダイヤの見直しについて、改めて検討した結果、実施しなかった。 キャッシュレス決済の導入。 スマホアプリで経路検索が可能となった。 停留所看板を更新する際、英語標記を追加。 	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A <ul style="list-style-type: none"> 1日当たりの平均利用者数を目標値として設定。計画に位置付けられた目標16人/日に対し、実績16人/日。 コロナ禍による生活が浸透したことにより、外出する機会が増え、利用者数はコロナ禍前と比べて回復傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用促進のためのPR活動並びに低床バス車両の導入や待合環境の整備等の利便性の向上を図ることで利用者増加を目指した見直しを進め、引き続き検証と検討を行うと共に、その実施について、地域一体となって適切に進めて行く。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
村上市地域公共交通活性化協議会	事業者名: 新潟交通観光バス(株)	村上～塩野町～北中線	・沿線住民の利用促進を啓発するため、市報への掲載及びチラシ等の配布を実施した。 ・学割半額制度の継続実施による利用促進を図った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A ・1日当たりの平均利用者数を目標値として設定。計画に位置付けられた目標29人/日に対し、実績31人/日。 ・コロナ禍による生活が浸透したことにより、外出する機会が増え、利用者数はコロナ禍前と比べて回復傾向にある。	利用促進のための市報・HP等による利用の呼びかけと、学割半額制度の周知を行い、引き続き検証と検討を行うとともに、その実施について、地域一体となって適切に進めていく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名：阿賀野市運行システム名：前山線(700)	京和荘～前山～阿賀野市役所	路線別時刻表の見やすさを考えたレイアウトに改良して作成した。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。75歳以上高齢者の利用料免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。高校新1年生向けに利用促進パンフレットを配布した。朝の通勤・通学時間帯において、鉄道への接続するダイヤを確保した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標である1回平均2.0人に対し、0.7人で目標を達成できなかった。高校生の通学利用で卒業等により減少したことが考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・路線別時刻表の表現方法を工夫し、見やすさ、分かりやすさを図る。 ・前山地区の高校新1年生向け市営バス通学促進パンフレットの作成・配布を行う。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・GTFSデータを整備し、モバイル端末等での乗換案内を可能にするなど利用促進を図る。 ・75歳以上高齢者や免許返納者への支援を継続実施する。 ・朝の通勤・通学時間帯における鉄道への接続を引き続き確保する。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名：阿賀野市運行システム名：前山線(702)	京和荘～前山丁字路～市野山(ウオロク脇)	路線別時刻表の見やすさを考えたレイアウトに改良して作成した。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。75歳以上高齢者の利用料免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標である1回平均6.7人に対し、5.8人で目標を達成できなかった。買い物利用で増加が見られたが目標達成には至らなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・路線別時刻表の表現方法を工夫し、見やすさ、分かりやすさを図る。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・GTFSデータを整備し、モバイル端末等での乗換案内を可能にするなど利用促進を図る。 ・75歳以上高齢者や免許返納者への支援を継続実施する。 ・マイ時刻表作成サービスの周知や市営バスの利用方法がわからない方のための利用案内を実施する。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名: 阿賀野市運行系統名:前山線(703)	ウオロク水原店～前山丁字路～京和荘	路線別時刻表の見やすさを考えたレイアウトに改良して作成した。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。75歳以上高齢者の利用料免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標である1回平均7.1人に対し、6.0人で目標を達成できなかった。通院利用者や公共施設利用者が利用頻度を抑えたことが考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・路線別時刻表の表現方法を工夫し、見やすさ、分かりやすさを図る。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・GTFSデータを整備し、モバイル端末等での乗換案内を可能にするなど利用促進を図る。 ・75歳以上高齢者や免許返納者への支援を継続実施する。 ・マイ時刻表作成サービスの周知や市営バスの利用方法がわからない方のための利用案内を実施する。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名: 阿賀野市運行系統名:神山線(902)	笹神支所～熊堂、神山駅前～阿賀野市役所	路線別時刻表の見やすさを考えたレイアウトに改良して作成した。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。75歳以上高齢者の利用料免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標である1回平均11.0人に対し、9.8人で目標を達成できなかった。買い物利用や通院利用で増加が見られたが目標達成には至らなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・路線別時刻表の表現方法を工夫し、見やすさ、分かりやすさを図る。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・GTFSデータを整備し、モバイル端末等での乗換案内を可能にするなど利用促進を図る。 ・75歳以上高齢者や免許返納者への支援を継続実施する。 ・マイ時刻表作成サービスの周知や市営バスの利用方法がわからない方のための利用案内を実施する。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名: 阿賀野市運行系統名: 神山線(903)	阿賀野市役所～神山駅前～笹神支所	路線別時刻表の見やすさを考えたレイアウトに改良して作成した。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。75歳以上高齢者の利用料免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標である1回平均4.1人に対し、4.7人で目標を達成した。買い物や通院に利用できるダイヤを確保したことが利用者の需要に合致したと考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・路線別時刻表の作成・配布を行う。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・GTFSデータを整備し、モバイル端末等での乗換案内を可能にするなど利用促進を図る。 ・75歳以上高齢者や免許返納者への支援を継続実施する。 ・マイ時刻表作成サービスの周知や市営バスの利用方法がわからない方のための利用案内を実施する。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名: 阿賀野市運行系統名: 神山線(904)	神山駅前～中ノ通～阿賀野市役所	路線別時刻表の見やすさを考えたレイアウトに改良して作成した。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。75歳以上高齢者の利用料免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標である1回平均8.2人に対し、7.0人で目標を達成できなかった。通院利用者が利用頻度を抑えたことが考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・路線別時刻表の表現方法を工夫し、見やすさ、分かりやすさを図る。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・GTFSデータを整備し、モバイル端末等での乗換案内を可能にするなど利用促進を図る。 ・75歳以上高齢者や免許返納者への支援を継続実施する。 ・マイ時刻表作成サービスの周知や市営バスの利用方法がわからない方のための利用案内を実施する。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名: 阿賀野市 運行系統 名:神山線 (901)	阿賀野市役 所~中ノ通 ~笹神支所	路線別時刻表の見やすさを考えたレイアウトに改良して作成した。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。75歳以上高齢者の利用料免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標である1回平均5.7人に対し、5.5人で目標を達成できなかった。 通院利用者が利用頻度を抑えたことが考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・路線別時刻表の表現方法を工夫し、見やすさ、分かりやすさを図る。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・GTFSデータを整備し、モバイル端末等での乗換案内を可能にするなど利用促進を図る。 ・75歳以上高齢者や免許返納者への支援を継続実施する。 ・マイ時刻表作成サービスの周知や市営バスの利用方法がわからない方のための利用案内を実施する。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名: 阿賀野市 運行系統 名:神山線 (907)	阿賀野市役 所~熊堂、 中ノ通~笹 神支所	路線別時刻表の見やすさを考えたレイアウトに改良して作成した。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。75歳以上高齢者の利用料免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標である1回平均8.3人に対し、6.8人で目標を達成できなかった。 小学校の下课利用において沿線地域の児童数が減少したことが考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・路線別時刻表の表現方法を工夫し、見やすさ、分かりやすさを図る。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・GTFSデータを整備し、モバイル端末等での乗換案内を可能にするなど利用促進を図る。 ・75歳以上高齢者や免許返納者への支援を継続実施する。 ・マイ時刻表作成サービスの周知や市営バスの利用方法がわからない方のための利用案内を実施する。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名: 阿賀野市運行系統名: 神山線(951)	阿賀野市役所～熊堂、中ノ通、笹神支所～阿賀野市役所	路線別時刻表の見やすさを考えたレイアウトに改良して作成した。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。75歳以上高齢者の利用料免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標である1回平均6.5人に対し、4.7人で目標を達成できなかった。 通院利用者が利用頻度を抑えたことが考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・路線別時刻表の表現方法を工夫し、見やすさ、分かりやすさを図る。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・GTFSデータを整備し、モバイル端末等での乗換案内を可能にするなど利用促進を図る。 ・75歳以上高齢者や免許返納者への支援を継続実施する。 ・マイ時刻表作成サービスの周知や市営バスの利用方法がわからない方のための利用案内を実施する。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名: 阿賀野市運行系統名: 安田地域循環線(02AB)	安田支所～宝珠温泉あかまつ荘～安田支所	路線別時刻表の見やすさを考えたレイアウトに改良して作成した。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。75歳以上高齢者の利用料免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。日帰り温泉施設が休館したため、新たな取り組みはできなかったが、他の利用促進策の検討に向けて、休館後の利用状況など情報収集に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標である1回平均9.6人に対し、7.8人で目標を達成できなかった。 主な利用目的であった日帰り温泉施設が休館したことによるものと考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・路線別時刻表の表現方法を工夫し、見やすさ、分かりやすさを図る。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・GTFSデータを整備し、モバイル端末等での乗換案内を可能にするなど利用促進を図る。 ・75歳以上高齢者や免許返納者への支援を継続実施する。 ・マイ時刻表作成サービスの周知や市営バスの利用方法がわからない方のための利用案内を実施する。 ・日帰り温泉施設休館後の利用者動向を精査し、新たな移動需要の発見に向けて情報収集を行って、今後の取り組みを検討する。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名: 阿賀野市運行系統名: 安田地域循環線(04AB)	安田支所～宝珠温泉あかまつ荘～安田支所	路線別時刻表の見やすさを考えたレイアウトに改良して作成した。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。75歳以上高齢者の利用料免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。日帰り温泉施設が休館したため、新たな取り組みはできなかったが、他の利用促進策の検討に向けて、休館後の利用状況など情報収集に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標である1回平均5.6人に対し、4.1人で目標を達成できなかった。小学校の下校利用において沿線地域の児童数が減少したことが考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・路線別時刻表の表現方法を工夫し、見やすさ、分かりやすさを図る。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・GTFSデータを整備し、モバイル端末等での乗換案内を可能にするなど利用促進を図る。 ・75歳以上高齢者や免許返納者への支援を継続実施する。 ・マイ時刻表作成サービスの周知や市営バスの利用方法がわからない方のための利用案内を実施する。 ・日帰り温泉施設休館後の利用者動向を精査し、新たな移動需要の発見に向けて情報収集を行って、今後の取り組みを検討する。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名: 阿賀野市運行系統名: 安田地域循環線(05AB)	安田公民館～宝珠温泉あかまつ荘～安田支所	路線別時刻表の見やすさを考えたレイアウトに改良して作成した。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。75歳以上高齢者の利用料免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。日帰り温泉施設が休館したため、新たな取り組みはできなかったが、他の利用促進策の検討に向けて、休館後の利用状況など情報収集に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標である1回平均2.0人に対し、1.2人で目標を達成できなかった。中学校の下校利用において学校の時間割(下校時刻)が合わず、別の交通手段で下校したことが考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・路線別時刻表の表現方法を工夫し、見やすさ、分かりやすさを図る。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・GTFSデータを整備し、モバイル端末等での乗換案内を可能にするなど利用促進を図る。 ・75歳以上高齢者や免許返納者への支援を継続実施する。 ・マイ時刻表作成サービスの周知や市営バスの利用方法がわからない方のための利用案内を実施する。 ・日帰り温泉施設休館後の利用者動向を精査し、新たな移動需要の発見に向けて情報収集を行って、今後の取り組みを検討する。 	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、示された改善策と目標が達成されなかった理由との関連性が不明確であることから、目標が達成されなかった理由に対応した新たな具体策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切に検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名: 阿賀野市 運行系統 名:安田地 域循環線 (22B)(03AB)	横町～宝珠 温泉あかま つ荘～安田 公民館	路線別時刻表の見やすさを考えたレイアウトに改良して作成した。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。75歳以上高齢者の利用料免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。日帰り温泉施設が休館したため、新たな取り組みはできなかったが、他の利用促進策の検討に向けて、休館後の利用状況など情報収集に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標である1回平均6.7人に対し、6.5人で目標を達成できなかった。主な利用目的であった日帰り温泉施設が休館したことによるものと考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・路線別時刻表の表現方法を工夫し、見やすさ、分かりやすさを図る。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・GTFSデータを整備し、モバイル端末等での乗換案内を可能にするなど利用促進を図る。 ・75歳以上高齢者や免許返納者への支援を継続実施する。 ・マイ時刻表作成サービスの周知や市営バスの利用方法がわからない方のための利用案内を実施する。 ・日帰り温泉施設休館後の利用者動向を精査し、新たな移動需要の発見に向けて情報収集を行う、今後の取り組みを検討する。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿賀野市地域公共交通協議会	事業者名: 阿賀野市 運行系統 名:神山線 全系統	車両減価償却費等国庫補助金、H27年11月、マイクロスバス2台を14人乗リコムーター2台に更新(リース)	路線別時刻表の見やすさを考えたレイアウトに改良して作成した。市のホームページにも時刻表と路線図を掲載し、周知した。自分の利用状況に合わせたオリジナル時刻表(マイ時刻表)の作成サービスを実施した。75歳以上高齢者の利用料免除と高齢者運転免許証返納者への支援を継続実施した。運行経費においては、運行維持や安全性確保の観点から削減余地を見つけることができなかった。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標である収支率0.5%以上及び1.7%以上に対し、0.7%及び1.2%となり、目標を達成できない部分があった。目標達成した1台は利用者のうち有料者の割合が上がって運賃収入が増えたためと考えられる。もう一台は利用者が横ばい状況の中で、燃料費高騰等の影響により経費を抑えることができなかったことが考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・路線別時刻表の表現方法を工夫し、見やすさ、分かりやすさを図る。 ・市の広報紙、ホームページ等で利用促進を図る。 ・GTFSデータを整備し、モバイル端末等での乗換案内を可能にするなど利用促進を図る。 ・75歳以上高齢者や免許返納者への支援を継続実施する。 ・マイ時刻表作成サービスの周知や市営バスの利用方法がわからない方のための利用案内を実施する。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
上越市地域公共交通活性化協議会	東頸バス(株)	運行路線：安塚線 うらがわら駅前～虫川大杉駅前～保健センター前	鉄道への接続に配慮したダイヤを設定し、学生を中心に利用者の移動手段を確保した。安塚区総合事務所と連携し、お得な乗車券の情報やバスロケーションシステム等を事務所だよりやチラシにより周知し利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 目標：前年度収支率より改善もしくは維持する。 前年度30.5%に対して実績21.6%(未達成) 事業効果：路線維持により、沿線住民及び学生等の移動手段を確保(達成) 目標未達成の要因：新型コロナウイルス感染症の影響による一般利用者の減少及び高田高校安塚分校へ通学する生徒の利用減により、収入全般(現金・回数券・定期券)が減り、収支率が悪化した。(運送収入前年度比▲359千円・収支率前年度比▲8.9%)	引き続き、鉄道や他のバス路線への接続に配慮したダイヤを維持することで、学生を中心に利用者の移動手段の維持確保に努める。また、安塚区総合事務所と連携し、お得な乗車券の情報やバスロケーションシステムの案内を事務所だよりやチラシにより周知し、利用促進を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
上越市地域公共交通活性化協議会	くびき野バス(株)	運行路線：島田線 高田駅前～岡原～曾根田	鉄道(高田駅)や幹線系統への接続に配慮したダイヤを設定し、沿線住民の移動手段を維持確保した。観光客の需要などの確認のため、上越妙高駅へ乗り入れる実証実験を行った。板倉区総合事務所と連携し、お得な乗車券の情報やバスロケーションシステムの案内等を事務所だよりやチラシにより周知し利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 目標：前年度収支率より改善もしくは維持する。 前年度22.9%に対して実績17.7%(未達成) 事業効果：路線維持により、沿線住民の通学、通院などの移動手段を確保(達成) 目標未達成の要因：新型コロナウイルス感染症の影響による一般利用者の減少及び有恒高校へ通学する生徒の利用減により、運送収入全般(現金・回数券・定期券)が減少し、収支率が悪化した。(運送収入前年度比▲492千円)	引き続き、鉄道や幹線系統への接続に配慮したダイヤを維持することで、沿線住民の移動手段の維持確保に努める。また、板倉区総合事務所と連携し、お得な乗車券の情報やバスロケーションシステムの案内等を事務所だよりやチラシにより周知し利用促進を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
上越市地域公共交通活性化協議会	頸城自動車(株)	運行路線: 佐内・直江津循環線 直江津駅前～労災病院前～佐内入口	鉄道(直江津駅)や幹線系統への接続に配慮したダイヤを設定し、高齢者を中心に利用者の移動手段を維持確保した。お得な乗車券の情報やバスロケーションシステムの案内等を掲載した高齢者向けの啓発資料を労災病院や直江津ショッピングセンター前案内所へ設置し、利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 目標:前年度収支率より改善もしくは維持する。 前年度8.3%に対して実績9.2%(達成) 事業効果:路線維持により、沿線高齢者を中心に通院及び買い物等の移動手段を確保(達成) 目標達成の要因:大雪等の災害による運休が無かったため、昨年度に比べ運行回数が多くなったことから運送収入が増加し、収支率が改善した。(運送収入前年度比+111千円・収支率前年度比+0.9%)	引き続き、鉄道や幹線系統への接続に配慮したダイヤを維持することで、高齢者を中心に利用者の移動手段の維持確保に努める。また、お得な乗車券の情報やバスロケーションシステムの案内等を掲載した高齢者向けの啓発資料を労災病院へ設置するとともに、直江津ショッピングセンターでの買い物目的の利用者獲得のため、頸城自動車と連携して利用促進を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
上越市地域公共交通活性化協議会	アイエムタクシー(株)	運行路線: 岡沢ルート 新井バスターミナル～中郷区総合事務所前～岡沢	鉄道や幹線系統への接続、通学に配慮したダイヤを設定し、沿線の中学生や高齢者を中心に利用者の移動手段の維持確保に努めた。乗合タクシーの利用方法等を事務所だよりやチラシにより周知し、利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 目標:前年度収支率より改善もしくは維持する。 前年度8.2%に対して実績6.2%(未達成) 事業効果:路線維持により、沿線の中学生や高齢者を中心に通学、通院及び買い物等の移動手段を確保(達成) 目標未達成の要因:利用者の高齢化や学生の通学利用が減少したことにより、運送収入が減り、収支率が悪化した。(利用者数R3:1,285人→R4:1,153人・運送収入前年度比▲39千円・収支率前年度比▲2.0%)	引き続き、沿線の中学生や高齢者を中心に利用者の移動手段の維持確保に努める。中郷区総合事務所と連携し、お得な乗車券の情報等を事務所だよりやチラシにより周知し利用促進を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
上越市地域公共交通活性化協議会	東頸バス(株)	運行路線：月影・下保倉・末広ルート(1)、月影・下保倉・末広ルート(2) うらがわら駅～浦川原区中心部～谷	小・中学校の登下校時間、鉄道(うらがわら駅)との接続に配慮したダイヤを設定し、小学生を中心に沿線住民の移動手段を維持確保した。浦川原区総合事務所と連携し、お得な乗車券の情報を事務所だよりやチラシにより周知し利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 目標：前年度収支率より改善もしくは維持する。 前年度22.4%に対して実績16.7%(未達成) 事業効果：路線維持により、沿線の小学生や高齢者を中心に通学、通院及び買い物等の移動手段を確保(達成) 目標未達成の要因：新型コロナウイルス感染症の影響による高齢者を中心とした一般利用者の減少及び浦川原小学校・浦川原中学校へ通学する生徒の利用減により、運送収入全般(現金・回数券・定期券)が減少し、収支率が悪化した。(運送収入前年度比▲59千円・収支率前年度比▲5.7%)	引き続き、沿線の小・中学生や高齢者を中心に利用者の移動手段の維持確保に努める。浦川原区総合事務所と連携し、お得な乗車券の情報を事務所だよりやチラシにより周知し利用促進を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
上越市地域公共交通活性化協議会	くびき野バス(株)	運行路線：真砂線 高田駅前～真砂寺前～三和体育館	鉄道(高田駅)との接続に配慮したダイヤを設定し、沿線住民の移動手段を維持確保した。三和区総合事務所と連携し、お得な乗車券の情報やバスロケーションシステム等を事務所だよりやチラシにより周知し利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 目標：前年度収支率より改善もしくは維持する。 前年度18.4%に対して実績18.4%で変わらず(達成) 事業効果：路線維持により、沿線住民及び小学生等の移動手段を確保(達成) 目標達成の要因：大雪等の災害による運休が無かったため、昨年度に比べ運行回数が多くなったことから運送収入が増加したが、燃料費高騰などの要因に伴い経常費用も増加したため、収支率は変動しなかった。(経常費用前年度比+197千円・運送収入前年度比+91千円)	引き続き、鉄道との接続に配慮したダイヤを維持することで、沿線住民の移動手段の維持確保に努める。また、三和区総合事務所と連携し、お得な乗車券の情報やバスロケーションシステムの案内等を事務所だよりやチラシにより周知し利用促進を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
見附市地域公共交通活性化協議会	越後交通(株)	<p>コミュニティバス(おはようライナー)※補助対象外(A直行)※補助対象外(B通常)(B2通常名木野ルート)※R4.3.31まで(B2通常葛巻ルート)※R4.4.1</p> <p>【運行期間 R3.10.1～R4.9.30】</p>	<p>①公共交通計画より明らかとなった交通空白地域の解消のため、R4年4月のダイヤ改正では、ルートを見直し葛巻地区を運行するルートを実行し、92.6%から97.5%の交通空白地域カバー率を実現した。</p> <p>②普段公共交通を利用しない人への利用促進を目的とし、市内小学校PTAとタイアップし、小学生の作品を車内掲示したほか、観光協会と協力し、市内をめぐるクイズイベントの際にコミュニティバスの1日利用券を配布し、イベントの際に利用してもらう事で市内外の方への乗車のきっかけづくりを行った。</p>	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B <p>コミュニティバス利用者 ・実績172,519人 ・前年164,630人</p> <p>※目標達成率93.8%、対前年比104.8%(計画目標数は184,000人)</p> <p>①ルートの見直しを実施し、R4.4.1から見直したルートでの運行を開始した。新たなルートにより公共交通の人口カバー状況を92.6%から向上させることが出来た。また利用者数も対前年比104.8%と向上させることが出来たが、コロナウイルスの影響により落ち込んだ利用者数を回復させるまでには至らず、目標を達成することは出来なかった。コロナ前動態調査データと比較し、高齢者世代の利用は増加しているが、その他の世代の利用減が見られ原因としては少子化に伴う学生利用の減少、テレワークの推進による就労者の通勤利用の減少が考えられる。</p> <p>②計画通り、普段公共交通を利用しない人への利用促進につとめた。</p>	<p>・利用者目標193,000人(地域公共交通計画の目標数)</p> <p>①利用の傾向を把握し、利用者の実態に即したコミュニティバスの効率的な運行、動態調査等のデータを参考に時刻表の変更等を行う。</p> <p>②モビリティマネジメントの推進 普段公共交通を利用しない人への、利用促進を行う。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
三条市地域公共交通協議会	越後交通株式会社	福沢線 (福沢～長沢駅跡)	三条市内の下田中学校及び大崎学園後期の卒業生に対し、利用時間、利用方法、循環バスや自転車駐車場の案内などを記載したチラシを配布し、周知を図った。(R4.3)	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 福沢線については、目標に掲げた日平均利用者数2人に対し、3.6人/日と前年度の実績と同じ数値となり、目標をわずかに上回った。 高校生通学ライナーバス(東三条駅～県央工業高等学校)については、目標に掲げた日平均利用者数15人に対し、30.7人/日と前年度の実績を0.2上回る数値となり、目標を上回った。 前年度(令和2年10月～令和3年9月)は新型コロナウイルスの影響を大きく受けたが、今年度は主な利用者である高校の休校措置が減ったため、数値が少し上向いたものと推察される。	下田地域の高校生の移動手段の確保といった観点から利用促進を図るよう、引き続きチラシの配布やホームページ等で情報発信に努める。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
		高校生通学ライナーバス (東三条駅～県央工業高等学校)	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
三条市地域公共交通協議会	越後交通株式会社	市内循環バス南コース(市内)	市内高校・専門学校・大学等へ現運行に対する要望を聴き取りを行い、バスの路線再編準備を行った。(R4.9までの間)路線バスと循環バスの時刻表と経路図をセットにした「三条市バスマップ」を引き続き窓口に設置し、情報発信に務めた。(R4.4～)	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。	
		市内循環バス北コース(市内)		A	計画どおり事業は適切に実施された。	A		協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
		市内循環バス嵐南コース(市内)		A	計画どおり事業は適切に実施された。	A		協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
		市内循環バス嵐北コース(市内)		A	計画どおり事業は適切に実施された。	A		協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
三條市地域公共交通協議会	株式会社エス・タクシー	三條市デマンド交通(三條市内)	デマンド交通をより多くの方から利用していただけるよう、高齢者が集まる場に足を運び、デマンド交通の制度の概要や利用方法、停留所等について話をする出張説明会を3回開催した。(R3.10～R4.9)	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	<p>土日も含む全日運行について、目標に掲げた日平均利用者数が180人に対し、162.8人/日であり、目標を下回った。</p> <p>また、土日の運行について、目標に掲げた土曜日の日平均利用者数40人、日曜日の日平均利用者数15人/日に対し、土曜日が70.7人/日、日曜日が39.5人となった。前年度の実績と比較して、土曜日が9.9人、日曜日が4.9人の増加となり、目標を上回った。前年度(令和2年10月～令和3年9月)に新型コロナウイルスの影響を大きく受けたが、今年度は行動制限がある程度緩和されたため、バスよりも小型の車両で乗合う機会が少ないデマンド交通は、数値が少し上向いたものと推察される。しかし、コロナ禍前の利用状況には戻っていない。</p>	<p>これまで続けてきている高齢者が集まる機会を捉えたデマンド交通出張説明会において、デマンド交通の使い方等も含めて丁寧に説明し、利用者の掘り起こしを図っていく。特に令和2年7月から運転免許証を返納した年に限り2人乗車時の料金が割引となる「おでかけバス」の購入費用を免除する取組を開始したため、その内容の周知を努めていく。(令和4年12月20日現在128人の利用者)</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>
	三條タクシー株式会社			A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	<p>協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
三条市地域公共交通協議会	中越交通株式会社	三条市デマンド交通(三条市内)	デマンド交通をより多くの方から利用していただけるよう、高齢者が集まる場に足を運び、デマンド交通の制度の概要や利用方法、停留所等について話をする出張説明会を3回開催した。(R3.10～R4.9)	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	<p>土日も含む全日運行について、目標に掲げた日平均利用者数が180人に対し、162.8人/日であり、目標を下回った。</p> <p>また、土日の運行について、目標に掲げた土曜日の日平均利用者数40人、日曜日の日平均利用者数15人/日に対し、土曜日が70.7人/日、日曜日が39.5人となった。前年度の実績と比較して、土曜日が9.9人、日曜日が4.9人の増加となり、目標を上回った。前年度(令和2年10月～令和3年9月)に新型コロナウイルスの影響を大きく受けたが、今年度は行動制限がある程度緩和されたため、バスよりも小型の車両で乗合う機会が少ないデマンド交通は、数値が少し上向いたものと推察される。しかし、コロナ禍前の利用状況には戻っていない。</p>	<p>これまで続けてきている高齢者が集まる機会を捉えたデマンド交通出張説明会において、デマンド交通の使い方等も含めて丁寧に説明し、利用者の掘り起こしを図っていく。特に令和2年7月から運転免許証を返納した年に限り2人乗車時の料金が割引となる「おでかけバス」の購入費用を免除する取組を開始したため、その内容の周知を努めていく。(令和4年12月20日現在128人の利用者)</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>
	日の丸観光タクシー株式会社			A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	<p>協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>		

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日

北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
胎内市地域公共交通協議会	株式会社中条タクシー	区域運行(中条築地)	<p>新型コロナウイルスの感染防止対策として、「のれんす号」の車内及び利用者待合室に空気清浄機を設置し、利用者が安心して利用できる環境整備を図った。</p> <p>利用促進策としては、高齢者サロンによる出前講座の実施や市内の高等学校、大学に無料チケットを配付するなど、新たな利用者の掘り起こしや若者の利用率向上の取り組みを行った。</p>	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 事業の目標：1日当たりの平均利用者数 155人 前年度から合計利用者数は1,072人増加の47,455人、平均利用者数は2.97人増加の131.45人と、いずれも回復傾向にあるものの新型コロナウイルス感染症蔓延以前の令和元年度の利用者数(合計利用者数55,189人、平均利用者数152.88人)と比較すると依然として低い水準で推移している状況である。	<p>新型コロナウイルス感染症に起因した利用者数減少の影響は甚大であり、感染症拡大前の水準回復には、なお時間を要するものと考えているが、引き続き感染防止策を徹底し、感染への不安払拭を図りながら、多様な利用者ニーズに応じたサービス提供により、利用促進や持続的な運行につなげていきたい。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>
	株式会社中条タクシー	区域運行(乙)		A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
胎内市地域公共交通協議会	株式会社中条タクシー	区域運行(黒川)	新型コロナウイルスの感染防止対策として、「のれんす号」の車内及び利用者待合室に空気清浄機を設置し、利用者が安心して利用できる環境整備を図った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 事業の目標:1日当たりの平均利用者数 155人 前年度から合計利用者数は1,072人増加の47,455人、平均利用者数は2.97人増加の131.45人と、いずれも回復傾向にあるものの新型コロナウイルス感染症蔓延以前の令和元年度の利用者数(合計利用者数55,189人、平均利用者数152.88人)と比較すると依然として低い水準で推移している状況である。	新型コロナウイルス感染症に起因した利用者数減少の影響は甚大であり、感染症拡大前の水準回復には、なお時間を要するものと考えているが、引き続き感染防止策を徹底し、感染への不安払拭を図りながら、多様な利用者ニーズに応じたサービス提供により、利用促進や持続的な運行につなげていきたい。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
	藤観光タクシー株式会社	区域運行(乙)	利用促進策としては、高齢者サロンによる出前講座の実施や市内の高等学校、大学に無料チケットを配付するなど、新たな利用者の掘り起こしや若者の利用率向上の取り組みを行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B		協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
柏崎市地域公共交通活性化協議会	越後交通㈱	東市街地循環線(ひまわり) ・比角先回り ・半田先回り	(1)路線バス高齢者割引制度を実施し、高齢者に対する利用促進を図った。 (2)高校生等通学割引キャンペーンを実施し、高校生の通学における路線バスの利用を促した。 (3)路線バス利用促進を図るため、ダイヤや路線図を掲載した公共交通ガイドブックを公共施設や各関係機関等に配布した。 (4)市街地循環バスにおける中学・高校生運賃の新設や、経路情報検索サービスの充実などを盛り込んだ新たな地域公共交通計画を策定した。	A 事業は、計画に基づき、適切に実施した。	C 目標である収支率35%以上に対して、実績は31.5%(前年度比+0.5%)で目標は達成できなかった。ただし、新型コロナウイルス感染症による外出自粛が緩和されたことなどにより、利用数は増加傾向にあり、改善の兆しが見えてきている。	今後も生活交通を確保していくため、新たに策定した柏崎市地域公共交通計画に基づき、市街地循環バスにおける中学・高校生運賃の新設や、経路情報検索サービスの充実を図るとともに、アフターコロナに向けた利用促進事業を展開していく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
柏崎市地域公共交通活性化協議会	越後交通㈱	柏崎駅前～野田線・日吉町経由・石塚経由・医療センター経由	(1)路線バス高齢者割引制度を実施し、高齢者に対する利用促進を図った。 (2)高校生等通学割引キャンペーンを実施し、高校生の通学における路線バスの利用を促した。 (3)路線バス利用促進を図るため、ダイヤや路線図を掲載した公共交通ガイドブックを公共施設や各関係機関等に配布した。 (4)高齢者や障がい者を対象としたバスの乗り方教室の実施や、経路情報検索サービスの充実などを盛り込んだ新たな地域公共交通計画を策定した。	A 事業は、計画に基づき、適切に実施した。	A 目標である収支率22%以上に対して、実績は24.4%(前年度比+7.9%)で目標を達成できた。目標を達成できた要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛が緩和されたことによる利用回復したことが挙げられる。	今後も生活交通を確保していくため、新たに策定した柏崎市地域公共交通計画に基づき、利用頻度が高い高齢者・障がい者を対象としたバスの乗り方教室の実施や、経路情報検索サービスの充実を図るとともに、アフターコロナに向けた利用促進事業を展開していく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する
	越後交通㈱	柏崎駅前～久米線	(1)路線バス高齢者割引制度を実施し、高齢者に対する利用促進を図った。 (2)高校生等通学割引キャンペーンを実施し、高校生の通学における路線バスの利用を促した。 (3)路線バス利用促進を図るため、ダイヤや路線図を掲載した公共交通ガイドブックを公共施設や各関係機関等に配布した。 (4)高齢者や障がい者を対象としたバスの乗り方教室の実施や、経路情報検索サービスの充実などを盛り込んだ新たな地域公共交通計画を策定した。	A 事業は、計画に基づき、適切に実施した。	C 目標である収支率25%以上に対して、実績17.5%(前年度比△0.5%)で目標を達成できなかった。目標を達成できなかった要因として、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛はやや緩和されたものの、利用頻度が高い高齢者が身体的理由等から乗降車困難になったことにより利用者が減少したと分析している。	今後も生活交通を確保していくため、新たに策定した柏崎市地域公共交通計画に基づき、利用頻度が高い高齢者・障がい者を対象としたバスの乗り方教室の実施や、経路情報検索サービスの充実を図るとともに、アフターコロナに向けた利用促進事業を展開していく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
新発田市地域公共交通活性化協議会	新潟交通観光バス㈱	あやめバス(外回り・内回り)申請番号1～7	<p>・高校生や高齢者の利用を促進するために、通学や通院に対応したパンフレットを作成、配布した。</p> <p>・四半期に一度行う動態調査結果を基に、運行内容の検証を行い、現行の運行を維持することとした。</p> <p>・あやめバスの車両入替を行い、より高齢者や障がいのある方が利用しやすい環境を整備するとともに、燃費の向上や修繕費の削減を図った。</p>	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B <p>事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。</p> <p><事業の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間利用者68,459人以上(前年度)64,851人→(今年度)66,183人 ・利用者のうち60代以上の乗車割合を40.0%以上とする。(前年度)46.8%→(今年度)45.7% ・利用者のうち障害者手帳を提示した人の乗車割合を22.3%以上とする。(前年度)25.0%→(今年度)24.9% <p><事業の効果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新発田市街地における公共施設や商業施設、医療機関といった施設や観光資源へのアクセス性の確保と回遊性の向上を図る。 <p><達成状況の分析></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成できなかった要因として新型コロナウイルス感染症に伴う外出自粛の影響が残っており、利用者が戻っていない現状にある。これは買い物の回数を減らすなど生活様式が変化していることも考えられる。 ・60代以上の乗車割合は年々増加しており、利用者のうちおよそ半数となっている。 ・障害者手帳を提示した人の割合は25%程度で推移している。 ・高齢者や障がいのある方などの交通弱者の方々が、中心市街地や商業施設、医療機関等を移動するための手段として定着してきている。 <p>【指標①】新発田駅停留所の利用率(前年度動態調査)13.4%→(今年度動態調査)13.4%</p> <p>【指標②】回数券利用率(前年度)34.5%→(今年度)33.8%</p>	<p>・高校生や高齢者の通学、通院利用を促進するため、パンフレットの作成、配布を継続する。</p> <p>・四半期に一度行う動態調査結果を基に、運行内容を検証する。</p> <p>・待合環境を充実させるために、停留所にベンチなどを設置し利用者の維持に繋げる。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
新発田市地域公共交通活性化協議会	新潟交通観光バス㈱	川東コミュニティバス 申請番号8～13	<p>・バス停掲示物や車内掲示物の工夫を行うなど利用促進を図った。</p> <p>・地域住民と一体となり、運行内容の検証を行い、一部の便で停留所の移設を行ったが、それ以外は概ね現行の運行を維持することとした。</p> <p>・小・中学校の通学に配慮したダイヤ設定を継続するとともに、安全安心な通学環境を確保するため、一部の便で停留所を移設するなど、運行内容の見直しを進めた。</p> <p>・高校生の利用者が増加傾向にあることから、利用状況を確認し、実態に合わせた運行を行った。</p>	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B <p>事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。</p> <p><事業の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間利用者数を前年度比100%以上とする。 (昨年度)42,201人→(今年度)44,163人 ・利用者のうち障害者手帳を提示した人の乗車割合を22.2%以上とする。 (昨年度)22.5%→(今年度)18.0% <p><事業の効果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・川東地区における自家用車を運転できない高齢者や障がい者、高校生等の交通弱者の日常生活の移動ニーズに応じた移動手段を確保する。 <p><達成状況の分析></p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き利用者は増加した。回数券の利用率も高くなっており、定期利用者が増えていると思われる。 ・障害者手帳を提示した方の割合は18.0%で昨年度と概ね同じ割合であったが、目標を下回ってしまった。手帳以外の利用者が増加したことにより割合が下がったと考えられる。 <p>【指標①】川東地区高校生の自主通学率 (R3.7動態調査)27.4% → (R4.7動態調査)28.7%</p> <p>【指標②】回数券利用率 (前年度)52.0%→(今年度)52.7%</p>	<p>・バス停掲示物や車内掲示物の工夫を行うなど利用促進を図る。</p> <p>・地域住民と一体となり、運行内容の検証を行う。</p> <p>・小・中学校の通学に配慮したダイヤ設定を継続するとともに、安全安心な通学環境を確保するため、運行内容の見直しを進める。</p> <p>・高校生の利用者が増加傾向にあることから、利用状況を確認し、実態に合わせた運行を行う。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
佐渡市地域公共交通活性化協議会	新潟交通佐渡㈱	系統名:国仲・金丸線 運行区間:佐和田BS～佐渡病院～新町学校前～新穂小学校前～佐和田BS	前年に引き続き「病院乗り入れ便のご案内」を作成し、市内全戸及び各病院等へ配布した。学生のバス利用を取り込むため、新規の対象者(高校)へ中学校及び中等教育学校を通じて学生ワイドフリー定期券制度を案内し、利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 目標利用者数:18,000人 利用者数:15,319人 (達成率:85.1%) 学生の減少や市民の需要減少に加え、金井、佐和田地区の総合高校へ通う生徒が別路線を利用するなど、通学での利用も減少している。	病院乗り入れ便チラシや路線バス割引サービス利用証、学生ワイドフリー定期券などの路線バス利用促進施策について、引き続き周知、PRに努める。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
佐渡市地域公共交通活性化協議会	新潟交通佐渡㈱	系統名:宿根木線① 運行区間:羽茂高校～小木港～宿根木～江積 系統名:宿根木線② 運行区間:小木港～宿根木～江積	小木直江津航路や小木線との接続ダイヤを設定し、利用促進に努めた。 一部の便で事前予約制のデマンドバスを導入し、効率的な運行に努めた。 病院乗り入れ便チラシの全戸配布や割引サービス制度の新規対象者へ個別に案内した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 目標利用者数:6,000人 利用者数:3,188人 (達成率:53.1%) 観光利用は僅かに増加傾向であるが、市民の需要減少が継続しており、達成率は昨年とほぼ同じであった。	主な利用者である高齢者向けに病院接続バスの案内や割引サービス制度を周知することで、利用者の増加を目指す。来島者へはモバイル対応の乗り放題バスの利便性を周知し、路線バス利用を促す。 また、佐渡汽船ダイヤとの接続や他の路線との接続など、効率的な運行に努める。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、当該路線において市民の需要減少が継続している理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
粟島浦村地域公共交通協議会	粟島浦村	県道ルート	<p>・頻繁に使用する停留所付近の風雨よけやその代替案等、引き続き利用しやすい環境づくりにむけ検討を行う。</p> <p>・コロナ渦ではあるが、全国的な移動制限の緩和で来島者数も増加傾向に転じたことによる刺激や村内行事(島びらき等)の復活で、住民の利用実績はほぼ横ばいで推移している。</p>	A	<p>概ね計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	A	<p>住民利用は2,591名(1名あたりの利用回数7.7回)となり、目標2,366人(一人当たりの利用回数7.0回)を達成することができた。これは新型コロナウイルス感染症ワクチンの予防接種等の取組みが進み、住民の外出意欲が持続した結果と考えている。</p>	<p>・引き続き利用しやすい環境づくりのため、乗降場の在り方等を検討する。</p> <p>・村内の事業者とも連携し、外出意欲が高まるような事業を推進する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、さらなる実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
五泉市地域公共交通活性化協議会	泉観光バス(株)みどりハイヤー(株)	ごせん乗合タクシー「さくら号」(五泉東エリア)	<ul style="list-style-type: none"> 市広報・HP・時刻表を活用した各種周知活動を継続した。 時刻表の表現を見直した。絵を用いた説明、混雑予想の掲載等) 高齢者を対象とした利用促進活動として、免許返納高齢者への制度説明を継続実施した。また、新たに高齢者向けの出前講座を実施した。 	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 輸送人員の目標値である前年比100%以上に対し、97.3%であり目標を達成できなかった。特定の高頻度利用者の利用取り止め及び新型コロナウイルス感染症予防対策や冬季間の豪雪が利用者減少の主たる理由だと考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> 市広報・HP・時刻表を活用した各種周知活動を継続する。 高齢者向けの利用促進活動。(免許返納高齢者への制度説明、高齢者向けの出前講座)を継続する。 乗合率など新たな視点から考察する。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
	泉観光バス(株)みどりハイヤー(株)	ごせん乗合タクシー「さくら号」(五泉西エリア)	<ul style="list-style-type: none"> 市広報・HP・時刻表を活用した各種周知活動を継続した。 時刻表の表現を見直した。絵を用いた説明、混雑予想の掲載等) 高齢者を対象とした利用促進活動として、免許返納高齢者への制度説明を継続実施した。また、新たに高齢者向けの出前講座を実施した。 	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 輸送人員の目標値である前年比100%以上に対し、101.5%を達成した。	<ul style="list-style-type: none"> 市広報・HP・時刻表を活用した各種周知活動を継続する。 高齢者向けの利用促進活動。(免許返納高齢者への制度説明、高齢者向けの出前講座)を継続する。 乗合率など新たな視点から考察する。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議 会名	①補助対象 事業者等	②事業 概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業 評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の 改善点	評価結果
五泉市地域 公共交通活 性化協議会	泉観光バス 株 みどりハイ ヤー株	ごせん乗合 タクシー 「さくら号」 (村松エリ ア)	<ul style="list-style-type: none"> ・市広報・HP・時刻表を活用した各種周知活動を継続した。 ・時刻表の表現を見直した。絵を用いた説明、混雑予想の掲載等) ・高齢者を対象とした利用促進活動として、免許返納高齢者への制度説明を継続実施した。また、新たに高齢者向けの出前講座を実施した。 	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C <ul style="list-style-type: none"> 輸送人員の目標値である前年比100%以上に対し、98.2%であり、目標を達成できなかった。 10代以上は世代間で利用者のスライドが生じたが、総数は前年比とほぼ同数であった。学童に通う小学生の利用減が大きく影響したと考えられる。 その他、新型コロナウイルス感染予防である外出及び公共交通機関の利用自粛も影響したと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市広報・HP・時刻表を活用した各種周知活動を継続する。 ・高齢者向けの利用促進活動。(免許返納高齢者への制度説明、高齢者向けの出前講座)を継続する。 ・乗合率など新たな視点から考察する。 	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、示された改善策と目標が達成されなかった理由との関連性が不明確であることから、目標が達成されなかった理由に対応した新たな具体策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切に検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
魚沼市地域公共交通協議会	奥只見タクシー(株)	小出まちなか循環線(順回り)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用促進月間を設け、利用者の新規開拓等に努めた。 ・各地区民生委員を通じて高齢者等への周知・啓発を行った。 ・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。 	A *計画通り、適切に実施された。	A 【達成状況】 輸送人員目標値比:110% 目標:1,240人→実績1,367人	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等に対して、利便性の周知を図るとともに移動方法等の認知度を高め、利用者の新規開拓を図る。 ・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
		小出まちなか循環線(逆回り)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用促進月間を設け、利用者の新規開拓等に努めた。 ・各地区民生委員を通じて高齢者等への周知・啓発を行った。 ・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。 	A *計画通り、適切に実施された。	A 【達成状況】 輸送人員目標値比:109% 目標:1,060人→実績1,154人	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等に対して、利便性の周知を図るとともに移動方法等の認知度を高め、利用者の新規開拓を図る。 ・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
魚沼市地域公共交通協議会	(株)小出タクシー	小出地域乗合タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・利用促進月間を設け、利用者の新規開拓等に努めた。 ・各地区民生委員を通じて高齢者等への周知・啓発を行った。 ・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。 	A	* 計画通り、適切に実施された。	A	<p>【達成状況】</p> <p>輸送人員目標値比: 103%</p> <p>目標: 8,260人→実績8,469人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等に対して、利便性の周知を図るとともに移動方法等の認知度を高め、利用者の新規開拓を図る。 ・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
		湯之谷地域乗合タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・利用促進月間を設け、利用者の新規開拓等に努めた。 ・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。 	A	* 計画通り、適切に実施された。	C	<p>【達成状況】</p> <p>輸送人員目標値比: 99%</p> <p>目標: 370人→実績365人</p> <p>【未達成の主な理由】</p> <p>新型コロナウイルス感染症による影響や、人口減少、高齢化等の進行による潜在的利用対象者の減</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等に対して、利便性の周知を図るとともに移動方法等の認知度を高め、利用者の新規開拓を図る。 ・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
魚沼市地域公共交通協議会	株小出タクシー	田中・清本・長松・米沢乗合タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・利用促進月間を設け、利用者の新規開拓等に努めた。 ・利用方法や運行形態等の説明など、地域の会合に出向いて出前講座を行った。 ・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。 	A	* 計画通り、適切に実施された。	A	<p>【達成状況】</p> 輸送人員目標値比:125% 目標:460人→実績:577人	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等に対して、利便性の周知を図るとともに移動方法等の認知度を高め、利用者の新規開拓を図る。 ・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
		三ツ又乗合タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・利用促進月間を設け、利用者の新規開拓等に努めた。 ・利用方法や運行形態等の説明など、地域の会合に出向いて出前講座を行った。 ・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。 	A	* 計画通り、適切に実施された。	C	<p>【達成状況】</p> 輸送人員目標値比:95% 目標:750人→実績:715人 <p>【未達成の主な理由】</p> 新型コロナウイルス感染症による影響や、人口減少、高齢化等の進行による潜在的利用対象者の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等に対して、利便性の周知を図るとともに移動方法等の認知度を高め、利用者の新規開拓を図る。 ・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
魚沼市地域公共交通協議会	ひかり交通(株)	上稲倉・魚野地乗合タクシー	・利用促進月間を設け、利用者の新規開拓等に努めた。 ・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。	A *計画通り、適切に実施された。	C 【達成状況】 輸送人員目標値比:87% 目標:3,620人→実績3,160人 【未達成の主な理由】 新型コロナウイルス感染症による影響や、人口減少、高齢化等の進行による潜在的利用対象者の減少。	・高齢者等に対して、利便性の周知を図るとともに移動方法等の認知度を高め、利用者の新規開拓を図る。 ・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
		新道島乗合タクシー	・利用促進月間を設け、利用者の新規開拓等に努めた。 ・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。	A *計画通り、適切に実施された。	A 【達成状況】 輸送人員目標値比:102% 目標:1,020人→実績:1,039人	・高齢者等に対して、利便性の周知を図るとともに移動方法等の認知度を高め、利用者の新規開拓を図る。 ・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
	奥只見タクシー(株)	滝之又乗合タクシー	・利用促進月間を設け、利用者の新規開拓等に努めた。 ・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。	A *計画通り、適切に実施された。	C 【達成状況】 輸送人員目標値比:88% 目標:1,290人→実績:1,135人 【未達成の主な理由】 新型コロナウイルス感染症による影響や、人口減少、高齢化等の進行による潜在的利用対象者の減少。	・高齢者等に対して、利便性の周知を図るとともに移動方法等の認知度を高め、利用者の新規開拓を図る。 ・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
魚沼市地域公共交通協議会	奥只見タクシー(株)	水沢・越又・泉沢乗合タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・利用促進月間を設け、利用者の新規開拓等に努めた。 ・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。 	A	*計画通り、適切に実施された。	C	<p>【達成状況】 輸送人員目標値比:90% 目標:930人→実績:839人 【未達成の主な理由】 新型コロナウイルス感染症による影響や、人口減少、高齢化等の進行による潜在的利用対象者の減</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等に対して、利便性の周知を図るとともに移動方法等の認知度を高め、利用者の新規開拓を図る。 ・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
	観光タクシー(株)	赤土乗合タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。 ・地元区長会を通じて、高齢者等への周知・啓発及び今後の運行形態の見直し、利用促進に向けた呼び掛けを行った。 	A	*計画通り、適切に実施された。	A	<p>【達成状況】 輸送人員目標値比:135% 目標:20人→実績:27人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。 ・利用実態の把握に努めるとともに、地元区長会等と協調しながら、高齢者等への利用促進、理解浸透を図っていく。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
			福山新田乗合タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。 ・地元区長会を通じて、高齢者等への周知・啓発及び今後の運行形態の見直し、利用促進に向けた呼び掛けを行った。 	A	*計画通り、適切に実施された。	C	<p>【達成状況】 輸送人員目標値比:69% 目標:1,240人→実績:856人 【未達成の主な理由】 学生の卒業や転勤など、通勤・通学における定期利用者の減</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。 ・利用実態の把握に努めるとともに、地元区長会等と協調しながら、高齢者等への利用促進、理解浸透を図っていく。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
魚沼市地域公共交通協議会	観光タクシー(株)	高倉乗合タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。 ・地元区長会を通じて、高齢者等への周知・啓発及び今後の運行形態の見直し、利用促進に向けた呼び掛けを行った。 	A	* 計画通り、適切に実施された。	C	<p>【達成状況】 輸送人員目標値比:86% 目標:1,540人→実績:1,331人</p> <p>【未達成の主な理由】 新型コロナウイルス感染症による影響や、人口減少、高齢化等の進行による潜在的利用対象者の減少</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。 ・利用実態の把握に努めるとともに、地元区長会等と協調しながら、高齢者等への利用促進、理解浸透を図っていく。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
		赤土・小出乗合タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・免許証自主返納者に対する利用促進に向けて、共通回数券の交付及び啓発物等の配布を行った。 ・地元区長会を通じて、高齢者等への周知・啓発及び今後の運行形態の見直し、利用促進に向けた呼び掛けを行った。 	A	* 計画通り、適切に実施された。	A	<p>【達成状況】 輸送人員目標値比:134% 目標:100人→実績:134人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・免許証自主返納者に対して、共通回数券の交付や啓発物等によって、引き続き利用を促す。 ・利用実態の把握に努めるとともに、地元区長会等と協調しながら、高齢者等への利用促進、理解浸透を図っていく。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
燕・弥彦地域公共交通会議	1.株式会社 燕タクシー	燕市デマンド交通 おでかけきらん号	<p>広報紙への掲載やパンフレットで周知を図った。また、予約受付時や窓口・電話での問い合わせ対応時において、比較的空いている時間帯での利用を案内し、予約の分散化を図った。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染対策として、車両の消毒や換気、利用者のマスク着用などを呼び掛けた。</p>	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A デマンド交通の1日平均利用者数が、目標の130人/日(年換算31,590人)に対し、実績が147.0人/日(年換算35,726人)と上回り、事業が計画に位置づけられた目標を達成できた。 新型コロナウイルスの感染拡大により利用者数が一時的に落ち込んでいたが、徐々に増えてきているが、コロナ禍前の利用状況には戻っていない状況が続いている。	<p>気象状況によっては予約を制限することも必要であり、これからも利用者の安全を第一に考えた運行を行っていく。</p> <p>また、利用時間帯の集中については、高齢者の通院利用が多いことが要因となっており、利用者数の増加に向け、今後も分散化を図る取組みを継続的に実施していく。</p> <p>引き続き、新型コロナウイルス感染対策として、車両の消毒や換気、利用者のマスク着用などを呼びかけしていく。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、さらなる実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>
	2.株式会社 中央タクシー						

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
燕・弥彦地域公共交通会議	3.中越交通株式会社						協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、さらなる実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
	4.まきタクシー有限公司	燕市デマンド交通おでかけきらん号	広報紙への掲載やパンフレットで周知を図った。また、予約受付時や窓口・電話での問い合わせ対応時において、比較的空いている時間帯での利用を案内し、予約の分散化を図った。 また、新型コロナウイルス感染症対策として、車両の消毒や換気、利用者のマスク着用などを呼び掛けた。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A デマンド交通の1日平均利用者数が、目標の130人/日(年換算31,590人)に対し、実績が147.0人/日(年換算35,726人)と上回り、事業が計画に位置付けられた目標を達成できた。 新型コロナウイルスの感染拡大により利用者数が一時的に落ち込んでいたが、徐々に増えてきているが、コロナ禍前の利用状況には戻っていない状況が続いている。	気象状況によっては予約を制限することも必要であり、これからも利用者の安全を第一に考えた運行を行っていく。 また、利用時間帯の集中については、高齢者の通院利用が多いことが要因となっており、利用者数の増加に向け、今後も分散化を図る取組みを継続的に実施していく。 引き続き、新型コロナウイルス感染症対策として、車両の消毒や換気、利用者のマスク着用などを呼びかけしていく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、さらなる実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
	5.地藏堂タクシー有限公司						協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、さらなる実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
燕・弥彦地域公共交通会議	6.弥彦タクシー株式会社	燕市デマンド交通おでかけきらん号	<p>広報紙への掲載やパンフレットで周知を図った。また、予約受付時や窓口・電話での問い合わせ対応時において、比較的空いている時間帯での利用を案内し、予約の分散化を図った。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症対策として、車両の消毒や換気、利用者のマスク着用などを呼び掛けた。</p>	A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	A	<p>デマンド交通の1日平均利用者数が、目標の130人/日(年換算31,590人)に対し、実績が147.0人/日(年換算35,726人)と上回り、事業が計画に位置づけられた目標を達成できた。</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大により利用者数が一時的に落ち込んでいたが、徐々に増えてきているが、コロナ禍前の利用状況には戻っていない状況が続いている。</p>	<p>気象状況によっては予約を制限することも必要であり、これからも利用者の安全を第一に考えた運行を行っていく。</p> <p>また、利用時間帯の集中については、高齢者の通院利用が多いことが要因となっており、利用者数の増加に向け、今後も分散化を図る取組みを継続的に実施していく。</p> <p>引き続き、新型コロナウイルス感染症対策として、車両の消毒や換気、利用者のマスク着用などを呼びかけていく。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、さらなる実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>
	7.越佐観光バス株式会社	弥彦・燕広域循環バスやひこ号	<p>広報紙への掲載など、利用促進のための啓発を行った。</p> <p>さらに、新型コロナウイルス感染症対策として、車両の消毒や換気、利用者のマスク着用などを呼び掛けた。</p>	A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	A	<p>広域循環バスの1日平均利用者数が、目標の55人/日(年換算19,520人)に対し、実績が63.5人/日(年換算15,441人)と上回り、事業が計画に位置づけられた目標を達成できた。</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大により利用者数が一時的に落ち込んでいたが、徐々に増えてきているが、コロナ禍前の利用状況には戻っていない状況が続いている。</p>	<p>より多くの方々に利用してもらえよう、今後も啓発等による利用促進を図り、利用者数の増加に努める。</p> <p>引き続き、新型コロナウイルス感染症対策として、車両の消毒や換気などを実施していく。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、さらなる実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
妙高市地域公共交通協議会	妙高市	杉野沢線C ・妙高高原駅～いもり池入口～杉野沢上 杉野沢線E ・杉野沢上～関川関所前～妙高病院前 杉野沢線F ・妙高高原駅～関川関所前～杉野沢上	・新たな取り組みを始めた体育施設と、リニューアルオープンした国の施設(ビクターセンター)に停留所を新設し、地域住民の外出機会の創出と、観光客の利便性向上を図り、利用促進に努めた。 ・引き続き、アルコール消毒液を車両内に設置し、手指の消毒をお願いするとともに定期的に車内の換気を行うことで新型コロナウイルス感染防止対策を図った。 ・市のラインメニューから公共交通のHPへアクセスできるようにするなど、よりタイムリーな情報提供に努めた。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適正に実施された。	A	●目標：直近年度(R2年度)の運賃収入水準(1,776千円)を維持する。 ●実績：1,983千円(達成) ●事業効果：路線維持により住民等の日常生活に必要な移動手段を確保 ●目標達成の要因：新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和されたことにより、利用者数が前年度よりも回復したため。	・経由地の見直しや、鉄道等との接続を考慮したダイヤ改正を行い、利便性の向上と利用促進を図る。 ・引き続き、市ホームページやSNSを活用しダイヤ改正などの周知を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
妙高市地域公共交通協議会	妙高市	関・燕温泉線 ・関山駅～大洞原～燕温泉	・地域住民だけでなく観光客も利用しやすいように、鉄道や観光路線である市営バス「妙高山麓線」との接続を考慮したダイヤを設定し、利用促進に努めた。 ・引き続き、アルコール消毒液を車両内に設置し、手指の消毒をお願いするとともに定期的に車内の換気を行うことで新型コロナウイルス感染防止対策を図った。 ・市のラインメニューから公共交通のHPへアクセスできるようにするなど、よりタイムリーな情報提供に努めた。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適正に実施された。	A	●目標：直近年度(R2年度)の運賃収入水準(1,230千円)を維持する。 ●実績：1,377千円(達成) ●事業効果：路線維持により住民等の日常生活に必要な移動手段を確保 ●目標達成の要因：新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和されたことにより、利用者数が前年度よりも回復したため。	・引き続き、鉄道や市営バス「妙高山麓線」との接続を考慮した時刻設定を行い利便性の向上を図る。 ・引き続き、市ホームページやSNSを活用しダイヤ改正などの周知を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
妙高市地域公共交通協議会	新井タクシー株式会社	関山ルート・妙高市新井地域及び関山地区、上越市中郷区	<p>・自社と市のホームページに乗合タクシーの情報を掲載し、広く周知することで、新規利用者の増加を図った。</p> <p>・関山地域から新井地域への高齢者の通院需要が多い時間帯を中心とした、利便の高い運行を継続し、利用維持に努めた。</p> <p>・引き続き、運転席と後部座席との間をビニールで仕切り、飛沫感染防止に努めるとともに、座席にビニールシートを設置し、新型コロナウイルス感染防止対策を図った。</p>	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適正に実施された。	C <ul style="list-style-type: none"> ●目標:直近年度(R2年度)の運賃収入水準を維持(445千円)する。 ●実績:269千円(未達成) ●事業効果:路線維持により住民等の日常生活に必要な移動手段を確保 ●目標未達成の分析:新型コロナウイルスの影響を受けて利用者の減少が続いている。また、中・高校生が減少しており、通学での利用が少なかった。 	引き続き、ホームページ等で情報発信を行うとともに、鉄道との接続を考慮したダイヤの見直しも含めて利用者の増加に努める。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸越越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
南魚沼市地域公共交通協議会	南越後観光バス株式会社	・城内コース(南魚沼市役所～野際・若宮様～福祉センターしらゆり)	<ul style="list-style-type: none"> ・車内で感染対策を実施していることをアピールするためのマグネットシートを市民バス車体に掲示した。 ・大雪のときでも利用者が市民バスを利用しやすいよう、交通結節点の除雪を実施した。 	A	計画通り適正に実施された。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数目標値比：90.2% ・目標 6,850人 ・実績 6,178人 ・新型コロナウイルス及び大雪(特に1月、2月)の影響による減少 ・福祉施設の利用が減少している。新たな利用者が増えていないことから市民バスの周知が進んでいないことが原因と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民バス車内で感染防止対策を実施しているアピールを行う。 ・大雪のときでも利用者が市民バスを利用しやすいよう、交通結節点の除雪を実施する。 ・引き続き、運行事業者と市で、利用者の利便性を高めるための方策を検討する。 ・市民バスの主な利用者である高齢者を対象としたバスの乗り方教室の開催を検討し、公共交通の周知を図る。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
		・五十沢・大月コース(清水瀬～中川新田～福祉センターしらゆり)	<ul style="list-style-type: none"> ・車内で感染対策を実施していることをアピールするためのマグネットシートを市民バス車体に掲示した。 ・大雪のときでも利用者が市民バスを利用しやすいよう、交通結節点の除雪を実施した。 ・市街地での滞在時間が長くとれるよう最終便の出発時刻を30分遅らせた。 ・地域から要望のあった「清水瀬」バス停を新設した。 	A	計画通り適正に実施された。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数目標値比：99.5% ・目標 2,810人 ・実績 2,797人 ・新型コロナウイルス及び大雪(特に1月)の影響による減少 ・新設した「清水瀬」での利用は増加しているが、それ以外に新たな利用者が増えていないことから市民バスの周知が進んでいないことが原因と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民バス車内で感染防止対策を実施しているアピールを行う。 ・大雪のときでも利用者が市民バスを利用しやすいよう、交通結節点の除雪を実施する。 ・引き続き、運行事業者と市で、利用者の利便性を高めるための方策を検討する。 ・市民バスの主な利用者である高齢者を対象としたバスの乗り方教室の開催を検討し、公共交通の周知を図る。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
南魚沼市地域公共交通協議会	銀嶺タクシー株式会社	・大巻・泉コース(泉新田・保育園バス停～庄之又～銀嶺タクシー前)	<ul style="list-style-type: none"> ・車内で感染対策を実施していることをアピールするためのマグネットシートを市民バス車体に掲示した。 ・大雪のときでも利用者が市民バスを利用しやすいよう、交通結節点の除雪を実施した。 ・地域住民と運行事業者への聞き取りから、利用者数が増加しないのは市民バスの周知が進んでいないことが大きな要因と思われたため、市民バスの周知を広めることを目的としたバスの乗り方教室の開催を検討した。しかし、沿線住民との調整がつかず実施しなかった。 ・高齢化して目立たなくなっているバス停が多くあったため改修した。 ・観光需要を取り込むため、観光拠点である「魚沼の里」を通る路線への見直しを検討したが、時刻表の調整がつかず実現できなかった。 	A 計画通り適正に実施された。	B <ul style="list-style-type: none"> 利用者数目標値比: 80.9% 目標 1,380人 実績 1,116人 ・新型コロナウイルス及び大雪(特に1月、2月)の影響による減少 ・特定の集落のバス停および病院の利用が減少している。新たな利用者が増えていないことから市民バスの周知が進んでいないことが原因と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民バス車内で感染防止対策を実施しているアピールを行う。 ・大雪のときでも利用者が市民バスを利用しやすいよう、交通結節点の除雪を実施する。 ・引き続き、運行事業者と市で、利用者の利便性を高めるための方策を検討する。 ・市民バスの主な利用者である高齢者を対象としたバスの乗り方教室の開催を検討し、公共交通の周知を図る。 ・引き続き「魚沼の里」を通る路線への見直しを検討する。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
		・上田・泉田コース(小松沢十字路～西泉田公民館～福祉センターしらゆり)	<ul style="list-style-type: none"> ・車内で感染対策を実施していることをアピールするためのマグネットシートを市民バス車体に掲示した。 ・大雪のときでも利用者が市民バスを利用しやすいよう、交通結節点の除雪を実施した。 ・主な利用者である高齢者を対象としたバスの乗り方教室を開催した。 ・高齢者の筋力づくり教室などの活動拠点である「上田農村環境改善センター」にバス停を新設した。 ・地域から要望のあった「早川公民館」バス停を新設した。 	A 計画通り適正に実施された。	A <ul style="list-style-type: none"> 利用者数目標値比: 100.4% 目標 1,970人 実績 1,977人 ・新設した「早川公民館」の利用や、特定の集落での新たな利用者の増加が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民バス車内で感染防止対策を実施しているアピールを行う。 ・大雪のときでも利用者が市民バスを利用しやすいよう、交通結節点の除雪を実施する。 ・引き続き、運行事業者と市で、利用者の利便性を高めるための方策を検討する。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
南魚沼市地域公共交通協議会	株式会社魚沼中央トランスポート	・石打・竹俣コース(五十嵐～塩沢庁舎～南魚沼市役所)	<ul style="list-style-type: none"> ・車内で感染対策を実施していることをアピールするためのマグネットシートを市民バス車体に掲示した。 ・大雪のときでも利用者が市民バスを利用しやすいよう、交通結節点の除雪を実施した。 ・地域から要望のあった「片田ふれあいセンター」バス停を新設した。 	A 計画通り適正に実施された。	B <ul style="list-style-type: none"> 利用者数目標値比: 85.4% 目標 2,500人 実績 2,136人 ・新型コロナウイルス及び大雪(特に1月、2月)の影響による減少 ・特定の集落のバス停および市役所の利用が減少している。新設した「片田ふれあいセンター」での利用は増加しているが、それ以外に新たな利用者が増えていないことから市民バスの周知が進んでいないことが原因と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民バス車内で感染防止対策を実施しているアピールを行う。 ・大雪のときでも利用者が市民バスを利用しやすいよう、交通結節点の除雪を実施する。 ・引き続き、運行事業者と市で、利用者の利便性を高めるための方策を検討する。 ・市民バスの主な利用者である高齢者を対象としたバスの乗り方教室の開催を検討し、公共交通の周知を図る。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
		・中之島・吉里コース(柄沢・来泉寺～塩沢庁舎～南魚沼市役所)	<ul style="list-style-type: none"> ・車内で感染対策を実施していることをアピールするためのマグネットシートを市民バス車体に掲示した。 ・大雪のときでも利用者が市民バスを利用しやすいよう、交通結節点の除雪を実施した。 ・地域からの要望を受け「論丸」バス停を集落の近くに移設した。 	A 計画通り適正に実施された。	A <ul style="list-style-type: none"> 利用者数目標値比: 100.0% 目標 3,020人 実績 3,021人 ・第3便の「市民病院」発、「六日町駅」着の間での利用が増加している。令和2年12月に新設した「六日町駅」バス停の周知が進んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民バス車内で感染防止対策を実施しているアピールを行う。 ・大雪のときでも利用者が市民バスを利用しやすいよう、交通結節点の除雪を実施する。 ・引き続き、運行事業者と市で、利用者の利便性を高めるための方策を検討する。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸越後運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
小千谷市地域公共交通協議会	越後交通株式会社	<p>循環バス 4便×2(内 外回り)=計8 便/日 ※土日祝日 及び8/13～ 16、12/29～ 1/3計6便/ 日</p> <p>地域間幹線 系統の他、 市内バス路 線の全てが 停車する本 町中央バス 停で接続し て運行</p>	<p>収支率向上のために利用促進 の取組みを実施 【事業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経常収支率18%以上 ・月間平均利用者数1,500人以 上 <p>【利用促進の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通マップ作成全戸配布 ・道の駅におけるポイントサービ ス ・循環バス利用促進記事の市広 報紙掲載 	A	<p>事業が計画に位置づけられ たとおり、適切に実施され た。</p>	C	<p>【事業実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経常収支率13%(目標未達成) ・月間平均利用者数1,145人(目標未達成) <p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和3年10月から令和4年3月までの月間平均利用者数は1,178人と目標に及ばない結果となった。4月以降も利用者数が昨年度同時期並みとなり、目標を達成できなかった。バス停別で見ると津山、信濃町、本町中央などで減少しており、通常利用されていた方が利用しなくなったなどの要因が考えられる。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、公共交通の利用は伸び悩んでいる現状はしばらく継続すると考えられる。引き続き、利用促進の取り組みの他、地域懇談会における住民説明、観光・商工会等との連携・協力により公共交通の利用促進に取り組む。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
長岡市地域公共交通協議会	秋葉タクシー(株)	栃尾地域(西谷地区ほか)デマンド型乗合タクシー	学生・障害者割引制度や回数券販売を引き続き実施した。すべての便に一定の利用者が見られており、運行内容に大きな見直しはなかった。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 目標値：400人/月 実績値：388人/月(達成度：97%) 昨年度値：337人/月 1月あたりの利用者400名以上という目標に対し、実績は1月あたりの利用者388名であり、目標を下回った。昨年度からは15%以上増加していることから、生活交通として地域住民に定着しつつあるが、新規利用者の増加が少ないことから、目標値までは達成できていないと考えられる。	学生・障害者割引制度や回数券販売を引き続き実施するとともに、新規利用者が増加するように、利用促進に努める。地域住民や交通事業者との意見交換の場を設け、利用しやすい運行に向けて検討する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
	寺泊交通(株)	和島地域デマンド型乗合タクシー	実証運行(R2.10~R3.9)において、予約時間帯及び運行便数を見直し、R3.10からの本格運行では利用効率を図ることができる運行内容とした。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 目標値：45人/月 実績値：47人/月 1月あたりの利用者45名以上という目標に対し、実績は1月あたりの利用者47名であり、目標を上回った。	R4.10からの和島地域、寺泊地域のエリア統合により、新たな移動が創出された。この統合を機会に、チラシの配布等により広く周知を行い、地域住民に生活交通として定着させ、利用促進を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
飯田市地域公共交通改善市民協議会	信南交通(株)	系統名:路線バス遠山郷線 運行区間:かぐらの湯~上町~飯田駅	広報紙や時刻表、例年より多くの出前講座の開催により、高齢者の公共交通に対する不安を和らげ安心して利用していただけるよう呼びかけ、利用の促進を図った。 市民会議部会にて路線の持続のための地域住民・PTA・事業者・行政にて意見交換を行った。 「公共交通の日」(運賃割引)を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 目標である1運行あたりの乗車人数6.9人に対し、6.3人となり、目標達成率は91%。コロナ禍の影響も継続されているが、沿線住民の人口減少、特に少子化により通学に利用する高校生の減少の影響が大きい。	市広報紙での周知および実地乗車体験も含めた出前講座を開催することにより、新たな利用者の開拓、確保に取り組む。 利用促進、路線の持続について意見交換や検討のための市民会議路線部会開催の時期の見直しを行う。引き続き車両の消毒と換気の徹底や乗車時のマスク着用や会話自粛のお願いなどコロナ感染拡大予防対策をとり、安全安心に利用いただけるようバス時刻表等を通じて広報していく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
飯田市地域公共交通改善市民協議会	信南交通(株) (R3.10~R4.3) 遠山タクシー(有)(R4.4~9)	系統名:路線バス平岡線 運行区間:和田~名古屋山~平岡	広報紙や時刻表、例年より多くの出前講座の開催により、高齢者の公共交通に対する不安を和らげ安心して利用していただけるよう呼びかけ、利用の促進を図った。 市民会議部会にて路線の持続のための地域住民・PTA・事業者・行政にて意見交換を行った。 「公共交通の日」(運賃割引)を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 目標である1運行あたりの乗車人数2.0人に対し、上半期1.4人・下半期1.6人で約1.5人となり、目標達成率は75%。沿線住民の人口減少、特に少子化により通学に利用する高校生の減少の影響が大きい。	市広報紙での周知および実地乗車体験も含めた出前講座を開催することにより、新たな利用者の開拓、確保に取り組む。 利用促進、路線の持続について意見交換や検討のための市民会議路線部会開催の時期の見直しを行う。引き続き車両の消毒と換気の徹底や乗車時のマスク着用や会話自粛のお願いなどコロナ感染拡大予防対策をとり、安全安心に利用いただけるようバス時刻表等を通じて広報していく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
飯田市地域公共交通改善市民協議会	信南交通(株)	系統名:路線バス阿島循環線 運行区間:飯田病院前～イオン～飯田病院前	広報紙や時刻表、例年より多くの出前講座の開催により、高齢者の公共交通に対する不安を和らげ安心して利用していただけるよう呼びかけ、利用の促進を図った。 市民会議部会にて路線の持続のための地域住民・事業者・行政等にて意見交換を行った。 「公共交通の日」(運賃割引)を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 目標である1運行あたりの乗車人数10.9人に対し、12.2人となり、目標達成率は112%。コロナ禍前の利用状況に回復しつつある。	市広報紙での周知および実地乗車体験も含めた出前講座を開催することにより、新たな利用者の開拓、確保に取り組む。 利用促進、路線の持続について意見交換や検討のための市民会議路線部会開催の時期の見直しを行う。 引き続き車両の消毒と換気の徹底や乗車時のマスク着用や会話自粛のお願いなどコロナ感染拡大予防対策をとり、安全安心に利用いただけるようバス時刻表等を通じて広報していく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、さらなる実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
飯田市地域公共交通改善市民協議会	信南交通(株)	系統名:路線バス阿島循環線(ほっ湯アップル経由) 運行区間:飯田病院前～ほっ湯アップル～飯田病院前	広報紙や時刻表、例年より多くの出前講座の開催により、高齢者の公共交通に対する不安を和らげ安心して利用していただけるよう呼びかけ、利用の促進を図った。 市民会議部会にて路線の持続のための地域住民・事業者・行政等にて意見交換を行った。 「公共交通の日」(運賃割引)を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 目標である1運行あたりの乗車人数7.0人に対し、8.3人となり、目標達成率は119%。コロナ禍前の利用状況に回復しつつある。	市広報紙での周知および実地乗車体験も含めた出前講座を開催することにより、新たな利用者の開拓、確保に取り組む。 利用促進、路線の持続について意見交換や検討のための市民会議路線部会開催の時期の見直しを行う。 引き続き車両の消毒と換気の徹底や乗車時のマスク着用や会話自粛のお願いなどコロナ感染拡大予防対策をとり、安全安心に利用いただけるようバス時刻表等を通じて広報していく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、さらなる実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
飯田市地域公共交通改善市民協議会	南信州広域タクシー(有)	系統名:市民バス千代線 運行区間:法全寺~市立病院~飯田駅前	広報紙や時刻表、例年より多くの出前講座の開催により、高齢者の公共交通に対する不安を和らげ安心して利用していただけるよう呼びかけ、利用の促進を図った。 市民会議部会にて路線の持続のための地域住民・事業者・行政等にて意見交換を行った。 「公共交通の日」(運賃割引)を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 目標である1運行あたりの乗車人数4.7人に対し、6.3人となり、目標達成率は134%。コロナ禍前の利用状況に回復しつつあり、また、沿線小学生の利用が定着化してきている。	市広報紙での周知および実地乗車体験も含めた出前講座を開催することにより、新たな利用者の開拓、確保に取り組む。 利用促進、路線の持続について意見交換や検討のための市民会議路線部会開催の時期の見直しを行う。引き続き車両の消毒と換気の徹底や乗車時のマスク着用や会話自粛のお願いなどコロナ感染拡大予防対策をとり、安全安心に利用いただけるようバス時刻表等を通じて広報していく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、さらなる実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
飯田市地域公共交通改善市民協議会	南信州広域タクシー(有)	系統名:市民バス久堅線 運行区間:平栗車庫~市立病院~飯田駅前	広報紙や時刻表、例年より多くの出前講座の開催により、高齢者の公共交通に対する不安を和らげ安心して利用していただけるよう呼びかけ、利用の促進を図った。 市民会議部会にて路線の持続のための地域住民・事業者・行政等にて意見交換を行った。 「公共交通の日」(運賃割引)を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 目標である1運行あたりの乗車人数4.6人に対し、4.5人となり、目標達成率は98%。コロナ禍の影響も継続されているが、沿線住民の人口減少、特に少子化により通学に利用する高校生の減少の影響が大きい。	市広報紙での周知および実地乗車体験も含めた出前講座を開催することにより、新たな利用者の開拓、確保に取り組む。 利用促進、路線の持続について意見交換や検討のための市民会議路線部会開催の時期の見直しを行う。引き続き車両の消毒と換気の徹底や乗車時のマスク着用や会話自粛のお願いなどコロナ感染拡大予防対策をとり、安全安心に利用いただけるようバス時刻表等を通じて広報していく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
飯田市地域公共交通改善市民協議会	南信州広域タクシー(有)	系統名:市民バス三穂線 運行区間:立石~市立病院~飯田駅前	広報紙や時刻表、例年より多くの出前講座の開催により、高齢者の公共交通に対する不安を和らげ安心して利用していただけるよう呼びかけ、利用の促進を図った。市民会議部会にて路線の持続のための地域住民・事業者・行政等にて意見交換を行った。「公共交通の日」(運賃割引)を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 目標である1運行あたりの乗車人数6.4人に対し、7.5人となり、目標達成率は117%。特に高校生において、コロナ禍前の利用状況に回復しつつある。	市広報紙での周知および実地乗車体験も含めた出前講座を開催することにより、新たな利用者の開拓、確保に取り組む。利用促進、路線の持続について意見交換や検討のための市民会議路線部会開催の時期の見直しを行う。引き続き車両の消毒と換気の徹底や乗車時のマスク着用や会話自粛のお願いなどコロナ感染拡大予防対策をとり、安全安心に利用いただけるようバス時刻表等を通じて広報していく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、さらなる実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
飯田市地域公共交通改善市民協議会	南信州広域タクシー(有)	系統名:乗合タクシー竜東線(千代) 運行区間:千代、龍江、竜丘、松尾	乗合タクシーの利用方法について、広報誌や時刻表、地域の会議などで例年より多くの出前講座による説明や実地乗車を行なうことにより、高齢者の乗合タクシー利用に対する不安を和らげ安心して利用していただけるよう働きかけ、利用の促進を図った。市民会議部会にて路線の持続のための地域住民・事業者・行政等にて意見交換を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 目標である1運行あたりの乗車人数2.3人に対し、2.0人となり、目標達成率は87%。新型コロナウイルス感染症による高齢者の外出控えが引き続いていること、固定客の減少の影響。	市広報紙での周知および実地乗車体験も含めた出前講座を開催することにより、新たな利用者の開拓、確保に取り組む。利用促進、路線の持続について意見交換や検討のための市民会議路線部会開催の時期の見直しを行う。引き続き車両の消毒と換気の徹底や乗車時のマスク着用や会話自粛のお願いなどコロナ感染拡大予防対策をとり、安全安心に利用いただけるようバス時刻表等を通じて広報していく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
飯田市地域公共交通改善市民協議会	南信州広域タクシー(有)、飯田タクシー	系統名:乗合タクシー竜東線(久堅) 運行区間:上久堅、下久堅、松尾	乗合タクシーの利用方法について、広報誌や時刻表、地域の会議などで例年より多くの出前講座による説明や実地乗車を行なうことにより、高齢者の乗合タクシー利用に対する不安を和らげ安心して利用していただけるよう働きかけ、利用の促進を図った。市民会議部会にて路線の持続のための地域住民・事業者・行政等にて意見交換を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 目標である1運行あたりの乗車人数2.0人に対し、1.9人となり、目標達成率は95%。新型コロナウイルス感染症による高齢者の外出控えが引き続いていること、固定客の減少の影響。	市広報紙での周知および実地乗車体験も含めた出前講座を開催することにより、新たな利用者の開拓、確保に取り組む。利用促進、路線の持続について意見交換や検討のための市民会議路線部会開催の時期の見直しを行う。引き続き車両の消毒と換気の徹底や乗車時のマスク着用や会話自粛のお願いなどコロナ感染拡大予防対策をとり、安全安心に利用いただけるようバス時刻表等を通じて広報していく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
飯田市地域公共交通改善市民協議会	南信州広域タクシー(有)	系統名:乗合タクシー遠山郷高校通学支援線 運行区間:飯田高校前~和田	広報紙等を使い、高校生利用の促進を図った。市民会議部会にて路線の持続のための地域住民・PTA・事業者・行政にて意見交換を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 目標である1運行あたりの乗車人数1.8人に対し、2.7人となり、目標達成率は150%。遠山郷地域高校生の通学の手段として浸透してきている。	市広報紙での周知だけでなく、地域にて中学3年生向けに広報する等、新たな利用者となりうる対象者や家庭へ呼びかけ、確保に取り組む。利用促進、路線の持続について意見交換や検討のための市民会議路線部会開催の時期の見直しを行う。引き続き車両の消毒と換気の徹底や乗車時のマスク着用や会話自粛のお願いなどコロナ感染拡大予防対策をとり、安全安心に利用いただけるようバス時刻表等を通じて広報していく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
飯田市地域公共交通改善市民協議会	朝日交通(株)	系統名:乗合タクシー三穂線 運行区間:三穂、山本、伊賀良	乗合タクシーの利用方法について、広報誌や時刻表、地域の会議などで例年より多くの出前講座による説明や実地乗車を行なうことにより、高齢者の乗合タクシー利用に対する不安を和らげ安心して利用していただけるよう働きかけ、利用の促進を図った。市民会議部会にて路線の持続のための地域住民・事業者・行政等にて意見交換を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 目標である1運行あたりの乗車人数2.9人に対し、1.8人となり、目標達成率は62%。新型コロナウイルス感染症による高齢者の外出控えが引き続いていること、固定客の減少の影響。	市広報紙での周知および実地乗車体験も含めた出前講座を開催することにより、新たな利用者の開拓、確保に取り組む。利用促進、路線の持続について意見交換や検討のための市民会議路線部会開催の時期の見直しを行う。引き続き車両の消毒と換気の徹底や乗車時のマスク着用や会話自粛のお願いなどコロナ感染拡大予防対策をとり、安全安心に利用いただけるようバス時刻表等を通じて広報していく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
飯田市地域公共交通改善市民協議会	遠山タクシー(有)	系統名:乗合タクシー平岡線 運行区間:南信濃地区、天龍村	乗合タクシーの利用方法について、広報誌や時刻表、地域の会議などで例年より多くの出前講座による説明や実地乗車を行なうことにより、高齢者の乗合タクシー利用に対する不安を和らげ安心して利用していただけるよう働きかけ、利用の促進を図った。市民会議部会にて路線の持続のための地域住民・事業者・行政等にて意見交換を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 目標である1運行あたりの乗車人数2.0人に対し、1.5人となり、目標達成率は75%。コロナ禍の影響も継続されているが、沿線住民の人口減少、特に少子化により通学に利用する高校生の減少、また、観光客・登山客の減少による影響が大きい。	市広報紙での周知および実地乗車体験も含めた出前講座を開催することにより、新たな利用者の開拓、確保に取り組む。利用促進、路線の持続について意見交換や検討のための市民会議路線部会開催の時期の見直しを行う。引き続き車両の消毒と換気の徹底や乗車時のマスク着用や会話自粛のお願いなどコロナ感染拡大予防対策をとり、安全安心に利用いただけるようバス時刻表等を通じて広報していく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
飯田市地域公共交通改善市民協議会	北部タクシー(有)、第一観光タクシー(株)	系統名:乗合タクシー上市田線 運行区間:高森町、座光寺、上郷	乗合タクシーの利用方法について、広報誌や時刻表、地域の会議などで例年より多くの出前講座による説明や実地乗車を行なうことにより、高齢者の乗合タクシー利用に対する不安を和らげ安心して利用していただけるよう働きかけ、利用の促進を図った。市民会議部会にて路線の持続のための地域住民・事業者・行政等にて意見交換を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 目標である1運行あたりの乗車人数2.0人に対し、1.9人となり、目標達成率は95%。新型コロナウイルス感染症による高齢者の外出控えが引き続いていることと、固定客の減少の影響。	市広報紙での周知および実地乗車体験も含めた出前講座を開催することにより、新たな利用者の開拓、確保に取り組む。 利用促進、路線の持続について意見交換や検討のための市民会議路線部会開催の時期の見直しを行う。引き続き車両の消毒と換気の徹底や乗車時のマスク着用や会話自粛のお願いなどコロナ感染拡大予防対策をとり、安全安心に利用いただけるようバス時刻表等を通じて広報していく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
上田市公共交通活性化協議会	上田バス株式会社	上田駅～信州上田医療センター 運行系統名: 信州上田 医療センター線	<ul style="list-style-type: none"> ・運賃低減バス事業継続実施 ・小学生対象としたバス乗り方教室を各学校に赴き実施。 ・夏休み、市内小学生を対象にキッズバスなる無料乗車券を配布し利用の促進を図る。今年より紙製QRカードによるキッズバスも配布し好評を得る。 各路線結果は以下の通り 医療センター線 18人 塩田線 6人 循環線 34人 久保林線 9人	A	C	<ul style="list-style-type: none"> ・キロ当たり運行コストは目標値467円に対し、473.91円昨年度よりは改善したが目標を達成できなかった。 ・経常収支率は50%以上にし、46.93%であり昨年度より改善したが目標には及ばなかった。 ・乗車人員は目標値37,960人対し、35,518人と目標には達しなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・QR決済機全車に装備完了し、フィーダー系統路線でも決済がはじまった。 ・新型コロナウイルス感染症ワクチンの浸透もあり乗車人員、運送収入共に昨年度を上回る結果となった。とは言え、経常収支率のとおりに100%を大きく下回り民間経営では到底成り立たない状態は否めない。 ・今後はシーズンごとの観光客の取り込みが課題。観光協会、旅館組合等と連携し、夏季合宿の誘致、スキースクール、スキー合宿の誘致等を図り利用促進につなげていく。 	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
上田市公共交通活性化協議会	上田バス株式会社	上田駅～別所温泉 運行系統名：塩田線	<ul style="list-style-type: none"> ・運賃低減バス事業継続実施 ・小学生対象としたバス乗り方教室を各学校に赴き実施。 ・夏休み、市内小学生を対象にキッズバスなる無料乗車券を配布し利用の促進を図る。今年より紙製QRカードによるキッズバスも配布し好評を得る。 各路線結果は以下の通り 医療センター線 18人 塩田線 6人 循環線 34人 久保林線 9人	A	C	<ul style="list-style-type: none"> ・キロ当たり運行コストは目標値467円に対し、473.91円昨年度よりは改善したが目標を達成できなかった。 ・経常収支率は15%以上に対し、9.36%であり昨年度より改善したが目標には及ばなかった。 ・乗車人員は目標値12,775人に対し、12,321人と目標には達しなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・QR決済機全車に装備完了し、フィーダー系統路線でも決済がはじまった。 ・新型コロナウイルス感染症ワクチンの浸透もあり乗車人員、運送収入共に昨年度を上回る結果となった。とは言え、経常収支率のとおり100%を大きく下回り民間経営では到底成り立たない状態は否めない。 ・今後はシーズンごとの観光客の取り込みが課題。観光協会、旅館組合等と連携し、夏季合宿の誘致、スキースクール、スキー合宿の誘致等を図り利用促進につなげていく。 	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
上田市公共交通活性化協議会	上田バス株式会社	上田駅～染谷丘高校～上田駅 運行系統名：市街地循環バス (青バス 東回り)	<ul style="list-style-type: none"> ・運賃低減バス事業継続実施 ・小学生対象としたバス乗り方教室を各学校に赴き実施。 ・夏休み、市内小学生を対象にキッズバスなる無料乗車券を配布し利用の促進を図る。今年より紙製QRカードによるキッズバスも配布し好評を得る。 各路線結果は以下の通り 医療センター線 18人 塩田線 6人 循環線 34人 久保林線 9人	A	C	<ul style="list-style-type: none"> ・キロ当たり運行コストは目標値467円に対し、473.91円昨年度よりは改善したが目標を達成できなかった。 ・経常収支率は15%以上に対し、10.98%であり昨年度より改善したが目標には及ばなかった。 ・乗車人員は目標値18,980人に対し、12,125人と目標には達しなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・QR決済機全車に装備完了し、フィーダー系統路線でも決済がはじまった。 ・新型コロナウイルスワクチンの浸透もあり乗車人員、運送収入共に昨年度を上回る結果となった。とは言え、経常収支率のとおり100%を大きく下回り民間経営では到底成り立たない状態は否めない。 ・今後はシーズンごとの観光客の取り込みが課題。観光協会、旅館組合等と連携し、夏季合宿の誘致、スキースクール、スキー合宿の誘致等を図り利用促進につなげていく。 	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
上田市公共交通活性化協議会	上田バス株式会社	上田駅～西上田駅～上田駅 運行系統名：市街地循環バス (青バス 西回り)	<ul style="list-style-type: none"> ・運賃低減バス事業継続実施 ・小学生対象としたバス乗り方教室を各学校に赴き実施。 ・夏休み、市内小学生を対象にキッズバスなる無料乗車券を配布し利用の促進を図る。今年より紙製QRカードによるキッズバスも配布し好評を得る。 各路線結果は以下の通り 医療センター線 18人 塩田線 6人 循環線 34人 久保林線 9人	A	C	<ul style="list-style-type: none"> ・キロ当たり運行コストは目標値467円に対し、473.91円 昨年度よりは改善したが目標を達成できなかった。 ・経常収支率は15%以上に対し、10.98%であり昨年度より改善したが目標には及ばなかった。 ・乗車人員は目標値18,980人に対し、12,125人と目標には達しなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・QR決済機全車に装備完了し、フィーダー系統路線でも決済がはじまった。 ・新型コロナウイルスワクチンの浸透もあり乗車人員、運送収入共に昨年度を上回る結果となった。とは言え、経常収支率のとおり100%を大きく下回り民間経営では到底成り立たない状態は否めない。 ・今後はシーズンごとの観光客の取り込みが課題。観光協会、旅館組合等と連携し、夏季合宿の誘致、スキースクール、スキー合宿の誘致等を図り利用促進につなげていく。 	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
上田市公共交通活性化協議会	上田バス株式会社	上田駅～西上田駅～上田駅 運行系統名：市街地循環バス (赤バス 西回り)	<ul style="list-style-type: none"> ・運賃低減バス事業継続実施 ・小学生対象としたバス乗り方教室を各学校に赴き実施。 ・夏休み、市内小学生を対象にキッズバスなる無料乗車券を配布し利用の促進を図る。今年より紙製QRカードによるキッズバスも配布し好評を得る。 各路線結果は以下の通り 医療センター線 18人 塩田線 6人 循環線 34人 久保林線 9人	A	C	<ul style="list-style-type: none"> ・QR決済機全車に装備完了し、フィーダー系統路線でも決済がはじまった。 ・新型コロナウイルスワクチンの浸透もあり乗車人員、運送収入共に昨年度を上回る結果となった。とは言え、経常収支率のとおり100%を大きく下回り民間経営では到底成り立たない状態は否めない。 ・今後はシーズンごとの観光客の取り込みが課題。観光協会、旅館組合等と連携し、夏季合宿の誘致、スキースクール、スキー合宿の誘致等を図り利用促進につなげていく。 	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果										
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果										
上田市公共交通活性化協議会	上田バス株式会社	<p>上田駅～染谷丘高校～上田駅</p> <p>運行系統名：市街地循環バス (赤バス 東回り)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運賃低減バス事業継続実施 ・小学生対象としたバス乗り方教室を各学校に赴き実施。 ・夏休み、市内小学生を対象にキッズバスなる無料乗車券を配布し利用の促進を図る。今年より紙製QRカードによるキッズバスも配布し好評を得る。 <p>各路線結果は以下の通り</p> <table border="1"> <tr> <td>医療センター線</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>塩田線</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>循環線</td> <td>34人</td> </tr> <tr> <td>久保林線</td> <td>9人</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスシーズンに合わせ、バス利用者にもれなく粗品の進呈を行う。 ・コロナ感染拡大防止策として、乗車口に手指消毒用アルコールを設置。 ・QR決済機全車に装備完了し、フィーダー系統路線でも決済開始。新型コロナウイルスワクチンの浸透もあり乗車人員、運送収入共に昨年度を上回る結果となった。 ・QRチケット購入者、定期券購入者への粗品進呈。 	医療センター線	18人	塩田線	6人	循環線	34人	久保林線	9人	A	<p>計画に位置された事業は、適切に実施された。</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> ・キロ当たり運行コストは目標値467円に対し、473.91円昨年度よりは改善したが目標を達成できなかった。 ・経常収支率は15%以上に対し、9.74%であり昨年度より改善したが目標には及ばなかった。 ・乗車人員は目標値11,315人に対し、8,933人と目標には達しなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・QR決済機全車に装備完了し、フィーダー系統路線でも決済がはじまった。 ・新型コロナウイルスワクチンの浸透もあり乗車人員、運送収入共に昨年度を上回る結果となった。とは言え、経常収支率のとおり100%を大きく下回り民間経営では到底成り立たない状態は否めない。 ・今後はシーズンごとの観光客の取り込みが課題。観光協会、旅館組合等と連携し、夏季合宿の誘致、スキースクール、スキー合宿の誘致等を図り利用促進につなげていく。 	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>
医療センター線	18人																
塩田線	6人																
循環線	34人																
久保林線	9人																

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
上田市公共交通活性化協議会	上田バス株式会社	上田駅～イオン上田ショッピングセンター前～久保林公民館前 運行系統名：久保林線	<ul style="list-style-type: none"> ・運賃低減バス事業継続実施 ・小学生対象としたバス乗り方教室を各学校に赴き実施。 ・夏休み、市内小学生を対象にキッズバスなる無料乗車券を配布し利用の促進を図る。今年より紙製QRカードによるキッズバスも配布し好評を得る。 各路線結果は以下の通り 医療センター線 18人 塩田線 6人 循環線 34人 久保林線 9人	A	C	<ul style="list-style-type: none"> ・キロ当たり運行コストは目標値467円に対し、473.91円 昨年度よりは改善したが目標を達成できなかった。 ・経常収支率は15%以上に対し、7.55%であり昨年度より改善したが目標には及ばなかった。 ・乗車人員は目標値3,780人に対し、2,416人と目標には達しなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・QR決済機全車に装備完了し、フィーダー系統路線でも決済がはじまった。 ・新型コロナウイルス感染症ワクチンの浸透もあり乗車人員、運送収入共に昨年度を上回る結果となった。とは言え、経常収支率のとおり100%を大きく下回り民間経営では到底成り立たない状態は否めない。 ・今後はシーズンごとの観光客の取り込みが課題。観光協会、旅館組合等と連携し、夏季合宿の誘致、スキースクール、スキー合宿の誘致等を図り利用促進につなげていく。 	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
上田市公共交通活性化協議会	千曲バス株式会社	室賀線 下秋和～小泉 ～上室賀	<ul style="list-style-type: none"> ・運賃低減バス事業継続実施。 ・夏休み、市内小学生を対象にキッズバス事業を実施。今年より紙製のQRカードによるキッズバスも配布し好評。 ・高校入学を控えた中学3年生に対し通学のための公共交通利用促進チラシの配布を実施。 ・新しい生活様式の即した車内設備の充実として光触媒コーティングによる抗菌施工を継続。 ・燃料費削減の為に、乗務員に対しアイドリングストップの通達や掲示をし、燃料費削減及び環境に対する意識を促した。 ・QR決済機全車に装備完了し、フィーダー系統路線でも決済開始。 	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B <ul style="list-style-type: none"> ・運行コストは416円以内に対し542円13銭で目標を達成できなかった。 ・収支率についても目標27%以上に対し25.12%となり目標を達成できなかった。 ・乗車人数25,286人以上に対して28,812人となり目標を達成できた。 ・原因としては、運行コストについては車内の感染予防対策費がかかることと、燃料の高騰が顕著であることが考えられる。 ・また、収支率については、経常収入は増加したが、上記の理由により経常費用の増加が大きかったためと考えられる。コロナの影響が回復傾向にあるため利用者が増加傾向にあったと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運行コストについては目標を達成できなかった。近年稀にみる燃料費の高騰が続いており、また、感染予防対策費についても、お客様の安心・安全の為に削減は出来ない。 ・燃料費の経費を削減するためアイドリングストップなどを努めて行き、感染予防は継続する。 ・また、利用者を増やすための利便性の向上については、今後も啓発活動を実施することにより利用実態を注視し、利用者の声を反映させたダイヤの策定を継続して行く。 ・併せて新しい生活様式に即した車内設備を充実させ安心・安全に利用してもらえるように継続して努める。 ・さらに、市と連携した地域の取組として、普段公共交通を利用しない方に向けた講座等を実施し、公共交通の重要性や需要の掘起しを図る。 	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
上田市公共交通活性化協議会	千曲バス株式会社	室賀線 上田新田～小泉～上室賀	<ul style="list-style-type: none"> ・運賃低減バス事業継続実施。 ・夏休み、市内小学生を対象にキッズバス事業を実施。今年より紙製のQRカードによるキッズバスも配布し好評。 ・高校入学を控えた中学3年生に対し通学のための公共交通利用促進チラシの配布を実施。 ・新しい生活様式の即した車内設備の充実として光触媒コーティングによる抗菌施工を継続。 ・燃料費削減の為に、乗務員に対しアイドリングストップの通達や掲示をし、燃料費削減及び環境に対する意識を促した。 ・QR決済機全車に装備完了し、フィーダー系統路線でも決済開始。 	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B <ul style="list-style-type: none"> ・運行コストは416円以内に対し542円13銭で目標を達成できなかった。 ・収支率についても目標27%以上に対し25.12%となり目標を達成できなかった。 ・乗車人数25,286人以上に対して28,812人となり目標を達成できた。 ・原因としては、運行コストについては車内の感染予防対策費がかかることと、燃料の高騰が顕著であることが考えられる。 ・また、収支率については、経常収入は増加したが、上記の理由により経常費用の増加が大きかったためと考えられる。コロナの影響が回復傾向にあるため利用者が増加傾向にあったと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運行コストについては目標を達成できなかった。近年稀にみる燃料費の高騰が続いており、また、感染予防対策費についても、お客様の安心・安全の為に削減は出来ない。 ・燃料費の経費を削減するためアイドリングストップなどを努めて行き、感染予防は継続する。 ・また、利用者を増やすための利便性の向上については、今後も啓発活動を実施することにより利用実態を注視し、利用者の声を反映させたダイヤの策定を継続して行く。 ・併せて新しい生活様式に即した車内設備を充実させ安心・安全に利用してもらえるように継続して努める。 ・さらに、市と連携した地域の取組として、普段公共交通を利用しない方に向けた講座等を実施し、公共交通の重要性や需要の掘起しを図る。 	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
松川町地域公共交通対策協議会	伊那バス(株)	大島循環(午前2便) 伊那大島駅~キラヤ前・大島循環(午前3便)(午後便)	高齢者の通院・買い物利用がメインの路線であるが、コロナ禍による外出控えが続いており利用状況が低迷している。利用者の声を反映して、回数券の車内販売を実施する等、利用促進策は展開している。	A 事業は計画どおり適切に実施された。	C R4事業年度における輸送人員は1,573人(対前年比▲206人)となり、目標値4,000人を大きく下回る結果となった。コロナ禍も踏まえ目標設定の見直しが必要。	左記の利用状況やR3実施の高齢者移動実態調査の結果を踏まえると抜本的な改善が必要と考える。本件定時路線はR5.3末をもって廃止し、R5.4よりデマンド交通に切り替える。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
松川町地域公共交通対策協議会	伊那バス(株)	・上片桐循環(午前1便) 役場前~ ・上片桐循環(午前2便)(午後1・2便)	高齢者の通院・買い物利用がメインの路線であるが、コロナ禍による外出控えが続いており利用状況が低迷している。利用者の声を反映して、回数券の車内販売を実施する等、利用促進策は展開している。	A 事業は計画どおり適切に実施された。	C R4事業年度における輸送人員は2,289人(対前年比+109人)となり、目標値4,500人を大きく下回る結果となった。コロナ禍も踏まえ目標設定の見直しが必要。	左記の利用状況やR3実施の高齢者移動実態調査の結果を踏まえると抜本的な改善が必要と考える。本件定時路線はR5.3末をもって廃止し、R5.4よりデマンド交通に切り替える。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
松川町地域公共交通対策協議会	伊那バス(株)	・大島・上片桐通学便 役場前～伊那大島駅	全町的な子育て支援策の一環として令和2年10月以降、小中学生の通学定期券無料化を実施している。コロナによる学級閉鎖等の影響により単年度比較では利用者数減少であるもの一定数の利用を確保した。	A 事業は計画どおり適切に実施された。	A R4事業年度における輸送人員は8,511人(対前年比▲465人)となり、目標値5,000人を大きく上回る結果となった。小中学生の通学定期券無料化を踏まえ目標設定の見直しが必要。	小中学生の通学定期券無料化により今後も輸送人員は堅調に推移すると見込んでおり、現状の定時路線を維持する。また、新入学生の家庭向けにバスの利用案内を行い、利用促進を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
松川町地域公共交通対策協議会	丸茂自動車(有)	・生田循環峠部奈線(午前1便) 社協前～キラヤ前 ・生田循環峠部奈線(午前2便)	高齢者の通院・買い物利用がメインの路線であるが、コロナ禍による外出控えが続いており利用状況が低迷している。実証運行中のデマンドタクシー状況も踏まえながら、現在運行改善案の検討を行っている。	A 事業は計画どおり適切に実施された。	C R4事業年度における輸送人員は703人(対前年比▲125人)となり、目標値2,500人を大きく下回る結果となった。コロナ禍も踏まえ目標設定の見直しが必要。	左記の利用状況やR3実施の高齢者移動実態調査の結果を踏まえると抜本的な改善が必要と考える。本件定時路線はR5.3末をもって廃止し、R5.4よりデマンド交通に切り替える。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
松川町地域公共交通対策協議会	丸茂自動車(有)	・生田循環中山柄山線(午前1便) 社協前～キラヤ前 ・生田循環中山柄山線(午前2便)	高齢者の通院・買い物利用がメインの路線であるが、コロナ禍による外出控えが続いており利用状況が低迷している。実証運行中のデマンドタクシー状況も踏まえながら、現在運行改善案の検討を行っている。	A 事業は計画どおり適切に実施された。	C R4事業年度における輸送人員は457人(対前年比▲227人)となり、目標値2,000人を大きく下回る結果となった。コロナ禍も踏まえ目標設定の見直しが必要。	左記の利用状況やR3実施の高齢者移動実態調査の結果を踏まえると抜本的な改善が必要と考える。本件定時路線はR5.3末をもって廃止し、R5.4よりデマンド交通に切り替える。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
伊那市地域公共交通協議会	事業者名 ・伊那バス(株) 運行系統名 ・若宮・美原線	アピタ伊那～美原5～アピタ伊那	<p>【前回の事業評価結果】</p> <p>〈1〉高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する。 〈2〉バス育の市内保育園への横展開を計画する。 〈3〉バス利用者アンケート等を実施し、運行内容の見直しや、地域にあった公共交通のあり方について検討を進める。 〈4〉利用促進の取組を継続する。</p> <p>【反映状況】</p> <p>〈1〉高齢者教室、地域の会合などで公共交通の利用説明を行った。 〈2〉対面型のイベントであるバス育の実施は新型コロナウイルスの感染状況を鑑み見送った。 〈3〉住民要望を踏まえ、R4、8月から乗合タクシーの対象外である市街地居住者に対する一般タクシー利用時の運賃助成制度を市において試行している。 〈4〉運転免許証自主返納者に係る運賃割引制度を継続的に実施、新たなタクシー運賃補助のPRIにより乗り合いタクシー利用者からの返納も増加した。</p>	B 事業が計画に位置付けられたとおりに実施されていない点があった。	A ・R4年度目標4.86人/1運行(=1往復)に対して、R3年10月～R4年9月の実績は、5.24人/1運行であり達成	<p>・既存路線バスの減便や循環バスの廃線となった路線の代わりに乗り合いタクシーの利用が好調だが、運行日や運行時間に制限があり、既存の路線バスや一般タクシー等公共交通サービスを組み合わせて利用する必要がある。市報やHP等を活用した広報に加え、高齢者教室等での説明、情報発信や市内保育園児へのバス育による利用促進対策を実施する。</p> <p>・運行車両に乗り込み、利用者状況の聞き取り調査等を実施し、運行内容の見直しや、地域にあった公共交通のあり方についての検討を進める。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
伊那市地域公共交通協議会	事業者名 ・ジェイアールバス関東(株) 運行系統名 ・茅野・藤沢線	高遠駅～松倉～古屋敷	<p>【前回の事業評価結果】</p> <p>〈1〉高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する。</p> <p>〈2〉バス育の市内保育園への横展開を計画する。</p> <p>〈3〉バス利用者アンケート等を実施し、運行内容の見直しや、地域にあった公共交通のあり方について検討を進める。</p> <p>〈4〉利用促進の取組を継続する。</p> <p>【反映状況】</p> <p>〈1〉高齢者教室、地域の会合などで公共交通の利用説明を行った。</p> <p>〈2〉対面型のイベントであるバス育の実施は新型コロナウイルスの感染状況を鑑み見送った。</p> <p>〈3〉住民要望を踏まえ、R4、8月から乗合タクシーの対象外である市街地居住者に対する一般タクシー利用時の運賃助成制度を市において試行している。</p> <p>〈4〉運転免許証自主返納者に係る運賃割引制度を継続的に実施、新たなタクシー運賃補助のPRにより乗り合いタクシー利用者からの返納も増加した。</p>	B 事業が計画に位置付けられたとおりに実施されていない点があった。	A ・R4年度目標3.15人/1運行(=1往復)に対して、R3年10月～R4年9月の実績は、6.31人/1運行であり達成	<p>・既存路線バスの減便や循環バスの廃線となった路線の代わりに乗り合いタクシーの利用が好調だが、運行日や運行時間に制限があり、既存の路線バスや一般タクシー等公共交通サービスを組み合わせる必要がある。市報やHP等を活用した広報に加え、高齢者教室等での説明、情報発信や市内保育園児へのバス育による利用促進策を実施する。</p> <p>・運行車両に乗り込み、利用者状況の聞き取り調査等を実施し、運行内容の見直しや、地域にあった公共交通のあり方についての検討を進める。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
伊那市地域公共交通協議会	事業者名 ・ジェイアールバス関東(株) 運行系統名 ・長谷循環	高遠駅～非持～杉島公民館・ざんざ亭前	<p>【前回の事業評価結果】</p> <p>〈1〉高齢者教室等での説明(情報発信)による利用促進策を実施する。</p> <p>〈2〉バス育の市内保育園への横展開を計画する。</p> <p>〈3〉バス利用者アンケート等を実施し、運行内容の見直しや、地域にあった公共交通のあり方について検討を進める。</p> <p>〈4〉利用促進の取組を継続する。</p> <p>【反映状況】</p> <p>〈1〉高齢者教室、地域の会合などで公共交通の利用説明を行った。</p> <p>〈2〉対面型のイベントであるバス育の実施は新型コロナウイルスの感染状況を鑑み見送った。</p> <p>〈3〉住民要望を踏まえ、R4、8月から乗合タクシーの対象外である市街地居住者に対する一般タクシー利用時の運賃助成制度を市において試行している。</p> <p>〈4〉運転免許証自主返納者に係る運賃割引制度を継続的に実施、新たなタクシー運賃補助のPRにより乗り合いタクシー利用者からの返納も増加した。</p>	B 事業が計画に位置付けられたとおりに実施されていない点があった。	A ・R4年度目標3.98人/1運行(=1往復)に対して、R3年10月～R4年9月の実績は5.22で達成	<p>・既存路線バスの減便や循環バスの廃線となった路線の代わりに乗り合いタクシーの利用が好調だが、運行日や運行時間に制限があり、既存の路線バスや一般タクシー等公共交通サービスを組み合わせる必要がある。市報やHP等を活用した広報に加え、高齢者教室等での説明、情報発信や市内保育園児へのバス育による利用促進策を実施する。</p> <p>・運行車両に乗り込み、利用者状況の聞き取り調査等を実施し、運行内容の見直しや、地域にあった公共交通のあり方についての検討を進める。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
長野市公共交通活性化・再生協議会	長野市	中条線 中条支所～ 中条地区～ 中条支所	支所、地区役員等に利用状況等を説明するとともに、案内チラシの配布などの利用促進を依頼した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	C 令和6年度まで2,000人以上確保する目標に対し、令和4年度実績は1,413人であった。達成できなかった理由として、新型コロナウイルス感染拡大が収束していないことや、当該地区の人口がこの5年間で17%減少したことによる路線沿線人口の減少の影響が考えられる。	地区人口の減少に対しては、地域公共交通計画に基づき利用実態データ等見直し基準となるデータを整理し、地域住民と情報を共有し、適切な運行方法、運行経路、運行便数(時間帯)を地域住民と検討する。新型コロナウイルス感染症への対応は、引き続き感染拡大防止に尽力する。また、利用者を増加させ目標値を達成できるように、地区役員等と連携しながら利用促進を図る。	協議会における事業評価結果の④及び⑤については自己評価のとおりである。なお、③の前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況については、前年度の事業評価結果(⑥の事業の今後の改善点や地方運輸局等における二次評価結果など)の反映が十分ではないと考えられることから、これらの記載を踏まえた改善を行っていくことが必要である。その上で、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
長野市公共交通活性化・再生協議会	アルピコタクシー株式会社	篠ノ井共和線 川中島駅～Aコープ・篠ノ井店～篠ノ井病院前	利用状況の改善に向けて運行時刻を見直す方向で検討を進めている。また、支所、地区役員等に利用状況等を説明するとともに、案内チラシの配布などの利用促進を依頼した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	C 令和6年度まで1,700人以上確保する目標に対し、令和4年度実績は1,323人であった。当該地区の人口がこの5年間で6%減少したことによる路線沿線人口が減少したこと、利用者属性が変化することが考えられる。	地域公共交通計画に基づき利用実態データ等見直し基準となるデータを整理した後、地域住民とデータを共有し、適切な運行方法、目的施設の利用時間帯を確認し、運行ダイヤ等を地域住民と検討する。新型コロナウイルス感染症への対応は、引き続き感染拡大防止に尽力する。また、利用者を増加させ目標値を達成できるように、地区役員等と連携しながら利用促進を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
長野市公共交通活性化・再生協議会	アルピコタクシー株式会社	安茂里線 安茂里駅～ 安茂里支所～ 長野ターミナル	支所、地区役員等に利用状況等を説明するとともに、案内チラシの配布などの利用促進を依頼した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	C 令和6年度まで3,800人以上確保する目標に対し、令和4年度実績は3,275人であった。当該地区の人口がこの5年間で5%減少したことによる路線沿線人口が減少したこと、利用者属性が変化することが考えられる。	地域公共交通計画に基づき利用実態データ等見直し基準となるデータを整理した後、地域住民とデータを共有し、適切な運行方法、目的施設の利用時間帯を確認し、運行ダイヤ等を地域住民と検討する。新型コロナウイルス感染症への対応は、引き続き感染拡大防止に尽力する。また、利用者を増加させ目標値を達成できるように、地区役員等と連携しながら利用促進を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
安曇野市地域公共交通協議会	南安タクシー(有) 安曇観光タクシー(株) あづみの第一交通(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド交通「あづみん」区域型運行。 ・地域間幹線系統路線に接続する7系統を運行。 ・車両減価償却費国庫補助金(南安タクシー(有)2台)を受給。 	<p>既存デマンド交通の課題を改善しサービス拡充を図るため、令和3事業年度から継続して待ち時間の見える化、予約断り件数の改善、区域をまたぐ場合の運行改善、休日(土曜日)の運行導入の検討を行った。</p> <p>改善に向けた方策の一つとして新たに導入する予約管理システムを決定し、令和4年11月からの実装に向け、運行事業者及び運行管理者との協議、調整を行った。</p> <p>長期化しているコロナ禍での移動に対応するため、長野県が発令する松本圏域における感染警戒レベルに応じて乗車人数の制限を行ったり、車内での感染防止対策を継続して実施した。</p>	A 当初の計画通り事業を実施することができた。	B 年間目標利用者数を81,990人に設定していたが、R4事業年度の実績は、年間利用者数79,626人、日平均利用者数は327.6人であり、目標達成には至らなかった。	<p>令和4年11月から、予約管理システムの更新に合わせ新運行を開始した。</p> <p>新運行の具体的な内容として、①乗車・降車時刻の明確化、②予約方法の充実(アプリ予約導入)、③土曜日の実証運行、④運行エリアの改善を実施している。</p> <p>(①②は予約管理システム更新に伴う実装事業)</p> <p>上記の運行改善を行うことで既存利用者に加え新たな利用者を獲得することで、本市における持続可能な地域公共交通としてデマンドを維持していくことが求められる。</p> <p>また、引き続きコロナ禍に対応した運行を継続し、安心して利用することができる地域公共交通として維持していく。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
信濃町地域公共交通協議会	長電バス(株)	(路線名)熊坂・野尻線 (運行区間)熊坂～信濃小中学校	<p>「利用者数の増加」、「利用者ひとりあたりの財政負担の抑制」を目標として事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運行回数の維持、利便性の確保に努めた。 ・乗降データや利用者アンケートを実施しニーズ把握に努めた。 ・広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを行った。 ・コロナ感染防止のためバス等の感染防止策の徹底(換気や消毒)を継続、利用者のマスク着用の徹底を行い、安心・安全な利用環境整備に努めた。 	A	<p>計画どおり事業は適切に実施された。</p>	<p>C</p> <p>1. 目標 ・路線バスの一般利用者数目標値 6,803人/年 デマンドタクシー(ふれあいコスモス号)の利用者数目標値 13,600人/年 ・利用者ひとりあたり財政負担の抑制</p> <p>2. 目標・効果達成状況 ・利用者数の増加 路線バス利用:6,404人(前年6,446人)、デマンドタクシー:9,333人(前年8,903人)と路線バス利用者が0.7%減少、デマンドタクシーの利用者が4.8%増加している。 ・財政負担の抑制 財政負担については、6,636円(前年実績6,483円)であり2.4%上回った。利用者全体では、コロナ禍の自粛が緩和され若干の回復となったが、運行委託費の増加やデマンドシステムPC等の備品、調査事業により経費が増大した。(過去の推移: H30年5,309円/R元年5,790円/R2年5,998円)</p> <p>路線バスについては、国道線が増加となったが、フィーダー系を含む全路線のうち、多くの路線で減少となり、全体でも減少となった。(6路線/9路線) デマンドタクシーでは、乗降属性に大きな変化はなく、目的の8割が通院⇄帰宅であるが、コロナ禍の自粛が緩和されたためか前年より増加したもののコロナ前までの利用者には戻らず減少傾向が続いている。新規の登録者は、年間110名を超える申込があったが、高齢化や死亡等による利用減が多く伸び悩んでいると推測される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況調査等は継続して行い、運行内容の見直しや地域にあった公共交通の在り方について検討を進める。(高齢化の進行や、社会情勢等も考慮する) ・利用促進施策として広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを積極的に行い、高齢者の利用を促す。また、乗降エリア(場所)の拡大や利便性の向上を図り、利用者増に繋げる。 ・利用減少に歯止めが掛からない状況であるが、町民生活に不可欠な交通手段でもあることから町の公共交通網を存続するためにも真に必要な交通利用者を中心に効率的な再編を視野にいれ検討を図っていきたい。 ・収支状況については、今後も維持費や更新費の経費は増加すると考えられる。一方、収入は減少し続けているため、今後も利用促進に努めるとともに、以前からの検討事項である財政負担の見直し(運行路線の縮小や統合等)による効率化を図るため、引き続き慎重に検討し、実施を進めていく。 	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
信濃町地域公共交通協議会	長電バス(株)	(路線名)高沢・六月線(運行区間)高沢～信濃小中学校	<p>「利用者数の増加」、「利用者ひとりあたりの財政負担の抑制」を目標として事業を実施した。</p> <p>・運行回数の維持、利便性の確保に努めた。</p> <p>・乗降データや利用者アンケートを実施しニーズ把握に努めた。</p> <p>・広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを行った。</p> <p>・コロナ感染防止のためバス等の感染防止策の徹底(換気や消毒)を継続、利用者のマスク着用の徹底を行い、安心・安全な利用環境整備に努めた。</p>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C <p>1. 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線バスの一般利用者数目標値 6,803人/年 ・デマンドタクシー(ふれあいコスモス号)の利用者数目標値 13,600人/年 ・利用者ひとりあたり財政負担の抑制 <p>2. 目標・効果達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数の増加 路線バス利用:6,404人(前年6,446人)、デマンドタクシー:9,333人(前年8,903人)と路線バス利用者が0.7%減少、デマンドタクシーの利用者が4.8%増加している。 ・財政負担の抑制 財政負担については、6,636円(前年実績6,483円)であり2.4%上回った。利用者全体では、コロナ禍の自粛が緩和され若干の回復となったが、運行委託費の増加やデマンドシステムPC等の備品、調査事業により経費が増大した。(過去の推移:H30年5,309円/R元年5,790円/R2年5,998円) ・路線バスについては、国道線が増加となったが、フィーダー系を含む全路線のうち、多くの路線で減少となり、全体でも減少となった。(6路線/9路線) ・デマンドタクシーでは、乗降属性に大きな変化はなく、目的の8割が通院⇄帰宅であるが、コロナ禍の自粛が緩和されたためか前年より増加したもののコロナ前までの利用者には戻らず減少傾向が続いている。新規の登録者は、年間110名を超える申込があったが、高齢化や死亡等による利用減が多く伸び悩んでいると推測される。 	<p>・利用状況調査等は継続して行い、運行内容の見直しや地域にあった公共交通の在り方について検討を進める。(高齢化の進行や、社会情勢等も考慮する)</p> <p>・利用促進施策として広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを積極的に行い、高齢者の利用を促す。また、乗降エリア(場所)の拡大や利便性の向上を図り、利用者増に繋げる。</p> <p>・利用減少に歯止めが掛からない状況であるが、町民生活に不可欠な交通手段でもあることから町の公共交通網を存続するためにも真に必要な交通利用者を中心に効率的な再編を視野にいれ検討を図っていきたい。</p> <p>・収支状況については、今後も維持費や更新費の経費は増加すると考えられる。一方、収入は減少し続けているため、今後も利用促進に努めるとともに、以前からの検討事項である財政負担の見直し(運行路線の縮小や統合等)による効率化を図るため、引き続き慎重に検討し、実施を進めていく。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
信濃町地域公共交通協議会	長電バス(株)	(路線名)石橋・板橋線 (運行区間)石橋東～黒姫駅	<p>「利用者数の増加」、「利用者ひとりあたりの財政負担の抑制」を目標として事業を実施した。</p> <p>・運行回数の維持、利便性の確保に努めた。</p> <p>・乗降データや利用者アンケートを実施しニーズ把握に努めた。</p> <p>・広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを行った。</p> <p>・コロナ感染防止のためバス等の感染防止策の徹底(換気や消毒)を継続、利用者のマスク着用の徹底を行い、安心・安全な利用環境整備に努めた。</p>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C <p>1. 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線バスの一般利用者数目標値 6,803人/年 ・デマンドタクシー(ふれあいコスモス号)の利用者数目標値 13,600人/年 ・利用者ひとりあたり財政負担の抑制 <p>2. 目標・効果達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数の増加 路線バス利用:6,404人(前年6,446人)、デマンドタクシー:9,333人(前年8,903人)と路線バス利用者が0.7%減少、デマンドタクシーの利用者が4.8%増加している。 ・財政負担の抑制 財政負担については、6,636円(前年実績6,483円)であり2.4%上回った。利用者全体では、コロナ禍の自粛が緩和され若干の回復となったが、運行委託費の増加やデマンドシステムPC等の備品、調査事業により経費が増大した。(過去の推移:H30年5,309円/R元年5,790円/R2年5,998円) ・路線バスについては、国道線が増加となったが、フィーダー系を含む全路線のうち、多くの路線で減少となり、全体でも減少となった。(6路線/9路線) ・デマンドタクシーでは、乗降属性に大きな変化はなく、目的の8割が通院⇄帰宅であるが、コロナ禍の自粛が緩和されたためか前年より増加したもののコロナ前までの利用者には戻らず減少傾向が続いている。新規の登録者は、年間110名を超える申込があったが、高齢化や死亡等による利用減が多く伸び悩んでいると推測される。 	<p>・利用状況調査等は継続して行い、運行内容の見直しや地域にあった公共交通の在り方について検討を進める。(高齢化の進行や、社会情勢等も考慮する)</p> <p>・利用促進施策として広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを積極的に行い、高齢者の利用を促す。また、乗降エリア(場所)の拡大や利便性の向上を図り、利用者増に繋げる。</p> <p>・利用減少に歯止めが掛からない状況であるが、町民生活に不可欠な交通手段でもあることから町の公共交通網を存続するためにも真に必要な交通利用者を中心に効率的な再編を視野にいれ検討を図っていきたい。</p> <p>・収支状況については、今後も維持費や更新費の経費は増加すると考えられる。一方、収入は減少し続けているため、今後も利用促進に努めるとともに、以前からの検討事項である財政負担の見直し(運行路線の縮小や統合等)による効率化を図るため、引き続き慎重に検討し、実施を進めていく。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
信濃町地域公共交通協議会	長電バス(株)	(路線名)国道線(黒姫駅-いこいの家) (運行区間)黒姫駅~いこいの家	<p>「利用者数の増加」、「利用者ひとりあたりの財政負担の抑制」を目標として事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運行回数の維持、利便性の確保に努めた。 ・乗降データや利用者アンケートを実施しニーズ把握に努めた。 ・広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを行った。 ・コロナ感染防止のためバス等の感染防止策の徹底(換気や消毒)を継続、利用者のマスク着用の徹底を行い、安心・安全な利用環境整備に努めた。 	A	<p>計画どおり事業は適切に実施された。</p>	<p>C</p> <p>1. 目標 ・路線バスの一般利用者数目標値 6,803人/年 デマンドタクシー(ふれあいコスモス号)の利用者数目標値 13,600人/年 ・利用者ひとりあたり財政負担の抑制</p> <p>2. 目標・効果達成状況 ・利用者数の増加 路線バス利用:6,404人(前年6,446人)、デマンドタクシー:9,333人(前年8,903人)と路線バス利用者が0.7%減少、デマンドタクシーの利用者が4.8%増加している。 ・財政負担の抑制 財政負担については、6,636円(前年実績6,483円)であり2.4%上回った。利用者全体では、コロナ禍の自粛が緩和され若干の回復となったが、運行委託費の増加やデマンドシステムPC等の備品、調査事業により経費が増大した。(過去の推移:H30年5,309円/R元年5,790円/R2年5,998円)</p> <p>路線バスについては、国道線が増加となったが、フィーダー系を含む全路線のうち、多くの路線で減少となり、全体でも減少となった。(6路線/9路線) デマンドタクシーでは、乗降属性に大きな変化はなく、目的の8割が通院⇄帰宅であるが、コロナ禍の自粛が緩和されたためか前年より増加したもののコロナ前までの利用者には戻らず減少傾向が続いている。新規の登録者は、年間110名を超える申込があったが、高齢化や死亡等による利用減が多く伸び悩んでいると推測される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況調査等は継続して行い、運行内容の見直しや地域にあった公共交通の在り方について検討を進める。(高齢化の進行や、社会情勢等も考慮する) ・利用促進施策として広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを積極的に行い、高齢者の利用を促す。また、乗降エリア(場所)の拡大や利便性の向上を図り、利用者増に繋げる。 ・利用減少に歯止めが掛からない状況であるが、町民生活に不可欠な交通手段でもあることから町の公共交通網を存続するためにも真に必要な交通利用者を中心に効率的な再編を視野にいれ検討を図っていきたい。 ・収支状況については、今後も維持費や更新費の経費は増加すると考えられる。一方、収入は減少し続けているため、今後も利用促進に努めるとともに、以前からの検討事項である財政負担の見直し(運行路線の縮小や統合等)による効率化を図るため、引き続き慎重に検討し、実施を進めていく。 	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
信濃町地域公共交通協議会	長電バス(株)	(路線名)国道線(黒姫駅-黒姫高原)(運行区間)黒姫駅~黒姫高原	<p>「利用者数の増加」、「利用者ひとりあたりの財政負担の抑制」を目標として事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運行回数の維持、利便性の確保に努めた。 ・乗降データや利用者アンケートを実施しニーズ把握に努めた。 ・広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを行った。 ・コロナ感染防止のためバス等の感染防止策の徹底(換気や消毒)を継続、利用者のマスク着用の徹底を行い、安心・安全な利用環境整備に努めた。 	A	<p>計画どおり事業は適切に実施された。</p>	<p>1. 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線バスの一般利用者数目標値 6,803人/年 ・デマンドタクシー(ふれあいコスモス号)の利用者数目標値 13,600人/年 ・利用者ひとりあたり財政負担の抑制 <p>2. 目標・効果達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数の増加 路線バス利用:6,404人(前年6,446人)、デマンドタクシー:9,333人(前年8,903人)と路線バス利用者が0.7%減少、デマンドタクシーの利用者が4.8%増加している。 ・財政負担の抑制 財政負担については、6,636円(前年実績6,483円)であり2.4%上回った。利用者全体では、コロナ禍の自粛が緩和され若干の回復となったが、運行委託費の増加やデマンドシステムPC等の備品、調査事業により経費が増大した。(過去の推移:H30年5,309円/R元年5,790円/R2年5,998円) 路線バスについては、国道線が増加となったが、フィーダー系を含む全路線のうち、多くの路線で減少となり、全体でも減少となった。(6路線/9路線) デマンドタクシーでは、乗降属性に大きな変化はなく、目的の8割が通院⇄帰宅であるが、コロナ禍の自粛が緩和されたためか前年より増加したもののコロナ前までの利用者には戻らず減少傾向が続いている。新規の登録者は、年間110名を超える申込があったが、高齢化や死亡等による利用減が多く伸び悩んでいると推測される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況調査等は継続して行い、運行内容の見直しや地域にあった公共交通の在り方について検討を進める。(高齢化の進行や、社会情勢等も考慮する) ・利用促進施策として広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを積極的に行い、高齢者の利用を促す。また、乗降エリア(場所)の拡大や利便性の向上を図り、利用者増に繋げる。 ・利用減少に歯止めが掛からない状況であるが、町民生活に不可欠な交通手段でもあることから町の公共交通網を存続するためにも真に必要な交通利用者を中心に効率的な再編を視野にいれ検討を図っていきたい。 ・収支状況については、今後も維持費や更新費の経費は増加すると考えられる。一方、収入は減少し続けているため、今後も利用促進に努めるとともに、以前からの検討事項である財政負担の見直し(運行路線の縮小や統合等)による効率化を図るため、引き続き慎重に検討し、実施を進めていく。 	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
信濃町地域公共交通協議会	長電バス(株)	(路線名)国道線(いこいの家-黒姫高原) (運行区間)いこいの家-黒姫高原	<p>「利用者数の増加」、「利用者ひとりあたりの財政負担の抑制」を目標として事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運行回数の維持、利便性の確保に努めた。 ・乗降データや利用者アンケートを実施しニーズ把握に努めた。 ・広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを行った。 ・コロナ感染防止のためバス等の感染防止策の徹底(換気や消毒)を継続、利用者のマスク着用の徹底を行い、安心・安全な利用環境整備に努めた。 	A	計画どおり事業は適切に実施された。	<p>C</p> <p>1. 目標 ・路線バスの一般利用者数目標値 6,803人/年 デマンドタクシー(ふれあいコスモス号)の利用者数目標値 13,600人/年 ・利用者ひとりあたり財政負担の抑制</p> <p>2. 目標・効果達成状況 ・利用者数の増加 路線バス利用:6,404人(前年6,446人)、デマンドタクシー:9,333人(前年8,903人)と路線バス利用者が0.7%減少、デマンドタクシーの利用者が4.8%増加している。 ・財政負担の抑制 財政負担については、6,636円(前年実績6,483円)であり2.4%上回った。利用者全体では、コロナ禍の自粛が緩和され若干の回復となったが、運行委託費の増加やデマンドシステムPC等の備品、調査事業により経費が増大した。(過去の推移:H30年5,309円/R元年5,790円/R2年5,998円)</p> <p>路線バスについては、国道線が増加となったが、フィーダー系を含む全路線のうち、多くの路線で減少となり、全体でも減少となった。(6路線/9路線) デマンドタクシーでは、乗降属性に大きな変化はなく、目的の8割が通院⇄帰宅であるが、コロナ禍の自粛が緩和されたためか前年より増加したもののコロナ前までの利用者には戻らず減少傾向が続いている。新規の登録者は、年間110名を超える申込があったが、高齢化や死亡等による利用減が多く伸び悩んでいると推測される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況調査等は継続して行い、運行内容の見直しや地域にあった公共交通の在り方について検討を進める。(高齢化の進行や、社会情勢等も考慮する) ・利用促進施策として広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを積極的に行い、高齢者の利用を促す。また、乗降エリア(場所)の拡大や利便性の向上を図り、利用者増に繋げる。 ・利用減少に歯止めが掛からない状況であるが、町民生活に不可欠な交通手段でもあることから町の公共交通網を存続するためにも真に必要な交通利用者を中心に効率的な再編を視野にいれ検討を図っていきたい。 ・収支状況については、今後も維持費や更新費の経費は増加すると考えられる。一方、収入は減少し続けているため、今後も利用促進に努めるとともに、以前からの検討事項である財政負担の見直し(運行路線の縮小や統合等)による効率化を図るため、引き続き慎重に検討し、実施を進めていく。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
信濃町地域公共交通協議会	長電バス(株)	(路線名)国道線(黒姫駅-飯綱病院)(運行区間)黒姫駅-飯綱病院	<p>「利用者数の増加」、「利用者ひとりあたりの財政負担の抑制」を目標として事業を実施した。</p> <p>・運行回数の維持、利便性の確保に努めた。</p> <p>・乗降データや利用者アンケートを実施しニーズ把握に努めた。</p> <p>・広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを行った。</p> <p>・コロナ感染防止のためバス等の感染防止策の徹底(換気や消毒)を継続、利用者のマスク着用の徹底を行い、安心・安全な利用環境整備に努めた。</p>	A	<p>計画どおり事業は適切に実施された。</p>	<p>1. 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線バスの一般利用者数目標値 6,803人/年 ・デマンドタクシー(ふれあいコスモス号)の利用者数目標値 13,600人/年 ・利用者ひとりあたり財政負担の抑制 <p>2. 目標・効果達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数の増加 路線バス利用:6,404人(前年6,446人)、デマンドタクシー:9,333人(前年8,903人)と路線バス利用者が0.7%減少、デマンドタクシーの利用者が4.8%増加している。 ・財政負担の抑制 財政負担については、6,636円(前年実績6,483円)であり2.4%上回った。利用者全体では、コロナ禍の自粛が緩和され若干の回復となったが、運行委託費の増加やデマンドシステムPC等の備品、調査事業により経費が増大した。(過去の推移:H30年5,309円/R元年5,790円/R2年5,998円) ・路線バスについては、国道線が増加となったが、フィーダー系を含む全路線のうち、多くの路線で減少となり、全体でも減少となった。(6路線/9路線) ・デマンドタクシーでは、乗降属性に大きな変化はなく、目的の8割が通院⇄帰宅であるが、コロナ禍の自粛が緩和されたためか前年より増加したもののコロナ前までの利用者には戻らず減少傾向が続いている。新規の登録者は、年間110名を超える申込があったが、高齢化や死亡等による利用減が多く伸び悩んでいると推測される。 	<p>・利用状況調査等は継続して行い、運行内容の見直しや地域にあった公共交通の在り方について検討を進める。(高齢化の進行や、社会情勢等も考慮する)</p> <p>・利用促進施策として広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを積極的に行い、高齢者の利用を促す。また、乗降エリア(場所)の拡大や利便性の向上を図り、利用者増に繋げる。</p> <p>・利用減少に歯止めが掛からない状況であるが、町民生活に不可欠な交通手段でもあることから町の公共交通網を存続するためにも真に必要な交通利用者を中心に効率的な再編を視野にいれ検討を図っていきたい。</p> <p>・収支状況については、今後も維持費や更新費の経費は増加すると考えられる。一方、収入は減少し続けているため、今後も利用促進に努めるとともに、以前からの検討事項である財政負担の見直し(運行路線の縮小や統合等)による効率化を図るため、引き続き慎重に検討し、実施を進めていく。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
信濃町地域公共交通協議会	長電バス(株)	(路線名)信濃町デマンドタクシー (運行区間)信濃町内及び妙高高原駅	<p>「利用者数の増加」、「利用者ひとりあたりの財政負担の抑制」を目標として事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運行回数の維持、利便性の確保に努めた。 ・乗降データや利用者アンケートを実施しニーズ把握に努めた。 ・広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを行った。 ・コロナ感染防止のためバス等の感染防止策の徹底(換気や消毒)を継続、利用者のマスク着用の徹底を行い、安心・安全な利用環境整備に努めた。 	A	<p>計画どおり事業は適切に実施された。</p>	<p>C</p> <p>1. 目標 ・路線バスの一般利用者数目標値 6,803人/年 デマンドタクシー(ふれあいコスモス号)の利用者数目標値 13,600人/年 ・利用者ひとりあたり財政負担の抑制</p> <p>2. 目標・効果達成状況 ・利用者数の増加 路線バス利用:6,404人(前年6,446人)、デマンドタクシー:9,333人(前年8,903人)と路線バス利用者が0.7%減少、デマンドタクシーの利用者が4.8%増加している。 ・財政負担の抑制 財政負担については、6,636円(前年実績6,483円)であり2.4%上回った。利用者全体では、コロナ禍の自粛が緩和され若干の回復となったが、運行委託費の増加やデマンドシステムPC等の備品、調査事業により経費が増大した。(過去の推移:H30年5,309円/R元年5,790円/R2年5,998円)</p> <p>路線バスについては、国道線が増加となったが、フィーダー系を含む全路線のうち、多くの路線で減少となり、全体でも減少となった。(6路線/9路線) デマンドタクシーでは、乗降属性に大きな変化はなく、目的の8割が通院⇄帰宅であるが、コロナ禍の自粛が緩和されたためか前年より増加したもののコロナ前までの利用者には戻らず減少傾向が続いている。新規の登録者は、年間110名を超える申込があったが、高齢化や死亡等による利用減が多く伸び悩んでいると推測される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況調査等は継続して行い、運行内容の見直しや地域にあった公共交通の在り方について検討を進める。(高齢化の進行や、社会情勢等も考慮する) ・利用促進施策として広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを積極的に行い、高齢者の利用を促す。また、乗降エリア(場所)の拡大や利便性の向上を図り、利用者増に繋げる。 ・利用減少に歯止めが掛からない状況であるが、町民生活に不可欠な交通手段でもあることから町の公共交通網を存続するためにも真に必要な交通利用者を中心に効率的な再編を視野にいれ検討を図っていきたい。 ・収支状況については、今後も維持費や更新費の経費は増加すると考えられる。一方、収入は減少し続けているため、今後も利用促進に努めるとともに、以前からの検討事項である財政負担の見直し(運行路線の縮小や統合等)による効率化を図るため、引き続き慎重に検討し、実施を進めていく。 	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
信濃町地域公共交通協議会	野尻湖タクシー(株)	(路線名)信濃町デマンドタクシー(運行区間)信濃町内及び妙高高原駅	<p>「利用者数の増加」、「利用者ひとりあたりの財政負担の抑制」を目標として事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運行回数の維持、利便性の確保に努めた。 ・乗降データや利用者アンケートを実施しニーズ把握に努めた。 ・広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを行った。 ・コロナ感染防止のためバス等の感染防止策の徹底(換気や消毒)を継続、利用者のマスク着用の徹底を行い、安心・安全な利用環境整備に努めた。 	A	計画どおり事業は適切に実施された。	<p>1. 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線バスの一般利用者数目標値 6,803人/年 ・デマンドタクシー(ふれあいコスモス号)の利用者数目標値 13,600人/年 ・利用者ひとりあたり財政負担の抑制 <p>2. 目標・効果達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数の増加 路線バス利用:6,404人(前年6,446人)、デマンドタクシー:9,333人(前年8,903人)と路線バス利用者が0.7%減少、デマンドタクシーの利用者が4.8%増加している。 ・財政負担の抑制 財政負担については、6,636円(前年実績6,483円)であり2.4%上回った。利用者全体では、コロナ禍の自粛が緩和され若干の回復となったが、運行委託費の増加やデマンドシステムPC等の備品、調査事業により経費が増大した。(過去の推移:H30年5,309円/R元年5,790円/R2年5,998円) 路線バスについては、国道線が増加となったが、フィーダー系を含む全路線のうち、多くの路線で減少となり、全体でも減少となった。(6路線線/9路線) デマンドタクシーでは、乗降属性に大きな変化はなく、目的の8割が通院⇄帰宅であるが、コロナ禍の自粛が緩和されたためか前年より増加したもののコロナ前までの利用者には戻らず減少傾向が続いている。新規の登録者は、年間110名を超える申込があったが、高齢化や死亡等による利用減が多く伸び悩んでいると推測される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況調査等は継続して行い、運行内容の見直しや地域にあった公共交通の在り方について検討を進める。(高齢化の進行や、社会情勢等も考慮する) ・利用促進施策として広報誌や町HPにてデマンドタクシーのPRを積極的に行い、高齢者の利用を促す。また、乗降エリア(場所)の拡大や利便性の向上を図り、利用者増に繋げる。 ・利用減少に歯止めが掛からない状況であるが、町民生活に不可欠な交通手段でもあることから町の公共交通網を存続するためにも真に必要な交通利用者を中心に効率的な再編を視野にいれ検討を図っていきたい。 ・収支状況については、今後も維持費や更新費の経費は増加すると考えられる。一方、収入は減少し続けているため、今後も利用促進に努めるとともに、以前からの検討事項である財政負担の見直し(運行路線の縮小や統合等)による効率化を図るため、引き続き慎重に検討し、実施を進めていく。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
岡谷市地域公共交通活性化協議会	ジェイアールバス関東(株) アルピコタクシー(株)	今井・長地線 長地・今井線 市街地循環東ルート線 【フィーダー系統】 市街地循環西ルート線 川岸線 川岸橋原線 やまびこ公園線【フィーダー系統】	<p>新型コロナウイルス感染症の影響が続いており、利用者数は未だに拡大前の水準には戻っていない。しかし令和2～3年度の約2割減と比較すると、今年度は僅かながら回復傾向にある。65歳以上の免許返納者に対し回数券を3冊交付する事業は例年に比べ好調で、9/30時点で昨年9月の約1.9倍の交付状況である。</p> <p>感染症の存在がより日常化しているなかで、新たに以下の利用促進活動を実施した。</p> <p>①時刻表を改訂し、新たに民間路線バスである岡谷茅野線の路線図及びダイヤを掲載(令和4年度)</p> <p>②65歳介護保険到達者説明会において、利用促進ポケットティッシュ及び時刻表を配布(令和3年度～)</p> <p>③シルキーバス沿線の保育園児にバスの塗り絵をしていただき、その塗り絵を車内に展示する「シルキーバスこども美術館」事業を川岸線において実施。令和4年度では今井長地線、長地今井線にて実施(令和3年度～)</p> <p>④市民の交通需要等を把握するため、市民アンケートや乗客に対するOD調査等、地域公共交通計画策定に必要な調査事業を実施(令和4年度)</p>	A 計画どおり事業は適切に実施された	C <p>①シルキーバス路線の1日平均利用者数が目標の306人以上/日に対して290人で、目標達成率は、94.8%。</p> <p><理由> 利用者数の増加を図るため、これまでの取り組みとともに、時刻表を改訂し、新たに民間路線バスの運行情報を掲載した。自家用車の普及のほか新型コロナウイルス拡大による外出抑制の影響が大きく、目標値には届かなかった。</p> <p>②シルキーバス路線の収支状況については、目標の25.4%以上に対して、19.0%であった。</p> <p><理由> 利用者数減少による運賃収入の減少に加え、燃料費のほか人件費やバス会社管理費(本社経費や支社経費などの一般管理費)が増加しており、他経費の縮小を図ったものの支出が増加している。</p>	<p>・1日平均利用者数が目標を下回ったことについては、目標数値の見直し、広報やホームページ等を活用したより一層の利用促進に努めることにより改善を図る必要がある。新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえつつ、新たに計画策定を進める「地域公共交通計画」により輸送需要を把握する。</p> <p>・収支状況については、まず経費について、車両の老朽化に伴う車両の維持修繕費や車両更新費ほか、バス運転手の人件費の増加などにより上昇傾向にある。今後は、より一層の利用促進に加え、以前からの検討事項である運賃の見直しについても引き続き検討を進める。</p> <p>・新型コロナウイルスによる高齢者の外出抑制は長期化しているものの、利用客数は若干回復してきている。乗客の感染予防に対する関心も高いため、引き続きバスの消毒等を徹底する。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
須坂市地域公共交通会議	長電バス(株)	<p>すざか市民バス</p> <p>運行系統名: 仙仁線、米子線、明徳団地線、北相之島線、おはようライナー仙仁豊丘・おかえりライナー、おはようライナー米子明徳</p>	<p>・高齢者のバス利用を促すため、65歳以上の運転免許証自主返納者に対し、ICカードKURURU引換券を1枚贈呈。窓口での案内チラシを新たに作成し、KURURU交換窓口を1箇所増設した。</p> <p>・ホームページの市民バスに関するご案内の内容を更新し、分かりやすいものになるよう努めた。</p> <p>・須坂駅前及び信州医療センターへバス時刻表のデジタルサイネージを設置した。また、観光施設付近20か所のバス停留所に接近表示システムを設置し、合わせて利便性向上を図ることができた。</p> <p>・長野電鉄の子ども無料デーに合わせ、バス子ども無料デーを夏・冬2回実施し、利用促進を図った。</p> <p>・バス利用者の利便性向上のため、すざか市民バスGTFSデータを整備しGoogleへ掲載を開始した。</p>	A	<p>計画通り事業は適切に実施された。</p>	B	<p>年間の利用者数と各路線のICカード利用者数の割合から利用者数を算出した。</p> <p>①仙仁線 目標: 53,000人 実績: 50,196人</p> <p>②米子線 目標: 21,500人 実績: 16,366人</p> <p>③明徳団地線 目標: 10,400人 実績: 9,389人</p> <p>④北相之島線 目標: 5,100人 実績: 5,407人</p> <p>⑤KURURU昼割利用者 目標: 14,000人 実績: 13,779人</p> <p>⑥KURURU乗継割引利用者 目標: 3,500人 実績: 3,437人</p> <p>④以外の路線について目標が達成されなかったが、期間後半から増加傾向にあり目標に近づいた路線もある。一方⑤、⑥の数値は目標値に近くKURURU利用者数と共に増加傾向が続いている。バス利用者全体から見ると、ICカードの利用者は約4割となっており、バス利用者と共に期間後半を中心に前年比増となった。</p>	<p>・継続する新型コロナウイルス感染症の影響による減少がみられるが、期間後半から回復の兆しがあり、通勤・通学の利用者等が増加傾向にあった。よりコロナ前の水準に近づこう、当会議が実施する利便性向上策について、あらゆる機会でのチラシ・ポスター・HP・SNSなど広報活動に努める必要がある。</p> <p>・Googleへのすざか市民バスデータ掲載を実施できたことから、経路検索が容易に出来るようになった。この利点等について、積極的な広報を行い、利用者増につなげる必要がある。</p> <p>・年2回のバス子ども無料デーを実施し、合わせて当イベントの内容を充実させ、さらなる利用促進を図る。</p> <p>・設置したバス接近表示システムについて、正確性が不安定な部分があり、さらなる改善をし安定稼働を図り、広く利用者への周知が必要。また、当システムの市内各バス停への増加設置を検討し、市内バス路線でのさらなる利便性向上を図る。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
須崎市地域公共交通会議	北信タクシー(株) 長電タクシー(株)	すざか乗合タクシー 日野・豊洲地域及び福島・中島町・松川町	<ul style="list-style-type: none"> ・運行地域の区長に利用状況等を説明し、地域での利用促進及び広報を依頼した。 ・利用促進策として、運行区域の地区に対し利用方法を掲載したチラシ等を全戸配布した。 ・ICカードKURURUを乗合タクシーへ導入し、利用者の利便性を図った。(R2.10～) 	A 計画通り事業は適切に実施された。	C <ul style="list-style-type: none"> ・1日当たりの平均利用者数 目標 実績 8人 6.2人 KURURU利用者割合 81.2% 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、車内換気等によるコロナ対策を実施し、安心して利用できる事の周知を図っていく。 ・停留所設置の検討等により、利便性の向上、利用促進を図り、さらなる利用者増を目指す。 ・運行エリアでの乗合タクシー乗り方教室を実施する機会を検討し、広報の強化を図りながら利用者増に努める。 	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
中野市地域公共交通対策協議会	長電バス株式会社	立ヶ花線 中野駅⇄ 立ヶ花駅	・利用促進を図るため、市内全世帯、基幹病院、飯山駅、信州中野駅等への「交通マップ/時刻表」の配布や小学生を対象とした「バスの乗り方教室」等を行った。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C ・事業が計画に位置付けられた目標を達成しなかった。 【1日あたり利用者数】 目標…22.0人 実績…14.2人	・新型コロナウイルス感染症の影響が続いており、利用者数は減少傾向が続いており、今後の回復に期待したい。 ・利用者減の対策として、運行事業者は消毒、換気の徹底を行っており、協議会としても、毎年10月に全戸へ配布する交通マップへ、コロナ感染症対策に配慮して運行している旨と、利用者へのマスク着用等の協力依頼を掲載し、周知を行い、安心安全に利用いただけるよう取り組んでおり、今後も引き続き行うこととしている。 ・また、引き続き広報等を通じ利用促進を図るとともに、目標値やダイヤの見直しについても検討する。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
中野市地域公共交通対策協議会	中野市	ふれあいバス間山線 温泉公園⇄市役所	・利用促進を図るため、市内全世帯、基幹病院、飯山駅、信州中野駅等への「交通マップ/時刻表」の配布や小学生を対象とした「バスの乗り方教室」等を開催した。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C ・事業が計画に位置付けられた目標を達成しなかった。 【1日あたり利用者数】 目標…26.0人 実績…24.9人	・目標を達成することは出来なかったが、昨年度の実績(23.2人)を上回る結果となり、今後の回復に期待したい。 ・広報等を通じPRに努めるとともに、利便性が向上するようなダイヤの見直しについても検討する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
中野市地域公共交通対策協議会	中野市	ふれあいバス倭・科野地区 岩井東⇄市役所	・利用促進を図るため、市内全世帯、基幹病院、飯山駅、信州中野駅等への「交通マップ/時刻表」の配布や小学生を対象とした「バスの乗り方教室」等を開催した。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A ・事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 【1日あたり利用者数】 目標…11.0人 実績…11.4人	・目標を達成しているが、引き続き広報等を通じPRに努めるとともに、利便性が向上するようなダイヤの見直しについても検討する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
中野市地域公共交通対策協議会	中野市	ふれあいバス豊田地域三俣⇄上今井	<p>・利用促進を図るため、市内全世帯、基幹病院、飯山駅、信州中野駅等への「交通マップ/時刻表」の配布や小学生を対象とした「バスの乗り方教室」等を開催した。</p>	<p>A</p> <p>・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>A</p> <p>・事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 【1日あたり利用者数】 目標…4.0人 実績…4.3人</p>	<p>・目標を達成しているが、引き続き広報等を通じPRに努めるとともに、利便性が向上するようなダイヤの見直しについても検討する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
中野市地域公共交通対策協議会	中野ハイヤー株式会社 株式会社山田タクシー 長電バス株式会社 (共同運行)	お出かけタクシー 中野・高丘・平野・延徳地域	・利用促進を図るため、市内全世帯、基幹病院、飯山駅、信州中野駅等への「交通マップ/時刻表」の配布、老朽化した停留所の整備を行った。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C ・事業が計画に位置付けられた目標を達成しなかった。 【1日あたり利用者数】 目標…3.0人 実績…1.4人	・利用者数は前年度比でほぼ同程度となった。 ・利用者減の対策として、運行事業者は消毒、換気の徹底を行っており、協議会としても、毎年10月に全戸へ配布する交通マップへ、コロナ感染症対策に配慮して運行している旨と、利用者へのマスク着用等の協力依頼を掲載し、周知を行い安心安全に利用いただけるよう取り組んでおり、今後も引き続き行うこととしている。 ・固定化している利用者の減少が課題となっているため、根本的な運行形態の見直しを含めて検討する。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
生坂村地域公共交通協議会	生坂村	系統名: 犀川線 運行区間: 古坂～明科駅ほか	利用促進に向けて啓発活動の推進や利用者のニーズに沿った運行形態を目指し、聞き取りを行うなど誰もが利用しやすい環境づくりに努めた。また、高齢者にも分かりやすいよう乗換の例なども広報紙に掲載し、周知を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 目標である直近5年間の平均年間利用者数23,930人の維持に対し、本年度は20,125人と減少しているものの昨年度と比べると増加している。要因の一つとしては新型コロナウイルスの影響が考えられる。	今後も引き続き、利用者のニーズを活かした運行形態及び目標達成に向けた改善策の検討・協議を行い、利用者に必要とされる持続可能な運行に努めていく。また、住民の通勤通学・通院・買い物に極めて必要な事業であると判断する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
生坂村地域公共交通協議会	生坂村	系統名:北回り、南回り 運行区間:北部、南部	利用促進に向けた啓発活動の推進や運行形態、懇談会での要望把握等に継続的に努め、利用方法についてはチラシや広報紙により広く周知を図った。また、地域支え合い会議では高齢者にも分かりやすいように乗換の例なども取り上げてもらい、パンフレットの作成を行っている。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 目標である直近5年間の平均年間利用者数1,320人の維持に対し、本年度は941人と減少した。チラシの配布に加え広報紙により周知を行ってきたが、高齢者の利用が多いため入院や入所等で減少したものと考えられる。	過疎化・高齢化が進む当村では、山間地がほとんどで犀川線との接続や日常の移動手段として欠かす事のできない路線であることから、今後も引き続き利用促進に向けた啓発活動や、新規利用者の確保に向けた効果的な取り組みの検討・推進に努める。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
生坂村地域公共交通協議会	生坂村	系統名:26便 運行区間:明科駅~古坂	利用促進に向けた啓発活動の推進や運行形態、懇談会での要望把握等に継続的に努めるとともに、チラシや広報紙により広く周知を図った。しかし、松本方面へ通う学生の数によって利用者数が増減するため改善策を具体化することができなかった。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 学生専用の最終便として平成22年に新規に運行した便で、目標である直近5年間の平均年間利用者数298人の維持に対し、本年度は291人で目標値に近づいた。	学生の通学に必要な便であることから、今後も引き続き、利用促進に向けたチラシ・広報紙による啓発活動や利用しやすい運行形態に努めるとともに、新規利用者確保に向けた効果的な取組みの検討を推進していく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
青木村公共交通会議	青木村	路線型 ・A路線(入奈良本・釜房方面) ・B路線(弘法・田沢方面) ・C路線(管社・当郷・殿戸方面) ・D路線(村松・田沢温泉方面)	昼間の便を廃止し、デマンド運行をすることで利用者の増加に運行の効率化につながっている。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施させた	A 輸送人員目標33.7人/日に対して、実績は42.0人/日となり、目標を達成した。	新型コロナウイルス感染症による利用者の減少から、回復傾向にある。引き続き適切な情報提供に努めていく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、さらなる実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
青木村公共交通会議	青木村	区域型(全域デマンド)	デマンド運行により、村営バス利用者増加につながっている。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施させた	A 輸送人員目標12.9人/日に対して、実績は16.8人/日となり、目標を達成した。	徐々に利用者数が増加していることから、住民の認知度が高まっていることが考えられる。今後は広報誌等への掲載をする等の更なる浸透を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号1】春日・智里西線第1便(月火木土)(駒場～智里西～駒場～春日～駒場～昼神)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・高齢者対象の教室で運転免許自主返納者支援制度について説明。 ・利用方法周知の手段の検討。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。 	C	<p>目標の1運行あたり平均乗車人数(2021年4月～2022年3月)2.7人に対し、実績2.0人であった。</p> <p>学生の減少や定期利用者の施設入所等だけでなく、コロナ禍の影響により、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。</p>	<p>感染症対策を講じながらの運行を継続しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者ニーズの把握に努める。また新規利用者の獲得のため、広報誌や乗り方教室等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえよう手段を検討していく。</p> <p>引き続き、高齢者に対し、運転免許自主返納者支援制度について、周知に努め、公共共通の利用促進を目指す。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号2】春日・智里西線第1便(水金)(駒場～横川～智里西～駒場～春日～駒場～昼神)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。 	C	<p>目標の1運行あたり平均乗車人数(2021年4月～2022年3月)4.6人に対し、実績3.5人であった。</p> <p>定期利用者の施設入所等だけでなく、コロナ禍の影響により、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。</p>	<p>感染症対策を講じながらの運行を継続しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者ニーズの把握に努める。また新規利用者の獲得のため、広報誌や乗り方教室等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえよう手段を検討していく。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号3】春日・智里西線第2便(月火木土) (昼神～駒場～春日～駒場～智里西～駒場)	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	C	目標の1運行あたり平均乗車人数(2021年4月～2022年3月)2.0人に対し、実績1.4人であった。 定期利用者の施設入所等だけでなく、コロナ禍の影響により、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	感染症対策を講じながらの運行を継続しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者ニーズの把握に努める。また新規利用者の獲得のため、広報誌や乗り方教室等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえよう手段を検討していく。 引き続き、高齢者に対し、運転免許自主返納者支援制度について、周知に努め、公共共通の利用促進を目指す。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号4】春日・智里西線第2便(水金) (昼神～駒場～春日～駒場～智里西～横川～駒場)	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・高齢者対象の教室で運転免許自主返納者支援制度について説明。 ・利用方法周知の手段を検討。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	C	目標の1運行あたり平均乗車人数(2021年4月～2022年3月)2.8人に対し、実績2.3人であった。 定期利用者の施設入所等だけでなく、コロナ禍の影響により、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	感染症対策を講じながらの運行を継続しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者ニーズの把握に努める。また新規利用者の獲得のため、広報誌や乗り方教室等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえよう手段を検討していく。 引き続き、高齢者に対し、運転免許自主返納者支援制度について、周知に努め、公共共通の利用促進を目指す。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号5】春日・智里西線第3便(月火木土) (昼神～駒場～春日～駒場～智里西)	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・高齢者対象の教室で運転免許自主返納者支援制度について説明。 ・利用方法周知の手段を検討。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	C	目標の1運行あたり平均乗車人数(2021年4月～2022年3月)2.0人に対し、実績0.7人であった。 定期利用者の施設入所等だけでなく、コロナ禍の影響により、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	感染症対策を講じながらの運行を継続しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者ニーズの把握に努める。また新規利用者の獲得のため、広報誌や乗り方教室等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえよう手段を検討していく。 引き続き、高齢者に対し、運転免許自主返納者支援制度について、周知に努め、公共共通の利用促進を目指す。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号6】春日・智里西線第3便(水金) (昼神～駒場～春日～駒場～智里西～横川)	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・高齢者対象の教室で運転免許自主返納者支援制度について説明。 ・利用方法周知の手段を検討。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	C	目標の1運行あたり平均乗車人数(2021年4月～2022年3月)2.0人に対し、実績0.6人であった。 定期利用者の施設入所等だけでなく、コロナ禍の影響により、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	感染症対策を講じながらの運行を継続しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者ニーズの把握に努める。また新規利用者の獲得のため、広報誌や乗り方教室等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえ手段を検討していく。 引き続き、高齢者に対し、運転免許自主返納者支援制度について、周知に努め、公共共通の利用促進を目指す。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号7】清内路線第1.5便 (清内路～駒場～清内路)	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・高齢者対象の教室で運転免許自主返納者支援制度について説明。 ・利用方法周知の手段を検討。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	C	目標の1運行あたり平均乗車人数(2021年4月～2022年3月)3.7人に対し、実績3.7人であった。 今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	感染症対策を講じながらの運行を継続しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者ニーズの把握に努める。また新規利用者の獲得のため、広報誌や乗り方教室等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえ手段を検討していく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号8】清内路線第2.3便 (清内路～駒場～ラック～清内路)	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	A	目標の1運行あたり平均乗車人数(2021年4月～2022年3月)5.8人に対し、実績4.7人であった。 学生の減少等だけでなく、コロナ禍の影響により、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	感染症対策を講じながらの運行を継続しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者ニーズの把握に努める。また新規利用者の獲得のため、広報誌や乗り方教室等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえ手段を検討していく。 引き続き、高齢者に対し、運転免許自主返納者支援制度について、周知に努め、公共共通の利用促進を目指す。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、さらなる実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号9】清内路線第4便(清内路～駒場～ラック～清内路)	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	C	目標の1運行あたり平均乗車人数(2021年4月～2022年3月)5.8人に対し、実績4.8人であった。 学生の減少等だけでなく、コロナ禍の影響により、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	感染症対策を講じながらの運行を継続しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者ニーズの把握に努める。また新規利用者の獲得のため、広報誌や乗り方教室等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえる手段を検討していく。 引き続き、高齢者に対し、運転免許自主返納者支援制度について、周知に努め、公共共通の利用促進を目指す。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号10】伍和線第1便(伍和～駒場)※車両減価償却費等国庫補助金	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・高齢者対象の教室で運転免許自主返納者支援制度について説明。 ・利用方法周知の手段を検討。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	A	目標の1運行あたり平均乗車人数(2021年4月～2022年3月)2.0人に対し、実績3.9人であった。 今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	感染症対策を講じながらの運行を継続しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者ニーズの把握に努める。また新規利用者の獲得のため、広報誌や乗り方教室等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえる手段を検討していく。 引き続き、高齢者に対し、運転免許自主返納者支援制度について、周知に努め、公共共通の利用促進を目指す。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号11】伍和線第2便(駒場～伍和～駒場～昼神～駒場)	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・高齢者対象の教室で運転免許自主返納者支援制度について説明。 ・利用方法周知の手段を検討。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	A	目標の1運行あたり平均乗車人数(2021年4月～2022年3月)2.0人に対し、実績2.8人であった。 今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	感染症対策を講じながらの運行を継続しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者ニーズの把握に努める。また新規利用者の獲得のため、広報誌や乗り方教室等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえる手段を検討していく。 引き続き、高齢者に対し、運転免許自主返納者支援制度について、周知に努め、公共共通の利用促進を目指す。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号12】伍和線第3便(駒場～昼神～駒場～伍和～駒場)	・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・高齢者対象の教室で運転免許自主返納者支援制度について説明。 ・利用方法周知の手段を検討。	A	・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。	A	目標の1運行あたり平均乗車人数(2021年4月～2022年3月)2.9人に対し、実績5.3人であった。 今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。	感染症対策を講じながらの運行を継続しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者ニーズの把握に努める。また新規利用者の獲得のため、広報誌や乗り方教室等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえる手段を検討していく。 引き続き、高齢者に対し、運転免許自主返納者支援制度について、周知に努め、公共共通の利用促進を目指す。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点		評価結果	
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号13】 伍和線第4便 (駒場～昼神～駒場)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・高齢者対象の教室で運転免許自主返納者支援制度について説明。 ・利用方法周知の手段を検討。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。 	A	<p>目標の1運行あたり平均乗車人数(2021年4月～2022年3月)2.1人に対し、実績4.1人であった。</p> <p>今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。</p>	<p>感染症対策を講じながらの運行を継続しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者ニーズの把握に努める。また新規利用者の獲得のため、広報誌や乗り方教室等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえよう手段を検討していく。</p> <p>引き続き、高齢者に対し、運転免許自主返納者支援制度について、周知に努め、公共共通の利用促進を目指す。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号14】 伍和線第5便 (駒場～昼神～駒場) ※車両減価償却費等国庫補助金	<ul style="list-style-type: none"> ・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・高齢者対象の教室で運転免許自主返納者支援制度について説明。 ・利用方法周知の手段を検討。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。 	C	<p>目標の1運行あたり平均乗車人数(2021年4月～2022年3月)2.0人に対し、実績1.0人であった。</p> <p>学生の減少や定期利用者の施設入所等だけでなく、コロナ禍の影響により施設の休業等があり、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。</p>	<p>感染症対策を講じながらの運行を継続しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者ニーズの把握に努める。また新規利用者の獲得のため、広報誌や乗り方教室等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえよう手段を検討していく。</p> <p>引き続き、高齢者に対し、運転免許自主返納者支援制度について、周知に努め、公共共通の利用促進を目指す。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号15】 浪合線第1便～第3便 (浪合～昼神～駒場～浪合)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・高齢者対象の教室で運転免許自主返納者支援制度について説明。 ・利用方法周知の手段を検討。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。 	A	<p>目標の1運行あたり平均乗車人数(2021年4月～2022年3月)2.4人に対し、実績3.7人であった。</p> <p>今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。</p>	<p>感染症対策を講じながらの運行を継続しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者ニーズの把握に努める。また新規利用者の獲得のため、広報誌や乗り方教室等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえよう手段を検討していく。</p> <p>引き続き、高齢者に対し、運転免許自主返納者支援制度について、周知に努め、公共共通の利用促進を目指す。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点		評価結果	
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号16】 智里東線第1便 (智里東～駒場～昼神～駒場)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・高齢者対象の教室で運転免許自主返納者支援制度について説明。 ・利用方法周知の手段を検討。 ・利用者のニーズに合わせ、停留所を新設。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。 	A	<p>目標の1運行あたり平均乗車人数(2021年4月～2022年3月)2.0人に対し、実績2.9人であった。</p> <p>今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。</p>	<p>感染症対策を講じながらの運行を継続しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者ニーズの把握に努める。また新規利用者の獲得のため、広報誌や乗り方教室等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえよう手段を検討していく。</p> <p>引き続き、高齢者に対し、運転免許自主返納者支援制度について、周知に努め、公共共通の利用促進を目指す。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号17】 智里東線第2便 (駒場～智里東～駒場) ※車両減価償却費等国庫補助金	<ul style="list-style-type: none"> ・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・高齢者対象の教室で運転免許自主返納者支援制度について説明。 ・利用方法周知の手段を検討。 ・利用者のニーズに合わせ、停留所を新設。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。 	A	<p>目標の1運行あたり平均乗車人数(2021年4月～2022年3月)2.2人に対し、実績3.3人であった。</p> <p>今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。</p>	<p>感染症対策を講じながらの運行を継続しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者ニーズの把握に努める。また新規利用者の獲得のため、広報誌や乗り方教室等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえよう手段を検討していく。</p> <p>引き続き、高齢者に対し、運転免許自主返納者支援制度について、周知に努め、公共共通の利用促進を目指す。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
阿智村地域公共交通協議会	阿智村	【申請番号18】 智里東線第3便 (駒場～智里東～駒場) ※車両減価償却費等国庫補助金	<ul style="list-style-type: none"> ・地域間幹線系統「駒場線」との円滑な接続を確保する為、関係市村・事業者と協議を継続。 ・デマンド運行により既存路線の補完を維持。 ・公共交通マップの作成村内全戸配布。 ・高齢者対象の教室で運転免許自主返納者支援制度について説明。 ・利用方法周知の手段を検討。 ・利用者のニーズに合わせ、停留所を新設。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段を確保するよう、継続運行を行った。 	C	<p>目標の1運行あたり平均乗車人数(2021年4月～2022年3月)2.0人に対し、実績1.4人であった。</p> <p>定期利用者の施設入所等だけでなく、コロナ禍の影響により、利用者が減少したが、今後も地域住民の社会参加の機会提供・地域振興、通院・買い物等日常生活に必要な路線として、また「駒場線」に接続する重要な支線として効率的で効果的な運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。</p>	<p>感染症対策を講じながらの運行を継続しつつ、利用者や運転手へのヒアリング等により現利用者ニーズの把握に努める。また新規利用者の獲得のため、広報誌や乗り方教室等で実際の利用例を紹介するなど具体的に利用をイメージしてもらえよう手段を検討していく。</p> <p>引き続き、高齢者に対し、運転免許自主返納者支援制度について、周知に努め、公共共通の利用促進を目指す。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
下伊那南部地域公共交通対策協議会	阿南町	(阿南線) 伝承センター前⇄川路駅 (往路1便・復路1便) ※購入補助対象車両での運行(平成30年度購入)	<ul style="list-style-type: none"> ・JR飯田線のダイヤ改正に伴いダイヤを調整し、鉄道との接続を確保した。 ・情報発信のために時刻表を協議会構成町村(阿南町、下條村、売木村、天龍村、泰阜村)で全戸配付した。 ・運転免許自主返納者支援制度を運用し、高齢者の利用促進を図った。 	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	A	<p>【利用者数(人/月)】 目標:290、実績:362 ※主に高校生の通学に利用される路線</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの系統で、目標の利用者数を実績値が上回っており、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んでいた利用が回復傾向にあるといえる。 ・当地域の公共交通は通院、通学に欠かせない移動手段である。ターゲット別の情報提供(中学校卒業前にバスの説明会、通院先の病院での公共交通利用の呼びかけ等)、運転免許自主返納者支援制度の周知による利用者の確保に努め、運行を継続することを基本とする。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
下伊那南部地域公共交通対策協議会	阿南町	(阿南線) 温田駅前⇄川路駅 (往路3便・復路3便) ※購入補助対象車両での運行(令和2年度購入)		A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	C	<p>【利用者数(人/月)】 目標:970、実績:873 ※主に高校生の通学や高齢者の通院に利用される路線→新型コロナウイルス感染症の影響で利用が減る期間があった</p>		協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
下伊那南部地域公共交通対策協議会	阿南町	(阿南線) 温田駅前⇄飯田病院前 (往路3便・復路3便) ※購入補助対象車両での運行(令和元年度購入)		A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	A	<p>【利用者数(人/月)】 目標:520、実績:558 ※主に高齢者の通院(阿南病院及び飯田市内の病院)に利用される路線</p>		協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
下伊那南部地域公共交通対策協議会	阿南町	(温田線) こだりの湯⇄温田駅前(往路5便・復路6便)	<ul style="list-style-type: none"> ・JR飯田線のダイヤ改正に伴いダイヤを調整し、鉄道との接続を確保した。 ・情報発信のために時刻表を協議会構成町村(阿南町、下條村、売木村、天龍村、泰阜村)で全戸配付した。 	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	A	<p>【利用者数(人/月)】 目標:570、実績:600 ※主に高齢者の通院(阿南病院)や高校生の通学(阿南高校)に利用される路線</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの系統で、目標の利用者数を実績値が上回っており、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んでいた利用が回復傾向にあるといえる。 ・当地域の公共交通は通院、通学に欠かせない移動手段である。ターゲット別の情報提供(中学校卒業前にバスの説明会、通院先の病院での公共交通利用の呼びかけ等)、運転免許自主返納者支援制度の周知による利用者の確保に努め、運行を継続することを基本とする。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
下伊那南部地域公共交通対策協議会	阿南町	(温田線) 車庫前⇄温田駅前(往路2便) ※購入補助対象車両での運行(令和3年度購入)	<ul style="list-style-type: none"> ・運転免許自主返納者支援制度を運用し、高齢者の利用促進を図った。 	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	A	<p>【利用者数(人/月)】 目標:55、実績:57 ※主に高校生の通学(阿南高校)に利用される路線</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当地域の公共交通は通院、通学に欠かせない移動手段である。ターゲット別の情報提供(中学校卒業前にバスの説明会、通院先の病院での公共交通利用の呼びかけ等)、運転免許自主返納者支援制度の周知による利用者の確保に努め、運行を継続することを基本とする。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
下伊那南部地域公共交通対策協議会	天龍村	(神原線) 大河内⇄平岡郵便局(往路6便・復路6便) ※購入補助対象車両での運行(令和2年度購入)	<ul style="list-style-type: none"> ・崩落箇所の復旧が進み、安全性と利便性の向上が促進した。 ・前年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症等で利用が落ち込んでおり、利用者を増加させる施策について検討中。 	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	C	<p>【利用者数(人/月)】 目標:190、実績:156 ※主に高齢者の通院や高校生の通学に利用される路線 →通学高校生の減少と新型コロナウイルス感染症の影響による利用減</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当地域の公共交通は通院、通学に欠かせない移動手段である。通学生徒、通院利用者を含む村民へバス利用の広報周知等を行い、現在利用されていない方々への公共交通の普及浸透を図る。このことにより利用者の確保に努め、運行を継続することを基本とする。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
松本地域公共交通協議会	アルピコタクシー(株)	西部地域コミュニティバス 【A線 島内・新村線】 なぎさライフサイト～新村駅 【C線 梓川・波田線】 新村駅～八景山公民館～アイシティ21	現在の交通体系を改善し、持続可能なコミュニティバスとするため、公設民営化事業の中で、交通拠点の構築、長大な路線、収支率の低い路線の見直しを行い、地域の特性にあった利便性が高く、効率的な交通ネットワークの再編案を作成した。 再編にあたっては、各地域で意見交換会を実施し、広く意見聴取を行った。	A 計画どおり適切に事業が実施された	A 【目標値】 R2年度実績値の現状維持 利用者数 18,520人 【達成状況】(R3.10～R4.9) 利用者数 19,263人 (+4.0%)	公設民営化事業の中で再編を行う路線について、乗車データを収集し、評価・検証を行い、必要に応じて路線の見直しを行う。 再編する路線について広く情報発信を行い、広報による利用促進を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
松本地域公共交通協議会	アルピコ交通(株)	アルピコ交通 四賀線 保福寺下町～化石館 四賀地区を運行し、基幹路線のアルピコ交通四賀線のフィーダー系統	人口減少、高齢化により利用者が減少している過疎地域(山間地)において、利便性の高い交通体系への再編を、公設民営化事業の中で検討を行った。 なお、再編案においては市営バス四賀線の日中のデマンド便の対象時間を拡大することとしている。	A 計画どおり適切に事業が実施された	A 【目標値】 R2年度実績値の現状維持 利用者数 20,598人 【達成状況】(R3.10～R4.9) 利用者数 21,069人 (+2.2%)	公設民営化事業の中で再編を行う路線について、乗車データを収集し、評価・検証を行い、必要に応じて路線の見直しを行う。 再編する路線について広く情報発信を行い、広報による利用促進を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
松本地域公共交通協議会	松本市	<p>市営バス四賀線 会吉車庫～四賀支所～明科駅～保福寺下町</p> <p>四賀地区を運行し、基幹路線のアルピコ交通四賀線と接続</p>	<p>人口減少、高齢化により利用者が減少している過疎地域(山間地)において、利便性の高い交通体系への再編を、公設民営化事業の中で検討を行った。 なお、再編案においては市営バス四賀線の日中のデマンド便の対象時間を拡大することとしている。</p>	A 計画どおり適切に事業が実施された	A <p>【目標値】 R2年度実績値の現状維持 利用者数 17,671人 【達成状況】(R3.10～R4.9) 利用者数 20,292人 (+14.8%)</p>	<p>公設民営化事業の中で再編を行う路線について、乗車データを収集し、評価・検証を行い、必要に応じて路線の見直しを行う。 再編する路線について広く情報発信を行い、広報による利用促進を図る。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
松本地域公共交通協議会	松本市	<p>市営バス奈川線 松本市立病院～八景山公民館～野麦峠スキー場～川浦</p> <p>奈川地区を運行し、地区外はアルピコ交通上高地線波田駅と接続</p>	<p>公設民営化事業の中で、地域内交通を持続可能なものとするため、利用状況の分析結果から、再編案を作成した。</p> <p>再編案は、利用の少ない区間の廃止や、利用の少ない土休日の予約制利用を土曜日のみに変更するといった内容である。</p>	<p>A 計画どおり適切に事業が実施された</p>	<p>C</p> <p>【目標値】 R2年度実績値の現状維持 利用者数 7,781人</p> <p>【達成状況】(R3.10～R4.9) 利用者数 7,304人 (-6.1%)</p>	<p>公設民営化事業の中で再編を行う路線について、乗車データを収集し、評価・検証を行い、必要に応じて路線の見直しを行う。</p> <p>再編する路線について広く情報発信を行い、広報による利用促進を図る。</p> <p>乗務員の確保等の課題に対し、地域内交通を持続可能なものとするため、デマンド交通等の導入や地域資源の活用を検討していく。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
松本地域公共交通協議会	アルピコタクシー(株)	朝日広丘線バス 朝日村～JR 広丘駅	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者へのアンケート調査実施 ・朝日村ホームページより、意見・要望受付実施 ・協議会が再編され近隣市村(松本市・山形村)との連携の強化 	A 計画どおり適切に事業が実施された	A 【事業の目標】 利用者数:R2年度に対して同等以上 【達成状況】 R2年度18,697人 R3年度19,897人 前年比:106% 主要利用者である高校生の人口の減少もある中、前年度比6%増となり目標は達成できた。コロナ禍も一定の落ち着きを見せたことによる利用者の増加が要因と考えられる。地域住民に欠かせない交通手段として浸透している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページからの意見要望の受付 ・主要利用者である高校生へのアンケート調査により、利用者のニーズに沿うよう、またJRダイヤ改正に合わせてダイヤの見直し等の改善を行う。 ・松本地域公共交通協議会として、松本市・山形村との連携を密にし、朝日広丘線バスのルート変更等により運行体系の充実を図る。 ・新型コロナウイルス感染症対策の実施 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
松本地域公共交通協議会	アルピコタクシー(株)	デマンドタクシー(くるりん号)朝日村全域	<ul style="list-style-type: none"> ・朝日村ホームページより、意見・要望受付実施 ・新型コロナウイルス感染症対策の実施 	A 計画どおり適切に事業が実施された	A 【事業の目標】 利用者数：R2年度に対して同等以上 【達成状況】 R2年度8,458人 R3年度8,203人 前年比：97% 依然とコロナ禍の影響もある中、概ね目標が達成できた。村の欠かせない交通手段として定着している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページからの意見要望の受付 ・地域の高齢者の集会などで、公共交通についての講演会を行い、認知度の向上と利用促進を図る。 ・近隣市村と連携し、より充実した運行体系を検討する。 ・新型コロナウイルス感染症対策の実施 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
立科町地域公共交通活性化協議会	立科町	<p>【運行系統名】 幹線ルート(1便) ※立科町役場前～蓼科高校～立科町役場前</p> <p>車両減価償却費等国庫補助金</p>	<p>当該系統は、日常的に利用者がいるバス停を結ぶ「幹線ルート」の中で、朝の通学のための利用を想定している。年度毎の学生数により利用者が増減するため利用促進による効果は小さいが、特に例年寒さや降雪によって利用が増える冬季には対象となる地域の住民に対し、広報誌等で利用の呼びかけなどのPRを行った。また、市内小学校と連携し、学校を通じて対象地域の児童家庭に個別に利用を呼びかけるなどの利用促進も実施した。</p> <p>その他、バス利用案内(乗り方、時刻表)の全戸配布やホームページ等への運行情報掲載などを実施した。</p>	A	<p>事業は、計画通り適切に実施された。</p>	B	<p>幹線ルート全体で収支率10%という目標に対し、4.7%で目標を達成できなかったが、当該系統のみでは15.3%という結果になった。(前年度全体収支率5.4%、当該系統収支率19.4%) 路線全体としては目標を達成できていないが、当該系統においては「朝の通学利用を想定した移動確保」という役割は果たしている。 昨年度に比べ収支率が下がっているが、通学に利用する学生数やその年の降雪、積雪量に影響されるためであり、今後も一定の利用は見込むことができると推測する。</p> <p>【車両減価償却費等国庫補助金に係る目標達成状況】 「車両修繕費前年度並み維持:13千円」という目標に対し、49千円で約3.4倍に増加した。今後も経年変化による修繕費の増額が推測できるため目標値の再設定も必要と考える。</p>	<p>当該系統は、前年度から収支率が低下したものの、朝の通学のための移動手段確保という役割は一定程度果たしている。 利用者からの苦情、改善要望は出ておらず、利用者ニーズに対応した運行を実施しているものと考えられる。 今後はより多くの利用者確保に向け、ダイヤのみならずルートやバス停位置の再検証を行うなど、更に利用者の利便性向上のために必要に応じて見直しを実施していく。 また、新たな利用者獲得に向けた利用促進にも取り組む。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
立科町地域公共交通活性化協議会	立科町	<p>【運行系統名】 幹線ルート(2便) ※立科町役場前～塩沢公民館～立科町役場前</p> <p>車両減価償却費等国庫補助金</p>	<p>当該系統は、日常的に利用者がいるバス停を結ぶ「幹線ルート」の中で、朝の通学、通勤、通院での利用を想定している。特に障がい者作業所に通所する利用者は、延べ利用者数の大半を占めることを把握しており、運行計画の段階で同所の予定を基準にしたことで、利用者ニーズに沿った計画となった。</p> <p>その他、バス利用案内(乗り方、時刻表掲載)の全戸配布、ホームページや町広報誌への運行情報掲載など利用促進を実施した。</p>	A 事業は、計画通り適切に実施された。	B <p>幹線ルート全体で収支率10%という目標に対し、4.7%で目標を達成できなかったが、当該系統のみでは20.7%という結果になった。(前年度全体収支率5.4%、当該系統収支率19.9%)</p> <p>当該系統において、収支率は微増し依然として障がい者作業所への通所者が日常的に利用しているため、運行を継続していく必要がある。</p> <p>【車両減価償却費等国庫補助金に係る目標達成状況】 「車両修繕費前年度並み維持:13千円」という目標に対し、49千円で約3.4倍に増加した。今後も経年変化による修繕費の増額が推測できるため目標値の再設定も必要と考える。</p>	<p>当該系統の主な利用者である障がい者作業所への通所者の多くは、町内の障がい者支援施設で生活しているが、この施設から最寄りのバス停までは徒歩で10分ほどの場所にあり、高齢となった通所者はバス停まで行くことが困難となる場合もあることを作業所から指摘されている。</p> <p>周辺地域住民、障がい者支援施設、作業所等と調整を図り、バス停位置の再考など、バス利用を継続してもたうための策を講じることで、利用者維持と利用者の利便性確保に取り組んでいく。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
立科町地域公共交通活性化協議会	立科町	<p>【運行系統名】 幹線ルート(3、7便) ※立科町役場前～駒形神社～立科町役場前</p> <p>車両減価償却費等国庫補助金</p>	<p>当該系統は、日常的に利用者がいるバス停を結ぶ「幹線ルート」の中で、3便は午前の早い時間、7便は午後の早い時間での外出(通院、買い物等)を想定しており、商業施設の開店時間や、病院の診察開始に間に合うようダイヤ設定している。前年度と同様に利用者が少ない系統ではあるが、バス利用案内(乗り方、時刻表掲載)の全戸配布、商業施設や病院への時刻表等貼付、ホームページや町広報誌への運行情報掲載など利用促進を実施した。</p>	A	<p>事業は、計画通り適切に実施された。</p>	C	<p>幹線ルート全体で収支率10%という目標に対し4.7%、当該系統のみも1.6%で目標を達成できなかった。(前年度全体収支率5.4%、当該系統収支率2.8%) ダイヤ設定時には主な利用者である高齢者の1日の行動パターンを調査し、この結果から設定しているが、3便、7便共に利用者が少ない状況であるため、コロナ禍による行動パターンの変化等の可能性も視野に当該路線の需要について再度検討が必要と考える。</p> <p>【車両減価償却費等国庫補助金に係る目標達成状況】 「車両修繕費前年度並み維持:13千円」という目標に対し、49千円で約3.4倍に増加した。今後も経年変化による修繕費の増額が推測できるため目標値の再設定も必要と考える。</p>	<p>3便は午前の早い時間、7便は午後の早い時間の外出に対応できるようダイヤ設定をしているが、コロナ禍においては利用対象として想定している高齢者の行動パターンが変化していると推測する。 便別の利用状況では、3便、7便共に利用者が少ない状況であり、コロナ感染防止のため外出の際に公共交通利用を避けている可能性もあるため、改めて利用実態や行動パターンの調査、検証を実施し、必要に応じて見直しを実施する必要がある。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
立科町地域公共交通活性化協議会	立科町	<p>【運行系統名】 幹線ルート(4~6、8~10便) ※立科町役場前~駒形神社~立科町役場前</p> <p>車両減価償却費等国庫補助金</p>	<p>当該系統は、日常的に利用者がいるバス停を結ぶ「幹線ルート」の中で、日中及び夕方の移動に対応することを目的としている。便によっては極端に利用者が少ない状況も見受けられるが、住民の生活のため必要な系統であるため、バス利用案内(乗り方、時刻表掲載)の全戸配布、ホームページや町広報誌への運行情報掲載など利用促進を実施した。</p>	<p>A 事業は、計画通り適切に実施された。</p>	<p>C 幹線ルート全体で収支率10%という目標に対し4.7%、当該系統のみも1.6%で目標を達成できなかった。(前年度全体収支率5.4%、当該系統収支率2.8%) ダイヤ設定時には主な利用者である高齢者の1日の行動パターンを調査し、この結果から設定しているが、3便、7便共に利用者が少ない状況であるため、コロナ禍による行動パターンの変化等の可能性も視野に当該路線の需要について再度検討が必要と考える。 【車両減価償却費等国庫補助金に係る目標達成状況】 「車両修繕費前年度並み維持:13千円」という目標に対し、49千円で約3.4倍に増加した。今後も経年変化による修繕費の増額が推測できるため目標値の再設定も必要と考える。</p>	<p>3便は午前の早い時間、7便は午後の早い時間の外出に対応できるようダイヤ設定をしているが、コロナ禍においては利用対象として想定している高齢者の行動パターンが変化していると推測する。 便別の利用状況では、3便、7便共に利用者が少ない状況であり、コロナ感染防止のため外出の際に公共交通利用を避けている可能性もあるため、改めて利用実態や行動パターンの調査、検証を実施し、必要に応じて見直しを実施する必要がある。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
立科町地域公共交通活性化協議会	立科町	<p>【運行系統名】 西・南回り線(1,2便) ※立科町役場前～蟹窪～立科町役場前</p>	<p>当該系統は、当町の中心地である芦田地区をハブとし、西部地区、南部地区を運行している「西・南回り線」の中で午前の早い時間帯に外出することを想定している。運行対象地域は過去の実績からバス利用者が限定的であるため乗車率向上のため、曜日運行(月、水、金曜)を導入している。利用者は少ないものの、地域住民の主に芦田地区への外出(買い物、通院等)のため欠かすことができない生活交通であり、維持が必要のためバス利用案内の全戸配布、ホームページや町広報誌への運行情報掲載など利用促進に努めた。</p>	<p>A 事業は、計画通り適切に実施された。</p>	<p>B 西・南回り線全体で収支率6%という目標に対し4.0%、当該系統のみでも5.5%で目標を達成できなかった。(前年度全体収支率3.6%、当該系統収支率5.0%) 当該系統において運行している便毎の利用実績では系統の利用者数365人のうち1便は4人、2便が361人であり、第1便(7:52始、8:47終)については需要とのミスマッチがあるため運行の必要性について見直したい。</p>	<p>元々、利用者が少ない地域を運行する設定のため利用促進による効果は薄いと考えられるが、系統維持のため収支改善が必須であり、粘り強くバス利用についてPRを実施する。また、需要がない便の減便など効率向上のため運行ダイヤ等の見直しについて地域住民等と協議しながら実施したい。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
立科町地域公共交通活性化協議会	立科町	<p>【運行系統名】 西・南回り線(3～5便) ※老人福祉センター～蟹窪～立科町役場前</p>	<p>当該系統は、当町の中心地である芦田地区をハブとし、西部地区、南部地区を運行している「西・南回り線」の中で日中の時間帯(概ね午前10時～午後4時)に外出することを想定している。運行対象地域は過去の実績からバス利用者が限定的であるため乗車率向上のため、曜日運行(月、水、金曜)を導入している。利用者は少ないものの、地域住民の主に芦田地区への外出(買い物、通院等)のため欠かすことができない生活交通であり、維持が必要のためバス利用案内の全戸配布、ホームページや町広報誌への運行情報掲載など利用促進に努めた。</p>	<p>A 事業は、計画通り適切に実施された。</p>	<p>B 西・南回り線全体で収支率6%という目標に対し4.0%、当該系統のみでも5.5%で目標を達成できなかった。(前年度全体収支率3.6%、当該系統収支率5.0%) 目標は達成できなかったものの、収支率前年度比0.5%増と微増し、当該系統は西・南回り線全体の利用者数1,041人のうち、約64%の665人が利用しており、需要に対応して一定の役割は果たしていると考え。 引き続き利用促進を実施するなど利用者の維持確保に努める。</p>	<p>元々、利用者が少ない地域を運行する設定のため利用促進による効果は薄いと考えられるが、系統維持のため収支改善が必須であり、粘り強くバス利用についてPRを実施する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
立科町地域公共交通活性化協議会	立科町	<p>【運行系統名】 西・南回り線(6、7便) ※老人福祉センター～蟹窪～立科町役場前</p>	<p>当該系統は、当町の中心地である芦田地区をハブとし、西部地区、南部地区を運行している「西・南回り線」の中で夕方の時間帯(概ね午後4時～午後6時台)に外出先から帰宅することを想定している。運行対象地域は過去の実績からバス利用者が限定的であるため乗車率向上のため、曜日運行(月、水、金曜)を導入している。利用者は少ないものの、地域住民の主に芦田地区への外出(買い物、通院等)のため欠かすことができない生活交通であり、維持が必要なためバス利用案内の全戸配布、ホームページや町広報誌への運行情報掲載など利用促進に努めた。</p>	<p>A 事業は、計画通り適切に実施された。</p>	<p>C 西・南回り線全体で収支率6%という目標に対し4.0%、当該系統のみでも0.2%で目標を達成できなかった。(前年度全体収支率3.6%、当該系統収支率0.2%) 前年度に続きほとんど利用がなく、特に第7便については過去2年間で利用者が全くいないため、減便対象とする。</p>	<p>第6便、第7便共に利用者が非常に少なく、協議会及び運行事業者と協議した結果、令和4年10月から第7便を廃止した。第6便については、利用は少ないものの、固定の利用客がいることを確認しており、西・南回り線において夕方の時間帯の便を全くなくしてしまうことは住民の利便性を大きく低下させてしまう可能性があるため、存続させることとしている。 (第6便 16:22始、17:39終) 今後も系統維持のため収支改善が必須であり、粘り強くバス利用についてPRを実施する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
立科町地域公共交通活性化協議会	立科町	<p>【運行系統名】 東回り線(1～3、5便) ※立科町役場前～藤沢公民館～立科町役場前</p>	<p>当該系統は、当町の中心地である芦田地区と東部地区を結ぶ「東回り線」の中で午前中及び午後の一部の時間帯を運行している。運行対象の地域は過去の実績からバス利用者が限定的であるため乗車率の向上のため、曜日運行(火、木、土曜)を導入している。利用者は少ないものの、地域住民の主に芦田地区への外出(買い物、通院等)のため欠かすことができない生活交通であり、維持が必要なためバス利用案内の全戸配布、ホームページや町広報誌への運行情報掲載など利用促進に努めた。</p>	<p>A 事業は、計画通り適切に実施された。</p>	<p>A 東回り線全体で収支率4%という目標に対し、4.2%で目標を達成した。また、当該系統のみでも5.7%と全体目標を上回る結果となった。(前年度全体収支率2.6%、当該系統収支率3.8%) 東回り線は再編前(令和元年度以前)には、バスが通っていなかった地域でも運行し、それまでバスを利用することができなかった住民にもバスの存在が浸透してきていることが目標達成の一因であると推測する。</p>	<p>目標を達成したが、過去の実績から目標値を低めに設定したことや、目標達成の要因が「地域住民への浸透」と推測できることから、今後更に収支率改善を目指し、粘り強くバス利用についてPRを実施する。また、利用者へのヒアリング等は継続的に実施し、ニーズの把握と必要に応じた改善を実施し、利便性向上を目指す。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
立科町地域公共交通活性化協議会	立科町	<p>【運行系統名】 東回り線(4便) ※老人福祉センター～藤沢公民館～立科町役場前</p>	<p>当該系統は、当町の中心地である芦田地区と東部地区を結ぶ「東回り線」の中で正午前後の時間帯を運行している。運行対象の地域は過去の実績からバス利用者が限定的であるため乗車率の向上のため、曜日運行(火、木、土曜)を導入している。利用者は少ないものの、地域住民の主に芦田地区への外出(買い物、通院等)のため欠かすことができない生活交通であり、維持が必要なためバス利用案内の全戸配布、ホームページや町広報誌への運行情報掲載など利用促進に努めた。</p>	<p>A</p> <p>事業は、計画通り適切に実施された。</p>	<p>A</p> <p>東回り線全体で収支率4%という目標に対し、4.2%で目標を達成した。また、当該系統のみでも9.2%と全体目標を上回る結果となった。(前年度全体収支率2.6%、当該系統収支率4.3%) 第4便は東回り線全体の利用者665人の中で第2便244人に次ぐ209人、全体の約31%の利用があり、利用者の需要に沿った運行を実施していると考えられる。 また、東回り線は再編前(令和元年度以前)には、バスが通っていなかった地域でも運行し、それまでバスを利用することができなかった住民にもバスの存在が浸透してきていることが目標達成の一因であると推測する。</p>	<p>目標を達成したが、過去の実績から目標値を低めに設定したことや、目標達成の要因が「地域住民への浸透」と推測できることから、今後更に収支率改善を目指し、粘り強くバス利用についてPRを実施する。 また、利用者へのヒアリング等は継続的に実施し、ニーズの把握と必要に応じた改善を実施し、利便性向上を目指す。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
立科町地域公共交通活性化協議会	立科町	<p>【運行系統名】 東回り線(6～8便) ※老人福祉センター～藤沢公民館～立科町役場前</p>	<p>当該系統は、当町の中心地である芦田地区と東部地区を結ぶ「東回り線」の中で夕方(第6便15:36始～第8便18:01終)の時間帯を運行している。運行対象の地域は過去の実績からバス利用者が限定的であるため乗車率の向上のため、曜日運行(火、木、土曜)を導入している。利用者は少ないものの、地域住民の主に芦田地区への外出(買い物、通院等)のため欠かすことができない生活交通であり、維持が必要なためバス利用案内の全戸配布、ホームページや町広報誌への運行情報掲載など利用促進に努めた。</p>	<p>A 事業は、計画通り適切に実施された。</p>	<p>C 東回り線全体で収支率4%という目標に対し、4.2%で全体では目標を達成したが、当該系統では0.2%で目標を大きく下回った。(前年度全体収支率2.6%、当該系統収支率0.1%) 東回り線の他の系統では、それぞれ目標を上回る収支率となったが、当該系統は昨年度に引き続き目標を達成できず、東回り線全体の収支率を低下させる要因になっている。</p>	<p>第6便～第8便全ての便で利用者が非常に少なく、協議会及び運行事業者と協議した結果、令和4年10月から第7便及び第8便を廃止した。 第6便については、利用は少ないものの、僅かに利用客がいること、東回り線において夕方の時間帯の便を全くなくしてしまうことは住民の利便性を大きく低下させてしまう可能性があるため、存続させることとしている。 (第6便 15:36始、16:28終) 今後も系統維持のため収支改善が必須であり、粘り強くバス利用についてPRを実施する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
立科町地域公共交通活性化協議会	立科町	<p>【運行系統名】 シラカバ線 ※立科町役場前～女神湖～東白樺湖</p>	<p>当該系統は、町民の生活交通と観光交通の両方を担っており、当町の中心地である芦田地区(立科町役場前)と観光地である白樺高原エリアを結んでいる。令和2年度の再編時には生活交通と観光交通のバランスを考え、可能な限り両方に対応するため平日のみ午前中の買い物や通院での利用を想定した便を増設するなど、観光事業者として白樺高原エリアで生活する住民の意見を反映したダイヤ設定としている。また、同エリアから通学、通園する子供たちは当該系統をスクールバスの代替として日常的に利用しており、学校等と連携して毎月の運行計画を立てるなど、地域のニーズに則した運行に努めた。また、観光客への対応として、町観光部署や観光協会と連携し、各施設に公共交通利用案内を配架したほか、ホームページや町広報誌に運行情報を掲載するなど利用促進も実施した。</p>	<p>A 学校や観光部署等との調整により、運行の増減はあったが、それ以外は適切に事業実施された。</p>	<p>A 収支率25%という目標に対し、35.0%で目標を達成した。(前年度収支率28.5%) 要因としては、新型コロナウイルス感染拡大による行動制限が緩和され観光地のトップシーズンである8月の利用者数が前年度693人に比べ893人で200人増加するなど、観光客の利用が回復したことにありと推測する。(他の月は前年度並)</p>	<p>当該系統は、観光トップシーズンである8月を除き、日常的な利用者は通学、通園での利用が主であり、スクールバスとしての利用者数は年度毎に変動するため、利用促進による効果は得づらいが、その他の住民の生活交通、観光客対応の観光交通としての役割を果たすため、継続的に双方機能のバランスを注視し、必要に応じて改善策に取り組む。また、観光事業者、町観光部署、観光協会等の観光事業関係者及び学校や保育園の町内施設等との連携を継続し、ニーズに応えつつ効率的な運行に努める。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
豊丘村地域公共交通会議	豊丘村	堀越線(系統①) 役場～堀越～役場	<p>本年は、令和2年7月～令和3年9月の道路改良工事が終了したため、工事前の路線及びダイヤに戻しての運行となったが、利用者の利便性を減少させることなく事業を実施することができた。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>A 令和4年度の生活交通確保維持改善計画における事業の目標数値は、豊丘村が運行する全9系統の年間利用者総数を人口の108.0%にするというもので、全9系統を包括した目標設定である。 事業実施期間(令和3年10月～令和4年9月)における年間利用者総数は9,267人で、令和4年9月末時点の人口が6,605人であることから140.3%という結果となり、新型コロナウイルス感染症の流行による、公共交通機関の利用者数への影響が懸念される状況下においても目標数値を達成することができた。 これは、高校生へのチラシ配布によるバス利用促進策実施の効果が大きいと分析している。 実績値は平成31年度131.0%(年間利用者数8,777人)、令和2年度105.9%(年間利用者数7,118人)、令和3年度130.0%(年間利用者数8,736人)と推移しており、傾向としては、率・人数ともに上昇傾向である。</p>	<p>当村のような地方部では多くの方が自動車運転免許証を所持しているが、高齢化社会の進展に伴い、免許返納者等の交通弱者の増加が見込まれる。 当村においては、特に山間部の集落と村中心部を、また、圏域の中心市である飯田市へとつながるJR飯田線市田駅とを結ぶ公共交通の役割は極めて重要であり、それを担う地域内フィーダー系統の必要性・重要性も増加しており、高校生等の通学等の利用増加も見込まれる。 近年は、平成30年4月開設の道の駅 南信州とよおかマルシェ への集客が、村内外から行えるよう、またJRや近隣自治体運行の広域バスなど他の公共交通との乗継がスムーズに行えるよう取り組みを行っている。 今後も利用者の利便性を考慮しつつ、必要なダイヤ改正等を実施しながら、公共交通機関利用促進のPRに一層力を入れていく。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、さらなる実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>
豊丘村地域公共交通会議	豊丘村	堀越線(系統②) 役場～堀越～役場					
豊丘村地域公共交通会議	豊丘村	佐原線(系統①) 役場～長沢～役場					
豊丘村地域公共交通会議	豊丘村	佐原線(系統②) 役場～長沢～役場					
豊丘村地域公共交通会議	豊丘村	福島線 役場～福島～役場					
豊丘村地域公共交通会議	豊丘村	壬生沢線 役場～壬生沢～役場					
豊丘村地域公共交通会議	豊丘村	壬生沢福島線(系統①) 役場～千駄木～役場					
豊丘村地域公共交通会議	豊丘村	壬生沢福島線(系統②) 役場～千駄木～役場					
豊丘村地域公共交通会議	豊丘村	滝川阿島北県道線 役場～阿島北～役場					

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
茅野市・原村 地域公共交通活性化協議会	アルピコ交通(株)	御狩野線(通学支援便)	継続的に学校との協議を実施するとともに、学生、保護者会への呼びかけなどを実施した。また、利用促進に向け携帯版時刻表を茅野市内全戸に配布など取り組んだ。さらに、地域一体となって新たな改善策及びその具体化についても検討を進め令和4年10月から新たな交通体系での運行を開始した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標値:84人/日 達成状況:61人/日(72.6%) 原因としては、コロナ禍による家族の送迎があったものと考えられる。	令和4年10月からの市内交通体系の見直しに伴い、通学・通勤バスとして新たな運行を開始した。今後も学生の移動手段を確保するため、学校側との継続的な協議を行いつつ運行を継続していくとともに、新入学生なども含めたバス利用の呼びかけなど、利用者増加に向けた取り組みを行っていく。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
茅野市・原村地域公共交通活性化協議会	アルピコ交通(株)	メルヘン街道バス	<p>持続可能な公共交通に向け、従来から取り組んでいる市内全路線の時刻表作成や市HPに路線別の路線図、時刻表、バスの乗り案内に加え、携帯版時刻表を改善し作成、全戸に配布するなど利用促進に向けた情報発信に取り組んだ。</p> <p>また、事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートを実施し問題点の把握に取り組んだ。</p>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C <p>目標値:25人/日 達成状況:22人/日(88.0%)</p> <p>月別の利用状況から新型コロナウイルスの第5波が終息した5月からは目標値を上回っており、年度前半の外出自粛による影響が大きいと考えている。</p>	<p>当該路線は、今後検討を進める令和4年10月から実施した市内交通体系再編の2弾改変路線に位置付けており、来年度策定予定である地域公共交通計画において、さらに検討を進める予定である。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
茅野市・原村地域公共交通活性化協議会	アルピコ交通㈱	市街地循環バス	<p>持続可能な公共交通に向け、従来から取り組んでいる市内全路線の時刻表作成や市HPに路線別の路線図、時刻表、バスの乗り案内に加え、携帯版時刻表を改善し作成、全戸に配布するなど利用促進に向けた情報発信に取り組んだ。</p> <p>また、事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートを実施し問題点の把握に取り組んだ。一方で、令和4年10月からの新たな市内交通体系の見直しを進めてきた。</p>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 前年度からの落ち込んだ利用者数のまま推移し、目標を達成した月はなく、コロナ禍による外出自粛や交通手段の変更が大きく影響しているものと考えられる。	<p>目標値:40人/日 達成状況:33人/日(82.5%)</p>	<p>地域一帯で抜本的な交通体系の見直しを行い、令和4年10月からAI乗合オンデマンド交通「のらざあ」に伴い本事業年度をもって廃止した。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
茅野市・原村地域公共交通活性化協議会	アルピコ交通(株)	北八ヶ岳ロープウェイ線	<p>持続可能な公共交通に向け、従来から取り組んでいる市内全路線の時刻表作成や市HPに路線別の路線図、時刻表、バスの乗り案内に加え、携帯版時刻表を改善し作成、全戸に配布するなど利用促進に向けた情報発信に取り組んだ。</p> <p>また、事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートを実施し問題点の把握に取り組んだ。一方で、令和4年10月からの新たな市内交通体系の見直しを進めてきた。</p>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 前年度からの落ち込んだ利用者数のまま推移し、昨年度を上回る利用者とはなったが、目標を達成した月はなく、コロナ禍による外出自粛や交通手段の変更が大きく影響しているものと考えられる。	<p>目標値:101人/日 達成状況:72人/日(71.3%)</p>	<p>地域一帯で抜本的な交通体系の見直しを行い、令和4年10月からAI乗合オンデマンド交通「のらざあ」に伴い観光特化型路線としての運行を開始した。今後も継続的に利用状況の把握、利用者意識の把握を行い改善に努めていく。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
茅野市・原村地域公共交通活性化協議会	アルピコ交通(株)	白樺湖線	<p>持続可能な公共交通に向け、従来から取り組んでいる市内全路線の時刻表作成や市HPに路線別の路線図、時刻表、バスの乗り案内に加え、携帯版時刻表を改善し作成、全戸に配布するなど利用促進に向けた情報発信に取り組んだ。</p> <p>また、事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートを実施し問題点の把握に取り組んだ。一方で、令和4年10月からの新たな市内交通体系の見直しを進めてきた。</p>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C <p>目標値:106人/日 達成状況:59人/日(55.7%)</p> <p>令和4年10月からの再編に先立ち、4月から朝夕の通学・通勤バスの運行を開始したとにより、利用者が分散したとともに、前年度からの落ち込んだ観光客の利用がそのまま推移したことが大きく影響しているものと考えられる。</p>	<p>地域一帯で抜本的な交通体系の見直しを行い、令和4年10月からAI乗合オンデマンド交通「のらざあ」に伴い観光特化型路線としての運行を開始した。今後も継続的に利用状況の把握、利用者意識の把握を行い改善に努めていく。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
茅野市・原村地域公共交通活性化協議会	アルピコタクシー(株)	中沢線	<p>持続可能な公共交通に向け、従来から取り組んでいる市内全路線の時刻表作成や市HPに路線別の路線図、時刻表、バスの乗り案内に加え、携帯版時刻表を改善し作成、全戸に配布するなど利用促進に向けた情報発信に取り組んだ。</p> <p>また、事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートを実施し問題点の把握に取り組んだ。一方で、令和4年10月からの新たな市内交通体系の見直しを進めてきた。</p>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 日中は、昨年度と同程度で推移していたが、令和4年10月からの再編に先立ち、4月から朝夕の通学・通勤バスの運行を開始したとにより、利用者が転換したことにより目標に達することができなかった考えられている。	<p>目標値:40人/日 達成状況:24人/日(60.0%)</p> <p>地域一帯で抜本的な交通体系の見直しを行い、令和4年4月からの通学・通勤バス、令和4年10月からAI乗合オンデマンド交通「のらざあ」に伴い本事業年度をもって廃止した。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
茅野市・原村地域公共交通活性化協議会	アルピコタクシー(株)	御狩野線(乗合タクシー)	<p>持続可能な公共交通に向け、従来から取り組んでいる市内全路線の時刻表作成や市HPに路線別の路線図、時刻表、バスの乗り案内に加え、携帯版時刻表を改善し作成、全戸に配布するなど利用促進に向けた情報発信に取り組んだ。</p> <p>また、事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートを実施し問題点の把握に取り組んだ。一方で、令和4年10月からの新たな市内交通体系の見直しを進めてきた。</p>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 前年度からの落ち込んだ利用者数のまま推移し、昨年度を上回る利用者とはなったが、目標を達成した月はなく、コロナ禍による外出自粛や交通手段の変更が大きく影響しているものと考えられる。	<p>目標値:38人/日 達成状況:24人/日(63.2%)</p>	<p>地域一帯で抜本的な交通体系の見直しを行い、令和4年10月からAI乗合オンデマンド交通「のらざあ」に伴い本事業年度をもって廃止した。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
茅野市・原村地域公共交通活性化協議会	アルピコタクシー(株)	原村循環線	<p>持続可能な公共交通に向け、従来から取り組んでいる時刻表の全戸配布や村HPに路線別の路線図、時刻表掲載など利用促進に向けた情報発信に取り組んだ。</p> <p>また、事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートを実施し問題点の把握に取り組んだ。一方で、令和4年10月からの新たな運行に向けたAI乗合オンデマンド交通の実証実験、地域公共交通計画策定に向けた調査に取り組んだ。</p>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標値:73人/日 達成状況:30人/日(41.1%) 令和4年1月の新型コロナウイルスの第5波以降、通学通勤支援便の利用者が減少し、前年同月比28%となった月もあり、新型コロナウイルスによる通学利用者の交通手段の変更が大きく影響したものと考えられる。	<p>新たな会議も発足・検討を進め、令和4年10月からは新たな運行に向けたAI乗合オンデマンド交通の実証実験を行うなどしており、来年度策定予定の地域公共交通計画策定に合わせ地域一帯で持続可能な交通体系の検討を進展させる。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
茅野市・原村地域公共交通活性化協議会	茅野バス観光(株)	丸山線	<p>持続可能な公共交通に向け、従来から取り組んでいる市内全路線の時刻表作成や市HPに路線別の路線図、時刻表、バスの乗り案内に加え、携帯版時刻表を改善し作成、全戸に配布するなど利用促進に向けた情報発信に取り組んだ。</p> <p>また、事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートを実施し問題点の把握に取り組んだ。一方で、令和4年10月からの新たな市内交通体系の見直しを進めてきた。</p>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標値:54人/日 達成状況:51人/日(94.4%) 月別の利用状況より、目標を達成した月も年間で4か月あったが、新型コロナウイルスの流行により利用者が大きく減少した月が影響していると判断している。	<p>地域一帯で抜本的な交通体系の見直しに伴い、朝夕の便は令和4年4月からは通学・通勤バスとして維持している。日中便に関しては、令和4年10月からAI乗合オンデマンド交通「のらざあ」に伴い本事業年度をもって廃止した。今後も継続的に利用状況の把握、利用者意識の把握を行い改善に努めていく。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
茅野市・原村地域公共交通活性化協議会	茅野バス観光(株)	穴山・原村線	<p>持続可能な公共交通に向け、従来から取り組んでいる市内全路線の時刻表作成や市HPに路線別の路線図、時刻表、バスの乗り案内に加え、携帯版時刻表を改善し作成、全戸に配布するなど利用促進に向けた情報発信に取り組んだ。</p> <p>また、事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートを実施し問題点の把握に取り組んだ。一方で、令和4年10月からの新たな市内交通体系の見直しを進めてきた。</p>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標値:35人/日 達成状況25人/日(71.4%) 令和4年1月の新型コロナウイルスの第5波以降、利用者が減少し、前年同月比を超えた月が2か月のみであり、新型コロナウイルスによる交通手段の変更が大きく影響したものと考えられる。	茅野市と原村を結ぶ重要な路線であり、利用状況を注視しつつ、利用者、住民の意見も聴取しながら必要に応じた利用者行動に合わせた利便性の向上、利用促進に取り組んでいく。また、来年度策定予定の地域公共交通計画策定に合わせ地域一帯で持続可能な交通体系の検討を進展させる。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
茅野市・原村地域公共交通活性化協議会	茅野バス観光(株)	豊平・泉野線	<p>持続可能な公共交通に向け、従来から取り組んでいる市内全路線の時刻表作成や市HPに路線別の路線図、時刻表、バスの乗り案内に加え、携帯版時刻表を改善し作成、全戸に配布するなど利用促進に向けた情報発信に取り組んだ。</p> <p>また、事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートを実施し問題点の把握に取り組んだ。一方で、令和4年10月からの新たな市内交通体系の見直しを進めてきた。</p>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C <p>目標値:24人/日 達成状況:16人/日(66.7%)</p> <p>令和3年10月は目標に達したが、新型コロナウイルスの第5波により、令和4年1月には半減、以低水準で推移し、新型コロナウイルスによる交通手段の変更が大きく影響したものと考えられる。</p>	<p>地域一帯で抜本的な交通体系の見直しを行い、令和4年10月からAI乗合オンデマンド交通「のらざあ」に伴い本事業年度をもって廃止した。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
茅野市・原村地域公共交通活性化協議会	茅野バス観光(株)	西茅野・安国寺線	<p>持続可能な公共交通に向け、従来から取り組んでいる市内全路線の時刻表作成や市HPに路線別の路線図、時刻表、バスの乗り案内に加え、携帯版時刻表を改善し作成、全戸に配布するなど利用促進に向けた情報発信に取り組んだ。</p> <p>また、事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートを実施し問題点の把握に取り組んだ。一方で、令和4年10月からの新たな市内交通体系の見直しを進めてきた。</p>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標値:5人/日 達成状況:4人/日(80.0%) 令和3年11月は目標に達したが、新型コロナウイルスの第5波により、令和4年1月には3割減少し、以降低水準で推移し、新型コロナウイルスによる交通手段の変更が大きく影響したものと考えられる。	地域一帯で抜本的な交通体系の見直しを行い、令和4年10月からAI乗合オンデマンド交通「のらざあ」に伴い本事業年度をもって廃止した。	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
川上村地域公共交通活性化協議会	事業者名: 川上村 運行系統名: 川上村営バス	川上村内(川端下地区~樋沢地区)の運行	<p>運営側、利用者側共に安心して公共交通が利用できるよう、車内消毒の徹底、定期的な換気等コロナ感染拡大予防対策を実施した。また、利用者にも乗車時の手指消毒、マスクの着用や会話の自粛を周知、協力していただき感染防止対策を引き続き実施した。</p> <p>高校生の通学利用者のさらなる増加を図るため、JRのダイヤ改正に合わせ、バスダイヤの見直しを行った。また、中学校卒業生や保護者を対象にバス利用のメリットや高校生通学バス助成制度の説明を実施し、バス利用の促進を図った。</p> <p>村営バスとJRの時刻表を掲載したオリジナルカレンダーを引き続き作成し、利用PRについての記載と、無料お試し乗車券を備えつけるなどして新規利用者の開拓に取り組んだ。</p> <p>外国人技能実習生や外国人観光客向けに村営バス利用促進チラシと観光パンフレットを駅待合室及びバス車内に設置し、実習生や観光客等の利用リピート率の向上に取り組んだ。</p> <p>また、実習生に対しては、村内で実施された講習会や住民登録の際に村営バス利用促進チラシを配付した。</p> <p>JR小海線と村営バスとの接続改善のダイヤ改正をJR東日本に要望した。</p>	<p>A</p> <p>計画に位置付けられた事業は適切に実施した。</p> <p>しかしながら、地域間幹線系統であるJR小海線の上下線の発着の時差が解消されず、その双方と村営バスとを接続することが引き続き困難であり、地域間交通ネットワークを充足することができなかった。</p>	<p>C</p> <p>一日平均利用者数は、春夏季68.6人、秋冬季39.9人で目標値の70人、55人をクリアできなかった。</p> <p>両季とも新型コロナウイルス感染症の影響が主な増減原因として考えられる。</p> <p>また、高校生の保護者が自家用車で駅まで送迎する家庭が多い。</p> <p>尚、外国人技能実習生によるバスやJRの利用は増加傾向にある。</p>	<p>運営側、利用者側共に安心して公共交通が利用できるよう、車内消毒の徹底、定期的な換気等コロナ感染拡大予防対策を引き続き実施する。</p> <p>高校生の通学利用者のさらなる増加を図るため、利用促進PRを引き続き実施する。</p> <p>外国人技能実習生や外国人観光客等の利用促進、リピート率の向上に向け、周知方法や利用チラシの改善を図る。</p> <p>JR小海線と村営バスとの接続改善を目指し、信濃川上駅での同時発着のダイヤ改正について、引き続きJR東日本に要望していく。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
辰野町地域公共交通会議	事業者: 辰野町 運行系統名: 町営バス川島線	○辰野町役場～デリシア・かやぶきの館～中谷	コロナ禍より前の利用者数には戻らなかった。しかし、利用者数は増加した。利用状況調査については今年度も引き続き実施予定。町営バス運営委員会で要望のあった車内表示灯を今年度設置予定であり、引き続き利用促進を図りたい。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B ○輸送人員 目標値: 9,398人 実績: 9,218人 ○収支率 目標値: 10.06% 実績: 14.99% 輸送人員は目標値に達していないが、収支率が目標値を達成できている。新型コロナウイルス感染症に伴う休校期間がなかったことなどが要因に挙げられる。	運行区域の地理的特徴を踏まえると、定時定路線バスが適しており、デマンド交通の導入が困難なことから、既存のバス運行を見直していき、利用促進を図る必要がある。利用状況調査を実施予定。住民参加型の座談会を行いたい。モビリティ・アドバイザー制度を活用し、地域の公共交通の在り方を検討していく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
辰野町地域公共交通会議	事業者:辰野町 運行系統名:町営バス飯沼線	○小野駅前～明倫館～JA支所前	コロナ禍より前の利用者数には戻らなかった。しかし、利用者数は増加した。利用状況調査については今年度も引き続き実施予定。例年は国庫補助対象外であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で対象となった。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	C ○輸送人員 目標値:2,275人 実績:1,202人 ○収支率 目標値:9.47% 実績:3.54% 輸送人員及び収支率の目標値を達成することができなかった。新たな利用者が少ない点要因として挙げられる。	運行区域の地理的特徴を踏まえると、定時定路線バスが適しており、デマンド交通の導入が困難なことから、既存のバス運行を見直していき、利用促進を図る必要がある。利用状況調査を実施予定。住民参加型の座談会を行いたい。モビリティ・アドバイザー制度を活用し、地域の公共交通の在り方を検討していく。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標値と実績値が大幅に乖離している要因について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
辰野町地域公共交通会議	事業者:辰野タクシー(株) 運行系統名:デマンド型乗合タクシー	○集落～交通不便地域～JA、辰野駅	住民ニーズの多様化や利用者数の減少による収支率の低迷などの背景により、利便性の向上に向けた実証実験を行うこととした。住民説明会や利用者アンケートを実施し、実証実験に向けた準備を行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B ○輸送人員 目標値:3,439人 実績:3,440人 ○収支率 目標値:7.72% 実績:5.42% 輸送人員はほぼ目標値となったが、収支率が達成できていない。ヘビーユーザーがいるが新たな利用者の少ないことが要因として挙げられる。	利便性の向上のため、ドア・トゥ・ドア、フリーダイヤ、当日予約の受付等の導入を行う。導入後の利用状況を見ながら、評価・検証を行い住民ニーズに対応した運行方式の実現を目指す。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新たな利用者が少ない要因について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
佐久市地域公共交通確保維持改善協議会	千曲バス株式会社	山手線 中込駅～前山～望月バスターミナル「車両減価償却費等国庫補助金」	主な利用者である高校生やバス通学を利用する可能性のある地域の保護者に対し、感染症対策の徹底やバス通学のメリットをチラシ配布により周知し、利用促進を図った。 また、今後のルート変更やダイヤ変更に向けたアンケート調査を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 【利用者数】 目標: 13,000人/年 実績: 14,549人/年 【満足度】 目標: 53.8% 実績: -% 【収支割合】 目標: 14.8% 実績: 15.18% 主な利用者や利用する可能性のある地域への積極的な周知により利用者数・収支割合ともに目標値を上回ることができた。満足度については、感染症の状況により乗込み調査ができなかったため数値無しとなっている。	引き続き利用促進のための周知を実施していくとともに、アンケート調査の結果を踏まえたルート変更・ダイヤ変更に向けた事業者との調整を進めていく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
佐久市地域公共交通確保維持改善協議会	ニュー交通 有限公司	市内全域デ マンド交通 浅間エリア 浅間地区	事業の効率化、利便性向上を目的に、市内全域コールセンターの設置やAI配車システムを導入した新たなデマンド交通の運行を開始した。 新たなデマンド交通の変更点については、市広報紙への掲載や地域での出前講座などにより住民への周知を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【利用者数】 目標:9,200人/年 実績:20,898人/年 【満足度】 目標:53.8% 実績:73.1% 【収支割合】 目標:14.8% 実績:9.7% 利用者数・満足度については目標値を大幅に上回ることができた。これは、新たなデマンド交通の運行を開始したことで利便性の向上を図ることができた結果と言える。 収支割合については、新たなデマンド交通の運行開始に伴う運賃値下げや運行経費の上昇より未達となった。	引き続き、市民の利便性を向上するための取組みについて検討し、利用者数及び満足度の水準を維持していく。 また、収支率の改善に向けて運賃収入以外の収入確保の取組を検討していく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
佐久市地域公共交通確保維持改善協議会	岩村田観光タクシー	市内全域デマンド交通 東エリア 中込エリア 中込地区	事業の効率化、利便性向上を目的に、市内全域コールセンターの設置やAI配車システムを導入した新たなデマンド交通の運行を開始した。 新たなデマンド交通の変更点については、市広報紙への掲載や地域での出前講座などにより住民への周知を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【利用者数】 目標:9,200人/年 実績:20,898人/年 【満足度】 目標:53.8% 実績:73.1% 【収支割合】 目標:14.8% 実績:9.7% 利用者数・満足度については目標値を大幅に上回ることができた。これは、新たなデマンド交通の運行を開始したことで利便性の向上を図ることができた結果と言える。 収支割合については、新たなデマンド交通の運行開始に伴う運賃値下げや運行経費の上昇より未達となった。	引き続き、市民の利便性を向上するための取組みについて検討し、利用者数及び満足度の水準を維持していく。 また、収支率の改善に向けて運賃収入以外の収入確保の取組を検討していく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
佐久市地域公共交通確保維持改善協議会	東信観光バス株式会社	市内全域デマンド交通野沢エリア野沢地区	<p>事業の効率化、利便性向上を目的に、市内全域コールセンターの設置やAI配車システムを導入した新たなデマンド交通の運行を開始した。 新たなデマンド交通の変更点については、市広報紙への掲載や地域での出前講座などにより住民への周知を行った。</p>	A 計画通り事業は適切に実施された。	B <p>【利用者数】 目標:9,200人/年 実績:20,898人/年 【満足度】 目標:53.8% 実績:73.1% 【収支割合】 目標:14.8% 実績:9.7%</p> <p>利用者数・満足度については目標値を大幅に上回ることができた。これは、新たなデマンド交通の運行を開始したことで利便性の向上を図ることができた結果と言える。 収支割合については、新たなデマンド交通の運行開始に伴う運賃値下げや運行経費の上昇より未達となった。</p>	引き続き、市民の利便性を向上するための取組みについて検討し、利用者数及び満足度の水準を維持していく。 また、収支率の改善に向けて運賃収入以外の収入確保の取組を検討していく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
佐久市地域公共交通確保維持改善協議会	浅科観光ハイヤー	市内全域デマンド交通浅科エリア浅科地区	事業の効率化、利便性向上を目的に、市内全域コールセンターの設置やAI配車システムを導入した新たなデマンド交通の運行を開始した。 新たなデマンド交通の変更点については、市広報紙への掲載や地域での出前講座などにより住民への周知を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【利用者数】 目標:9,200人/年 実績:20,898人/年 【満足度】 目標:53.8% 実績:73.1% 【収支割合】 目標:14.8% 実績:9.7% 利用者数・満足度については目標値を大幅に上回ることができた。これは、新たなデマンド交通の運行を開始したことで利便性の向上を図ることができた結果と言える。 収支割合については、新たなデマンド交通の運行開始に伴う運賃値下げや運行経費の上昇より未達となった。	引き続き、市民の利便性を向上するための取組みについて検討し、利用者数及び満足度の水準を維持していく。 また、収支率の改善に向けて運賃収入以外の収入確保の取組を検討していく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
佐久市地域公共交通確保維持改善協議会	松葉タクシー 有限会社	市内全域デマンド交通 浅間エリア 浅間地区	事業の効率化、利便性向上を目的に、市内全域コールセンターの設置やAI配車システムを導入した新たなデマンド交通の運行を開始した。 新たなデマンド交通の変更点については、市広報紙への掲載や地域での出前講座などにより住民への周知を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【利用者数】 目標:9,200人/年 実績:20,898人/年 【満足度】 目標:53.8% 実績:73.1% 【収支割合】 目標:14.8% 実績:9.7% 利用者数・満足度については目標値を大幅に上回ることができた。これは、新たなデマンド交通の運行を開始したことで利便性の向上を図ることができた結果と言える。 収支割合については、新たなデマンド交通の運行開始に伴う運賃値下げや運行経費の上昇より未達となった。	引き続き、市民の利便性を向上するための取組みについて検討し、利用者数及び満足度の水準を維持していく。 また、収支率の改善に向けて運賃収入以外の収入確保の取組を検討していく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
飯山市地域公共交通会議	長電バス株式会社	小境線(デマンド)	当該路線を含めた公共交通の時刻表を市内全戸に配布し、広くPRを行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり適切に実施された。	B 1便平均2.0人の利用者を目指したが、当年度の実績値は1.6人であった。昨年は1.5人であった。	<p>運行事業者からの利用状況報告を基に乗降場所別で年度(4月から3月)毎の利用状況を比較すると、継続利用者の多くが前年度よりも利用頻度を減らしている傾向が伺えた。一方、新規利用者もいるため、昨年よりも1便平均の利用者数が改善した。今後は、引き続き利用状況報告を基に利用状況の分析を行うほか、時刻表の配布を行うなどして利用者の増加に努めたい。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。なお、⑤の目標・効果達成状況については、継続利用者の利用減少の根本的な理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
飯山市地域公共交通会議	長電バス株式会社	温井線(デマンド)	従前は民営の路線バスが1日をとおして運行していたが、「利用サービス水準の向上」と「運行経費軽減」を目的に、沿線住民と協議を重ねた結果、通勤・通学目的の利用が多い朝と夕方は従前通りの路線バスを運行し、昼間の時間帯の運行をデマンド方式に移行した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり適切に実施された。	B 1便平均2.0人の利用者を目標としたが、当年度の実績値は1.9人であった。昨年は2.4人であった。	運行事業者からの利用状況報告を基に乗降場所別で年度(4月から3月)毎の利用状況を比較すると、継続利用者の多くが前年度よりも利用頻度を減らしている傾向が伺えた。 今後は、引き続き利用状況報告を基に利用状況の分析を行うほか、時刻表の配布を行うなどして利用者の増加に努めたい。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、継続利用者の利用減少の根本的な理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
塩尻市地域公共交通会議	アルピコタクシー(株)	<p>●北小野線(勝弦先廻り)</p> <p>塩尻駅前～塩尻東保育園前～塩嶺別荘口～勝弦詰所前～小野駅前～小野駅西～塩尻東保育園前～塩尻駅前(古町先廻り)</p> <p>塩尻駅前～塩尻東保育園前～小野駅前～勝弦詰所前～塩嶺別荘口～塩尻東保育園前～塩尻駅前</p>	<p>前回計画では、引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響で利用者が落ち込み、目標値を下回る結果となったため、概ね同水準の目標値を設定した。</p> <p>利用者回復に向けた取り組みとしては、令和4年5月1日にダイヤ改正を実施し、それに伴い経路の延伸及びフリー降車制度を導入した。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された</p>	<p>C 背景として、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が続いたためと推測される。行動制限等は緩和され社会経済活動が少しずつ戻ってきたが、コロナ前の水準には程遠く改善は厳しかった。</p>	<p>1便当たり11人、年間利用者数目標12,980人の目標値に対し、それぞれ7.8人、9,220人と目標値を下回る結果となった。</p>	<p>令和4年度に行ったダイヤ改正及び経路の見直し、新制度の導入がどのような効果をもたらすか把握するとともに、利用者ニーズに常に目を配り利便性の向上を図る。</p> <p>また、利用促進に向けては、改正と合わせて時刻表を全戸配布するなど周知徹底を図る。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
諏訪市地域公共交通活性化協議会	アルピコ交通株式会社	<p>・すわライナー時計回り線 (※原則毎日運行) 日赤病院⇒上諏訪駅(霧ヶ峰口)・上社⇒上諏訪駅(諏訪湖口)</p>	<p>■令和3年4月1日ダイヤ路線改正により利用者より寄せられた意見等を反映して、新たにかりんちゃんバス子バス東西線を新設し運行した。</p> <p>■市内を運行する公共交通全体の利用促進を図るため、市民に対してのかりんちゃんバスの周知活動を行った。</p> <p>・「広報すわ」を活用した利用案内を行った</p> <p>・諏訪市社会福祉協議会と連携し、高齢者を対象とした無料体験乗車企画を計画した</p>	B	<p>■「広報すわ」を活用した利用促進活動は実施することができた。新型コロナウイルス感染防止対策をとりながら諏訪市社会福祉協議会と連携して高齢者無料体験乗車を企画したが、コロナの影響により今年も延期せざるを得なかった。</p>	B	<p>■令和3年12月に当市で策定した「第六次諏訪市総合計画後期基本計画」に記載されている、対象路線を含むかりんちゃんバス全体の目標値である362日運行及び年間利用者数84,165人は達成することが出来たが、1便当たりの利用者目標数値(7.5人/便)は達成することが出来なかった。</p> <p>かりんちゃんバス7系統利用者実績(補助対象期間中) 365日運行、14,964便、利用者数102,021人、6.0人/便</p> <p>■新型コロナウイルス感染症に伴う移動自粛によるもの考える。</p>	<p>■目標値の維持及び向上に向け、市内で運行する公共交通全体の利用促進を図るため、コロナ対策をしたうえで、引き続き市民に対しての周知活動やイベント等でのモビリティマネジメント事業を継続的に実施する。</p> <p>・次回こそ市高齢者福祉課や諏訪市社会福祉協議会と連携した、高齢者を対象とした体験乗車企画し、実施する。</p> <p>・安心安全にバスを利用できるよう、換気装置等を整備し「新しい生活様式」に対応した車両を順次配備する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
諏訪市地域公共交通活性化協議会	諏訪交通株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・東山線反時計回り (※原則毎日運行) 上諏訪駅(諏訪湖口)⇒日赤病院⇒上諏訪駅(諏訪湖口) ・東山線時計回り (※原則毎日運行) 上諏訪駅(諏訪湖口)⇒尾玉町入口⇒上諏訪駅(諏訪湖口) ・東西線反時計回り (※原則毎日運行) 新田上⇒上諏訪駅(諏訪湖口)⇒大熊⇒上諏訪駅(諏訪湖口)⇒新田上 ・東西線時計回り (※原則毎日運行) 新田上⇒上諏訪駅(諏訪湖口)⇒大熊⇒上諏訪駅(諏訪湖口)⇒新田上 	<p>■令和3年4月1日ダイヤ路線改正により利用者より寄せられた意見等を反映して、新たにかりんちゃんバス子バス東西線を新設し運行した。</p> <p>■市内を運行する公共交通全体の利用促進を図るため、市民に対してのかりんちゃんバスの周知活動を行った。</p> <p>・「広報すわ」を活用した利用案内を行った</p> <p>・諏訪市社会福祉協議会と連携し、高齢者を対象とした無料体験乗車企画を計画した</p>	B	<p>■「広報すわ」を活用した利用促進活動は実施することができた。新型コロナウイルス感染防止対策をとりながら諏訪市社会福祉協議会と連携して高齢者無料体験乗車を企画したが、コロナの影響により今年も延期せざるを得なかった。</p>	B	<p>かりんちゃんバス7系統利用者実績(補助対象期間中) 365日運行、14,964便、利用者数102,021人、6.0人/便</p> <p>■新型コロナウイルス感染症に伴う移動自粛によるもの考える。</p>	<p>■目標値の維持及び向上に向け、市内で運行する公共交通全体の利用促進を図るため、コロナ対策をしたうえで、引き続き市民に対しての周知活動やイベント等でのモビリティマネジメント事業を継続的に実施する。</p> <p>・次回こそ市高齢者福祉課や諏訪市社会福祉協議会と連携した、高齢者を対象にした体験乗車企画し、実施する。</p> <p>・安心安全にバスを利用できるよう、換気装置等を整備し「新しい生活様式」に対応した車両を順次配備する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
西部コミュニティバスを守り育てる会	根羽村	運行系統名: 西部コミュニティバス(阿智中学校行き) 運行区間: 根羽村~阿智中学校	車両更新に併せて実施したラッピングについては概ね好評を得ているが、利用者の増加につながってはならず、検討を開始した地域内の高齢者の利用料無料化等、引き続き一般利用者の増を図る必要がある。	A 学校の長期休業実施期間と事業計画と比較し運行回数は増となった。	C 令和3年6月の計画策定時の年間利用者目標9,330人(令和3年4月から令和4年3月)に対し、冬場を中心に帰路での利用者が目標を大きく下回ったこともあり、8,087人となった。	引き続き新型コロナウイルス感染症の影響、少子化等により大幅な利用者増が望めない状況であるが、地域で唯一の公共交通機関として、適切な感染予防対策を行った上で、定期路線運行を維持させる必要がある。減少傾向にある学生の利用については、引き続き適切な目標設定に努める。地域内の利用者の他にも、観光での利用等、近隣自治体等とも連携してPRを積極的に行っていくとともに、高齢者の無料化について引き続き検討していく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
西部コミュニティバスを守り育てる会	根羽村	運行系統名: 西部コミュニティバス(阿智高校止まり) 運行区間: 根羽村~阿智高校	車両更新に併せて実施したラッピングについては概ね好評を得ているが、利用者の増加につながってはならず、検討を開始した地域内の高齢者の利用料無料化等、引き続き一般利用者の増を図る必要がある。	A 計画どおり運行できた。	C 令和3年6月の計画策定時の年間利用者目標9,330人(令和3年4月から令和4年3月)に対し、冬場を中心に帰路での利用者が目標を大きく下回ったこともあり、8,087人となった。	引き続き新型コロナウイルス感染症の影響、少子化等により大幅な利用者増が望めない状況であるが、地域で唯一の公共交通機関として、適切な感染予防対策を行った上で、定期路線運行を維持させる必要がある。減少傾向にある学生の利用については、引き続き適切な目標設定に努める。地域内の利用者の他にも、観光での利用等、近隣自治体等とも連携してPRを積極的に行っていくとともに、高齢者の無料化について引き続き検討していく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
駒ヶ根市地域公共交通協議会	伊南乗用自動車有限会社	<p><「ア・イ・ウ」エリア> 【こまタク】竜東地区～共通指定目的地(JR駒ヶ根駅含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■平日毎日運行を継続的に実施 ■バス部会・タクシー部会での改善策検討 ■利便性向上のための実証実験を実施 ■市報やHP等で広報活動を展開 ■運転免許証自主返納支援事業を継続的に実施し、利用登録者数の増加に寄与 ■高齢者関連部署と連携した割引タクシー券・福祉タクシー券の交付を通年実施 ■利用促進チラシ制作 ■脱マイカーを推進するサイトを公開 ■停留所・待合所案内表示等の更新を実施 	A	計画どおり適切に実施された	<p>B</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用登録者数 【目標】1,700人以上 【実績】1,715人 【考察】運転免許証自主返納支援事業の推進、その他広報展開により新規登録者は堅調。 2. 総利用者数 【目標】6,300人以上 【実績】4,834人 【考察】新型コロナウイルスの影響により、低調に推移。買い物は回数を抑えてまとめ買い、通院も感染予防から回数を控えている。 3. 運行率 【目標】88%以上 【実績】81% 【考察】新型コロナウイルスの影響により、低調に推移。 4. 人口カバー率 【目標】100% 【実績】100% 【考察】現状維持を継続 	登録者数・利用者数の増加に向けて、引き続き「平日毎日運行」を実施するとともに、予約方法の多様化や、サービスそのものの利便性の向上、さらには効果的な広報活動を展開する必要がある。	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、利用登録者数の増加に対して総利用者数が低調である要因について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
駒ヶ根市地域公共交通協議会	赤穂タクシー有限公司	<p><「エ・オ」エリア> 【こまタク】竜西地区～共通指定目的地(JR駒ヶ根駅含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■平日毎日運行を継続的に実施 ■バス部会・タクシー部会での改善策検討 ■利便性向上のための実証実験を実施 ■市報やHP等で広報活動を展開 ■運転免許証自主返納支援事業を継続的に実施し、利用登録者数の増加に寄与 ■高齢者関連部署と連携した割引タクシー券・福祉タクシー券の交付を本年実施 ■利用促進チラシ制作 ■脱マイカーを推進するサイトを公開 ■停留所・待合所案内表示等の更新を実施 	A	計画どおり適切に実施された	B	<p>1. 利用登録者数 【目標】1,700人以上 【実績】1,715人 【考察】運転免許証自主返納支援事業の推進、その他広報展開により新規登録者は堅調。</p> <p>2. 総利用者数 【目標】6,300人以上 【実績】4,834人 【考察】新型コロナウイルスの影響により、低調に推移。買い物は回数を抑えてまとめ買い、通院も感染予防から回数を控えている。</p> <p>3. 運行率 【目標】88%以上 【実績】81% 【考察】新型コロナウイルスの影響により、低調に推移。</p> <p>4. 人口カバー率 【目標】100% 【実績】100% 【考察】現状維持を継続</p>	登録者数・利用者数の増加に向けて、引き続き「平日毎日運行」を実施するとともに、予約方法の多様化や、サービスそのものの利便性の向上、さらには効果的な広報活動を展開する必要がある。	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、利用登録者数の増加に対して総利用者数が低調である要因について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
中川村地域公共交通会議	中川村	地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金 1)南回り線 大草～JR伊那大島駅	コロナ禍の影響が大きかった前回は評価が難しい状況にあった。今年度も引き続きのコロナ禍であるが、感染対策を継続しながら利用を呼びかけ。運行内容の大枠は変更はせず前回通り。	A 事業は計画に位置付けられたとおり適切に実施された	C 月平均利用者目標値1,353人に対して、実績値970人(72%)。コロナの影響が最も大きかった昨年に比べ3%ほど改善している。利用者満足度は目標値80%に対して74%(R3調査値)で下回る。	利用は低調であるが、現行の公共交通計画の期間内はこの運行形態を継続。計画期間内に日中デマンド化に向けて実証運行を行い、移行していく見込み。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。また、生活確保維持改善計画に掲げる「年間乗車券および年間定期券購入者数」に関する目標の達成状況等についても調査、分析した上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
中川村地域公共交通会議	中川村	地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金 2)北回り線 大草～JR飯島駅	コロナ禍の影響が大きかった前回は評価が難しい状況にあった。今年度も引き続きのコロナ禍であるが、感染対策を継続しながら利用を呼びかけ。運行内容の大枠は変更はせず前回通り。	A 事業は計画に位置付けられたとおり適切に実施された	C 月平均利用者数目標値972人に対して、実績値809人(83%)。コロナに加え、北方面へ通学する高校生の少ない年代であり、昨年は低調であったが、今年度は利用が戻り8%改善。満足度は同上。	利用は低調であるが、現行の公共交通計画の期間内はこの運行形態を継続。計画期間内に日中デマンド化に向けて実証運行を行い、移行していく見込み。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。また、生活確保維持改善計画に掲げる「年間乗車券および年間定期券購入者数」に関する目標の達成状況等についても調査、分析した上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
千曲市地域公共交通活性化協議会	更埴観光タクシー株式会社	系統名: 東部地区デマンド型乗合タクシー 運行エリア: 千曲市東部地区	平成26年度から取り組んでいる、地元商店街と連携し、商店街のスタンプカードとバスの回数券との交換事業、平成27年度から取り組んでいる利用予約支援サービス、平成29年度から取り組んでいる運転免許自主返納者への3,600円分の補助については、今年度も引き続き実施した。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者を集めての事業実施はできなかった。	B 計画にある事業はおおむね実施できた。新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら、乗車体験会など、利用者と対面する事業の開催を検討していく。	C 計画に位置づけられた目標を達成できなかった 目標値: 1便あたり2.0人 実績値: 1便あたり1.7人 乗合が進まず、目標値に達しなかった。運行回数、利用者数ともに前年度を若干下回った。 R3 1便あたり1.8人 運行回数: 1,462回 利用者数: 2,643人 R4 1便あたり1.7人 運行回数: 1,450回 利用者数: 2,572人	新型コロナウイルス感染症予防対策(アルコール消毒、マスク着用、ソーシャルディスタンス)を行いながら事業実施ができるよう工夫していく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
大鹿村地域公共交通会議	伊那バス株式会社	①大鹿線(鹿塩・大河原) ②大鹿線(松川インター・日赤) ③大鹿線(松川インター)	・松川インター大鹿線の改良工事の効果により運行時間が短縮され、ダイヤ改正のお知らせを村内広報誌により周知する。 ・利用者が風雨を凌げるバス停設置に向け現在工事発注の手続きを行っている。	B 本路線利用者で多いのは高校生である。最寄りの駅までの唯一の公共交通機関であり今後においても路線路維持は必要不可欠である。また高齢化率は県下2位であり交通弱者が近隣市町村の通院や買い物等にも利用されている。	A 目標値:6.36 実績:7.39※ (※利用数6,844人/人口926人 R4.12.31現在) コロナ禍ではあるが、以前より高校生の利用者数が増加したことにより目標値を上回った。	コロナ感染状況を鑑みて新高校生のため中学校3年生にワークショップを開催する予定である。また高校生他日常的に利用している方々が安心して利用できるよう感染対策の徹底を行う。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点としては、生活交通確保維持改善計画に位置付けられたとおり適切に事業を実施し、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
喬木村地域公共交通会議	北部タクシー(有)	氏乗線(第5・6便) 矢筈こんにやく～飯田駅前	<p>新型コロナウイルスの影響により大きく減少した利用者数を取り戻すため、432人以上の増加を目指し、1週間に1回利用する方を9人増加させることを見込んで目標設定並びに計画の策定を行った。</p> <p>関連して、バス利用方法等について、後期高齢者の医療制度説明会で毎月説明を行った他、高齢者の集会でも説明を行った。</p> <p>また、自身が利用する便だけを記録することができる「マイパスポート」の作成支援を行った。</p>	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	C <p>目標利用人数2,462人に対して、利用者は2,063人と前年度から横ばいであり、目標値の83.8%となった。</p> <p>65歳以上の村民の方に発行する無料バスは55名から申請があり新規利用につながった。</p> <p>一方で、目標利用人数が達成できなかった主な原因としては、依然として新型コロナウイルス感染症の影響による外出及び公共交通機関の利用控えと思われる。</p> <p>また、無料バスを利用する高齢者の方が亡くなっていることも大きな要因である。</p> <p>実績は以下のとおり。 【氏乗線】 R2:2,454人 R3:2,058人 R4:2,063人</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の感染防止策として、利用者への体温計測やマスク着用、消毒液の噴霧を徹底する。</p> <p>また、感染対策をバス内で徹底しており、安心して利用できる旨を周知する。</p> <p>高齢者の利用促進を図るため、引き続き、高齢者の集会等において、無料バスやバス利用方法の周知を行う。また、毎月1回の後期高齢者医療制度の説明会においても周知する。</p> <p>加えて、自身が利用する便を分かりやすくまとめた「マイパスポート」の作成支援を行うことで、継続的なバス利用者の増加を図る。</p> <p>また、現状無料バスや学生バスの使用は乗務員への掲示となっているが、今後はマイナンバーカードを使用した公共交通利用に係る利便性の向上についても研究していく。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
高山村地域公共交通協議会	北信タクシー株式会社 長電タクシー株式会社	高井中山線	<p>デマンド乗合タクシーの運行開始から4年が経過した。新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、イベントの中止や外出控えの傾向により、利用者の減少が継続しており、状況を注視していたが、コロナ前の水準までの改善には至らなかった。老人クラブや民生委員の会議及び研修会の場において、利用方法に関する説明等は継続して実施した。また、村広報紙により案内周知を行った。</p>	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	A <p>【利用者数(人/日)】</p> <p>目標値 2.0人/日</p> <p>実績値 2.1人/日</p> <p>(延利用者205人÷計画日数96日)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、今年度においても特定の利用者が大半の中で、主な要因であると考えられる医療機関の通院利用者や温泉施設利用者の減少、また高齢者サロンの中止に伴う利用者数の減少が継続している状態であるが、目標値を達成することが出来た。</p>	<p>デマンド乗合タクシー(高井中山線)は、幹線系統が行き届かない地域内移動の円滑性を確保するために、平成30年10月から新たに導入したものである。利用者は概ね高齢者であり、高齢者センターの温泉利用、診療所等の通院、保健福祉総合センターで開催されるサロンに行くための足として特定の者が利用している。</p> <p>現状においては、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化していることから、不透明な点も多いが、今後も感染の状況や影響を注視していく中で、本システムを維持するため各地区への説明会を継続していくことや、老人クラブや民生委員等の会議や研修会の場を活用するなど、あらゆる機会を捉えながら周知を行い、新規利用者の増加を図っていきたい。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
中野市・山ノ内町地域公共交通対策協議会	山ノ内町	西・北部ルート①	<p>前回評価の改善点として挙げた、午後の時間帯における復路の増便について、増便に向けたダイヤ改正の調整を行った。改正はR4.10.1に実施。</p>	<p>A 計画通り適切に実施された。</p>	<p>C 設定した目標値、1日あたり利用者数11人以上に対し、10.4人であった。</p>	<p>改善点に向けた、ダイヤ改正を実施したため、利用者動向を確認しつつ、引き続き、利用者ニーズの把握に努めていく。 また、中野市・山ノ内町地域公共交通計画にデマンド交通の有効性や新たな公共交通のあり方について検討する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
中野市・山ノ内町地域公共交通対策協議会	山ノ内町	西・北部ルート②	<p>前回評価の改善点として挙げた、利用促進のための広報について、毎月の利用者数のお知らせ、また、回数券の周知等をそれぞれ毎月実施した。</p>	<p>A 計画通り適切に実施された。</p>	<p>A 設定した目標値、1日あたり利用者数5人以上に対し、5.2人であり、目標を達成した。</p>	<p>利用者ニーズの把握を継続的に実施する。 また、中野市・山ノ内町地域公共交通計画にデマンド交通の有効性や新たな公共交通のあり方について検討する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
中野市・山ノ内町地域公共交通対策協議会	山ノ内町	南部ルート	<p>前回評価の改善点として挙げた、最終便と鉄軌道との接続について、接続の確保に向けたダイヤ改正の調整を行った。改正はR4.10.1に実施。</p>	<p>A 計画通り適切に実施された。</p>	<p>A 設定した目標値、1日あたり利用者数5人以上に対し、5.2人であった。</p>	<p>改善点に向けた、ダイヤ改正を実施したため、利用者動向を確認しつつ、引き続き、利用者ニーズの把握に努めていく。また、中野市・山ノ内町地域公共交通計画にデマンド交通の有効性や新たな公共交通のあり方について検討する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	
高森町地域公共交通協議会	北部タクシー 有限会社	系統名: 柿丸あったかバス市田上段先回り(R3.04.01~) 運行区間: 下伊那厚生病院~高森ショッピングセンターパース~下伊那厚生病院	【前回の改善点①】 地域の集会等に参加して利用方法を説明する 《反映状況》 地域の高齢者サロンに職員が出向き出前講座を4回開催(参加者総数:54名) 【前回の改善点②】 中学3年生にバスの利用方法を説明する 《反映状況》 ①令和4年3月に卒業を控えた中学3年生を対象とした説明会を開催し利用方法等をPR。 ②令和4年7月に高校生の保護者宛てに朝夕バス利用通知を促すチラシを送付。	A 運休や大幅な遅延はなく、所定の事業計画通りの運行が実施された。	C 【目標】 1運行あたりの平均乗車人数2.5名 年間利用者数4,950名 【結果】 1運行あたりの平均乗車人数1.75名 年間利用者数3,916名となった。 【目標達成できなかった理由】 ①新型コロナウイルス感染症の感染者増加傾向に歯止めがかからない中、外出控えや不特定多数との接触リスクがある公共交通機関の利用を嫌厭する傾向が継続したため。 ②各種チラシや通知文書等を用いたPRを展開するも、対面での説明会の開催については、地域の集まり等がコロナで引き続き中止される傾向が継続し実施回数が伸び悩んだため。 ③R4年4月からの運行改善によって、期間後半は利用者数が増加傾向(前年度同期間比199人増)ではあるものの、運行改善前の期間前半の利用者数の伸び悩みが年間利用者数を押し下げる要因となってしまった。	1)今後の改善点(目標) ターゲットの年代やバスの用途別にPR活動を展開し、バスを住民生活に広く浸透させると共に、新たな利用機会の創出を図る。 2)具体的な取り組み ①高齢者向け 免許返納を控えた高齢者を中心に出前講座の回数をさらに増やしPR活動を展開する。(高齢者サロンや自治会の集まり等を通じて講座を実施) ⇒主に買い物や通院といった日常的なシーンでの利用を想定し、試乗やサロン等での乗車体験・利用説明を通じて早いうちから公共交通利用方法や内容を知ってもらうことによって、将来安心して公共交通に移行してもらえるようにする。 ②一般向け 従来の福祉バスのイメージ(高齢者等が利用するもの)を払拭し、現役で自動車を運転している世代の利用を呼びかける。 ⇒バス好きの子どもを対象とした親子参加型のイベント等、非日常的なシーンを想定した利用促進活動を展開する。 3)その他 ①お試し利用(試乗体験) 次のとおり、試乗体験を通じてバスの継続的な利用に繋げる。 ■町のイベント等に合わせて休日にバスを臨時運行し広く試乗体験できる機会を設ける。 ■出前講座を受講した高齢者を対象に、バスバイク等でイベント的に利用してもらえるよう促し、計画をサポートする。 ②利便性の向上 循環型バス時刻表のオープンデータ化(GTFS-JPデータ化のうえ公開)と「Google乗換案内」への反映により、Web上での乗換検索等を可能にすることで利便性の向上を図る。(長野県および広域連合の支援あり)	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
高森町地域公共交通協議会	北部タクシー 有限会社	系統名: 柿丸あったかバス市田下段先回り(~R4.03.31) 運行区間: 下伊那厚生病院~高森ショッピングセンターパース~下伊那厚生病院	【前回の改善点③】 時刻表を見やすくする(このバスに乗ればこの電車に乗れるといった利用のイメージができるようにする) 《反映状況》 令和4年4月からの系統変更等に伴う時刻表の見直しに合わせてレイアウトを変更(JR電車との接続例を掲載) 【前回の改善点④】 おはようバスのJR接続時間と運行ダイヤを見直し 《反映状況》 高校生に対するアンケートや懇談会の結果を踏まえ令和4年4月からバス下車後のJR電車の待ち時間を短縮するよう見直し、停留所についても適正化を図った。				
高森町地域公共交通協議会	北部タクシー 有限会社	系統名: 柿丸あったかバス山吹上段先回り(R3.04.01~) 運行区間: 下伊那厚生病院~とよおかマルシェ~下伊那厚生病院	【前回の改善点⑤】 ただいまバスをデマンド運行に変更して利便性を上げる 《反映状況》 ①高校生に対するアンケートや懇談会の結果を踏まえ、運行形態をデマンド運行(区域型)に変更。降車場所の選択肢を大幅に増やし、電話に加えネット予約システムを導入することで利便性の向上を図った。 ②運行管理上も予約に基づく配車とすることで無駄なく効率的な運行を実現することができるようになった。				

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点			
高森町地域公共交通協議会	北部タクシー有限公司	系統名: 柿丸あったかバス 山吹下段先回り(～R4.03.31) 運行区間: 下伊那厚生病院～とよおかマルシェ～下伊那厚生病院	【前回の改善点①】 地域の集會等に参加して利用方法を説明する 《反映状況》 地域の高齢者サロンに職員が出向き出前講座を4回開催(参加者総数:54名) 【前回の改善点②】 中学3年生にバスの利用方法を説明する 《反映状況》 ①令和4年3月に卒業を控えた中学3年生を対象とした説明会を開催し利用方法をPR。 ②令和4年7月に高校生の保護者宛てに朝夕バス利用通知を促すチラシを送付。	A 運休や大幅な遅延はなく、所定の事業計画通りの運行が実施された。	【目標】 1運行あたりの平均乗車人数2.5名 年間利用者数4,950名 【結果】 1運行あたりの平均乗車人数1.75名 年間利用者数3,916名となった。 【目標達成できなかった理由】 ①新型コロナウイルス感染症の感染者増加傾向に歯止めがかからない中、外出控えや不特定多数との接触リスクがある公共交通機関の利用を嫌厭する傾向が継続したため。 ②各種チラシや通知文書等を用いたPRを展開するも、対面での説明会の開催については、地域の集まり等がコロナで引き続き中止される傾向が継続し実施回数が伸び悩んだため。 ③R4年4月からの運行改善によって、期間後半は利用者数が増加傾向(前年度同期間比 199人増)ではあるものの、運行改善前の期間前半の利用者数の伸び悩みが年間利用者数を押し下げる要因となってしまった。	1)今後の改善点(目標) ターゲットの年代やバスの用途別にPR活動を展開し、バスを住民生活に広く浸透させると共に、新たな利用機会の創出を図る。 2)具体的な取り組み ①高齢者向け 免許返納を控えた高齢者を中心に「出前講座」の回数をさらに増やしPR活動を展開する。(高齢者サロンや自治会の集まり等を通じて講座を実施) ⇒主に買い物や通院といった日常的なシーンでの利用を想定し、試乗やサロン等での乗車体験・利用説明を通じて早いうちから公共交通利用方法や内容を知ってもらうことにより、将来安心して公共交通に移行してもらえるようにする。 ②一般向け 従来の福祉バスのイメージ(高齢者等が利用するもの)を払拭し、現役で自動車を運転している世代の利用を呼びかける。 ⇒バス好きの子どもを対象とした親子参加型のイベント等、非日常的なシーンを想定した利用促進活動を展開する。 3)その他 ①お試し利用(試乗体験) 次のとおり、試乗体験を通じてバスの継続的な利用に繋げる。 ■町のイベント等に合わせて休日にバスを臨時運行し広く試乗体験できる機会を設ける。 ■出前講座を受講した高齢者を対象に、バスバイク等でイベント的に利用してもらえるよう促し、計画をサポートする。 ②利便性の向上 循環型バス時刻表のオープンデータ化(GTFS-JPデータ化のうえ公開)と「Google乗換案内」への反映により、Web上での乗換検索等を可能にすることで利便性の向上を図る。(長野県および広域連合の支援あり)	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。		
高森町地域公共交通協議会	北部タクシー有限公司	系統名: 柿丸あったかバス 市田下段先回り①(R4.04.01～) 運行区間: 下伊那厚生病院～健康センターあさぎり～下伊那厚生病院	【前回の改善点③】 時刻表を見やすくする(このバスに乗ればこの電車に乗れるといった利用のイメージができるようにする) 《反映状況》 令和4年4月からの系統変更等に伴う時刻表の見直しに合わせてレイアウトを変更(JR電車との接続例を掲載) 【前回の改善点④】 おはようバスのJR接続時間と運行ダイヤを見直し 《反映状況》 高校生に対するアンケートや懇談会の結果を踏まえ令和4年4月からバス下車後のJR電車の待ち時間を短縮するよう見直し、停留所についても適正化を図った。		A 運休や大幅な遅延はなく、所定の事業計画通りの運行が実施された。	C		協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。	
高森町地域公共交通協議会	北部タクシー有限公司	系統名: 柿丸あったかバス 市田下段先回り②(R4.04.01～) 運行区間: 下伊那厚生病院～竹村整形外科医院～下伊那厚生病院	【前回の改善点⑤】 ただいまバスをデマンド運行に変更して利便性を上げる 《反映状況》 ①高校生に対するアンケートや懇談会の結果を踏まえ、運行形態をデマンド運行(区域型)に変更。降車場所の選択肢を大幅に増やし、電話に加えネット予約システムを導入することで利便性の向上を図った。 ②運行管理上も予約に基づく配車とすることで無駄なく効率的な運行を実現することができるようになった。						A 運休や大幅な遅延はなく、所定の事業計画通りの運行が実施された。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
高森町地域公共交通協議会	北部タクシー有限公司	系統名:柿丸あったかバス山吹下段先回り①(R4.04.01~) 運行区間:下伊那厚生病院~山吹駅南~下伊那厚生病院	<p>【前回の改善点①】地域の集会等に参加して利用方法を説明する <<反映状況>>地域の高齢者サロンに職員が出向き出前講座を4回開催(参加者総数:54名)</p> <p>【前回の改善点②】中学3年生にバスの利用方法を説明する <<反映状況>>①令和4年3月に卒業を控えた中学3年生を対象とした説明会を開催し利用方法をPR。 ②令和4年7月に高校生の保護者宛てに朝夕バス利用通知を促すチラシを送付。</p> <p>【前回の改善点③】時刻表を見やすくする(このバスに乗ればこの電車に乗れるといった利用のイメージができるようにする) <<反映状況>>令和4年4月からの系統変更等に伴う時刻表の見直しに合わせてレイアウトを変更(JR電車との接続例を掲載)</p> <p>【前回の改善点④】おはようバスのJR接続時間と運行ダイヤを見直し <<反映状況>>高校生に対するアンケートや懇談会の結果を踏まえ令和4年4月からバス下車後のJR電車の待ち時間を短縮するよう見直し、停留所についても適正化を図った。</p> <p>【前回の改善点⑤】ただいまバスをデマンド運行に変更して利便性を上げる <<反映状況>>①高校生に対するアンケートや懇談会の結果を踏まえ、運行形態をデマンド運行(区域型)に変更。降車場所の選択肢を大幅に増やし、電話に加えネット予約システムを導入することで利便性の向上を図った。 ②運行管理上も予約に基づく配車とすることで無駄なく効率的な運行を実現することができるようになった。</p>	A	運休や大幅な遅延はなく、所定の事業計画通りの運行が実施された。	C	<p>【目標】1運行あたりの平均乗車人数2.5名 年間利用者数4,950名</p> <p>【結果】1運行あたりの平均乗車人数1.75名 年間利用者数3,916名となった。</p> <p>【目標達成できなかった理由】</p> <p>①新型コロナウイルス感染症の感染者増加傾向に歯止めがかからない中、外出控えや不特定多数との接触リスクがある公共交通機関の利用を嫌厭する傾向が継続したため。</p> <p>②各種チラシや通知文書等を用いたPRを展開するも、対面での説明会の開催については、地域の集まり等がコロナで引き続き中止される傾向が継続し実施回数が伸び悩んだため。</p> <p>③R4年4月からの運行改善によって、期間後半は利用者数が増加傾向(前年度同期間比199人増)ではあるものの、運行改善前の期間前半の利用者数の伸び悩みが年間利用者数を押し下げる要因となってしまった。</p>	<p>1)今後の改善点(目標) ターゲットの年代やバスの用途別にPR活動を展開し、バスを住民生活に広く浸透させると共に、新たな利用機会の創出を図る。 2)具体的な取り組み ①高齢者向け 免許返納を控えた高齢者を中心に 出前講座の回数をさらに増やしPR活動を展開する。(高齢者サロンや自治会の集まり等を通じて講座を実施) ⇒主に買い物や通院といった日常的なシーンでの利用を想定し、試乗やサロン等での乗車体験・利用説明を通じて早いうちから公共交通利用方法や内容を知ってもらうことにより、将来安心して公共交通に移行してもらえるようにする。 ②一般向け 従来の福祉バスのイメージ(高齢者等が利用するもの)を払拭し、現役で自動車を運転している世代の利用を呼びかける。 ⇒バス好きの子どもを対象とした親子参加型のイベント等、非日常的なシーンを想定した利用促進活動を展開する。 3)その他 ①お試し利用(試乗体験) 次のとおり、試乗体験を通じてバスの継続的な利用に繋げる。 ■町のイベント等に合わせて休日にバスを臨時運行し広く試乗体験できる機会を設ける。 ■出前講座を受講した高齢者を対象に、バスバイク等でイベント的に利用してもらえるよう促し、計画をサポートする。 ②利便性の向上 循環型バス時刻表のオープンデータ化(GTFS-JPデータ化のうえ公開)と「Google乗換案内」への反映により、Web上での乗換検索等を可能にすることで利便性の向上を図る。(長野県および広域連合の支援あり)</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
高森町地域公共交通協議会	北部タクシー有限公司	系統名:柿丸あったかバス山吹下段先回り②(R4.04.01~) 運行区間:下伊那厚生病院~杓ノキホーテU NY高森店西口~下伊那厚生病院	<p>【前回の改善点④】おはようバスのJR接続時間と運行ダイヤを見直し <<反映状況>>高校生に対するアンケートや懇談会の結果を踏まえ令和4年4月からバス下車後のJR電車の待ち時間を短縮するよう見直し、停留所についても適正化を図った。</p> <p>【前回の改善点⑤】ただいまバスをデマンド運行に変更して利便性を上げる <<反映状況>>①高校生に対するアンケートや懇談会の結果を踏まえ、運行形態をデマンド運行(区域型)に変更。降車場所の選択肢を大幅に増やし、電話に加えネット予約システムを導入することで利便性の向上を図った。 ②運行管理上も予約に基づく配車とすることで無駄なく効率的な運行を実現することができるようになった。</p>	A	運休や大幅な遅延はなく、所定の事業計画通りの運行が実施された。	C	<p>【目標】1運行あたりの平均乗車人数2.5名 年間利用者数4,950名</p> <p>【結果】1運行あたりの平均乗車人数1.75名 年間利用者数3,916名となった。</p> <p>【目標達成できなかった理由】</p> <p>①新型コロナウイルス感染症の感染者増加傾向に歯止めがかからない中、外出控えや不特定多数との接触リスクがある公共交通機関の利用を嫌厭する傾向が継続したため。</p> <p>②各種チラシや通知文書等を用いたPRを展開するも、対面での説明会の開催については、地域の集まり等がコロナで引き続き中止される傾向が継続し実施回数が伸び悩んだため。</p> <p>③R4年4月からの運行改善によって、期間後半は利用者数が増加傾向(前年度同期間比199人増)ではあるものの、運行改善前の期間前半の利用者数の伸び悩みが年間利用者数を押し下げる要因となってしまった。</p>	<p>1)今後の改善点(目標) ターゲットの年代やバスの用途別にPR活動を展開し、バスを住民生活に広く浸透させると共に、新たな利用機会の創出を図る。 2)具体的な取り組み ①高齢者向け 免許返納を控えた高齢者を中心に 出前講座の回数をさらに増やしPR活動を展開する。(高齢者サロンや自治会の集まり等を通じて講座を実施) ⇒主に買い物や通院といった日常的なシーンでの利用を想定し、試乗やサロン等での乗車体験・利用説明を通じて早いうちから公共交通利用方法や内容を知ってもらうことにより、将来安心して公共交通に移行してもらえるようにする。 ②一般向け 従来の福祉バスのイメージ(高齢者等が利用するもの)を払拭し、現役で自動車を運転している世代の利用を呼びかける。 ⇒バス好きの子どもを対象とした親子参加型のイベント等、非日常的なシーンを想定した利用促進活動を展開する。 3)その他 ①お試し利用(試乗体験) 次のとおり、試乗体験を通じてバスの継続的な利用に繋げる。 ■町のイベント等に合わせて休日にバスを臨時運行し広く試乗体験できる機会を設ける。 ■出前講座を受講した高齢者を対象に、バスバイク等でイベント的に利用してもらえるよう促し、計画をサポートする。 ②利便性の向上 循環型バス時刻表のオープンデータ化(GTFS-JPデータ化のうえ公開)と「Google乗換案内」への反映により、Web上での乗換検索等を可能にすることで利便性の向上を図る。(長野県および広域連合の支援あり)</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
高森町地域公共交通協議会	北部タクシー 有限会社	系統名:おはようただいまバス下平 (~R4.03.31) 運行区間:JAみなみ信州山吹事業所~下町辻~下平駅	【前回の改善点①】 地域の集會等に参加して利用方法を説明する 《反映状況》 地域の高齢者サロンに職員が出向き出前講座を4回開催(参加者総数:54名) 【前回の改善点②】 中学3年生にバスの利用方法を説明する 《反映状況》 ①令和4年3月に卒業を控えた中学3年生を対象とした説明会を開催し利用方法等をPR。 ②令和4年7月に高校生の保護者宛てに朝夕バス利用通知を促すチラシを送付。 【前回の改善点③】 時刻表を見やすくする(このバスに乗ればこの電車に乗れるといった利用のイメージができるようにする) 《反映状況》 令和4年4月からの系統変更等に伴う時刻表の見直しに合わせてレイアウトを変更(JR電車との接続例を掲載) 【前回の改善点④】 おはようバスのJR接続時間と運行ダイヤを見直し 《反映状況》 高校生に対するアンケートや懇談会の結果を踏まえ令和4年4月からバス下車後のJR電車の待ち時間を短縮するよう見直し、停留所についても適正化を図った。 【前回の改善点⑤】 ただいまバスをデマンド運行に変更して利便性を上げる 《反映状況》 ①高校生に対するアンケートや懇談会の結果を踏まえ、運行形態をデマンド運行(区域型)に変更。降車場所の選択肢を大幅に増やし、電話に加えネット予約システムを導入することで利便性の向上を図った。 ②運行管理上も予約に基づく配車とすることで無駄なく効率的な運行を実現することができるようになった。	A 運休や大幅な遅延はなく、所定の事業計画通りの運行が実施された。	C 【目標】 1運行あたりの平均乗車人数2.5名 年間利用者数4,950名 【結果】 1運行あたりの平均乗車人数1.75名 年間利用者数3,916名となった。 【目標達成できなかった理由】 ①新型コロナウイルス感染症の感染者増加傾向に歯止めがかからない中、外出控えや不特定多数との接触リスクがある公共交通機関の利用を嫌厭する傾向が継続したため。 ②各種チラシや通知文書等を用いたPRを展開するも、対面での説明会の開催については、地域の集まり等がコロナで引き続き中止される傾向が継続し実施回数が伸び悩んだため。 ③R4年4月からの運行改善によって、期間後半は利用者数が増加傾向(前年度同期間比199人増)ではあるものの、運行改善前の期間前半の利用者数の伸び悩みが年間利用者数を押し下げる要因となってしまった。	1)今後の改善点(目標) 先述のとおり。 2)具体的な取り組み ①高校生及び保護者向け 高校生やその保護者を対象として朝夕バスを通学利用してもらえようPR活動を継続する。 ⇒卒業を控えた中学3年生向け説明会の開催やその保護者向けにチラシの送付。 ②一般向け 従来の福祉バスのイメージ(高齢者等が利用するもの)を払拭し、現役で自動車を運転している世代の利用を呼びかける。 ⇒宴会場への移動手段としてのデマンドバス利用(「バス×呑み」企画)等、非日常的なシーンを想定した利用促進活動を展開する。 3)その他 ①お試し利用(試乗体験) 高校生に対し、3月中に期限付きのお試し利用券を配布し、試乗体験を通じてバスの継続的な利用に繋げる。(対象:約450人) ②利便性の向上 循環型バス時表のオープンデータ化(GTFS-JPデータ化のうえ公開)と「Google乗換案内」への反映により、Web上での乗換検索等を可能にすることで利便性の向上を図る。(長野県および広域連合の支援あり)	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。
高森町地域公共交通協議会	北部タクシー 有限会社	系統名:おはようただいまバス市田 (~R4.03.31) 運行区間:こぐるみ~吉田区民会館~市田駅(お祭り広場)					
高森町地域公共交通協議会	北部タクシー 有限会社	系統名:おはようバス山吹 (R4.04.01~) 運行区間:旬彩館~下平駅~市田駅前					
高森町地域公共交通協議会	北部タクシー 有限会社	系統名:おはようバス市田 (R4.04.01~) 運行区間:こぐるみ~牛牧神社~市田駅(お祭り広場)					

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
高森町地域公共交通協議会	北部タクシー有限公司	系統名: ただいまバス山吹 (R4.04.01~) 運行区間: 下平駅(カトクキホーテUNY高森店西口)~町内全停留所	<p>【前回の改善点①】 地域の集会等に参加して利用方法を説明する 《反映状況》 地域の高齢者サロンに職員が出向き出前講座を4回開催(参加者総数: 54名) 【前回の改善点②】 中学3年生にバスの利用方法を説明する 《反映状況》 ①令和4年3月に卒業を控えた中学3年生を対象とした説明会を開催し利用方法をPR。 ②令和4年7月に高校生の保護者宛てに朝タバス利用通知を促すチラシを送付。 【前回の改善点③】 時刻表を見やすくする(このバスに乗ればこの電車に乗れるといった利用のイメージができるようにする) 《反映状況》 令和4年4月からの系統変更等に伴う時刻表の見直しに合わせてレイアウトを変更(JR電車との接続例を掲載) 【前回の改善点④】 おはようバスのJR接続時間と運行ダイヤを見直し 《反映状況》 高校生に対するアンケートや懇談会の結果を踏まえ令和4年4月からバス下車後のJR電車の待ち時間を短縮するよう見直し、停留所についても適正化を図った。 【前回の改善点⑤】 ただいまバスをデマンド運行に変更して利便性を上げる 《反映状況》 ①高校生に対するアンケートや懇談会の結果を踏まえ、運行形態をデマンド運行(区域型)に変更。降車場所の選択肢を大幅に増やし、電話に加えネット予約システムを導入することで利便性の向上を図った。 ②運行管理上も予約に基づく配車とすることで無駄なく効率的な運行を実現することができるようになった。</p>	A	<p>運休や大幅な遅延はなく、所定の事業計画通りの運行が実施された。</p>	<p>【目標】 1運行あたりの平均乗車人数2.5名 年間利用者数4,950名 【結果】 1運行あたりの平均乗車人数1.75名 年間利用者数3,916名となった。 【目標達成できなかった理由】 ①新型コロナウイルス感染症の感染者増加傾向に歯止めがかからない中、外出控えや不特定多数との接触リスクがある公共交通機関の利用を嫌厭する傾向が継続したため。 ②各種チラシや通知文書等を用いたPRを展開するも、対面での説明会の開催については、地域の集まり等がコロナで引き続き中止される傾向が継続し実施回数が伸び悩んだため。 ③R4年4月からの運行改善によって、期間後半は利用者数が増加傾向(前年度同期間比 199人増)ではあるものの、運行改善前の期間前半の利用者数の伸び悩みが年間利用者数を押し下げる要因となってしまった。</p>	<p>1)今後の改善点(目標) 先述のとおり。 2)具体的な取り組み ①高校生及び保護者向け 高校生やその保護者を対象として朝タバスを通学利用してもらえるようPR活動を継続する。 ⇒卒業を控えた中学3年生向け説明会の開催やその保護者向けにチラシの送付。 ②一般向け 従来の福祉バスのイメージ(高齢者等が利用するもの)を払拭し、現役で自動車を運転している世代の利用を呼びかける。 ⇒宴会場への移動手段としてのデマンドバス利用(「バス×呑み」企画)等、非日常的なシーンを想定した利用促進活動を展開する。 3)その他 ①お試し利用(試乗体験) 高校生に対し、3月中に期限付きのお試し利用券を配布し、試乗体験を通じてバスの継続的な利用に繋げる。(対象: 約450人) ②利便性の向上 循環型バス時表のオープンデータ化(GTFS-JPデータ化のうえ公開)と「Google乗換案内」への反映により、Web上での乗換検索等を可能にすることで利便性の向上を図る。(長野県および広域連合の支援あり)</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>
高森町地域公共交通協議会	北部タクシー有限公司	系統名: ただいまバス市田 (R4.04.01~) 運行区間: 市田駅~町内全停留所						

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	
魚津市公共交通活性化会議	事業者名: 魚津市 運行系統名: 松倉ルート	鹿熊～魚津駅	<p>ルート及びダイヤを決定するにあたっては、各地区において利用者の意見を聴取し決定した。</p> <p>市内バス交通全体の利用促進を目的として、令和2年4月から運転免許証を自主返納した方に、魚津市内のバス1年間無料乗車証を交付し、市民バスの乗車機会の創出を図り、市民バス利用者数の向上に努めた。</p> <p>今年度は夏休み以外の時期に市内バス路線で使える「親子でお出かけきつぷ事業」を実施した。小学校でのふるさと教育にも活用いただき、バスに乗るきっかけづくりとした。</p>	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B <p>定量的な目標・効果</p> <p>【目標①】市内公共交通利用者数 2,613,511人(令和元年度)の維持 令和3年度実績 2,314,653人</p> <p>【目標②】魚津市民バスにかかる収支率 33.1%(令和元年度)の維持 令和3年度実績 22.9%</p> <p>【目標③】市内バスにかかる財政負担額 39,871千円(令和元年度)の維持 令和3年度実績 56,615千円</p> <p>富山地方鉄道(株)や沿線自治体と共同で、夏休みに保護者と同伴の小学生を無料とする「親子でお出かけ事業」や小学生以下の運賃を無料とする「こどもの日キャンペーン」を実施した。これらに加え、令和4年5月からは夏休み期間以外に利用できる「親子でお出かけきつぷ」を配布した。これらの事業の目的は、公共交通の利用啓発及び、利用方法の習得である。これらの取り組みを通じて、将来の需要の掘り起こしが図られた。地区でも自主的にバス停の清掃や時刻表の貼り替えなどを行い、継続して利用促進に努めている。コロナ禍が下火になった際は、感染対策を講じたうえで市民バスを活用したバスツアーを実施し、公共交通の啓発活動にも努めた。</p> <p>また、利便性の向上策として、とやまロケーションシステムを導入している。バスの遅延情報等を提供し、県内の交通情報を一元的に確認できる状態としている。</p> <p>一方で、コロナウイルスの感染拡大やそれに伴う外出自粛、終息後も公共交通を利用しない生活様式の変化等により、利用者数はコロナ禍前の数字へ回復してない。特にその傾向は人口の少ない地区で顕著である。</p> <p>令和元年度(平成31年10月～令和元年9月)12,164人 令和2年度(令和元年10月～令和2年9月)8,748人 令和3年度(令和2年10月～令和3年9月)7,627人 令和4年度(令和3年10月～令和4年9月)7,092人</p>	<p>今後も地域住民の通院・買物等、日常生活に必要な路線として、利便性の高い運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指し、利用者や非利用者の声を聴く活動を行い、運行ルートやダイヤも利用者ニーズを活かした形に見直していく。</p> <p>沿線地域の人口は年々減少しており、利用者となる可能性のある人数自体が減少しているが、自家用車の利用からバスの利用に切り替えてもらえるよう、利用促進活動の検討や車両の小型化、ルートの再編を検討する。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
魚津市公共交通活性化会議	事業者名:魚津市 運行系統名:坪野ルート	坪野～魚津駅	ルート及びダイヤを決定するにあたっては、各地区において利用者の意見を聴取し決定した。 市内バス交通全体の利用促進を目的として、令和2年4月から運転免許証を自主返納した方に、魚津市内のバス1年間無料乗車証を交付し、市民バスの乗車機会の創出を図り、市民バス利用者数の向上に努めた。 車両の老朽化により修繕料が増加していることから車両を更新した。勾配のある地区まで運行することから小型化、4輪駆動とし、確実な運行を行う。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B 定量的な目標・効果 【目標①】市内公共交通利用者数 2,613,511人(令和元年度)の維持 令和3年度実績 2,314,653人 【目標②】魚津市民バスにかかる収支率 33.1%(令和元年度)の維持 令和3年度実績 22.9% 【目標③】市内バスにかかる財政負担額 39,871千円(令和元年度)の維持 令和3年度実績 56,615千円 富山地方鉄道(株)や沿線自治体と共同で、夏休みに保護者と同様の小学生を無料とする「親子でおでかけ事業」や小学生以下の運賃を無料とする「こどもの日キャンペーン」を実施した。これらに加え、令和4年5月からは夏休み期間以外に利用できる「親子でお出かけきっぷ」を配布した。これらの事業の目的は、公共交通の利用啓発及び、利用方法の習得である。これらの取り組みを通じて、将来の需要の掘り起こしが図られた。地区でも自主的にバス停の清掃や時刻表の貼り替えなどを行い、継続的に利用促進に努めている。コロナ禍が下火になった際は、感染対策を講じたうえで市民バスを活用したバスツアーを実施し、公共交通の啓発活動にも努めた。 また、利便性の向上策として、とやまロケーションシステムを導入している。バスの遅延情報等を提供し、県内の交通情報を一元的に確認できる状態としている。 一方で、コロナウイルスの感染拡大やそれに伴う外出自粛、終息後も公共交通を利用しない生活様式の変化等により、利用者数はコロナ禍前の数字へ回復してない。特にその傾向は人口の少ない地区で顕著である。 令和元年度(平成30年10月～令和元年9月)10,486人 令和2年度(令和元年10月～令和2年9月) 8,173人 令和3年度(令和2年10月～令和3年9月) 7,269人 令和4年度(令和3年10月～令和4年9月) 7,536人	今後も地域住民の通院・買物等、日常生活に必要な路線として、利便性の高い運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指し、利用者や非利用者の声を聴く活動を行い、運行ルートやダイヤも利用者ニーズを活かした形に見直ししていく。 沿線地域の人口は年々減少しており、利用者となる可能性のある人数自体が減少しているが、自家用車の利用からバスの利用に切り替えてもらえるよう、利用促進活動の検討をする。また、車両の小型化により、降雪時など利用が増える際に満車になる可能性があるため、利用者の取りこぼしがないよう、松倉ルートとダイヤの調整を検討する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
魚津市公共交通活性化会議	事業者名:魚津市 運行系統名:上野方ルート	魚津消防署前～魚津駅	<p>ルート及びダイヤを決定するにあたっては、各地区において利用者の意見を聴取し決定した。</p> <p>市内バス交通全体の利用促進を目的として、令和2年4月から運転免許証を自主返納した方に、魚津市内のバス1年間無料乗車証を交付し、市民バスの乗車機会の創出を図り、市民バス利用者数の向上に努めた。</p> <p>今年度は夏休み以外の時期に市内バス路線で使える「親子でお出かけきっぷ事業」を実施した。小学校でのふるさと教育にも活用いただき、バスに乗るきっかけづくりとした。</p>	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B <p>定量的な目標・効果</p> <p>【目標①】市内公共交通利用者数 2,613,511人(令和元年度)の維持 令和3年度実績 2,314,653人</p> <p>【目標②】魚津市民バスにかかる収支率 33.1%(令和元年度)の維持 令和3年度実績 22.9%</p> <p>【目標③】市内バスにかかる財政負担額 39,871千円(令和元年度)の維持 令和3年度実績 56,615千円</p> <p>富山地方鉄道(株)や沿線自治体と共同で、夏休みに保護者と同伴の小中学生を無料とする「親子でお出かけ事業」や小学生以下の運賃を無料とする「こどもの日キャンペーン」を実施した。これらに加え、令和4年5月からは夏休み期間以外に利用できる「親子でお出かけきっぷ」を配布した。これらの事業の目的は、公共交通の利用啓発及び、利用方法の習得である。これらの取り組みを通じて、将来の需要の掘り起こしが図られた。地区でも自主的にバス停の清掃や時刻表の貼り替えを実施し、地区広報でもバスの利用を案内し、継続的に利用促進に努めている。コロナ禍が下火になった際は、感染対策を講じたうえで市民バスを活用したバスツアーを実施し、公共交通の啓発活動にも努めた。</p> <p>また、利便性の向上策として、とやまロケーションシステムを導入している。バスの遅延情報等を提供し、県内の交通情報を一元的に確認できる状態としている。</p> <p>ルートにより傾向が異なるが、上野方ルートについては、コロナ前の利用者数に回復した。他ルートについても、学生の多い路線は回復が早い傾向にある。</p> <p>令和元年度(平成30年10月～令和元年9月)13,470人 令和2年度(令和元年10月～令和2年9月)11,395人 令和3年度(令和2年10月～令和3年9月)11,831人 令和4年度(令和3年10月～令和4年9月)13,163人</p>	<p>今後も、運行に関し幅広い年代を対象にした啓発活動とともに利用者や非利用者の声を聴く活動を継続し、沿線住民や隣接地域住民にとって、身近で利便性の高い路線として持続可能な運行形態を目指す。</p> <p>路線内に学校が複数あることから若年層の利用促進に努め、減少傾向に歯止めがかかっている状態が一時的なものにならないよう、更なる利用の定着と促進に努める必要がある。そのため、平成30年度に設置した停留所等の利用状況を見ながら、更なる利便性について検討していく。</p> <p>また、車両の老朽化から修繕料が増加していることから、更新を検討する。車両については、乗車数を見極めながら、経費削減のため小型化を検討する。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
魚津市公共交通活性化会議	事業者名: 富山地方鉄道(株) 運行系統名: 東蔵	東蔵～ 電鉄魚津駅	魚津市民バス制度と同様に、令和2年4月から運転免許証を自主返納した方に、魚津市民バス1年間無料乗車証を交付し、地鉄バスの乗車機会の創出を図り、地鉄バス利用者数の向上に努めた。 鉄道との接続を考慮し、令和4年4月1日にダイヤ改正を行い、利便性向上を図った。 今年度は夏休み以外の時期に市内バス路線で使える「親子でお出かけきつぷ事業」を実施した。小学校でのふるさと教育にも活用いただき、バスに乗るきっかけづくりとした。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B 定量的な目標・効果 【目標①】市内公共交通利用者数 2,613,511人(令和元年度)の維持 令和3年度実績 2,314,653人 【目標②】魚津市民バスにかかる収支率 33.1%(令和元年度)の維持 令和3年度実績 22.9% 【目標③】市内バスにかかる財政負担額 39,871千円(令和元年度)の維持 令和3年度実績 56,615千円 親子参加型イベント等の移動で積極的にバス利用を行うなど、地域が一体となった取り組みを通じて利用促進が図られている。 あわせて、夏休みに保護者と同伴の小学生を無料とする「親子でお出かけ事業」や小学生以下の運賃を無料とする「こどもの日キャンペーン」を実施した。これらに加え、令和4年5月からは夏休み期間以外に利用できる「親子でお出かけきつぷ」を配布した。これらの事業の目的は、公共交通の利用啓発及び、利用方法の習得である。これらの取り組みを通じて、将来の需要の掘り起こしが図られた。 また、令和元年11月より、バス本体にGPS機能の付いた無線機を取り付け、バスの遅延情報等を提供することで利用者の利便性を向上させている。 地域との連携では、沿線地域の要望を反映し、平成29年4月1日からは、平日の一部路線のダイヤを変更し、中学生利用者の利便性を高め、新たな利用者の獲得を目指した。また、平成30年4月1日より魚津市民バスの回数券の利用をできるようにし、さらに中高生の料金を100円に値下げした。なお、利用者数の減少は、沿線人口の減少と新たな利用者の獲得ができていないことが要因として考えられる。 更には、コロナウイルスの感染拡大やそれに伴う外出自粛、終息後も公共交通を利用しない生活様式の変化等により、利用者数はコロナ禍前の数字へ回復していない。 令和元年度(平成30年10月～令和元年9月)21,316人 令和2年度(令和元年10月～令和2年9月)19,531人 令和3年度(令和2年10月～令和3年9月)19,715人 令和4年度(令和3年10月～令和4年9月)18,112人	沿線人口が減少し、65歳以上高齢者の免許保有率が高まることが想定されるが、今後も沿線利用者等のニーズに合わせた運行形態、ダイヤの見直し等を行いながら、利用者の確保を続けていく必要がある。 今後も引き続き、地区会合や老人会等で利用者等の声を聴き、潜在的な利用者の掘り起こしや、必要であれば利用者ニーズを活かした運行形態、ダイヤの見直しや、魚津市民バスと一体となった利用促進策を検討していく必要がある。 令和5年4月よりダイヤを概ね継承して魚津市民バス(仮)片貝ルートとして運行予定。東蔵線の乗降数など利用実態を魚津市へ提供しダイヤに反映することで、より利便性を高めるものとする。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
魚津市公共交通活性化会議	事業者名: 富山地方鉄道(株) 運行系統名: 黒沢・大沢	大沢～ 電鉄魚津駅	<p>魚津市民バス制度と同様に、令和2年4月から運転免許証を自主返納した方に、魚津市民バス1年間無料乗車証を交付し、地鉄バスの乗車機会の創出を図り、地鉄バス利用者数の向上に努めた。</p> <p>令和4年4月1日にダイヤ改正を行い、利便性向上を図った。</p> <p>今年度は夏休み以外の時期に市内バス路線で使える「親子でお出かけきっぷ事業」を実施した。小学校でのふるさと教育にも活用いただき、バスに乗るきっかけづくりとした。</p>	A	<p>計画に位置付けられた事業は適切に実施された。</p>	<p>定量的な目標・効果</p> <p>【目標①】市内公共交通利用者数 2,613,511人(令和元年度)の維持</p> <p>令和3年度実績 2,314,653人</p> <p>【目標②】魚津市民バスにかかる収支率 33.1%(令和元年度)の維持</p> <p>令和3年度実績 22.9%</p> <p>【目標③】市内バスにかかる財政負担額 39,871千円(令和元年度)の維持</p> <p>令和3年度実績 56,615千円</p> <p>当該路線地域では、地域が一体となった取り組みを通じて利用促進が図られている。</p> <p>平成30年4月1日より魚津市民バスの回数券の利用をできるようにし、さらに中・高生の料金を100円に値下げした。これにより、利用者数、運賃収入とも前年度比で増加していることから、新たな中学生・高校生の需要が掘り起こされ、高校生以下の利用率が高まっている。</p> <p>あわせて、夏休みに保護者と同伴の小学生を無料とする「親子でお出かけ事業」や小学生以下の運賃を無料とする「こどもの日キャンペーン」を実施した。これらに加え、令和4年5月からは夏休み期間以外に利用できる「親子でお出かけきっぷ」を配布した。これらの事業の目的は、公共交通の利用啓発及び、利用方法の習得である。これらの取り組みを通じて、将来の需要の掘り起こしが図られた。</p> <p>また、令和元年11月より、バス本体にGPS機能の付いた無線機を取り付け、バスの遅延情報等を提供することで利用者の利便性を向上させている。</p> <p>上記取り組みをしたものの、コロナウイルスの感染拡大やそれに伴う外出自粛、終息後も公共交通を利用しない生活様式の変化等により、利用者数はコロナ禍前の数字へ回復していない。</p> <p>令和元年度(平成30年10月～令和元年9月)15,482人 令和2年度(令和元年10月～令和2年9月)12,966人 令和3年度(令和2年10月～令和3年9月)14,665人 令和4年度(令和3年10月～令和4年9月)13,772人</p>	<p>今後も、地区会合や老人会等で利用者等の声を聴き、潜在的な利用者の掘り起こしや、必要であれば利用者ニーズを活かした運行形態、ダイヤの見直し、魚津市民バスと一体となった利用促進策を検討していくことが必要である。</p> <p>沿線人口の減少及び65歳以上高齢者の免許保有率が高まっていくことが想定されることから、通勤や通学での利用者の増加が見込めるよう、利用者の声が反映され、より利便性の高いダイヤとなるよう努める。</p> <p>令和5年4月よりダイヤを概ね継承して魚津市民バス(仮)西布施ルートとして運行予定。東蔵線の乗降数など利用実態を魚津市へ提供しダイヤに反映することで、より利便性を高めるものとする。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
小矢部市地域公共交通活性化協議会	小矢部市	1 津沢線(津沢発) 津沢あんどんふれい会館～水島～石動駅南口 車両減価償却等国庫補助金 2 津沢線(循環) 石動駅北口～水島～石動駅北口 車両減価償却等国庫補助金 3 津沢線(石動駅発) 石動駅南口～水島～菱輪口 車両減価償却等国庫補助金 4 正得線(七社発) 七社～保健福祉センター～石動駅南口 車両減価償却等国庫補助金 5 正得線(循環) 石動駅北口～道明～石動駅北口 車両減価償却等国庫補助金	1 バス情報広報活動 バス情報広報活動については、引き続きホームページに掲載するとともに時刻表を公共施設等に配置し、ケーブルテレビのデータ放送を実施した。 A4サイズ(1枚)の時刻表を作成し、窓口に配置したところ、配布量が増加した。 2 利用実態調査 利便性の向上や利用者の増加につながるダイヤ改正を見越し、各路線の利用実態調査を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	1 目標・効果 令和3年度に策定した地域内フィーダー系統確保維持計画【令和4年度～6年度】において、令和4年度における1便あたり利用者数を4.5人/便とする目標を設定した。 2 達成状況 長期化している新型コロナウイルス感染症の感染拡大(以下コロナ禍という)による乗り控えや代替交通手段の利用増等が重なり、令和4年度の1便あたり利用者数は4.1人/便と目標を下回った。 なお、1便あたりの利用者数の推移は以下のとおりである。 平成30年度:4.6人/便 令和元年度:5.1人/便 令和2年度:4.5人/便 令和3年度:4.2人/便 令和4年度:4.1人/便 前年度同様、路線ごとの利用者数は大きな差があり、宮島及び南谷線は3.0人/便を下回っているため、今後も利用推移を注視する。 なお、利用者数の推移は以下のとおりである。 平成30年度:51,587人 令和元年度:54,231人 令和2年度:46,990人 令和3年度:43,471人 令和4年度:43,347人	1 バス情報広報活動 バス情報について、市ホームページに掲載するとともに、とやまロケーションシステムの活用についても発信し、利用者増につなげる。 2 利用実態調査 引き続き、コロナ禍における利用者数の公共交通機関の利用目的・頻度の変化などを調査する。この調査結果をふまえ、ウィズコロナにおける利用者目線の利用促進策を検討する。 3 市営バス事業の課題整理 先進事例を参考にし、高齢者等の移動需要に対応し、効率的な運行を可能とする、区域運行型のオンデマンド交通を主体とした運行形態への転換を検討する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
小矢部市地域公共交通活性化協議会	小矢部市	<p>6 正得線(石動駅発)石動駅南口～道明～大谷小学校前車両減価償却等国庫補助金</p> <p>7 正得線(石動駅発)石動駅南口～道明～大谷小学校前車両減価償却等国庫補助金</p> <p>8 正得線(石動駅発)石動駅南口～道明～大谷小学校前車両減価償却等国庫補助金</p> <p>9 正得線(石動駅発)石動駅南口～道明～大谷小学校前車両減価償却等国庫補助金</p> <p>10 正得線(石動駅発)石動駅南口～道明～大谷小学校前車両減価償却等国庫補助金</p>	<p>1 バス情報広報活動</p> <p>バス情報広報活動については、引き続きホームページに掲載するとともに時刻表を公共施設等に配置し、ケーブルテレビのデータ放送を実施した。</p> <p>A4サイズ(1枚)の時刻表を作成し、窓口に配置したところ、配布量が増加した。</p> <p>2 利用実態調査</p> <p>利便性の向上や利用者の増加につながるダイヤ改正を見越し、各路線の利用実態調査を行った。</p>	A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	B	<p>1 目標・効果</p> <p>令和3年度に策定した地域内フィーダー系統確保維持計画【令和4年度～6年度】において、令和4年度における1便あたり利用者数を4.5人/便とする目標を設定した。</p> <p>2 達成状況</p> <p>長期化している新型コロナウイルス感染症の感染拡大(以下コロナ禍という)による乗り控えや代替交通手段の利用増等が重なり、令和4年度の1便あたり利用者数は4.1人/便と目標を下回った。</p> <p>なお、1便あたりの利用者数の推移は以下のとおりである。</p> <p>平成30年度:4.6人/便 令和元年度:5.1人/便 令和2年度:4.5人/便 令和3年度:4.2人/便 令和4年度:4.1人/便</p> <p>前年度同様、路線ごとの利用者数は大きな差があり、宮島及び南谷線は3.0人/便を下回っているため、今後も利用推移を注視する。</p> <p>なお、利用者数の推移は以下のとおりである。</p> <p>平成30年度:51,587人 令和元年度:54,231人 令和2年度:46,990人 令和3年度:43,471人 令和4年度:43,347人</p>	<p>1 バス情報広報活動</p> <p>バス情報について、市ホームページに掲載するとともに、とやまロケーションシステムの活用についても発信し、利用者増につなげる。</p> <p>2 利用実態調査</p> <p>引き続き、コロナ禍における利用者の公共交通機関の利用目的・頻度の変化などを調査する。この調査結果をふまえ、ウィズコロナにおける利用者目線の利用促進策を検討する。</p> <p>3 市営バス事業の課題整理</p> <p>先進事例を参考にし、高齢者等の移動需要に対応し、効率的な運行を可能とする、区域運行型のオンデマンド交通を主体とした運行形態への転換を検討する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
滑川市地域公共交通会議	滑川市	養輪① (みのわ温泉～中新～市民交流プラザエール前)	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。令和3年11月1日から令和4年3月31日まで、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外出機会が減少した65歳以上の高齢者の移動支援を行うため、乗車料金を無料化した。また、令和4年6月1日からは、一部区間で「自由乗降」の試験運用を開始した。コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗り継ぎを検証しダイヤに反映させた。また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数は9,367人(前年同期8,588人)、1便あたりの輸送人員は4.8人(目標8.4人)であった。令和3事業年度と比べると、利用者は微増ではあったが、目標・効果は未達成であった。その理由として、未だ残る新型コロナウイルス感染症の影響や入院・死亡等による既存利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。また、新たな取組みである「自由乗降」の試験運用の更なる検証と工夫により、より利便性が向上されるものと考えられる。	感染症対策を確実にしながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。必要に応じて停留所やルート及び「自由乗降」区間の見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上できるように、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
滑川市地域公共交通会議	滑川市	養輪② (滑川駅前～みのわ温泉～市民交流プラザエール前)	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。令和3年11月1日から令和4年3月31日まで、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外出機会が減少した65歳以上の高齢者の移動支援を行うため、乗車料金を無料化した。また、令和4年6月1日からは、一部区間で「自由乗降」の試験運用を開始した。 コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でお出かけ事業」を夏休みに実施した。 通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗り継ぎを検証しダイヤに反映させた。 また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数は9,367人(前年同期8,588人)、1便あたりの輸送人員は4.8人(目標8.4人)であった。令和3事業年度と比べると、利用者は微増ではあったが、目標・効果は未達成であった。その理由として、未だ残る新型コロナウイルス感染症の影響や入院・死亡等による既存利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。また、新たな取組みである「自由乗降」の試験運用の更なる検証と工夫により、より利便性が向上されるものと考えられる。	感染症対策を確実にしながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。 必要に応じて停留所やルート及び「自由乗降」区間の見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上できるように、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
滑川市地域公共交通会議	滑川市	養輪③ (滑川駅前～中新～みのわ温泉)	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。令和3年11月1日から令和4年3月31日まで、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外出機会が減少した65歳以上の高齢者の移動支援を行うため、乗車料金を無料化した。また、令和4年6月1日からは、一部区間で「自由乗降」の試験運用を開始した。 コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でお出かけ事業」を夏休みに実施した。 通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗り継ぎを検証しダイヤに反映させた。 また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数は9,367人(前年同期8,588人)、1便あたりの輸送人員は4.8人(目標8.4人)であった。令和3事業年度と比べると、利用者は微増ではあったが、目標・効果は未達成であった。その理由として、未だ残る新型コロナウイルス感染症の影響や入院・死亡等による既存利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。また、新たな取組みである「自由乗降」の試験運用の更なる検証と工夫により、より利便性が向上されるものと考えられる。	感染症対策を確実にしながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。 必要に応じて停留所やルート及び「自由乗降」区間の見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上できるように、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
滑川市地域公共交通会議	滑川市	大日室山①(博物館前～大日～市民交流プラザエール前)車両減価償却費等国庫補助金	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。令和3年11月1日から令和4年3月31日まで、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外出機会が減少した65歳以上の高齢者の移動支援を行うため、乗車料金を無料化した。また、令和4年6月1日からは、一部区間で「自由乗降」の試験運用を開始した。 コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でお出かけ事業」を夏休みに実施した。 通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗り継ぎを検証しダイヤに反映させた。 また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数は8,989人(前年同期8,662人)、1便あたりの輸送人員は4.6人(目標8.4人)であった。令和3事業年度と比べると、利用者は微増ではあったが、目標・効果は未達成であった。その理由として、未だ残る新型コロナウイルス感染症の影響や入院・死亡等による既存利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。また、新たな取組みである「自由乗降」の試験運用の更なる検証と工夫により、より利便性が向上されるものと考えられる。	感染症対策を確実にしながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。 必要に応じて停留所やルート及び「自由乗降」区間の見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上できるように、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
滑川市地域公共交通会議	滑川市	大日室山②(滑川駅前～大日～市民交流プラザエール前)車両減価償却費等国庫補助金	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。令和3年11月1日から令和4年3月31日まで、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外出機会が減少した65歳以上の高齢者の移動支援を行うため、乗車料金を無料化した。また、令和4年6月1日からは、一部区間で「自由乗降」の試験運用を開始した。 コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でお出かけ事業」を夏休みに実施した。通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗り継ぎを検証しダイヤに反映させた。 また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数は8,989人(前年同期8,662人)、1便あたりの輸送人員は4.6人(目標8.4人)であった。令和3事業年度と比べると、利用者は微増ではあったが、目標・効果は未達成であった。その理由として、未だ残る新型コロナウイルス感染症の影響や入院・死亡等による既存利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。また、新たな取組みである「自由乗降」の試験運用の更なる検証と工夫により、より利便性が向上されるものと考えられる。	感染症対策を確実にしながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。 必要に応じて停留所やルート及び「自由乗降」区間の見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上できるように、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
滑川市地域公共交通会議	滑川市	大日室山③(滑川駅前～大日～中開)車両減価償却費等国庫補助金	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。令和3年11月1日から令和4年3月31日まで、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外出機会が減少した65歳以上の高齢者の移動支援を行うため、乗車料金を無料化した。また、令和4年6月1日からは、一部区間で「自由乗降」の試験運用を開始した。コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でお出かけ事業」を夏休みに実施した。通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗り継ぎを検証しダイヤに反映させた。また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数は8,989人(前年同期8,662人)、1便あたりの輸送人員は4.6人(目標8.4人)であった。令和3事業年度と比べると、利用者は微増ではあったが、目標・効果は未達成であった。その理由として、未だ残る新型コロナウイルス感染症の影響や入院・死亡等による既存利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。また、新たな取組みである「自由乗降」の試験運用の更なる検証と工夫により、より利便性が向上されるものと考えられる。	感染症対策を確実にしながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。必要に応じて停留所やルート及び「自由乗降」区間の見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上できるように、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
滑川市地域公共交通会議	滑川市	小森① (田林公民館前～小森～市民交流プラザエール前)	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。令和3年11月1日から令和4年3月31日まで、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外出機会が減少した65歳以上の高齢者の移動支援を行うため、乗車料金を無料化した。また、令和4年6月1日からは、一部区間で「自由乗降」の試験運用を開始した。コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗り継ぎを検証しダイヤに反映させた。また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数は13,112人(前年同期12,479人)、1便あたりの輸送人員は6.7人(目標8.4人)であった。令和3事業年度と比べると、利用者は微増ではあったが、目標・効果は未達成であった。その理由として、未だ残る新型コロナウイルス感染症の影響や入院・死亡等による既存利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。また、新たな取組みである「自由乗降」の試験運用の更なる検証と工夫により、より利便性が向上されるものと考えられる。	感染症対策を確実にしながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。必要に応じて停留所やルート及び「自由乗降」区間の見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上できるように、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進を図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
滑川市地域公共交通会議	滑川市	小森②(滑川駅前～小森～市民交流プラザエール前)	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。令和3年11月1日から令和4年3月31日まで、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外出機会が減少した65歳以上の高齢者の移動支援を行うため、乗車料金を無料化した。また、令和4年6月1日からは、一部区間で「自由乗降」の試験運用を開始した。コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗り継ぎを検証しダイヤに反映させた。また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数は13,112人(前年同期12,479人)、1便あたりの輸送人員は6.7人(目標8.4人)であった。令和3事業年度と比べると、利用者は微増ではあったが、目標・効果は未達成であった。その理由として、未だ残る新型コロナウイルス感染症の影響や入院・死亡等による既存利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。また、新たな取組みである「自由乗降」の試験運用の更なる検証と工夫により、より利便性が向上されるものと考えられる。	感染症対策を確実にしながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。必要に応じて停留所やルート及び「自由乗降」区間の見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上できるように、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
滑川市地域公共交通会議	滑川市	小森③ (滑川駅前～小森～本江)	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。令和3年11月1日から令和4年3月31日まで、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外出機会が減少した65歳以上の高齢者の移動支援を行うため、乗車料金を無料化した。また、令和4年6月1日からは、一部区間で「自由乗降」の試験運用を開始した。 コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。 通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗り継ぎを検証しダイヤに反映させた。 また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数は13,112人(前年同期12,479人)、1便あたりの輸送人員は6.7人(目標8.4人)であった。 令和3事業年度と比べると、利用者は微増ではあったが、目標・効果は未達成であった。その理由として、未だ残る新型コロナウイルス感染症の影響や入院・死亡等による既存利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。 また、新たな取組みである「自由乗降」の試験運用の更なる検証と工夫により、より利便性が向上されるものと考えられる。	感染症対策を確実にしながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。 必要に応じて停留所やルート及び「自由乗降」区間の見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上できるように、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
滑川市地域公共交通会議	滑川市	栗山① (グリーンタウン北野口～杉本～市民交流プラザエール前)	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。令和3年11月1日から令和4年3月31日まで、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外出機会が減少した65歳以上の高齢者の移動支援を行うため、乗車料金を無料化した。また、令和4年6月1日からは、一部区間で「自由乗降」の試験運用を開始した。コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗り継ぎを検証しダイヤに反映させた。また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数は9,449人(前年同期8,954人)、1便あたりの乗車人数は4.8人(目標8.4人)であった。令和3事業年度と比べると、利用者は微増ではあったが、目標・効果は未達成であった。その理由として、未だ残る新型コロナウイルス感染症の影響や入院・死亡等による既存利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。また、新たな取組みである「自由乗降」の試験運用の更なる検証と工夫により、より利便性が向上されるものと考えられる。	感染症対策を確実にしながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。必要に応じて停留所やルート及び「自由乗降」区間の見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上できるように、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
滑川市地域公共交通会議	滑川市	栗山② (滑川駅前～杉本～市民交流プラザエール前)	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。令和3年11月1日から令和4年3月31日まで、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外出機会が減少した65歳以上の高齢者の移動支援を行うため、乗車料金を無料化した。また、令和4年6月1日からは、一部区間で「自由乗降」の試験運用を開始した。コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗り継ぎを検証しダイヤに反映させた。また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数は9,449人(前年同期8,954人)、1便あたりの乗車人数は4.8人(目標8.4人)であった。令和3事業年度と比べると、利用者は微増ではあったが、目標・効果は未達成であった。その理由として、未だ残る新型コロナウイルス感染症の影響や入院・死亡等による既存利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。また、新たな取組みである「自由乗降」の試験運用の更なる検証と工夫により、より利便性が向上されるものと考えられる。	感染症対策を確実にしながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。必要に応じて停留所やルート及び「自由乗降」区間の見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上できるように、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
滑川市地域公共交通会議	滑川市	栗山③ (滑川駅前～杉本～栗山北)	<p>新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。令和3年11月1日から令和4年3月31日まで、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外出機会が減少した65歳以上の高齢者の移動支援を行うため、乗車料金を無料化した。また、令和4年6月1日からは、一部区間で「自由乗降」の試験運用を開始した。</p> <p>コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗り継ぎを検証しダイヤに反映させた。</p> <p>また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。</p>	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数は9,449人(前年同期8,954人)、1便あたりの乗車人数は4.8人(目標8.4人)であった。令和3事業年度と比べると、利用者は微増ではあったが、目標・効果は未達成であった。その理由として、未だ残る新型コロナウイルス感染症の影響や入院・死亡等による既存利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。また、新たな取組みである「自由乗降」の試験運用の更なる検証と工夫により、より利便性が向上されるものと考えられる。	感染症対策を確実にしながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。必要に応じて停留所やルート及び「自由乗降」区間の見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上できるように、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
滑川市地域公共交通会議	滑川市	市街地循環(滑川駅前～西滑川駅～市民交流プラザエール前)車両減価償却費等国庫補助金	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。令和3年11月1日から令和4年3月31日まで、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外出機会が減少した65歳以上の高齢者の移動支援を行うため、乗車料金を無料化した。また、令和4年6月1日からは、一部区間で「自由乗降」の試験運用を開始した。コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗り継ぎを検証しダイヤに反映させた。また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数は7,847人(前年同期7,593人)、1便あたりの輸送人員は5.9人(目標8.4人)であった。令和3事業年度と比べると、利用者は微増ではあったが、目標・効果は未達成であった。その理由として、未だ残る新型コロナウイルス感染症の影響や入院・死亡等による既存利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。また、新たな取組みである「自由乗降」の試験運用の更なる検証と工夫により、より利便性が向上されるものと考えられる。	感染症対策を確実にしながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。必要に応じて停留所やルート及び「自由乗降」区間の見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上できるように、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
滑川市地域公共交通会議	滑川市	寺町(滑川駅前～寺町～市民交流プラザエール前)車両減価償却費等国庫補助金	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。令和3年11月1日から令和4年3月31日まで、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外出機会が減少した65歳以上の高齢者の移動支援を行うため、乗車料金を無料化した。また、令和4年6月1日からは、一部区間で「自由乗降」の試験運用を開始した。コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗り継ぎを検証しダイヤに反映させた。また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数は11,114人(前年同期10,297人)、1便あたりの輸送人員は8.3人(目標8.4人)であった。令和3事業年度と比べると、利用者は微増ではあったが、目標・効果は未達成であった。その理由として、未だ残る新型コロナウイルス感染症の影響や入院・死亡等による既存利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。また、新たな取組みである「自由乗降」の試験運用の更なる検証と工夫により、より利便性が向上されるものと考えられる。	感染症対策を確実にしながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。必要に応じて停留所やルート及び「自由乗降」区間の見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上できるように、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
滑川市地域公共交通会議	滑川市	北部循環(滑川駅前～水族館前～市役所前)車両減価償却費等国庫補助金	新規利用者獲得のため、市内公共交通の路線図や時刻を掲載したコミュニティバスの時刻表を全世帯に配布したほか、市内の学校、病院、商業施設、観光施設等に時刻表を設置した。令和3年11月1日から令和4年3月31日まで、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外出機会が減少した65歳以上の高齢者の移動支援を行うため、乗車料金を無料化した。また、令和4年6月1日からは、一部区間で「自由乗降」の試験運用を開始した。コミュニティバスの認知度向上のため、県内交通事業者と連携し、小学生の運賃を無料にする「親子でおでかけ事業」を夏休みに実施した。通勤・通学者の利便性向上のため、滑川駅での鉄道との乗り継ぎを検証しダイヤに反映させた。また、「とやまロケーションシステム」により、路線バスの位置情報、運行状況、遅延情報を案内し、利用促進及び利便性向上を図っている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 利用者数は5,842人(前年同期4,565人)、1便あたりの輸送人員は4.4人(目標8.4人)であった。令和3事業年度と比べると、利用者は微増ではあったが、目標・効果は未達成であった。その理由として、未だ残る新型コロナウイルス感染症の影響や入院・死亡等による既存利用者の減少、高齢ドライバーの増加による新規利用者の伸び悩みが考えられる。また、新たな取組みである「自由乗降」の試験運用の更なる検証と工夫により、より利便性が向上されるものと考えられる。	感染症対策を確実にしながら、新規利用者獲得のための事業を継続する。必要に応じて停留所やルート及び「自由乗降」区間の見直しを検討するほか、鉄道のダイヤ改正時には、乗り継ぎの利便性を向上できるように、コミュニティバスのダイヤを検証する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
黒部市公共交通戦略推進協議会	事業者名 桜井交通(株)	運行系統名 ・愛本本線 運行区間 ・愛本新下区公民館～イラッセ ・通勤ターによる定時定路線運行 ・平日のみ運行	・利用促進策として、時刻表・ニューズレターの該当地区への全戸配布や回数券の販売を実施した。 ・新型コロナウイルスの流行に伴い、間仕切りやアルコールの設置等の感染症対策を実施し、利用者が安全に利用できるよう努めた。 ・事業者と意見交換を実施し、利用者の増加に向けた課題の整理や、課題の解決に向けた取組について検討を行っている。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B (1)市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数 令和4年度目標値: 15,300人 令和4年度実績値: 15,259人 【参考】 当該系統利用者数 令和3年度:2,793人 令和4年度:2,790人 (令和元年度:2,869人) (2)公共交通利用圏域内 町内会人口率(交通空白地域の解消) 令和4年度目標値:99.9% 令和4年度実績値:99.9%	・コロナ禍の中で市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数は目標を達成することができなかったが、当該系統の利用者数は目標値をほぼ確保することができた。 ・今後はワークショップ(実務担当者間での検討会議)におけるバス路線見直しの方向性をもとに、利用者数増加に向けた取組を行う。 ・また、動態調査を実施することにより、利用者ニーズの把握に努める。 ・新型コロナウイルスの影響による利用者減少を改善するため、引き続き感染症防止対策を実施する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
黒部市公共交通戦略推進協議会	事業者名 桜井交通(株)	<p>運行系統名 ・石田三日市線</p> <p>運行区間 ・いかわ総合支援学校～黒部市役所 ・黒部市役所～黒部市役所</p> <p>・通勤ターによる定時定路線型運行 ・平日のみ運行</p>	<p>・利用促進策として、時刻表・ニューズレターの該当地区への全戸配布や回数券の販売を実施した。</p> <p>・新型コロナウイルスの流行に伴い、間仕切りやアルコールの設置等の感染症対策を実施し、利用者が安全に利用できるよう努めた。</p> <p>・昨年度の二次評価の結果にもあったように、利用者が減少している状況を鑑みて、運行事業者間でのワークショップを実施し、利用者数増加に向けた取組だけでなく、バス路線見直しや運行手法の変更等の持続可能な運行に向けた取組について検討を行っている。</p> <p>・また、事業者とは意見交換を実施し、具体的なバス停配置、ブランディング等、集客力向上に向けて検討した。</p>	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B <p>(1)市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数</p> <p>令和4年度目標値： 15,300人 令和4年度実績値： 15,259人</p> <p>【参考】 当該系統利用者数 令和3年度：5,913人 令和4年度：8,304人 (令和元年度：8,317人)</p> <p>(2)公共交通利用圏域内 町内会人口率(交通空白地域の解消)</p> <p>令和4年度目標値：99.9% 令和4年度実績値：99.9%</p>	<p>・コロナ禍の中で市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数は目標を達成することができなかったが、当該系統の利用者数は大幅に増加しており、ほぼコロナ禍前の数に戻っている。</p> <p>・今後はワークショップ(実務担当者間での検討会議)におけるバス路線見直しの方向性をもとに、利用者数増加に向けた取組を行う。</p> <p>・また、石田三日市線経路に開業した大型商業施設や道の駅に合わせ、新規利用者の確保を図るため、地元住民とも協議の上ルート変更等の検討を行う。</p> <p>・新型コロナウイルスの影響による利用者減少を改善するため、引き続き感染症防止対策を実施する。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
黒部市公共交通戦略推進協議会	事業者名 くろべ交通(株)	運行系統名 ・田家野-中山エリア 運行区間 ・田家地区～三日市地区 ・予約型デマンドタクシーとして運行 ・月・水・金に運行	・利用促進策として、時刻表・ニュースレターの該当地区への全戸配布や回数券の販売を実施した。 ・新型コロナウイルスの流行に伴い、間仕切りやアルコールの設置等の感染症対策を実施し、利用者が安全に利用できるよう努めた。 ・昨年度の二次評価の結果を受けて、持続可能な運行形態の確立に向け、事業者と利用状況等についての意見交換を行い、接客方法や集客力向上策、路線の経路最適化方法等について検討した。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B (1)市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数 令和4年度目標値: 15,300人 令和4年度実績値: 15,259人 【参考】 当該系統利用者数 令和3年度:583人 令和4年度:542人 (令和元年度:546人) (2)公共交通利用圏域内 町内会人口率(交通空白地域の解消) 令和4年度目標値:99.9% 令和4年度実績値:99.9%	・コロナ禍の中で市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数は目標を達成することができず、当該系統の利用者数も若干減少している。 ・このため、動態調査を実施して利用者ニーズの把握に努めるほか、地域住民との協議やワークショップ等により利用者数増加のための取組を進める。 ・新型コロナウイルスの影響による利用者減少を改善するため、引き続き感染症防止対策を実施する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
黒部市公共交通戦略推進協議会	事業者名 くろべ交通(株)	運行系統名 前沢－宮野エリア 運行区間 ・前沢地区～三日市地区 ・予約型デマンドタクシーとして運行 ・月・水・金に運行	・利用促進策として、時刻表・ニュースレターの該当地区への全戸配布や回数券の販売を実施した。 ・新型コロナウイルスの流行に伴い、間仕切りやアルコールの設置等の感染症対策を実施し、利用者が安全に利用できるよう努めた。 ・昨年度の二次評価の結果を受けて、持続可能な運行形態の確立に向け、事業者と利用状況等についての意見交換を行い、接客方法や集客力向上策、路線の経路最適化方法等について検討した。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B (1)市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数 令和4年度目標値： 15,300人 令和4年度実績値： 15,259人 【参考】 当該系統利用者数 令和3年度：1,009人 令和4年度：824人 (令和元年度：716人) (2)公共交通利用圏域内 町内会人口率(交通空白地域の解消) 令和4年度目標値：99.9% 令和4年度実績値：99.9%	・コロナ禍の中で市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数は目標を達成することができず、当該系統の利用者数も減少している。 ・なお、当該系統の利用者数の減少は、地区内での商業施設開業に影響を受けていると考えられる。 ・このため、動態調査を実施して利用者ニーズの把握に努めるほか、地域住民との協議やワークショップ等により利用者数増加のための取組を進める。 ・新型コロナウイルスの影響による利用者減少を改善するため、引き続き感染症防止対策を実施する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
黒部市公共交通戦略推進協議会	事業者名 くろべ交通(株)	<p>運行系統名 ・村椿・大布施地区</p> <p>運行区間 ・村椿・大布施地区～三日市地区</p> <p>・予約型デマンドタクシーとして運行 ・火・木・土に運行</p>	<p>・利用促進策として、時刻表・ニューズレターの該当地区への全戸配布や回数券の販売を実施した。</p> <p>・新型コロナウイルスの流行に伴い、間仕切りやアルコールの設置等の感染症対策を実施し、利用者が安全に利用できるよう努めた。</p> <p>・昨年度の二次評価の結果を受けて、持続可能な運行形態の確立に向け、事業者と利用状況等についての意見交換を行い、接客方法や集客力向上策、路線の経路最適化方法等について検討した。</p>	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B <p>(1)市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数</p> <p>令和4年度目標値: 15,300人 令和4年度実績値: 15,259人</p> <p>【参考】 当該系統利用者数 令和3年度:789人 令和4年度:869人 (令和元年度:1,028人)</p> <p>(2)公共交通利用圏域内 町内会人口率(交通空白地域の解消)</p> <p>令和4年度目標値:99.9% 令和4年度実績値:99.9%</p>	<p>・コロナ禍の中で市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数は目標を達成することができなかったが、当該系統の利用者数は増加している。</p> <p>・引き続き、地域住民との協議やワークショップ等により、持続可能な運行形態について検討を進めるほか、動態調査を実施し利用者ニーズの把握に努め、利用促進策のより一層強化を図る。</p> <p>・新型コロナウイルスの影響による利用者減少を改善するため、引き続き感染症防止対策を実施する。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
黒部市公共交通戦略推進協議会	事業者名 くろべ交通(株)	運行系統名 ・荻生地区 運行区間 ・荻生地区～三日市地区 ・予約型デマンドタクシーとして運行 ・火・木・土に運行	・利用促進策として、時刻表・ニュースレターの該当地区への全戸配布や回数券の販売を実施した。 ・新型コロナウイルスの流行に伴い、間仕切りやアルコールの設置等の感染症対策を実施し、利用者が安全に利用できるよう努めた。 ・昨年度の二次評価の結果を受けて、持続可能な運行形態の確立に向け、事業者と利用状況等についての意見交換を行い、接客方法や集客力向上策、路線の経路最適化方法等について検討した。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B (1)市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数 令和4年度目標値: 15,300人 令和4年度実績値: 15,259人 【参考】 当該系統利用者数 令和3年度:421人 令和4年度:501人 (令和元年度:474人) (2)公共交通利用圏域内 町内会人口率(交通空白地域の解消) 令和4年度目標値:99.9% 令和4年度実績値:99.9%	・コロナ禍の中で市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数は目標を達成することができなかったが、当該系統の利用者数は増加している。 ・引き続き、地域住民との協議やワークショップ等により利用者数増加を持続するための取組を進めるほか、動態調査を実施し利用者ニーズの把握に努める。 ・新型コロナウイルスの影響による利用者減少を改善するため、引き続き感染症防止対策を実施する。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
氷見市地域公共交通活性化協議会	加越能バス株式会社	運行系統名: ひみ番屋街經由氷見市民病院運行区間:JR氷見駅～ひみ番屋街～氷見市民病院	1 現状分析と計画策定の基礎データとして乗降調査を実施した。 2 コロナ禍において利用者は回復傾向にあるが、県や市のコロナ対策補助金を活用しつつ、利便性確保・維持のために運行本数を維持した。 3 JR氷見線との乗り継ぎ時に一日フリー乗車券の特典を付与する事業を実施したほか、氷見市内の散策マップ等に当該バスの紹介や時刻表にアクセスできる二次元コードを掲載するなど、利用促進を図った。	A 事業が計画に位置付けられた通り、適切に実施された。	A 1 目標 ・1便あたりの利用者数目標値 平日3.4人、土日祝日3.5人 ・系統別の利用者数 ①ひみ番屋街經由氷見市民病院1,100人 ②ひみ番屋街2,600人 ③市街地循環左回り4,800人 ④市街地循環右回り4,300人 2 効果達成状況 ・1便あたりの利用者数 平日4.6人、土日祝日7.0人 ・系統別の年間利用者数 ①ひみ番屋街經由氷見市民病院2,716人 ②ひみ番屋街4,607人 ③市街地循環左回り6,397人 ④市街地循環右回り4,826人 依然として新型コロナウイルスの影響があるものの、観光客数の回復により、利用者が増加し、どの系統も目標値を上回った。	1 乗降調査と利用実態の把握を継続し、コロナ禍が終息した後に、あるいはコロナ禍の中にあっても、利用者数が早期に回復するよう利便性を確保・維持する。 2 ポスト・コロナに向けた利用者数確保のための取り組みとして、JR氷見線と連携した利用促進事業を今後も継続して実施する。 3 氷見市芸術文化館の開館に合わせたバス停名の変更や観光客等にわかりやすい車内アナウンスを追加することにより、一層の利用環境の整備を行う。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
氷見市地域公共交通活性化協議会	加越能バス株式会社	運行系統名： ひみ番屋街運行区間：JR氷見駅～ひみ番屋街	1 現状分析と計画策定の基礎データとして乗降調査を実施した。 2 コロナ禍において利用者は回復傾向にあるが、県や市のコロナ対策補助金を活用しつつ、利便性確保・維持のために運行本数を維持した。 3 JR氷見線との乗り継ぎ時に一日フリー乗車券の特典を付与する事業を実施したほか、氷見市内の散策マップ等に当該バスの紹介や時刻表にアクセスできる二次元コードを掲載するなど、利用促進を図った。	A 事業が計画に位置付けられた通り、適切に実施された。	A 1 目標 ・1便あたりの利用者数目標値 平日3.4人、土日祝日3.5人 ・系統別の利用者数 ①ひみ番屋街経由氷見市民病院1,100人 ②ひみ番屋街2,600人 ③市街地循環左回り4,800人 ④市街地循環右回り4,300人 2 効果達成状況 ・1便あたりの利用者数 平日4.6人、土日祝日7.0人 ・系統別の年間利用者数 ①ひみ番屋街経由氷見市民病院2,716人 ②ひみ番屋街4,607人 ③市街地循環左回り6,397人 ④市街地循環右回り4,826人 依然として新型コロナウイルスの影響があるものの、観光客数の回復により、利用者が増加し、どの系統も目標値を上回った。	1 乗降調査と利用実態の把握を継続し、コロナ禍が終息した後に、あるいはコロナ禍の中にあっても、利用者数が早期に回復するよう利便性を確保・維持する。 2 ポスト・コロナに向けた利用者数確保のための取り組みとして、JR氷見線と連携した利用促進事業を今後も継続して実施する。 3 氷見市芸術文化館の開館に合わせたバス停名の変更や観光客等にわかりやすい車内アナウンスを追加することにより、一層の利用環境の整備を行う。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
氷見市地域公共交通活性化協議会	加越能バス株式会社	<p>運行系統名：市街地循環左回り運行区間：氷見市民病院～JR氷見駅～氷見市民病院</p>	<p>1 現状分析と計画策定の基礎データとして乗降調査を実施した。</p> <p>2 コロナ禍において利用者は回復傾向にあるが、県や市のコロナ対策補助金を活用しつつ、利便性確保・維持のために運行本数を維持した。</p> <p>3 JR氷見線との乗り継ぎ時に一日フリー乗車券の特典を付与する事業を実施したほか、氷見市内の散策マップ等に当該バスの紹介や時刻表にアクセスできる二次元コードを掲載するなど、利用促進を図った。</p>	<p>A 事業が計画に位置付けられた通り、適切に実施された。</p>	<p>1 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1便あたりの利用者数目標値 平日3.4人、土日祝日3.5人 <p>・系統別の利用者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ひみ番屋街経由氷見市民病院1,100人 ②ひみ番屋街2,600人 ③市街地循環左回り4,800人 ④市街地循環右回り4,300人 <p>2 効果達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1便あたりの利用者数 平日4.6人、土日祝日7.0人 <p>・系統別の年間利用者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ひみ番屋街経由氷見市民病院2,716人 ②ひみ番屋街4,607人 ③市街地循環左回り6,397人 ④市街地循環右回り4,826人 <p>依然として新型コロナウイルスの影響があるものの、観光客数の回復により、利用者が増加し、どの系統も目標値を上回った。</p>	<p>1 乗降調査と利用実態の把握を継続し、コロナ禍が終息した後に、あるいはコロナ禍の中にあっても、利用者数が早期に回復するよう利便性を確保・維持する。</p> <p>2 ポスト・コロナに向けた利用者数確保のための取り組みとして、JR氷見線と連携した利用促進事業を今後も継続して実施する。</p> <p>3 氷見市芸術文化館の開館に合わせたバス停名の変更や観光客等にわかりやすい車内アナウンスを追加することにより、一層の利用環境の整備を行う。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
氷見市地域公共交通活性化協議会	加越能バス株式会社	運行系統名：市街地循環右回り運行区間：氷見市民病院～JR氷見駅～氷見市民病院	1 現状分析と計画策定の基礎データとして乗降調査を実施した。 2 コロナ禍において利用者は回復傾向にあるが、県や市のコロナ対策補助金を活用しつつ、利便性確保・維持のために運行本数を維持した。 3 JR氷見線との乗り継ぎ時に一日フリー乗車券の特典を付与する事業を実施したほか、氷見市内の散策マップ等に当該バスの紹介や時刻表にアクセスできる二次元コードを掲載するなど、利用促進を図った。	A 事業が計画に位置付けられた通り、適切に実施された。	A 1 目標 ・1便あたりの利用者数目標値 平日3.4人、土日祝日3.5人 ・系統別の利用者数 ①ひみ番屋街経由氷見市民病院1,100人 ②ひみ番屋街2,600人 ③市街地循環左回り4,800人 ④市街地循環右回り4,300人 2 効果達成状況 ・1便あたりの利用者数 平日4.6人、土日祝日7.0人 ・系統別の年間利用者数 ①ひみ番屋街経由氷見市民病院2,716人 ②ひみ番屋街4,607人 ③市街地循環左回り6,397人 ④市街地循環右回り4,826人 依然として新型コロナウイルスの影響があるものの、観光客数の回復により、利用者が増加し、どの系統も目標値を上回った。	1 乗降調査と利用実態の把握を継続し、コロナ禍が終息した後に、あるいはコロナ禍の中にあっても、利用者数が早期に回復するよう利便性を確保・維持する。 2 ポスト・コロナに向けた利用者数確保のための取り組みとして、JR氷見線と連携した利用促進事業を今後も継続して実施する。 3 氷見市芸術文化館の開館に合わせたバス停名の変更や観光客等にわかりやすい車内アナウンスを追加することにより、一層の利用環境の整備を行う。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
砺波市地域公共交通会議	砺波市	東部循環線 麦秋苑・油田駅前～砺波駅～砺波市役所前	<ul style="list-style-type: none"> ・次回のバスダイヤ改正に向けて市内全21地区で意見交換会を実施し、市民の市営バス等の公共交通に対するニーズ把握に努めた。 ・令和3年10月から市営バスの利用料金の支払いについて、キャッシュレス決済(PayPay)を導入し、利用者の利便性向上を図った。 	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C <ul style="list-style-type: none"> ①1便あたりの乗車人数 ・目標:2.0人/便 ・実績:1.9人/便 →新型コロナウイルス感染症による外出機会の減少が続いているため、目標の2.0人/便には達していないが、昨年度の1.8人/便は上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度に予定しているバスダイヤ改正に向けてバス路線の見直し等も含めて検討する。 ・市民向けの出前講座等で市営バス等の公共交通について説明を行い、利用促進につなげる。 	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。なお、⑤の目標・効果達成状況については、コロナ以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
砺波市地域公共交通会議	となみ観光交通株式会社	デマンドタクシー(愛のりくん) 庄東・雄神区域 小牧・湯山・落シ・名ケ原	<p>・小牧・湯山・落シ・名ケ原で行っていた実証運行を令和3年10月から本格運行に移行した。</p> <p>・令和3年10月から市営バスの利用料金の支払いについて、キャッシュレス決済(PayPay)を導入し、利用者の利便性向上を図った。</p> <p>・現行の「前日15時まで」の予約から「当日」予約にも対応できるようにAI予約配車システムを令和4年5月に導入した。</p>	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C <p>②1便あたりの乗車率 ・目標:3.6人/便 ・実績:2.7人/便(庄東・雄神区域) 1.0人/便(小牧・湯山・落シ・名ケ原) →新型コロナウイルス感染症による外出機会の減少が続いているため、目標には達しなかった。</p> <p>③計画運行回数に対する実績運行回数の割合 ・目標:63.2% ・実績:62.6%(庄東・雄神区域) 1.0%(小牧・湯山・落シ・名ケ原) →庄東・雄神区域については、昨年度の59.5%より上昇したが、目標には達しなかった。</p>	令和4年10月から運行エリアを拡大し、名称も新たに「チョイソコとなみ」とし、実証運行を行っている。本格運行する際には、地域内フィーダー系統路線として運行したい。	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。なお、⑤の目標・効果達成状況については、コロナ以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
上市町地域公共交通活性化協議会	上市町	<p>・上市町営バス 「白萩線」「陽南線」区域型運行 ・2系統を運行 ・交通不便地域と地域間幹線である富山地方鉄道上市駅と接続</p>	<p>コロナ禍の影響を少なくするため、感染症拡大防止対策として両路線の車内に抗ウイルスコーティングを行い安全・安心な環境を整え利用促進を図った。</p> <p>陽南線においては、沿線自治会へ説明会を開催し、今後の対応方針等を提案し意見交換した。毎月の利用状況について自治会と情報を共有することで利用を促した。地区の要望により路線上に新設(稗田東)バス停を設置し、利用者の拡大、運行稼働率の増加に努めた。</p>	<p>A 当初の計画通り事業を実施することができた。</p>	<p>C 計画に位置付けた事業目標は計画運行便数に対する実績稼働率としており ○白萩線 65%以上 ○陽南線 30%以上に設定していたところ、 ○白萩線 63.84% ○陽南線 25.16%となった。</p> <p>主な要因は、白萩線については、前回に比べ土曜日の利用率があがったものの、平日の利用頻度が下がった。定期的に利用する人の回数の減少、しかし新たな利用者は、徐々に増えている。</p> <p>陽南線は、「バスに乗る」ということ自体に慣れていない住民が多く、利用者の半数以上が免許返納者であった。</p> <p>両路線とも、コロナ禍による外出控えも要因の一つと考える。</p>	<p>白萩線については、左記要因のとおりであり、新たな利用者は増加傾向にあるが、ほぼ毎日の利用者が減少したことから、目標の稼働率の修正が今後必要と考えている。</p> <p>陽南線については、『運行稼働割合(30%)を達成できない場合はR3年度末をもって廃止せざるを得ない』旨、事前に説明のうえで本格運行に移行したが、コロナの影響もあり1月から6月までの間で判断することとしその旨文書で通知した。これを受けて沿線自治会では独自に利用料金の還元キャンペーンなども行った結果、稼働率約33%となり運行継続が決定した。しかし、定期的な利用者数は少なく未達成となった。</p> <p>町としては、当該地域は交通不便地域であり、一定数の住民が存在し、バス利用者には免許返納者が多いこと、今後も高齢者が増え免許返納者が増えるであろうと考えているが、町全体のバランス(道路が狭隘で公共交通が入れない地域)や今後の財政負担を考慮した場合、一定の基準を設定せざるを得ないと考えている。なお、沿線自治会ではバス利用促進に関して協議が加速している。今後、町としてはバスにおける日常的なコロナ対策やバス利用に関するチラシを作成・周知するなど利用促進に努めたい。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
加賀市地域公共交通活性化再生協議会	北鉄加賀バス(株)	(路線名)温泉片山津線(運行区間)加賀温泉駅～片山津温泉～石川病院～湖城団地～加賀温泉駅	今年度も引き続き、MM施策として加賀市の協力のもと、加賀市内全世帯と高校の新入生に時刻表を配布した。周遊クーポンの金沢駅バスターミナルでの設置は引き続き検討	B 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施していない点があった。	B コロナ禍により、定期外の観光利用が減少したことが影響し、1便あたり乗車人員は10.45人と目標の12人を下回った。	引き続き、MM施策として加賀市の協力のもと、加賀市内全世帯と高校の新入生に時刻表を配布する他、運行本数を維持しつつ運行時間帯の見直しを行い、利便性の向上を図る。また、R4.11スタートの加賀MaaSアプリデジタル乗車券の拡販を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、生活交通確保維持改善計画に位置付けられたとおり適切に事業を実施するとともに、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
加賀市地域公共交通活性化再生協議会	北鉄加賀バス(株)	(路線名)山代大聖寺線 (運行区間)山中温泉～山代温泉東口～上河崎～大聖寺駅～大聖寺実業高校・かが交流プラザさくら	今年度も引き続き、MM施策として加賀市の協力のもと、加賀市内全世帯と高校の新入生に時刻表を配布した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B コロナ禍による学校休校の影響を一時的に受けたものの、1便あたり乗車人員は7.77人と目標の8人を下回った。	引き続き、MM施策として加賀市の協力のもと、加賀市内全世帯と高校の新入生に時刻表を配布する他、ダイヤの見直しを行う。また、R4.11スタートの加賀MaaSアプリデジタル乗車券の拡販を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、示された改善策と目標が達成されなかった理由との関連性が不明確であることから、目標が達成されなかった理由に対応した新たな具体策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切に検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
加賀市地域公共交通活性化再生協議会	北鉄加賀バス(株)	(路線名)温泉大聖寺線(運行区間)加賀温泉駅～松が丘～大聖寺駅～かが交流プラザさくら	今年度も引き続き、MM施策として加賀市の協力のもと、加賀市内全世帯と高校の新入生に時刻表を配布した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B コロナ禍により、定期外の利用が減少したことが影響し、1便あたり乗車人員は3.25人と目標の5人を下回った。	引き続き、MM施策として加賀市の協力のもと、加賀市内全世帯と高校の新入生に時刻表を配布する他、ダイヤの見直しを行う。また、R4.11スタートの加賀MaaSアプリデジタル乗車券の拡販を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、示された改善策と目標が達成されなかった理由との関連性が不明確であることから、目標が達成されなかった理由に対応した新たな具体策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切に検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
加賀市地域公共交通活性化再生協議会	北鉄加賀バス(株)	(路線名)吉崎線(運行区間)加賀温泉駅～上河崎～大聖寺駅～塩屋	今年度も引き続き、MM施策として加賀市の協力のもと、加賀市内全世帯と高校の新入生に時刻表を配布した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 少子化進行による学生数減少での定期的利用が減少したことが影響し、1便あたり乗車人員は10.95人と目標の11人を下回った。	引き続き、MM施策として加賀市の協力のもと、加賀市内全世帯と高校の新入生に時刻表を配布する他、塩屋地区在住の通学生の利便性向上のため、通学時間帯における錦城中学校前、大聖寺実業高校前経由化を検討する。また、R4.11スタートの加賀MaaSアプリデジタル乗車券の拡販を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
加賀市地域公共交通活性化再生協議会	北鉄加賀バス(株)	(路線名)吉崎線(運行区間)加賀温泉駅～上河崎～大聖寺駅～塩屋	今年度も引き続き、MM施策として加賀市の協力のもと、加賀市内全世帯と高校の新入生に時刻表を配布した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 少子化進行による学生数減少での定期的利用が減少したことが影響し、1便あたり乗車人員は10.95人と目標の11人を下回った。	引き続き、MM施策として加賀市の協力のもと、加賀市内全世帯と高校の新入生に時刻表を配布する他、塩屋地区在住の通学生生の利便性向上のため、通学時間帯における錦城中学校前、大聖寺実業高校前経由化を検討する。また、R4.11スタートの加賀MaaSアプリデジタル乗車券の拡販を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
加賀市地域公共交通活性化再生協議会	日本海観光バス(株)	系統名:キャンパス空港線運行区間:加賀温泉駅~片山津温泉~小松空港	沿線住民に割安回数券の利用促進。Wi-Fi設置によるサービス向上。	C 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、観光客の激減と、航空機運行減便が継続した。このことで、空港を利用する地域住民も少ない状況が続いた。僅かな利用しか見込めない中で、無理に運行することで経営的な問題が生じ、結果廃線となれば本末転倒になるとの思いから、当該期間はやむを得ず全便運休とした。	C 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、同系統は運休したため、達成されなかった。	新型コロナウイルス感染症の影響が長期に影響したことにより、誠に不本意で申し訳ない結果となった。しかしながら、コロナウイルスの状況も変わりつつあり、航空機の運行状況も安定してきている。路線の再編も行って、住民・観光客がともに使いやすいよう改善に努めるとともに、加賀市の進める加賀市マースアプリに参画によるデジタルチケットによる利用促進などを行って改善を図る。また、他の公共交通機関と協調した利用促進も今後積極的に行っていく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、生活交通確保維持改善計画に位置付けられたとおり適切に事業を実施するとともに、実績向上に向けて改善策及びその具体化について引き続き検討する必要がある。その上で、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
内灘町地域公共交通協議会	日本海観光バス(株)	系統名:南部ルート 運行区間:内灘駅~内灘町役場~内灘駅(町内循環)	新規利用者の創出に向け、引き続き、運転免許証返納者にコミュニティバスの定期券や回数券を交付している。 また、更なる利便性向上を図るため、運行計画の見直しに向けた具体的な検証を行っている。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 前年同時期(R2.10~R3.9)に比べ利用者は7.4%、収入は14.5%増加しており、新型コロナ禍前の水準への回復基調が見られた。一方で、老朽車両に対する修繕費の発生や燃料費の高騰の影響を受け、収支率は目標の20.4%に対し、17.8%であった。	内灘町地域公共交通計画に基づき、コミュニティバスの利便性向上と効率化を図るため、令和5年4月から運行計画の改訂を予定している。 利用者にとってわかりやすく、また、直達性向上に向けたルート設定を目指すとともに、小型車両の導入に取り組み、利用者の増加及び効率化による収支率改善に努める。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
内灘町地域公共交通協議会	日本海観光バス(株)	系統名:全町ルート 運行区間:内灘駅～西荒屋公民館前～内灘駅前(町内循環)	新規利用者の創出に向け、引き続き、運転免許証返納者にコミュニティバスの定期券や回数券を交付している。 また、更なる利便性向上を図るため、運行計画の見直しに向けた具体的な検証を行っている。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 前年同時期(R2.10～R3.9)に比べ利用者は7.4%、収入は14.5%増加しており、新型コロナ禍前の水準への回復基調が見られた。一方で、老朽車両に対する修繕費の発生や燃料費の高騰の影響を受け、収支率は目標の20.4%に対し、17.8%であった。	内灘町地域公共交通計画に基づき、コミュニティバスの利便性向上と効率化を図るため、令和5年4月から運行計画の改訂を予定している。 利用者にとってわかりやすく、また、直達性向上に向けたルート設定を目指すとともに、小型車両の導入に取り組み、利用者の増加及び効率化による収支率改善に努める。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
内灘町地域公共交通協議会	日本海観光バス(株)	系統名:にしルート 運行区間:ほのぼの湯～千鳥台1丁目～ほのぼの湯(町内循環)	新規利用者の創出に向け、引き続き、運転免許証返納者にコミュニティバスの定期券や回数券を交付している。 また、更なる利便性向上を図るため、運行計画の見直しに向けた具体的な検証を行っている。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 前年同時期(R2.10～R3.9)に比べ利用者は7.4%、収入は14.5%増加しており、新型コロナ禍前の水準への回復基調が見られた。一方で、老朽車両に対する修繕費の発生や燃料費の高騰の影響を受け、収支率は目標の20.4%に対し、17.8%であった。	内灘町地域公共交通計画に基づき、コミュニティバスの利便性向上と効率化を図るため、令和5年4月から運行計画の改訂を予定している。 利用者にとってわかりやすく、また、直達性向上に向けたルート設定を目指すとともに、小型車両の導入に取り組み、利用者の増加及び効率化による収支率改善に努める。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
内灘町地域公共交通協議会	日本海観光バス(株)	系統名:ひがしルート 運行区間: ほのぼの湯～少年の家～ほのぼの湯(町内循環)	新規利用者の創出に向け、引き続き、運転免許証返納者にコミュニティバスの定期券や回数券を交付している。 また、更なる利便性向上を図るため、運行計画の見直しに向けた具体的な検証を行っている。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 前年同時期(R2.10～R3.9)に比べ利用者は7.4%、収入は14.5%増加しており、新型コロナ禍前の水準への回復基調が見られた。一方で、老朽車両に対する修繕費の発生や燃料費の高騰の影響を受け、収支率は目標の20.4%に対し、17.8%であった。	内灘町地域公共交通計画に基づき、コミュニティバスの利便性向上と効率化を図るため、令和5年4月から運行計画の改訂を予定している。 利用者にとってわかりやすく、また、直達性向上に向けたルート設定を目指すとともに、小型車両の導入に取り組み、利用者の増加及び効率化による収支率改善に努める。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
内灘町地域公共交通協議会	日本海観光バス(株)	系統名:白帆台ルート 運行区間:白帆台2丁目北~ハマナス1丁目~内灘駅(往復)	新規利用者の創出に向け、引き続き、運転免許証返納者にコミュニティバスの定期券や回数券を交付している。 また、更なる利便性向上を図るため、運行計画の見直しに向けた具体的な検証を行っている。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 前年同時期(R2.10~R3.9)に比べ利用者は7.4%、収入は14.5%増加しており、新型コロナ禍前の水準への回復基調が見られた。一方で、老朽車両に対する修繕費の発生や燃料費の高騰の影響を受け、収支率は目標の20.4%に対し、17.8%であった。	内灘町地域公共交通計画に基づき、コミュニティバスの利便性向上と効率化を図るため、令和5年4月から運行計画の改訂を予定している。 利用者にとってわかりやすく、また、直達性向上に向けたルート設定を目指すとともに、小型車両の導入に取り組み、利用者の増加及び効率化による収支率改善に努める。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
津幡町地域公共交通活性化協議会	津幡町	系統名:旭山線 運行区間(津幡駅~石川高専前~旭山公園前) ※車両減価償却費等国庫補助金対象路線	鉄道との接続を考慮するなど、利用者の利便性を考慮したダイヤ改正を行った。また、ダイヤ改正の時刻表を地域内全戸に配布し利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B (a目標達せず、b目標達成) a運行コストを1km当たり250円以内(R3.10~R4.9)255.87円 b平均乗車人数/1回 6.77人(R3.10~R4.9)9.52人	昨今の物価高騰の影響など運行コストの目標達成はならず残念だが、前年度後半から順調に伸びていた平均乗車人数が今年度も更に伸びた。数値的にも目標を達成出来たことから、今後はこの状況を維持出来るよう利用者の意見等も参考に更なる利用促進を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
津幡町地域公共交通活性化協議会	津幡町	系統名: 渦端線 運行区間 (津幡駅～渦端陽香台口～津幡駅、津幡駅～渦端陽香台口～役場前) ※車両減価償却費等国庫補助金対象路線	鉄道との接続を考慮するなど、利用者の利便性を考慮したダイヤ改正を行った。また、ダイヤ改正の時刻表を地域内全戸に配布し利用促進を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B	(a目標達せず、b目標達成) a運行コストを1km当たり250円以内 (R3.10～R4.9)255.87円 b平均乗車人数/1回 2.00人 (R3.10～R4.9)2.04人	昨今の物価高騰などの影響により、運行コストの目標は達成出来なかったが、平均乗車人数の目標は達成出来た。しかしながら、鉄道との乗継ダイヤ等の調整を行っているにも関わらず利用者が少ない系統もあることから、今後はより利便性及び効率性が高い運行等を検討する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
津幡町地域公共交通活性化協議会	津幡町	系統名:太田線 運行区間(役場前～津幡中央～太田～津幡駅、役場前～太田～津幡駅、津幡検問所前～津幡駅～津幡南中学校前) ※車両減価償却費等国庫補助金対象路線	鉄道との接続を考慮するなど、利用者の利便性を考慮したダイヤ改正を行った。また、ダイヤ改正の時刻表を地域内全戸に配布し利用促進を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B	(a目標達せず、b目標達成) a運行コストを1km当たり250円以内(R3.10～R4.9)255.87円 b平均乗車人数/1回 2.86人(R3.10～R4.9)3.33人	昨今の物価高騰などの影響により、運行コストの目標は達成出来なかったが、平均乗車人数の目標は達成出来た。しかしながら、鉄道との乗継ダイヤ等の調整を行っているにも関わらず利用者が少ない系統もあることから、今後はより利便性及び効率性が高い運行等を検討する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
津幡町地域公共交通活性化協議会	津幡町	系統名:井上線 運行区間(津幡駅～津幡中央～井上小学校前、津幡駅～役場前～井上小学校前、井上保育園前～役場前～津幡駅、井上保育園前～津幡中央～津幡駅) ※車両減価償却費等国庫補助金対象路線	鉄道との接続を考慮するなど、利用者の利便性を考慮したダイヤ改正を行った。また、ダイヤ改正の時刻表を地域内全戸に配布し利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B (a目標達せず、b目標達成) a運行コストを1km当たり250円以内(R3.10～R4.9)255.87円 b平均乗車人数/1回 2.64人(R3.10～R4.9)3.30人	昨今の物価高騰などの影響により、運行コストの目標は達成出来なかったが、平均乗車人数の目標は達成出来た。しかしながら、鉄道との乗継ダイヤ等の調整を行っているにも関わらず利用者が少ない系統もあることから、今後はより利便性及び効率性が高い運行等を検討する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
津幡町地域公共交通活性化協議会	津幡町	系統名:緑が丘線 運行区間(津幡駅～緑が丘～森林公園南口、津幡駅～白鳥神社前～近憩館前、4丁目公園前～白鳥神社前～津幡駅、エクセルタウン～役場前～津幡駅) ※車両減価償却費等国庫補助金対象路線	鉄道との接続を考慮するなど、利用者の利便性を考慮したダイヤ改正を行った。また、ダイヤ改正の時刻表を地域内全戸に配布し利用促進を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B	(a目標達せず、b目標達成) a運行コストを1km当たり250円以内(R3.10～R4.9)255.87円 b平均乗車人数/1回 3.94人(R3.10～R4.9)4.24人	昨今の物価高騰などの影響により、運行コストの目標は達成出来なかったが、平均乗車人数の目標は達成出来た。しかしながら、鉄道との乗継ダイヤ等の調整を行っているにも関わらず利用者が少ない系統もあることから、今後はより利便性及び効率性が高い運行等を検討する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
津幡町地域公共交通活性化協議会	津幡町	系統名:領家線 運行区間(津幡駅~本津幡駅~裏舟橋) ※車両減価償却費等国庫補助金対象路線	鉄道との接続を考慮するなど、利用者の利便性を考慮したダイヤ改正を行った。また、ダイヤ改正の時刻表を地域内全戸に配布し利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	C (a目標達せず、b目標達せず) a運行コストを1km当たり250円以内 (R3.10~R4.9)255.87円 b平均乗車人数/1回 2.00人 (R3.10~R4.9)1.66人	昨今の物価高騰などの影響により、運行コストの目標は達成出来なかった。また、新型コロナ等の影響から平均乗車人数も目標を達成出来なかった。今後は、乗車が少ない理由を検証し、更なる利用促進の広報に努めるほか、利用者への聞き取り調査等から、路線見直しも含め利便性及び効率性が高い運行を検討する。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
輪島市地域公共交通会議	輪島市	おでかけバス安代原・西円山コース ※申請番号1	コロナ禍でも安心して利用できるようよう車両内部に抗菌加工を施し、引き続き現行の料金体系及び便数を維持した。	A 計画通り事業は実施された	C 沿線住民の減少等により乗車人数は目標を達成できなかった 乗車人数 【目標】658人以上 【実績】609人 ⇒目標未達成 燃料費の高騰や車両修繕により運行コストは目標を達成できなかった 1kmあたりのコスト 【目標】157.23円 【実績】159.63円 ⇒目標未達成	急激な人口減少が進む中で、利用者の確保は困難な状況にあるが、利用促進のため、運行ダイヤ、他路線との接続等の周知等を行う。 運行コストについては、老朽化で修繕箇所が増えている現状を踏まえ、車両の更新を含め検討を行っていく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
輪島市地域公共交通会議	北鉄奥能登バス株式会社	のらんけバス城兼コース ※申請番号2	コロナ禍でも安心して利用できるよう車両の消毒を行い、料金体系及び便数を維持した。	A 計画通り事業は実施された	C 乗車人数は回復傾向にあるが、燃料費の高騰によりコストは目標を達成できなかった 乗車人数 【目標】577人以上 【実績】2,333人 ⇒目標達成 燃料費の高騰により運行コストは目標を達成できなかった 1kmあたりのコスト 【目標】249.04円 【実績】280.67円 ⇒目標未達成	急激な人口減少が進む中で、利用者の確保は困難な状況にあるが、利用促進のため、引き続き情報発信を行い、利用促進に向けて対応を検討する。 これ以上のコスト削減は困難であることから、便数の削減や路線の見直しを行う。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
宝達志水町地域公共交通協議会	株式会社社敦浪タクシー	<p>(1)運行系統名 デマンドタクシー</p> <p>(2)運行区域 宝達志水町全域及び羽咋市の一部</p>	<p>昨年度の事業評価総括表では、「示された改善策と目標未達の関連性の明確化」「目標未達の理由と対応した新たな具体策及びその具体化についての検討」、「実施について地域一帯となった推進」「適切な検証の実施」について言及された。</p> <p>今年度は、⑤目標・効果達成状況と⑥事業の今後の改善点との対応関係の記述を明確化する。</p> <p>目標未達の理由は、利用者ニーズを満たしていないものと整理した。その対策として、令和4年3月に地域公共交通計画を策定し、料金設定の見直しとコミュニティバスとデマンドタクシーの役割の明確化を行うこととし、令和4年9月に許認可等手続を実施した。また、新たな利用者の掘り起こしを行うため、町広報、HP、CATVにて利用手続を周知するほか、時刻表では利用方法を図示した。</p> <p>地域一帯となった推進を行うため、時刻表も区長を通じた全戸配布とした。</p> <p>適切な検証の実施のため、地域公共交通協議会の審議に付し、持続性向上、利用促進の検討を行った。</p>	<p>A</p> <p>前事業期間では、R3.1に豪雪があったものの計画どおり運行することができた。</p> <p>本事業期間では、R4.9.19-20に台風14号の接近があったものの計画どおり運行するなど、事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施されたと評価している。</p>	<p>C</p> <p>生活交通確保維持改善事業では、利用者の目標はH28からR2の平均値を参考に7,000人以上の利用人数を設定していた。</p> <p>R3.10月～R4.9月の実績 5,393人(▲0.6%) 【参考】 R2.10月～R3.9月の実績 5,427人</p> <p>運転免許証の返納者の増加に伴い、公共交通のニーズが高まっていることが推測されているにも関わらず、利用者が減少傾向にあることから、利用者のニーズを満たす公共交通になっていない可能性が高い。</p> <p>地域公共交通計画策定のためR2.11-12に実施した町民アンケート結果でも、料金の高さに対する改善要望が多いことから、利用者の減少については、無料のコミュニティバスの利用へ移行しているものと自己評価した。</p> <p>また、外部要因として、コロナ禍による外出抑制の影響も大きいと評価している。</p>	<p>地域公共交通計画において、令和4年10月以降、コミュニティバスは利用ニーズの多い老人福祉センターを目的地として集約化し、それ以外の移動ニーズは、区域型運行であるドアtoドアの強みを活かしたデマンド(乗合)タクシーが担うことで役割の分担、明確化を行う。</p> <p>料金改善要望については、デマンド(乗合)タクシーの旧町域区域内の移動運賃を500円/回から300円/回に引き下げることで、料金の高さに対する改善要望にも併せて取り組んでいく。</p> <p>外部要因であるコロナ禍による外出抑制の影響は、公共交通政策単体での改善は困難であるが、引き続き、防護スクリーンの設置や運転手の体温測定や日常の消毒作業などの感染拡大防止策を講じていく。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
珠洲市地域公共交通活性化協議会	珠洲市(まちなかバスすずらん)	市街地循環路線起終点「すずなり館前」経由地「市役所」	R4.3.28から市営無料バス(公共交通の無償化)を開始しており、運行事業者である(一社)すずバスから運行体制や利用者の声について、定期的にヒアリングを実施している。これらの情報を運行体制やダイヤに適切に反映させることにより、市内公共交通の持続性向上や利用促進に努めていくこととしている。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B <目標> 利用者数 12.8人/日以上 <実績> 利用者数 12.7人/日 目標値を概ね達成することができた。	地域の状況に即した持続可能な公共交通を目指し、R4.3.28から公共交通の無償化を開始している。今後は利用者へのアンケート調査等も実施しながら、可能な限り利用者ニーズを反映させ、利用者数の増加に努めていく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
珠洲市地域公共交通活性化協議会	珠洲市(市営バス三崎線)	スクールバスの回送を利用 起点「大屋」 終点「飯田高校下」	R4.3.28から市営無料バス(公共交通の無償化)を開始しており、運行事業者である(一社)す ずバスから運行体制や利用者の声について、定期的にヒアリングを実施している。これらの情報を運行体制やダイヤに適切に反映させることにより、市内公共交通の持続性向上や利用促進に努めていくこととしている。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C <目標> 利用者数 2.1人/日以上 <実績> 利用者数 1.8人/日 目標値はR2年度の実績を基に設定しているが、新型コロナウイルスの流行以降、利用者数が減少傾向にある。	地域の状況に即した持続可能な公共交通を目指し、R4.3.28から公共交通の無償化を開始している。今後は利用者へのアンケート調査等も実施しながら、可能な限り利用者ニーズを反映させ、利用者数の増加に努めていく。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
珠洲市地域公共交通活性化協議会	珠洲市(市営バス小屋線)	「鶉飼本町」、「大町」間を往復にて運行	R4.3.28から市営無料バス(公共交通の無償化)を開始しており、運行事業者である(一社)すずバスから運行体制や利用者の声について、定期的にヒアリングを実施している。これらの情報を運行体制やダイヤに適切に反映させることにより、市内公共交通の持続性向上や利用促進に努めていくこととしている。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A <目標> 利用者数 2.5人/日以上 <実績> 利用者数 2.5人/日	地域の状況に即した持続可能な公共交通を目指し、R4.3.28から公共交通の無償化を開始している。今後は利用者へのアンケート調査等も実施しながら、可能な限り利用者ニーズを反映させ、利用者数の増加に努めていく。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、具体的な改善策の実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
穴水町地域公共交通協議会	穴水町	運行系統名:四村線 穴水駅前～穴水総合病院	車内に手指消毒液を設置し、運転手よりきめ細かい消毒の徹底を呼びかけ、また、利用者の増加を図るために、沿線区域の区長等に改めて路線の周知を行い、薬局・診療所等の医療機関などの施設に時刻表を配布した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 事業が計画に位置づけられた目標を達成できなかった。 ・1km当たりの運行コスト 148.59円 (目標146.78円以内) ・1運行当たりの乗車人員 四村線A:3.4人 (目標5.7人以上) 四村線C:0.8人 (目標2.0人以上) 【理由】 人口減少による沿線住民の減少に加え新型コロナウイルス感染症の影響が引き続きあった(高齢者の感染防止のための利用控え等)ために利用者及び収入が減ったため。	利用者減少の主な原因として、主たる利用者である路線沿線の児童生徒や通院者の減少が考えられ、人口減少が歯止めがかからない中において利用者の増は難しい状況である。 また、昨年度から穴水町において新型コロナウイルスの感染者が確認されており、感染防止のために引き続き利用控えがあることも考えられる。 しかしながら、利用者にとっては必要不可欠な生活路線であり、引き続き感染症対策に取り組む、医療機関以外の施設にも時刻表を配布するなど沿線区域のみならず広域的に周知を図り、潜在利用者の発掘に努めるとともに、燃料費の高騰が見られる中においても、効率的な運行により運行経費の削減に努める。	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。 なお、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな具体策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進を図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
小松市地域公共交通活性化協議会	日本海観光バス(株)	運行系統名: 市内循環線ブルーこまち (市役所先行、園町先行)	バスに乗降センサーを設置し、ODデータを取得した。ODデータを分析することにより、最適なバスのダイヤや経路を検討し、公共交通網の再編計画を作成している。	A 事業は計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	C 目標利用者数 25,000人に対し、22,005人であった。 <要因> コロナ禍による緊急事態宣言等による外出自粛や学生のバス利用自粛等により、利用者数が減少した。 【10月～9月】 R3 22,140人 R4 22,005人 -135人	・取得したODデータを分析し、コミュニティバスのみではなく乗合タクシー等他の交通モードも含め、地域に最適な公共交通を導入していく。 ・来年度かららく賃パスポートにQRコードを付与し、らく賃パスポート利用者のODデータを取得する予定である。 ・引き続き、広報やHP等での周知、バスマップの配布等により利用の促進を図る。	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
七尾市地域公共交通協議会	七尾市	<p>中島元気バス ※車両減価償却費等 国庫補助金 補助対 象バス2台 ①鮫打・熊木方面 すこやか～横田バ ス停～別所集会所 ②鮫打・熊木方面 (朝・夜便) 吉江入り口～横田 バス停～中島地区コ ミュニティセンター前 ③西岸方面 すこやか～瀬尾集 会所～横見集会所 ④西岸方面(朝・夜 便) 横見集会所～瀬尾 集会所～中島地区コ ミュニティセンター前 ⑤豊川方面 すこやか～土川バ ス停～萩谷バス停 ⑥豊川方面(朝・夜 便) 萩谷バス停～土川 バス停～中島地区コ ミュニティセンター ⑦笠師保方面 第1便 華泉神社前～塩津 神社前～すこやか ⑧笠師保方面 第2・4 便 すこやか～塩津神 社前～大覚寺前バス 停 ⑨笠師保方面 第3便 すこやか～塩津神 社前～すこやか ⑩笠師保方面(朝・夜 便) 笠師保駅～笠師保 保育園～上笠師集会所</p>	<p>・前回の事業評価以降、のと鉄道の大幅なダイヤ改正はなく、現行の時刻表で乗り継ぎ利便性が確保できるため、運行ダイヤの変更は行わなかった。</p> <p>・中学生の下校時間(部活有、無とも)に合わせた運行ダイヤとなっていることを確認した。</p> <p>・GTFS化したデータの情報を確認し、時刻表、バス停位置を最新の情報にアップデートした。また、大手交通サイトへの運行情報の提供を行った。</p>	<p>A</p> <p>・計画通り適切に実施している。</p>	<p>B</p> <p>・事業の目標 輸送人員について、16,674人(平成28年度実績値)を下回った。 (令和3年10月～令和4年9月輸送人員16,470人) ※減少要因: 新型コロナウイルスの影響を受けたものであり、特にR4.1月以降の第6波、第7波の影響での乗客減少が顕著であった。</p> <p>・車両の取得に係る目標について、運行コスト1kmあたり229円以下という目標を達成できた。(令和3年10月～令和4年9月1kmあたり運行コスト173円)</p>	<p>・今後も、のと鉄道のダイヤ改正に対応し、乗り継ぎ利便性を考慮するとともに、利用状況を確認し、路線の見直し等を検討していく。</p> <p>・引き続き、市HPや交通系サイトを活用し利用促進及び利便性向上を図る。</p> <p>・コロナ禍による利用数の減少を取り戻すべく、コロナの情勢を注視したうえで、沿線住民への利用促進のためのPRを行っている。</p> <p>・バス停の視認性向上のため、老朽化したバス停の更新を行い、併せてデザイン変更を検討していく。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
七尾市地域公共交通協議会	北鉄能登バス(株)	<p>まりん号順回り 七尾駅～ミナ.クル～七尾駅</p> <p>まりん号逆回り ミナ.クル～七尾駅～ミナ.クル</p> <p>※車両減価償却費等国庫補助金 補助対象バス2台</p>	<p>・GOTO!ななおキャンペーン(七尾版GOTOトラベル)のページにコミュニティバス時刻表へのリンクバナーを掲載するなど、withコロナ、afterコロナでの利用者獲得のための取り組みを行った。</p> <p>・引き続き、利便性向上に向けたダイヤ改正などを検討していく。</p> <p>・GTFS化したデータの情報を確認し、時刻表、バス停位置を最新の情報にアップデートした。また、大手交通サイトへの運行情報の提供を行った。</p>	A	<p>・計画通り適切に実施している。</p>	B	<p>・事業の目標 輸送人員について、68,200人(平成28年度実績値)を下回った。(令和3年10月～令和4年9月輸送人員47,535人) ※減少要因:新型コロナウイルスの影響を受けたものであり、前年度からは回復傾向にあるものの、全体として輸送人員数は少ない状態である。</p> <p>・車両の取得に係る目標について、運行コスト1kmあたり265円以下という目標を達成できなかった。(令和3年10月～令和4年9月1kmあたり運行コスト285.02円) ※未達成要因:前年度に比べ、燃料費や修繕費などの支出を抑制することができなかったため。</p>	<p>・利用状況を確認し、路線の見直し等を検討していく。</p> <p>・引き続き、市HPや交通系サイトを活用し利用促進及び利便性向上を図る。</p> <p>・コロナ禍による利用数の減少を取り戻すべく、コロナの情勢を注視したうえで、沿線住民への利用促進のためのPRを行っていく。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
中能登町地域公共交通協議会	北鉄能登バス株式会社	中能登町コミュニティバス 通称: おりひめバス とりやコース、ろくせいコース	<p>・コロナ禍が続く中、移動制限の緩和もあり、徐々に利用者の回復がみられる中、免許返納者に進呈した回数券の利用把握は継続できている。接触制限が続く中、返納者へのアンケートを継続実施としている。</p> <p>・観光施策との連携、交通系情報サイトへの情報提供の実施について、時刻表データのオープンデータ化し、ダイヤ改正の反映に処理も実施している。</p> <p>・総合時刻表マップを更新し、令和4年3月末に発行した。乗り方についての動画を編集し、令和3年3月末以降、継続して町のCATVで放映。併せてYou Tubeに配信済。</p> <p>バス無料の日などの利用啓発事業については、長引くコロナ禍の影響により、イベント開催がなく、実施に至らなかった。代替として、新型コロナウイルスワクチン接種用の無料回数券を高齢者に配付し、延べ人数37名(フィーダーのみ、幹線113名)の利用があり、高齢者の方々の移動手段として貢献し、接種率向上のにつながった。</p>	A 事業は計画どおり適切に実施された。	C <p>・年間利用者数 目標20,700人 実績18,698人 (前年実績18,931人)</p> <p>・免許返納者利用者数 目標555人 実績538人 (前年実績505人)</p> <p>・収支率 目標12.5% 実績11.7% (前年11.8%)</p> <p>年間利用者数はコロナの影響が続き、昨年に続き、大きく下回った。 免許返納者の利用者数は、昨年より増加したものの、目標には届かなかった。 収支率は前年度比0.7%減少し、大きく下回った。未達成理由は、いずれもコロナの影響を大きく受け、利用者数が伸び悩んだため。</p>	<p>・コロナ禍において、大幅に利用者数が落ち込んでいるが、引き続きこれまでの取り組みを実施する。</p> <p>・引き続き免許返納者に対する取り組みを実施する。返納者からの意見を聞くため、利用後のアンケートをお願いする仕組みを構築する。</p> <p>・観光施策との連携、交通系情報サイトへの情報提供の実施についてはオープンデータ化に向けて取り組みを続ける。</p> <p>・総合時刻表マップの更新、乗り方教室(CATVの番組作成)やバス無料の日などの利用啓発事業は引き続き実施して行く。</p>	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
中能登町地域公共交通協議会	株式会社中能登タクシー	デマンドタクシー 瀬戸・花見月コース(おでかけ便) 瀬戸・花見月コース(おかえり便) 上後山・下後山コース(おでかけ便) 上後山・下後山コース(おかえり便)	<p>・免許返納者への回数券進呈後の利用状況の把握は継続実施している。。免許返納者の中で、モニター的な協力については、今後、手法を検討し実施予定。</p> <p>・総合時刻表マップを更新し、令和4年3月末に発行した。</p> <p>利用啓発事業については、これまで町のイベント開催時に実施してきたが、コロナの影響で、イベント自体が開催できず実施できなかった。</p>	A 事業は計画どおり適切に実施された。	C <p>・年間利用者数 目標3,300人 実績889人 (前年実績934人)</p> <p>・免許返納者利用者数 目標96人 実績31人 (前年実績63人)</p> <p>・収支率 目標7.5% 実績11.2% (前年7.5%)</p> <p>年間利用者数はコロナの影響で大きく下回った。 免許返納者の利用者数は、目標には届かなかった。 収支率は目標数字を達成しているが、デマンドの特性上、利用が増えれば悪化する傾向がとなるためと考えられる。未達成理由は、いずれもコロナの影響を大きく受け、利用者数が伸び悩んだため。</p>	<p>・継続して、免許返納者に対する配布支援を実施する。</p> <p>返納者からの意見を聞くため、デマンドタクシー利用後や返納手続き時など機会を捉えてのアンケートを実施する。</p> <p>・総合時刻表マップの更新や、無料の日などの利用啓発事業は、コロナ禍でのイベント開催状況を勘案しつつ、取組手法を工夫検討のうえ、継続して実施する。</p>	協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、目標が達成されなかった理由に対応した改善策及びその具体化について改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通の持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
志賀町地域公共交通活性化協議会	榑高浜タクシー	志賀町コミュニティバス まちなか循環線志賀の郷ルート	地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう、民間事業者との定住促進の取り組みとの連携(ルート延伸を行った住宅地でのPR等)、公共交通活用のための意識醸成(町広報紙掲載)、わかりやすい情報提供(時刻表等の町内全戸、商業施設、医療施設及び福祉施設等への配布、町ホームページでの時刻表等及び経路GTFSデータの掲載、検索サイトへの情報提供)等を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標の達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が大きく減少し、目標の達成には至らなかった。また、利用者数の分析についても非常に難しい状況であり、継続して利用状況を把握し評価していきたい。 【まちなか循環線の年間利用者数】 ・令和4年度目標10,925人 ・計画運行期間実績(R3.10.1~R4.9.30) 7,112人	ひきつづき志賀町地域公共交通網形成計画に基づき、以下の取組を実施する。 ・民間事業者との定住促進の取り組みとの連携 ・老人会等への公共交通利用のための意識醸成(コロナ禍におけるPR活動を検討) ・わかりやすい情報提供(時刻表等の町内全戸、商業施設、医療施設及び福祉施設等への配布、町ホームページでの時刻表等及び経路GTFSデータの掲載、検索サイトへの情報提供) ・コロナ禍においても、利用者数の回復が見込める商業施設、福祉施設との連携強化	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：離島航路運営費等補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
佐渡航路確保維持改善協議会	佐渡汽船株式会社	小木直江津航路	<p>・前回の評価を踏まえ、まずは、大幅な債務超過に陥っている佐渡汽船の事業継続に向けて、様々な経営改善策に取り組むとともに、第三者出資の検討を進めた結果、令和4年3月末、みちのりホールディングスや金融機関からの資本増強策が実現し、本航路を含む佐渡航路の維持確保に一定の目途が立った。</p> <p>・併せて、新潟県、佐渡市、上越市、佐渡汽船及びみちのりホールディングスにおいて、「佐渡航路の維持確保及び活性化に向けた協定書」を締結し、関係者が連携しながら、輸送量確保・拡大に向けて、取り組んだ。(主な取組)</p> <p>○令和4年4月29日、本航路の運航開始にあわせ、ターミナルで歓迎イベント開催。</p> <p>○新潟・直江津周遊コースや直江津航路往復コースの宣伝強化。</p> <p>○日帰リレンタカー・自転車パックの継続販売。</p> <p>○有人国境離島法(滞在型観光)を活用した利用促進。</p> <p>○地元市と連携した広域観光の取組強化。(佐渡市「さどまる倶楽部での割引」、上越市「上越エリアの観光施設の島民割引」)</p> <p>○新潟県主催の旅行代理店向け商談会において、旅行商品の造成促進強化。</p> <p>○Instagram、YouTube等とともに、新たにLINEを開設し、情報発信強化。</p> <p>○東海汽船とのコラボレーションによる話題性の獲得。「さるびあ丸」の小木港寄港、御船印販売促進)</p>	A	<p>計画に位置付けられたとおり適切に実施された。</p> <p>・令和4年3月末以降、新たな経営体制のもと、みちのりホールディングスがこれまで培ってきた様々な誘客促進や利便性向上などのノウハウを、関係者と連携しながら佐渡航路に展開した。</p> <p>・また、事業再生に向け、社員の意識改革や、燃料油の入札制度導入等によるコスト削減、電子決済システム導入等による生産性向上、バンカーサーチャージゾーンの細分化等による増収策なども取り組んだ。</p> <p>・離島航路3カ年計画の「3.収入の増加・確保に関する事項」については、長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、十分な集客につながらないイベント等はあったものの、実施可能な取組は行った。</p>	C	<p>目標を達成できなかった。</p> <p>・輸送人員は計画48,644人に対し、実績は31,378人となった。(計画比64.5%)</p> <p>・佐渡汽船は関係者と連携しながら、本航路の利用促進や輸送需要の掘り起こしに努めたものの、長引く新型コロナウイルスの影響を受け、目標に届かなかった。</p> <p>・なお、前年と比較すると、運航期間は短くなったものの、輸送需要の回復傾向により、輸送実績は115.2%、+4,151人となった。</p> <p>(主な取組効果)</p> <p>○新潟・直江津周遊コース、直江津航路往復コースの実績(個人・団体)11,335人(前年比+4,122人)</p> <p>○有人国境離島法(滞在型観光)を活用した利用促進の実績1,353人(前年比+959人)</p> <p>○さどまる倶楽部の割引による実績646人(前年比+223人)</p>	<p>・佐渡汽船の事業継続に一定の目途が立ったものの、依然として新型コロナウイルスの影響が続いており、輸送需要の本格的な回復は不透明な状況の中、佐渡汽船は新たな経営体制のもと、本航路の維持確保とともに、事業再生に向けて、継続的に経営改善に取り組んでいる。</p> <p>・また、経営改善策の一環として、令和3年4月、船舶をカーフェリーからジェットフォイルに変更したものの、二次交通の課題に加え、新型コロナウイルスの影響などから、利用者増には結びつかなかった。</p> <p>・本航路は観光利用が多く、今後の世界遺産登録も見据え、地元を中心にカーフェリー再導入の要望が行われていたところ、佐渡汽船は令和5年度のカーフェリー再導入を発表し、車両航送を取り込むことで、輸送量拡大とともに収支改善を図ることとした。</p> <p>・今後も事業再生に向けて、コスト削減等に努めるとともに、カーフェリー再導入に伴う輸送量拡大に向け、関係自治体においては、佐渡汽船の取組との連携を深めるとともに、観光関係者も交えながら、外国人観光客や、本航路利用が期待される中部・関西地区などからの誘客を行い、利用者の増加を図っていくこととする。</p> <p>・また、5者間で締結した協定書にもとづき、定期的に佐渡汽船の経営状況を把握し、引き続き、佐渡航路の維持・確保に努めることとする。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：離島航路運営費等補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
粟島浦村地域公共交通協議会	粟島汽船株式会社	粟島と本土(岩船)を結ぶ唯一の交通手段で、通院や買い物などで利用する島民のほか、公共工事関係者や観光客が主となり、利用者には欠かすことができない役割を担っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・船員については昨年3月(36才船員経験6年)、4月に23才(海上学歴2年船員経験2年)合計2名甲板員を雇用した。 ・島内イベントは5月のゴールデンウィークに島開き、6月にクリーンアップ作戦(島内海岸清掃ボランティア)などが開催され、旅客輸送人員は5月は2,058名増、6月は1,066名増。コロナ禍以前には及ばない状況だが昨年度と比べ、旅客は回復傾向。 ・観光協会と連携した誘致は10月にハミングツアーと連携し、チャーター便でのツアーを行った。 ・経費は燃料費高騰(燃料費約400万円増)、退職金支払い(船員費約2,100万円増)もあり、昨年度と比べ約3,000万円増加。 	A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	C	<p>R4年度の目標に対する実績【旅客輸送人員】 目標56,000人、実績30,338人(達成率54.2%)</p> <p>【欠損額増加の抑制】 目標(前年度) ▲281,827,937円 実績(今年度) ▲206,027,147円</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も安定的な運航を維持するため、船員の確保・育成に努める。 ・利用者を増やすため島内のイベントを実施し利用促進に取り組む。 ・観光客の誘致増加に向けて観光協会と連携し「あわしま自然体験」での体験を目的とした利用者の誘致や県の支援事業を活用した体験の割引など、若者、子供を対象とした体験イベント等を企画し実施していく。 ・一層の経費削減を行い、欠損額の抑制に努める。 	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：離島航路運営費等補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
輪島市離島航路改善協議会	へぐら航路株式会社	輪島～舳倉島	<p>前回の事業評価を踏まえ、令和4年度は利用促進及び経費の節減を引き続き継続する内容の計画とした。</p> <p>利便性確保のため、1日1往復の運航を維持した。</p> <p>利用促進のためのPRを引き続き実施し、利用者の増加に努めた。特に新船就航をPRすることで、利用促進を図った。</p> <p>無駄な支出がないよう、経費削減に努めた。特に、資金繰りのための借入金を輪島市から借り入れることにより、利息額を抑制した。</p>	A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>事業が計画に位置づけられた目標を達成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間旅客運賃 【目標】 14,841,865円 【実績】 15,191,040円 ⇒達成 ・年間貨物運賃 【目標】 12,360,546円 【実績】 12,966,800円 ⇒達成 ・収支率 【目標】 29.1%以上 【実績】 31.5% ⇒達成 ・情報発信 【目標】 積極的な情報発信を実施する 【実績】 観光需要をメインに情報発信を行った ⇒達成 ・料金体系及び運航体制の維持 【目標】 料金体系の維持及び1日1往復の運航体制の維持 【実績】 維持した ⇒達成 	<p>新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、概ね堅調に推移し目標を達成した。今後も引き続き利用促進を図る。</p> <p>貨物運賃収入の大部分を占める舳倉島近海の漁獲量は多くはなかったが、目標を達成することができた。貨物運賃は重要な収入源であることから、安全最優先のもと、確実な輸送を行う。</p> <p>収入を増加させつつ、費用を削減できるよう努める。</p> <p>利用者数の底上げのため、引き続き積極的に情報を発信していく。</p> <p>島民の利便性並びに観光誘客のため、1日1往復の運航を確保していく。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑥までについては自己評価のとおりであり、実績向上に向けて具体的な改善策について引き続き検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果
にいがた都市交通戦略推進会議	<p>【事業内容】</p> <p>(1) 現行計画の達成状況調査 (2) 現状整理・他計画との整合 (3) 市民ニーズの分析と課題整理 (4) 目標・基本方針の決定 (5) 指標設定 (6) 施策のとりまとめ</p> <p>【結果概要】</p> <p>・(1)～(3)について 令和4年11月から調査等を実施。令和5年2月(中旬)までにとりまとめ等完了予定。 ・(4)～(6)については (1)～(3)の結果等を踏まえ、令和5年3月(中旬)までに完了する予定。</p>	A 現在のところ、事業が計画に位置付けられたとおり適切に実施されている。	<p>【補助対象事業名】 新潟市地域公共交通計画策定事業</p> <p>【事業内容】</p> <p>(1) 現行計画の達成状況調査 (2) 現状整理・他計画との整合 (3) 市民ニーズの分析と課題整理 (4) 目標・基本方針の決定 (5) 指標設定 (6) 施策のとりまとめ</p> <p>【実施時期】 令和4年11月～令和5年3月</p> <p>【計画策定の方針】 「にいがた都市交通戦略プラン[基本計画]」を上位計画とし、立地適正化計画と一体となって、今後6年間で取り組む公共交通施策等を定める。</p>	協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。 なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果
長岡市地域公共交通協議会	<p>【事業の実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長岡市地域公共交通網形成計画の評価 ・基本方針及び計画目標の設定 ・交通施策、事業の設定 ・協議会の開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・網形成計画の評価を行い、長岡市の課題整理及び次期計画における対応策を検討し、計画素案を作成した。 ・今後の協議会の検討、パブリックコメントを経て、地域公共交通計画として最終的にとりまとめる。 ・協議会は6月、8月、10月、11月に開催した。令和5年2月に開催する協議会でとりまとめた計画案を提示し、委員の承認を得たうえで計画策定を行う。 	A	<p>計画通り事業は適切に実施されている。</p> <p>・誰もが安心して利用できる公共交通網の構築</p> <p>・地域の実情に応じた持続可能な公共交通サービスの提供</p> <p>・市民・交通事業者・行政で取り組む公共交通の確立</p> <p>以上3点を基本的な方針として、主要なバス路線の維持、効率的な移動手段の検討、新たなシステム導入を含めた利用促進策を協議したうえで、長岡市地域公共交通計画を策定する。</p> <p>また、地域公共交通確保維持改善事業(地域間幹線系統補助・地域内フィーダー系統補助)の活用を見込んでいる。</p>	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
新発田市地域公共交通活性化協議会	<p>【事業内容】 ・現計画の評価、上位、関連計画等と本計画の位置付整理 ・新発田市の現状整理 ・地域住民アンケートの実施 ・バス利用者アンケート、乗降実態調査 ・関係事業者ヒアリング ・協議会開催</p> <p>【結果概要】 新発田市における公共交通をとりまく主な課題を整理した。</p> <p>○人口減少と高齢化 平成7年から人口減少に転じ、高齢化も進み、今後とも進行することが予想される。特に郊外の地区ではその傾向が顕著である。</p> <p>○中心市街地の変化 車社会の進行と、大型店の郊外出店などを背景として、中心市街地では、人口減少や空き店舗の増加等による商業機能の低下など、空洞化が起きている。</p> <p>○路線バスの廃線とコミュニティバスの増加による市の財政負担の増加 近年、路線バスの利用者が減少し、多くの路線が廃止になっている。その代替として、市がコミュニティバスや乗合タクシーを運行しており、市の財政負担が増加している。</p>	A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。</p>	<p>現行の新発田市地域公共交通網形成計画を踏襲しつつ、新たな推進の追加、現状分析や調査等を踏まえ策定する。</p> <p>【事業名】 新発田市地域公共交通計画策定業務</p> <p>【実施時期】 令和4・5年度</p> <p>【実施方針】 ○周辺地区の公共交通の早急な整備 定路線迂回型運行を展開し、周辺地区と中心市街地を結ぶ市民の生活の足を維持・確保する。 ○まちなか移動を支える公共交通の充実 中心市街地では、市街地循環バス「あやめバス」の充実により、まちなかの活性化につなげる。 ○地域で持続可能な公共交通の新たな仕組みの導入 市民が主体的に検討と取組を推進できる環境をつくり、持続可能な公共交通を地域とともにつくる。 ○地域の輸送資源の総動員や新技術の活用による運行の効率化 スクールバス、観光送迎バスなどの地域の輸送資源の総動員により、市民の移動手段を確保する。 AIやMaaSなどの新技術を取り入れ、利便性・効率性向上を図る。</p>	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。 なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、来年度の地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和5年3月8日

北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
小千谷市地域公共交通協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域現況の整理 ・地域公共交通におけるニーズ把握(住民ニーズ調査、バス利用者アンケート、乗降実態調査、関係者ヒアリング) ・地域公共交通協議会の開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存データのまとめ、上位計画との整合などにより、公共交通の現況を把握した。 ・抽出した世帯を対象にアンケート調査を実施。公共交通の現況やニーズ等の地域公共交通を取り巻く課題を把握することができた。 	A	<p>計画通り事業は適切に実施されている。</p>	<p>【事業名】 小千谷市地域公共交通計画策定調査業務</p> <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現況分析 ・意向調査の実施 ・協議会開催 <p>【実施時期】 令和4年7月～令和5年3月</p> <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の地域公共交通計画策定に向けての基礎資料作成が完了した。引き続き計画作成に向けて関係者協議を進め、地域公共交通の活性化を目的に令和5年度中の完成を目指す。 	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。 なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、来年度の地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果
十日町市地域公共交通活性化協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域現況の整理 <ul style="list-style-type: none"> ・上位・関連計画等と本計画の位置付け整理 ・十日町市の現況整理 ●地域公共交通におけるニーズ等の把握 <ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケート ・利用者アンケート ・乗降実態調査 ・関係者ヒアリング ●十日町市地域公共交通活性化協議会の開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上位計画、関連計画、基礎的データの整理などにより、地域公共交通の現況を整理した。 ・市民アンケート、利用者アンケート、乗降実態調査、関係者ヒアリングを実施し、ニーズ等について把握した。 ・なお、ニーズ等の把握に係る各種調査については、現在、整理、集計、分析中であり、令和4年度中に取りまとめを行う予定。また、各種調査結果を分析し、令和5年度計画策定の基礎資料とする。 ※令和4年度の計画策定事業は計画通りに完了する見込みである。 	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	<p>①事業の結果概要欄に記載のとおり、現在、ニーズ等の把握に係る調査結果を整理、集計、分析中であり、令和4年度中に取りまとめる予定である。</p> <p>計画策定に向けた方針については、これらの各種調査の結果を踏まえて定める必要があるため、今後、調査結果を基に当協議会で検討し、令和5年度中に十日町市地域公共交通計画を策定する。</p> <p>策定時期:令和6年2月(予定)</p>	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、来年度の地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
湯沢町地域公共交通活性化協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共交通の現況整理 地域住民のニーズ把握 湯沢町地域公共交通計画(案)のとりまとめ 協議会開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎的データの整理、現況調査などにより、地域の公共交通の状況を整理した。 町民へのアンケートにより、移動に対するニーズ(困りごと)や満足度を把握し課題整理を行った。 地域に適した移動サービス体系やサービスレベルについて検討し、協議会に諮るための計画素案を作成。 今後の協議会の検討を経て、最終的にとりまとめる。 	A	<p>計画通り事業は適切に実施されている。</p>	<p>【事業名】 湯沢町地域公共交通計画策定調査業務</p> <p>町民の移動利便性を向上させるため、アンケートで把握したニーズをもとに目標とするサービス水準を設定した上で移動環境の整備を進めていくこととしている。 また、年間400万人近い観光客が訪れる町である一方、観光客の送迎は各宿泊施設等がそれぞれで行っており、非常にわかりにくく非効率な運行となっている。このことから、町民と観光客等の多様な移動を支えるべく、地域公共交通のみならず、多様な移動環境を総合的に計画する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。 なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、来年度の地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和5年3月8日

北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果
刈羽村地域公共交通協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域内の公共交通に関する現況調査 ・地域住民へのアンケート調査 ・協議会開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に事業者への聞き取りにより、地域内の公共交通の現状について、明らかとなった ・住民アンケートにより、移動ニーズや公共交通の利用頻度、まちづくりに関する意見が明らかとなった。 ・調査した情報を元に、公共交通が果たすべき役割やビジョンを明らかにし、それに基づいて取り組むべき事業が記載された計画素案を作成した。 ・今後パブリックコメント、協議会での審議を経て計画策定を予定している。 	A 計画通り事業は適切に実施されている。	<p>【事業名】</p> <p>刈羽村地域公共交通計画策定事業</p> <p>村内における主要な移動手段であるコミュニティバスのデマンドタクシーへの転換を軸にしつつ、新駅の建設、高需要が見込まれるバス路線の開発、ターゲット・シーンごとの利用促進策など、公共交通を地域活性化の「てこ」として機能させていく計画とする。乗換拠点を接続点とする幹、枝、葉をしっかりと整えて、魅力的な地域づくりを推進していくことで、公共交通が人口減少問題解決の切り札となることを目指す。 なお、令和5年度確保維持事業(地域間幹線系統)の活用を見込んでいる。</p>	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。 なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、来年度の地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
岡谷市地域公共交通活性化協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域概況の把握、公共交通機関の実態調査 ・上位・関連計画の整理 ・移動、利用実態調査 ・協議会の開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケート及びバス路線のOD調査を実施し、市民の移動実態や公共交通の利用実態、バス利用者の属性等を把握・整理した。 ・長野県内19市に対し本市との公共交通に対する負担額等を比較するための調査、公共交通に係る事業者に対し意見や提言の反映及び基礎的情報の収集を目的としたアンケート調査、クロスセクター分析等を実施予定。 	A	<p>計画通り事業は適切に実施された。</p>	<p>本市が抱える課題として、公共交通利用者の減少・運賃収入の減少、これらに伴う市の財政負担増加が挙げられる。市全域の地域住民の足の効率的な確保という観点から、地勢や施設分布等の自然条件や、既存バス路線の利用状況、各地域の人流データ等、本市が運行するシルキーバス路線を取り巻く環境及び情報を把握し、整理する。</p> <p>令和5年度では本市の地域公共交通の最適化をねらいとして地域公共交通計画を策定し、令和6年度から計画の実行を目指す予定である。</p>	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、来年度の地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における二次評価結果
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果
諏訪市地域公共交通活性化協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行計画の評価 ・地域内の公共交通に関する現況調査 ・地域住民のニーズ調査 ・諏訪市地域公共交通計画(案)の取りまとめ ・協議会開催 <p>当市は、「諏訪市生活交通ネットワーク計画」に基づき、路線バス(かりんちゃんバス)を中心とした公共交通の見直しや路線改正を図り維持確保を行ってきたが、少子高齢化や人口減少、新型コロナウイルス感染症による外出自粛の影響により、公共交通利用者は平成22年138,692人をピークに減少傾向にある。運賃収入が減少したことによる運行事業者への補助金が増加し、市の財政負担が大きくなり、事業の継続には厳しい状況が続いている。このような状況を踏まえて、「立地適正化計画」に沿って、令和4年度に本調査事業を活用し市民や高校生、交通関係者等にアンケート調査を実施することにより、公共交通に対する利用実態やニーズを把握・整理し、公共交通の課題・要因及び既存路線バスを最大限活用しつつ、より利便性の高いAIオンデマンド交通の導入の可能性について分析・検討していく必要がある。分析結果を踏まえて、課題の解決策を見出し、毎年目標値を設定し、検証することによって地域特性に応じた持続可能な公共交通網を具体的に構築していくために「諏訪市地域公共交通計画」を策定するものである。</p>	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	<p>市民や高校生、交通関係者等にアンケート調査を実施し、公共交通に対する利用実態やニーズを把握・整理することができた。また、公共交通の課題・要因及び既存路線バス(かりんちゃんバス、かりんちゃん子バス)の分析結果を踏まえて、課題の解決策を見出し、毎年目標値を設定することができた。今後は、諏訪市地域公共交通計画を令和5年3月末までに策定し、今後5年間の持続可能な地域公共交通網を構築する。具体的には、定時定路線の循環型バス運行を見直し、計画期間内に利便性の高いAIオンデマンド交通を導入し、市民の安全安心な公共交通体系を構築する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。 なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における二次評価結果
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針又は事業の今後の改善点	評価結果
須坂市地域公共交通会議	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・須坂市における公共交通の利用状況と課題整理 ・蓄積データから須坂市内のOD等の変化、路線定期利用等を整理 ・市民アンケート調査、利用者アンケート調査、乗降調査 ・事業者ヒアリング <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・須坂市内の鉄道、乗合タクシー、路線バスの運行・利用状況、ICカードデータ集計、PT調査から移動実態を整理した。 ・市民へのアンケートにより、市民の公共交通に対する意見、利用目的や目的地別の移動需要等のデータを取得した。 ・調査で得たデータや意見をもとに、須坂市に適した公共交通のあり方についてまとめ、基本方針について会議で協議した。今後協議会に諮るための計画素案を作成中。 ・計画の具体的内容について今後の協議会で検討を行い、須坂市地域公共交通計画としてパブリックコメントを経て最終的にとりまとめる。 	A 計画通り事業は適切に実施された	<p>須坂市における公共交通の現況、アンケート等の各種調査結果をもとに、域内の移動や交通に係る課題として8つの項目を抽出した。</p> <p>8つの課題を須坂市での市民生活・まちづくりに係る「地域課題」と、須坂市の公共交通の運行や利便性等に係る「地域公共交通が抱える課題」の2つに分け、それぞれの項目について今後の目標や具体的事業について取りまとめていく。</p>	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
茅野市・原村地域公共交通活性化協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 茅野市・原村地域公共交通総合連携計画の評価 利用実態調査(アンケート調査) 市民意識調査(アンケート調査) 地域公共交通活性化協議会開催 地域公共交通計画の策定方針 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口等の地域の現状、公共交通の現状の整理、立地適正化計画を含む上位関連計画における公共交通の位置づけを整理するとともに、茅野市・原村地域公共交通総合連携計画の評価を実施。 公共交通(路線バス5路線)利用者に対するアンケートは11月下旬に実施。利用者属性、利用傾向など現在集計・分析中で、今後、公共交通を取り巻く問題点や課題の整理のための基礎資料として活用する。 市民アンケートは11月に実施し、現在集計中で、今後、公共交通を取り巻く問題点や課題の整理のための基礎資料として活用する。 協議会は、2月に現行計画の評価と各種調査結果と地域公共交通の課題を報告・協議予定。3月に計画の策定方針(骨子案)を作成予定。 	A	計画通り事業は適切に実施されている。	<p>【補助対象事業名】</p> <p>地域公共交通調査事業</p> <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 茅野市・原村地域公共交通総合連携計画の評価 利用実態調査(アンケート調査) 市民意識調査(アンケート調査) 地域公共交通活性化協議会開催 地域公共交通計画の策定方針 <p>【計画策定の方針】</p> <p>地域公共交通調査事業(計画策定事業)において、地域の現状、公共交通の現状、各種アンケート調査結果の分析を進め、調査結果を踏まえた利便性向上のための地域公共交通計画の策定方針を検討していく。</p> <p>令和5年度に当該検討結果を基にし、地域公共交通計画を策定する。</p>	協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。 なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、来年度の地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和5年3月8日

北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における二次評価結果	
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針又は事業の今後の改善点	評価結果	
東御市公共交通活性化協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共交通計画の基本方針の決定 計画目標の設定 地域公共交通網の再編の検討 計画推進の取り組みの検討 計画原案に対するパブリックコメントの実施 地域公共交通計画のまとめ 公共交通活性化協議会の開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度に実施した調査結果や整理した課題を踏まえ、令和4年度では、継続して協議会で検討を行い、市における持続可能な公共交通ネットワーク再編に向けての基本方針を決定した。 基本方針に対応した目標設定を行い、数値目標、算出方法等を検討するとともに、現況値及び将来目標値を設定した。 基本方針や計画目標の実現と市における持続可能な公共交通ネットワークの再構築に向け、具体的な再編案を検討し、交通システムの具体的な再編案として計画に付随する「別冊東御市公共交通システム(案)」を作成した。 計画(事業)を推進するにあたり、PDCAサイクルに基づき、施策実施後の事業効果を検証するため、計画の達成状況の評価の考え方及び手法、検討体制、スケジュール等を検討し、計画上で示した。 計画案について、パブリックコメントに準じて市民からの意見募集を実施した。 基本方針に基づいて、区域、具体的目標、課題、実施手段、利用促進策などを整理するとともに、パブリックコメントの意見を反映し、協議会での検討を経て地域公共交通計画を策定した。 これまで公共交通活性化協議会を5回(対面4回、書面1回)開催 	A	<p>計画通り事業は適切に実施された。</p>	<p>当該計画策定にあたっては、上位計画である第2次東御市総合計画等に基づくとともに、東御市都市計画マスタープラン等の関連計画との連携・整合を考慮したうえで、令和3年度に実施した調査結果や整理した課題を踏まえ、令和4年度では、以下のとおり計画の理念や方針、目標を策定した。</p> <p>【基本理念】 「豊かでしあわせな市民生活を支える持続可能な公共交通環境の実現」</p> <p>【基本方針】 「誰もが安心して使いやすい移動手段としての公共交通の構築」「地域交流を促進し、地域に活力を与える公共交通の構築」「多様な連携により、将来にわたって持続可能な公共交通の構築」</p> <p>【計画目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自治体間を連絡する「幹線交通」の維持 ②定時定路線バスの利便性向上 ③デマンド交通「とうみレッツ号」の利便性向上 ④中心拠点の公共交通利便性向上によるにぎわいの創出 ⑤交通拠点の乗継利便性の向上 ⑥公共交通を補完する移動サービスの創出 ⑦みんなで支える利用促進策の展開 ⑧環境負荷の低減に資する公共交通の実現 ⑨市街地から離れているエリアに対する移動の創出 <p>令和4年11月の公共交通活性化協議会において、上記内容の計画が承認された。また、今後、定時定路線バスの再編案をまとめた「別冊東御市公共交通システム(案)」について、1月から2月に市民説明会を開催し、意見集約を行い、3月の協議会で承認後、再編案とあわせて年度内に市へ計画を提出し、市として策定した「東御市地域公共交通計画」を公表する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和5年3月8日

北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果
安曇野市地域公共交通会議	<p>・市民及び各交通利用者の移動実態調査 交通不便者(車椅子利用者)、学生(高校生)の移動実態を把握するため、対象者を含む2,500世帯を対象にアンケート調査(郵送)を行い約37%の回答を得た。 交通不便者(自身や家族の自家用車、原付、バイクのいずれも使用できない人)の割合は全体の14.5%であった。 また、小中学生を対象としたアンケート調査(WEB)も実施し、児童生徒約2,100人分の回答を得た。 帰宅後の通塾等のための送迎が負担になっている実態があり、移動手段の切り替えを希望する割合は35.0%であった。</p> <p>・市内の交通資源把握調査 市内の交通資源を把握するため、庁内の関係部署を対象に調査を行った。主に福祉、観光分野の交通資源について整理することができた。</p> <p>・地域公共交通計画(案)の作成 前述の調査等の結果をもとに地域公共交通の現状や課題を整理し、課題を改善するための基本方針、計画目標、取組施策を取りまとめることができた。</p>	A 市民の移動実態や移動ニーズを把握し公共交通計画へ反映させるため、必要な調査を行うことができた。	<p>【補助対象事業名】 地域公共交通調査事業(計画策定事業)</p> <p>【事業内容】 市民及び各交通利用者の移動実態調査など</p> <p>【実施時期】 ～R4年11月 各種調査実施 R5年1月 パブリックコメント実施 R5年2月 安曇野市地域公共交通協議会</p> <p>【計画策定の方針】 公共交通の充実により選ばれるまちを目指し、公共交通ネットワークの形成、誰もが利用しやすい公共交通環境の整備、みんなで支える公共交通の実現に向けた施策に取り組む。</p>	協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。 なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和5年3月8日

北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
飯綱町地域公共交通活性化協議会	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行の飯綱町地域公共交通計画の評価及び上位・関連計画の分析 ・予約型デマンドバスの利用者アンケートの実施 ・予約型デマンドバスの利用者との意見交換 ・地域公共交通計画(マスタープラン)案の作成 ・飯綱町地域公共交通活性化協議会の開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行の計画の評価(施策ごと4年間のふり返りや、今後に向けて強化すべきこと、工夫すべきことを整理) ・町内を運行するバスの利用者に対してアンケート調査を実施し、乗り継ぎの有無や利用上の課題などを把握することができた。 ・若い世代との意見交換をし、これからの公共交通のあり方について検討。 ・人口減少や高齢化が進み、交通不便者が一定数発生し続けることが想定される中、住み慣れた地域に住み続けられるようにしていくための公共交通の確保等を検討し、協議会に諮るための計画素案を作成。 ・協議会(既に6.8.11月に開催済)を1月と2月に開催予定。今後の協議会で素案の検討をし、パブリックコメント後の調整箇所を確認後、計画の再編を決定。 	A	<p>計画通り事業は適切に実施している</p>	<p>【計画のポイント】</p> <p>1 公共交通が必要な人の移動手段を確保する 公共交通を主に利用しているのは高齢者と中学生・高校生。今後、高齢化が進むにつれ、これまで自家用車や家族送迎に頼っていた人も、将来は公共交通等による移動が必要になると考えられる。飯綱町の公共交通を必要としている人、将来必要となる人のために、町内の移動手段と長野市への移動手段を確保する。</p> <p>①町内の移動(地域内交通)の確保 自家用車等がなくても自立して生活できるようにするために、町内での移動を確保する。</p> <p>②長野市への移動(地域間交通)の維持 高校への通学や総合病院への通院等ができるように、長野市への移動(しなの鉄道北しなの線、長電バス牟礼線)を存続させるため、両路線が積極的に利用されるよう住民に対して利用促進を行う。</p> <p>2 持続的に運行できるよう、運行の効率化を推進する 暮らしの基盤である公共交通を持続的に運行するために、限られた資源(運転手、車両、運行経費等)を有効に活用できるよう改善を推進する。 利用者が少なく、事業効率が悪くなっている時間帯は、運行のダウンサイジングを行う。また、運転手の高齢化や人員不足が懸念される中、暮らしに必要な輸送事業は、公共交通以外に、スクールバス、保育園バス、福祉有償運送等、様々な事業が存在する。これらの事業群全体の調整・最適化も推進する。</p> <p>3 公共交通の利用者・協力者を増やすことで、持続性を高める 運賃補助、待合環境の向上、社会福祉協議会等と連携して利用者の移動を総合的にサポート、住民にその利用方法を分かりやすく周知するなど、公共交通がより多くの人に利用されるよう利用のハードルを下げる。また、より多くの人が公共交通に協力するよう「乗って残す」という考え方を広く発信するとともに、公共交通を支える協働の活動(バスヘルパー、飯綱町牟礼駅マイレール応援団等)を充実させる。</p> <p>※令和5年度地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)の活用を見込んでいる。</p>	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。 なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和5年3月8日

北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果
長野県公共交通活性化協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野県地域公共交通計画案の作成 ・利用者目線の課題の深堀 ・協議会開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野県地域公共交通計画の作成にあたり必要な基礎データを、圏域ごとに整理した。 ・地域別部会で意見交換を行い、利用者目線の課題を把握した。さらに課題を深堀するため、高齢者や高校生へのアンケートを実施する予定。 ・上記の調査結果を踏まえ、今後の協議会での議論を経て、来年度には長野県地域公共交通計画としてとりまとめていく。 	A 計画通り事業は適切に実施された	地域公共交通を持続可能なものとしていくための施策を検討し、地域公共交通計画に位置付けていく。なお、広域的な移動軸の維持確保については、地域公共交通確保維持改善事業(地域間幹線系統補助)の活用を見込んでいる。	協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。 なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、来年度の地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和5年3月8日

北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果
富山市都市交通協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域内を取り巻く公共交通に関する現状調査 ・市民の移動特性やニーズ等の把握(市民アンケート) ・既存計画の評価 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的なデータや交通事業者から提供を受けたデータを整理し、地域の公共交通の状況を整理した。 ・市民を対象とした公共交通に関するアンケート調査を実施し、公共交通に対するニーズを把握することができた。 ・既存計画における施策の進捗状況や目標値の達成状況を把握し、既存計画の評価をとりまとめる。 	A	計画通り事業は実施された。	<p>計画策定に向けた現状調査、調査結果からの課題の整理を今年度を実施し、次年度は計画の目指すべき方向性や数値指標、施策等を検討し、計画のとりまとめを予定している。</p> <p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。 なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、来年度の地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和5年3月8日

北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
高岡市地域公共交通活性化推進協議会	<p>【内容】地域現況の整理 【結果】市総合交通戦略や立地適正化計画等の上位計画との整合性を図りながら、市内の地理的条件や公共交通の実態整理を行った。</p>	A	<p>事業が計画に位置づけられたと おり、適切に実施された</p>	<p>【補助対象事業名】地域公共交通調査事業 【事業内容】 地域公共交通計画の策定、現状分析・課題整理等を行う。 【計画策定期期】令和5年4月～令和6年3月 【計画策定方針】 本市では、鉄軌道やバス路線といった骨格的公共交通の維持に努めながら、これらと地域とを市民協働型地域交通システムによって繋ぎ、市域全体の移動性を高めていく高岡型コミュニティ交通の確立に取り組んでいるところである。 令和5年度は必要に応じて令和4年度に実施したアンケート調査やビッグデータの追加分析を行い、地域公共交通の現状分析と課題を整理し、地域の特性に応じた持続可能な公共交通を具体的に構築していくための「高岡市地域公共交通計画(仮称)」を策定する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。 なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、来年度の地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>
	<p>【内容】地域公共交通におけるニーズ等の把握 【結果】無作為抽出で市内に居住する3,000名にアンケート調査を行い、1,191名から回答があった。(回収率39.7%)</p>	A	<p>事業が計画に位置づけられたと おり、適切に実施された</p>	同上	同上
	<p>【内容】ビッグデータを活用した交通流動分析 【結果】KDDIのデータを活用し、主要地点(駅・バス停・病院・スーパーマーケット等)にどこから来ている人が多いのかを調査し、市民の移動実態や市総合交通戦略上にある駅・バス停圏域と実際の移動範囲がどの程度一致しているのかを確認した。</p>	A	<p>事業が計画に位置づけられたと おり、適切に実施された</p>	同上	同上

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
氷見市地域公共交通活性化協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氷見市の公共交通等の現状整理・分析 ・地域住民、公共交通利用者のニーズ等把握 ・課題整理、方針及び将来像、施策及び事業、定量的目標・指標及び進捗管理の検討、素案の作成 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氷見市の公共交通等の現状整理のため、必要資料の整理を行った。 ・住民や利用者のニーズ等把握のため、市民アンケート、利用者アンケート、関係団体ヒアリングについて、調査内容を協議会にて諮ったうえで実施した。順次、集計・分析を行う。 ・課題整理、方針及び将来像、施策及び事業、定量的目標・指標及び進捗管理の検討、素案の作成については、調査結果の分析をもとに、今後順次行い、協議会にて協議する。 	A	<p>計画どおり事業は適切に実施されている。</p>	<p>調査事業においては、次の3つを重点課題としている。</p> <p>【課題①】交通空白地有償運送(地域運営)の存続及び代替策</p> <p>【課題②】大規模な集客施設の開館等とフィーダー系統の見直し</p> <p>【課題③】JR氷見線の持続可能な新しい交通体系検討との整合性</p> <p>各種調査結果をもとに、氷見市特有の交通網の運行背景を踏まえ、現在の運行形態の維持のみならず新しい交通システムの導入も検討する。日常生活利用者はもちろん、ひみ番屋街及び鉄道駅等からの観光需要の取り込みも視野に入れる。</p> <p>令和5年3月までに計画素案をとりまとめ、令和5年4月から9月まで間にパブリックコメントや計画素案の最終調整を行ったうえで、令和5年10月から5か年の計画期間での策定を予定している。</p>	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果
滑川市地域公共交通会議	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における交通の現況と課題整理 ・住民及び各種公共交通機関でのアンケート調査の実施 ・滑川市地域公共交通会議を開催し、地域に適した公共交通の検討 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的データの整理、現況調査などにより、地域の公共交通の状況を整理した。 ・住民アンケートをはじめ、コミュニティバス「のる my car」及び地鉄バス乗客の方へのアンケート及び鉄道駅でのチラシ配布によるアンケートなどにより、公共交通の利用状況・主な行先などを把握することができた。 ・地域に適した交通モード、ルート、ダイヤについて検討し、協議会に図るための計画素案を作成。 ・今後の協議会の検討を経て、「滑川市地域公共交通計画」として最終的にとりまとめる。 	A 計画通り事業は適切に実施された。	本市の公共交通に係る課題整理を①市民ニーズに合った公共交通の運用②公共交通への関心度が低い③まちづくり施策との連携が必要④コミュニティバスの収支率の低下の4点とし、計画の目指す方向性(将来像)を「誰もが利用しやすい持続可能な地域公共交通の確保」として据えた。これに基づき施策対応を検討し、計画の素案としてまとめていく。	協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。 なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。

**地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)**

令和5年3月8日

北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果
富山県地域交通戦略会議	<p>【事業内容】</p> <p>1 富山県地域交通戦略会議及び部会の開催 2 富山県内の地域交通に関する調査等の事業</p> <p>【結果概要】</p> <p>1 会議及び部会を複数回開催し、計画の「基本的な方針・考え方」「目標」を定めた。今後は、基本的な方針等に沿った施策について議論を進めていく。 2 地域交通に関する現況調査として、既存データの収集・分析を実施しており、年度内に完了する予定。</p>	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	<p>協議会で定められた次の基本的な方針・考え方に沿って、計画策定を進めていく。</p> <p>・カーボンニュートラル等の社会からの要請に応え、ウェルビーイングの向上をもたらす最適な地域交通サービスの実現を目指す。 ・自治体や地域住民の積極的関与・参画、事業者間の協調など、関係者間の役割分担・責任分担について考え、地域全体で実現を目指す。</p>	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。 なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、来年度の地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
能美市地域公共交通協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の路線の利用状況調査 ・地域住民アンケートの実施 ・地域住民との意見交換 ・能美市地域公共交通計画(案)のとりまとめ ・協議会開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケート調査により、公共交通に関する意識や需要を把握。 ・計画の素案を作成し、協議会で承認。 ・パブリックコメント実施(令和5年2月) ・協議会の検討を経て、地域公共交通計画として最終的にとりまとめる。 	A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された(される見込み)。</p>	<p>令和5年3月に策定を予定している能美市地域公共交通計画では、公共交通の課題・要因及び公共交通のあり方について、市民アンケート調査等で収集・整理した基礎データを有効活用し、「公共交通の強化・連携」、「コミュニティバス運行の効率化」、「新技術活用によるDXの推進」を基本方針として、地域の特性に応じた持続可能な公共交通サービスの確保に向けた取り組みを進める。</p>	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における二次評価結果
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果
能登町地域公共交通協議会	<p>【事業内容】・調査計画及び上位・関連計画の整理 ・公共交通を取り巻く現状の整理 ・公共交通の利用実態調査 ・町民アンケート調査実施及び文政期、町民ニーズや移動実態の整理 ・地域全体の公共交通の問題点、課題の整理と基本方針の検討 【結果概要】・調査計画及び上位・関連計画の整理 ・公共交通を取り巻く現状の整理 →H21年3月に策定された「能登町地域公共交通総合連携計画」や、町の「第二次総合計画」など前計画や上位・関連計画を整理し、現在の路線状況や利用者など地域公共交通の現況を整理した。 ・公共交通の利用実態調査 ・町民アンケート調査実施及び文政期、町民ニーズや移動実態の整理 →交通事業者協力のもと、公共交通機関の利用現況について実態を把握することが出来た。 また、町民1,000人(無作為抽出)に対して実施した「地域公共交通利便性向上に向けたアンケート」および「予約制乗合タクシーに関するアンケート」により、主な交通手段や公共交通機関の利用頻度、移動に際しての困りごとなども把握することが出来た。 ・地域全体の公共交通の問題点、課題の整理と基本方針の検討 →当町の地域公共交通を取り巻く6つの課題(素案)を整理。 課題1 合併前の地域公共交通の仕組みが継続しており、町全体での地域公共交通の体系が必要 課題2 町域を超えた移動の見直しが必要 課題3 財政負担が増え続けており、需要に合った効率化が必要 課題4 地域公共交通の利便性向上と利用促進が必要 課題5 運行事業者の事業継続が厳しくなってきたり対応が必要 課題6 町民の地域公共交通利用への意識醸成が必要 以上の課題に対しての、今後の基本方針を策定し、協議会に諮るための計画書素案を作成。 協議会の検討を経て、最終的に能登町地域公共交通計画としてとりまとめる。</p>	A 計画通り事業は適切に実施された。	<p>令和4年度中に能登町地域公共交通計画を策定する。 基本方針(素案)は、以下のとおりである。 基本方針1 【町内全体で最適な地域公共交通ネットワークをつくる】 ・町内全体で、地域公共交通を俯瞰的、総合的な視点で見直し、最適化を図る。 ・宇出津エリアを拠点とした地域公共交通ネットワークを形成する。 基本方針2 【町民、行政、事業者にとって持続可能な地域公共交通を目指す】 ・地域公共交通の改善や周知活動を行い、町民の移動との利便性向上と利用促進を図る。 ・利用状況等から運行の見直しを行い、効率化を図り町の財政負担の軽減を図る。 ・運行事業者が抱える課題を、地域の課題として捉え、改善策を検討する。 基本方針3 【町全体で連携し、地域公共交通を支える】 ・地域公共交通は、医療、福祉、商業、交通安全、教育、観光、まちづくり、地域コミュニティ等、多岐にわたる分野に関係している。関係する施設や団体と連携し、町全体で地域公共交通を利用して支える仕組みをつくる。</p> <p>以上3つを基本方針とし、令和5年度から令和9年度の5か年をもって能登町地域公共交通計画を運用する。 また、予約制乗合タクシー等補助対象該当と思われる事業については、令和5年度地域公共交通確保維持改善事業(地域内フィーダー系統)の活用を見込んでいく。</p>	協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。 なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：地域公共交通調査事業(計画策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における二次評価結果	
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針又は事業の今後の改善点	評価結果	
石川中央都市圏地域公共交通協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏域の特性と公共交通の現状把握 ・公共交通に関する課題の整理 ・基本方針の設定 ・実施に向けた施策事業及び評価指標の設定 ・石川中央都市圏地域公共交通計画(案)のとりまとめ <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会の開催 ・圏域の特性や公共交通の利用状況を整理するとともに、圏域内の自治体における上位・関連計画や過年度実施したモニタリング調査を整理し、住民ニーズを明確化した。 ・圏域全体における公共交通がかかえる課題の整理を行い、基本方針と目標を設定するとともに、基本方針の実現に向け施策の検討と推進体制や進行管理の方法の検討を行った。 ・圏域内をスムーズに移動できる交通サービスの実現や広域的な公共交通網の構築に向け、計画素案を作成。 ・今後の協議会の検討を経て、地域公共交通計画として最終的にとりまとめる。 	A	<p>計画通り事業は適切に実施されている。今年度中の策定に向け引き続き事業を進めていく。</p>	<p>石川中央都市圏ビジョンにおける将来像の実現を交通面から支え、クルマ中心ではなくひと中心の持続可能なまちづくりを進めるため、「住みやすさ」日本一の圏域の実現を支えるひと中心の持続可能な交通ネットワークの構築」を基本理念とし、「超高齢・人口減少社会に対応した広域的な公共交通の構築」、「分かりやすく使いやすくなる公共交通の利用環境の改善」、「公共交通利用促進に向けた住民等の意識醸成」の3つの基本方針を設定する。</p> <p>①超高齢・人口減少社会に対応した広域的な公共交通の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・超高齢化・人口減少社会においても、広域的な公共交通網を構築し、人々の円滑な移動を支え、活発な交流や連携を促進する。 <p>②分かりやすく使いやすくなる公共交通の利用環境の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅やバス停の待合環境向上や、パーク・アンド・ライド駐車場の拡充により、自動車交通からの転換や新規需要の創出を図る。 ・MaaSなどの新技術の活用やユニバーサルデザイン、無人駅等のバリアフリー化などにより、公共交通の利用しやすさ・分かりやすさを向上させ、誰もが利用しやすい環境を整備し、持続可能な社会の実現を目指す。 <p>③公共交通利用促進に向けた住民等の意識醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モビリティマネジメントやマイレール・マイバス意識の醸成など、公共交通の意義や魅力を発信し、公共交通のあり方を自分事として捉えてもらい、公共交通の自発的な利用を促進する。 <p>【主なスケジュール】</p> <p>令和4年12月頃にパブリックコメントを実施し、令和5年2月中旬～下旬に第4回目の協議会を開催し、計画を策定する予定。</p>	<p>協議会における事業評価結果の②については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、③の計画策定に向けた方針については、国より示している基本方針等に従いつつ、地域公共交通計画の策定に向けて、地域一体となって事業が進められることを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

令和5年3月8日

北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域公共交通バリアフリー化調査事業(移動等円滑化促進方針策定事業)

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
新潟市移動等円滑化促進方針 策定検討協議会	<p>【事業内容】</p> <p>(1)基礎調査の実施 (2)協議会開催 (3)関係団体からのヒアリング調査の実施 (4)マスタープラン策定に向けた課題の整理及び基本的な考え方の検討</p> <p>【結果概要】</p> <p>(1)令和4年11月から調査を実施。令和5年3月(中旬)までにとりまとめ等完了予定。 (2)令和4年12月に有識者、関係団体、交通事業者、関係行政機関等で構成する協議会を開催し、計画策定の進め方について協議を行った。 (3)令和5年2月に実施予定。 (4)上記(1)~(3)の結果等を踏まえ、令和5年3月(下旬)までに完了する予定。</p>	A	<p>現在のところ、事業が計画に位置づけられたとおり適切に実施されている。</p>	<p>【補助対象事業名】 新潟市移動等円滑化促進方針策定事業</p> <p>【事業内容】</p> <p>(1)基礎調査の実施 (2)協議会開催 (3)関係団体からのヒアリング調査の実施 (4)マスタープラン策定に向けた課題の整理及び基本的な考え方の検討</p> <p>【実施時期】 令和4年11月~令和5年3月</p> <p>【計画策定の方針】 ヒアリング調査及びまち歩き点検により、バリアフリーに関する課題や利用者のニーズを把握するとともに、協議会委員の意見等を踏まえた上で、今後10年間のバリアフリーの計画を策定する。</p>	<p>協議会における事業評価結果②については、自己評価のとおりである。 なお、③の計画策定に向けた方針については、国が示している基本方針等に従いつつ、地域が一体となってバリアフリー化の促進が図られていくことを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業(新モビリティサービス推進事業)・事業評価総括表

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名： 新型輸送サービス導入支援事業

①補助事業者	②事業概要	補助事業者における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考	
		③事業実施の適切性	④目標・効果の達成状況	⑤事業の今後の改善点	評価結果		
安曇野市地域公共交通協議会	<p>本事業は利用者をピックアップする乗車場所にミーティングポイント表示を設置するものである。乗車場所をわかりやすく明示し、利用者の使いやすさと運行効率を向上させることを目的に実施する。ミーティングポイント表示の設置箇所として50施設を想定していたが、施設側との交渉により今年度は10施設程度の実施となる見込みである。</p>	A	<p>AI活用型オンデマンド交通の利用が多い施設を中心にミーティングポイント表示を路面に設置することで、乗車場所をわかりやすくし効率的なピックアップを行うことにつながる。ミーティングポイントを設置する施設については継続して設置交渉を行っており、令和5年3月末までに10箇所程度の設置を見込んでいる。</p>	C	<p>初ミーティングポイント設置箇所として50施設を想定していたが、施設側との交渉の結果、10施設程の設置となる見込みである。</p>	<p>オンデマンド交通利用者の利便性向上(乗降場所の視認性の向上)及び公共交通としての認知度向上を目的に、事業を継続する。事業継続にあたっては、乗降が多い施設や乗降場所がわかりづらい施設を中心に、ミーティングポイントの設置を進める。</p>	<p>評価対象事業者における事業評価結果の③、④については自己評価のとおりである。 なお、⑤事業の今後の改善点については、引き続き必要な箇所にミーティングポイントを設置し利便の増進を推進することを期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業(新モビリティサービス推進事業)・事業評価総括表

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名： 新型輸送サービス導入支援事業

①補助事業者	②事業概要	補助事業者における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考	
		③事業実施の適切性	④目標・効果の達成状況	⑤事業の今後の改善点	評価結果		
中川村	利用者が減少している日中の巡回バス路線、既存のNPO法人による公共交通空白地有償運送に代わる仕組みとして、AIによる予約配車システムを利用した新たなデマンド交通を導入する。令和4年10月から半年間の実証運行期間を経て、令和5年4月から本格運行とする。	A	令和4年10月から実証運行を開始、大きな問題もなく運行できていることから事業は計画に沿って適切に実施された	A	月平均利用者数目標値163人に対して、実績値389人(238%)。10月開始後、月を追うごとに増加し、12月には1.4倍に増加。利用者からの評判も良い。	利用者数目標は達成できているが、会員登録者数約300名に対し利用したことのある会員数は100名程となっていることから、村ホームページや広報への利用方法の掲載などにより未利用者への利用促進を行い、さらなる利用者数の増加と交通手段としての定着を図る。	評価対象事業者における事業評価結果の③、④については自己評価のとおりである。 なお、⑤事業の今後の改善点については、引き続き今後も適切な検証およびPRを行い、利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業(新モビリティサービス推進事業)・事業評価総括表

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名： 地域交通キャッシュレス決済導入支援事業

①補助事業者	②事業概要	補助事業者における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		③事業実施の適切性	④目標・効果の達成状況	⑤事業の今後の改善点	評価結果	
しなの鉄道(株)	しなの鉄道の玄関口である軽井沢に訪れる観光客をターゲットにした沿線への観光需要の取り組みの一環として、当社沿線の観光地に所在する駅のキャッシュレス化を図り、また、コロナ禍により接触を回避するという変容した利用者のニーズに対応するため、非接触型クレジットカード決済システムを構築し、併せて当社の主要駅である上田駅及び屋代駅にクレジットカード対応型の券売機を導入する。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施される見込み。	A クレジットカード決済に対応するための設計・システム開発・サーバー改修を実施し、クレジットカード対応型の券売機2台及び窓口発行機4台を導入することにより、軽井沢から沿線の観光地へ訪れる旅客の利便性向上が図られる見込み。	今年度は主要駅への導入であるが、インバウンド需要も回復している中、今後も更なるキャッシュレス化(デジタルチケットの試験導入、ICカード乗車券の研究)を推進し、利便性の向上に取り組んでいく。	評価対象事業者における事業評価結果の③、④については自己評価のとおりである。 なお、⑤事業の今後の改善点については、引き続き今後も適切な検証およびデジタルチケット等の導入を行い、利便の増進が図られるよう期待する。	

地域公共交通確保維持改善事業(新モビリティサービス推進事業)・事業評価総括表

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名： 地域交通キャッシュレス決済導入支援事業

①補助事業者	②事業概要	補助事業者における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		③事業実施の適切性		④目標・効果の達成状況	⑤事業の今後の改善点	
北陸鉄道(株)	城下まち金沢周遊バス(7台)を対象に全国共通交通系ICカードによるキャッシュレス決済の導入を行う。	A	事業は計画どおり実施されている。	A コロナが収束した場合、現金利用者の約3割が全国交通系ICカードを利用すると思っていたが、現在のコロナ禍において、事業実施以降、すでに現金利用者の約5割が利用されていることから、コロナ収束後も、目標は概ね達成すると考えている。	城下まち金沢周遊バスで全国共通交通系ICカードが利用できることを知らない方がいらっしゃるため、乗り場にPRステッカーを掲出し、バスの利用者数アップを図る。	評価対象事業者における事業評価結果の③、④については自己評価のとおりである。 なお、⑤事業の今後の改善点については、引き続き今後も適切な検証およびPRを行い、利用促進が図られるよう期待する。

地域公共交通確保維持改善事業(新モビリティサービス推進事業)・事業評価総括表

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名： 地域交通データ化推進事業

①補助事業者	②事業概要	補助事業者における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考	
		③事業実施の適切性	④目標・効果の達成状況	⑤事業の今後の改善点	評価結果		
北陸鉄道(株)	GTFS機能が付いたダイヤ編成システムの新規導入	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。	A	予定通り2月末にダイヤ編成システムを新規導入予定である。	新ダイヤ編成システムの導入により、デジタル化を通じて外部への時刻表等のデータ提供の効率化や新たなバスロケーションシステムの開発に活用していきます。	<p>評価対象事業者における事業評価結果の③、④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤事業の今後の改善点については、システム導入後、GTFSを活用した各種取り組みを実施し、公共交通のさらなる利便性向上が図られるよう期待する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業(新モビリティサービス推進事業)・事業評価総括表

令和5年3月8日
北陸信越運輸局

評価対象事業名：新モビリティサービス事業計画策定支援事業

①補助事業者	②事業概要	補助事業者における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考	
		③事業実施の適切性	④目標・効果の達成状況	⑤事業の今後の改善点	評価結果		
原村	<p>固定されたダイヤや路線に縛られることなく、自由なルートを選択できるAIオンデマンド交通の導入を予定。専用車両2台が村内に常駐し、利用者の予約に対して、ドアツードアに近いミーティングポイント間の移動の提供。</p> <p>アプリまたは電話で利用者が配車予約した場合のみ運行する。</p> <p>乗合が可能な場合は、AIが自動で判断して最適なルートを運転手へ表示する。</p> <p>設定したミーティングポイントまでが運行エリアとなるが、村外の主要な施設(病院等)は特定地点として設定し、往來を可能とする。</p> <p>2次交通とのハブ(交通結節点)を作り、村内の様々なスポットへの能動的な移動を可能にし、村内に人流を生み出す。</p> <p>実証運行開始時には、原村独自のエリアでの提供となるが、隣接する茅野市が提供する「のらざあ」のシステムを使用することで、将来的には茅野市との連携も可能。</p>	A	<p>本実証運行において、茅野市のアプリを共同利用する点で、当村の判断だけで進めることが難しい中、広域的な公共交通の構築を目指し、概ね計画通り運行開始することができた。</p> <p>既存路線のバス停が無い公共交通空白地帯への移動手段の確保を念頭とし、運行開始から約2ヶ月を経て利用者数も徐々に増加しており、利用者は比較的新たな仮想バス停から乗降していることから適切に事業を進めることができています。</p>	A	<p>地域課題の解決貢献度を測る指標(利便性の向上)公共交通空白地帯の解消、新規利用の獲得利用満足度 目標値 80% 達成状況 集計中</p> <p>地域課題の解決貢献度を測る指標(広範囲ニーズへの対応)公共交通空白地帯の解消、新規利用の獲得 公共交通空白地帯利用者割合 目標値 20% 達成状況 50%</p> <p>施策の効果を測る指標(広報活動)提供するサービスの認知度 サイトアクセス数 目標値 10,000アクセス 達成状況 2,500アクセス チラシ配布数 目標値 5,000枚 達成状況 3,000枚</p> <p>施策の効果を測る指標(アプリの認知度)アプリ等の利用者数 会員登録数 目標値 1000人 達成状況 集計中</p> <p>(クーポンの利用促進) クーポン利用回数 目標値 500回 達成状況 未実施</p> <p>※集計中に関しては、茅野市と現在協議中です。</p>	<p>今回の実証運行を踏まえ、利用状況を分析した上で、現在の移動実態と今後予想される移動実態を整理し、最適なモビリティサービスを広域的な視点で検討、早期に新モビリティサービス事業計画の策定を目指す。</p>	<p>評価対象事業者における事業評価結果の③、④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤事業の今後の改善点については、協議会や関係者間で地域一体となり、事業に取り組まれることを期待する。</p>